

大東亞戦争年史

納本

393.2

D.28



0056788000

0056788-000

393.2-D28ウ

大東亞戦争年史

愛国新聞社出版部

第1年

昭和18

AJD

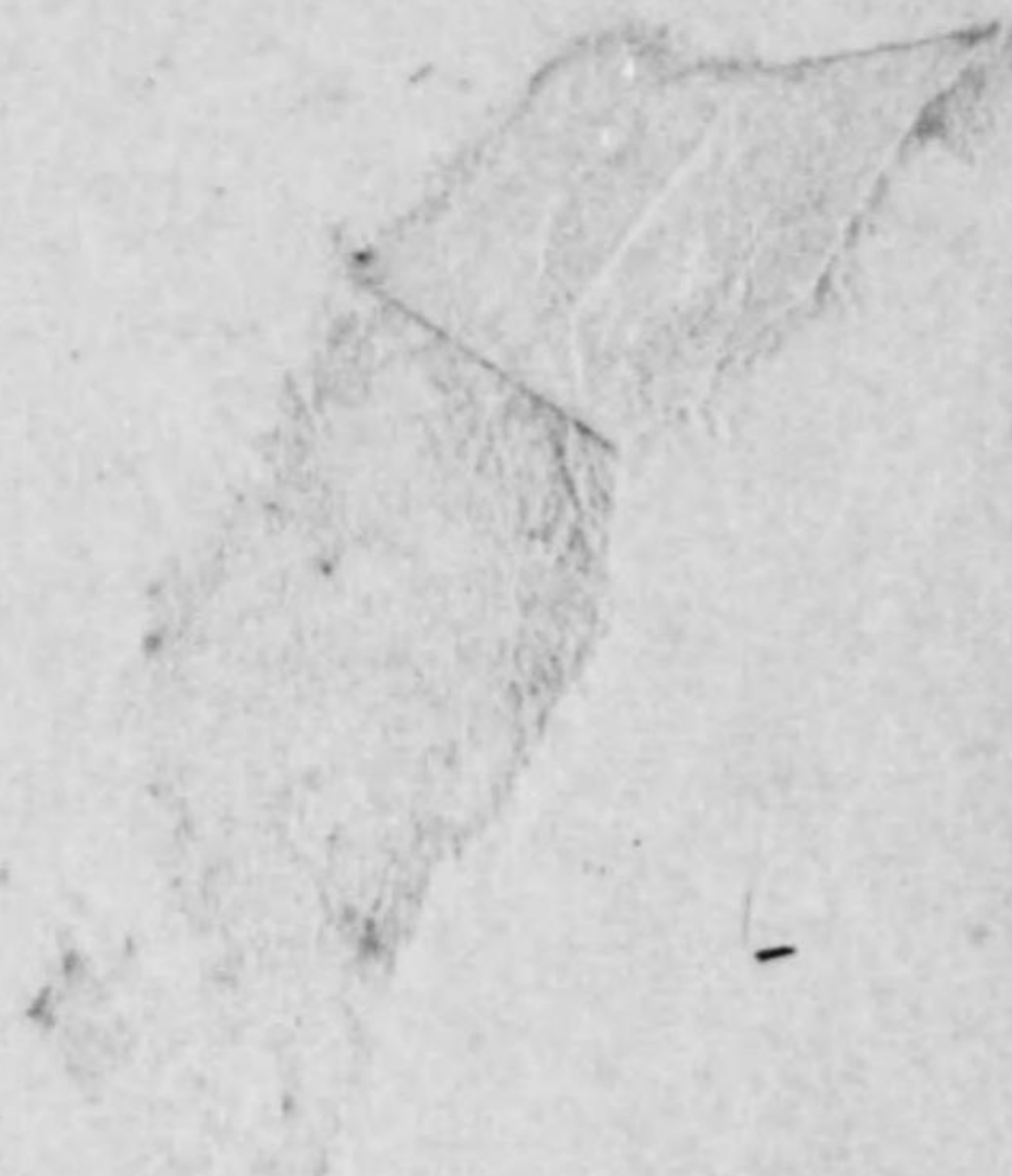
393.2
D. 28

大東亞戰爭年史

納本

120

納本



393.2
D.28



大東亞戰爭年史
第一年



59
3

詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝國天皇ハ 昭ニ忠誠勇武ナル 汝有

衆ニ示ス

朕茲ニ米國及英國ニ對シテ 戰ヲ宣ス朕カ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戦ニ從事シ朕カ
百億有司ハ勵精職務ヲ奉行シ朕カ眾庶ハ各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ
舉ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ

抑々東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ丕顯ナル皇祖考丕承ナル皇考
ノ作述セル遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル 所而シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮
ノ樂ヲ偕ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要義ト爲ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩
國ト聳端ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモノアリ豈朕カ 志ナラムヤ中華民國政府

曩ニ帝國ノ眞意ヲ解セス濫ニ事ヲ構ヘテ東亞ノ平和ヲ攪亂シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ
執ルニ至ラシメ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸ニ國民政府更新スルアリ帝國ハ之ト善隣
ノ誼ヲ結ヒ相提攜スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尙

未タ牆ニ相闚クヲ悛メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ
美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセムトス 剩ヘ與國ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ
武備ヲ增強シテ我ニ挑戰シ更ニ帝國ノ平和的の通商ニ有ラユル妨害ヲ與ヘ遂ニ經濟斷
交ヲ敢テシ帝國ノ生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ回復
セシメムトシ隱忍久シキニ彌リタルモ彼ハ毫モ交讓ノ精神ナク 徒ニ時局ノ解決ヲ
遷延セシメテ此ノ間却ツテ益々經濟上軍事上ノ脅威ヲ増大シ以テ我ヲ屈從セシメ
ムトス斯ノ如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ關スル帝國積年ノ努力ハ 悉ク水泡ニ
歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衛ノ爲蹶然起
ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ

御名 御璽

昭和十六年十二月八日

皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有衆ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ 速
ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

序

黒船の來航に依つて、日本の物質文明は驚くべき長足の進歩をした。と同時に、大正の末期頃まで歐米崇拜の思想は朝野を風靡した。

此思潮に慨嘆して奮起した益良夫の悲しき命が、幾つも積重ねられていつた。

近くはワシントン、ロンドン條約に、日英會談に、租界撤收に、先輩同志が挺身力闘を繰返へした。

そして遂に我々日本臣民は、畏くも對米英宣戰の大詔を拜するに至つたのである。おゝ、去年の今日、みたまわれのあの感激。日本民族は火の玉となつて歡喜の裡に蹶起して世界維新への總進軍を開始した。醜の御楯となつて募進を續けたつもの達は、此未曾有の戰に未曾有の勝利を擧げつゝある。

我々の淺才、もとより重大なる戰史編纂の全きを期し難しと雖も、この輝しき武勳を永久に讃へ、水漬く屍、草むす屍とたゞかひたをれた勇士の忠魂を祭り奉らむとする心念より、こゝに微力をも省す戰績を集録して、大東亞戰爭年史第一年版を同志に贈らんとするものである。

希くば大方の諸兄諸姉、我々の微衷を御洞察の上、忌憚なき御叱正を賜はらん事を。

昭和十七年十一月八日

九勇士の「いさゆかむ綱も機雷ものりこえてうちて眞珠のたまとくだけん」を偲びつゝ

目次

詔書

表紙……………軍事參議官 鹽澤幸一閣下
海軍大將

題字……………陸軍大將 男爵 荒木貞夫閣下

序

寫眞……………陸海軍大臣、參謀總長、軍令部總長、最高指揮官、軍神、
主要作戰寫眞
陸軍省許可濟
寫眞の複寫複製は海軍省許可濟
十三號

大東亞戰爭要圖

- (1) 大東亞戰爭要圖
- (2) 香港及フィリピン要圖
- (3) 佛印、泰、ビルマ、マライ
- (4) 印度及マダガスカル島
- (5) 東印度諸島
- (6) 濠洲方面要圖
- (7) 太平洋諸島圖、ハワイ諸島
- (8) アリユーション列島
- (9) 浙贛作戰要圖、温州方面

大東亞戰爭年史(第一年)……………一—四七九

大東亞戰爭地理概要(アイウエオ順)……………一—

索引(アイウエオ順)……………一—五

皇威
八紘
若輝

陸軍大臣

貞夫書



陸軍大將男爵 荒木貞夫閣下書



官長令司隊艦合聯
下閣六十五本山 將大軍海



官揮指高最軍陸面方方南
下閣一壽内寺 將大軍陸



官令司總軍遣派面方那支
下閣六俊 畑 將大軍陸



官長令司隊艦面方那支
下閣吾善 田吉 將大軍海



官長令司隊艦面方那支前
下閣一峰 賀古 將大軍海



臣大軍海
下閣郎太繁田嶋 將大軍海



相陸攝兼相首
下閣機英條東 將大軍陸



長總部令軍
下閣身修野永 將大軍海



長總謀參
下閣元 山杉 將大軍陸

軍神



治直佐岩 佐中軍海故



夫建藤加 將少軍陸故



彰 尾廣 尉大軍海故



實繁野古 佐少軍海故



治正山横 佐少軍海故



吉直木々佐 尉少務特軍海故



範薫山横 尉少務特軍海故



清 垣稱 長曹兵軍海故



雄義山片 長曹兵軍海故



定 田上 長曹兵軍海故



官揮指高最軍陸面方イラマ
下閣文奉 下山 將中軍陸



長謀參總軍支遣
下閣三正 邊河 將中軍陸



官揮指高最軍陸面方マルビ
下閣郭二祥田飯 將中軍陸



官揮指高最軍陸面方オネルボ北
下閣隆正 脇山 將中軍陸



官揮指高最軍陸面方島比
下閣壹靜 中田 將中軍陸



官揮指高最軍陸面方印關
下閣均 村今 將中軍陸



官揮指高最軍陸面方オネルボ北前
下閣爲利 田前 故 將大軍陸



長謀參總軍陸面方方南前
下閣攻 田塚 故 將大軍陸



官揮指高最軍海面方港香
下閣一政 見新 將中軍海



官揮指高最軍陸面方港香
下閣隆 井酒 將中軍陸



長謀參總軍支遣前
下閣淳 宮後 將大軍陸

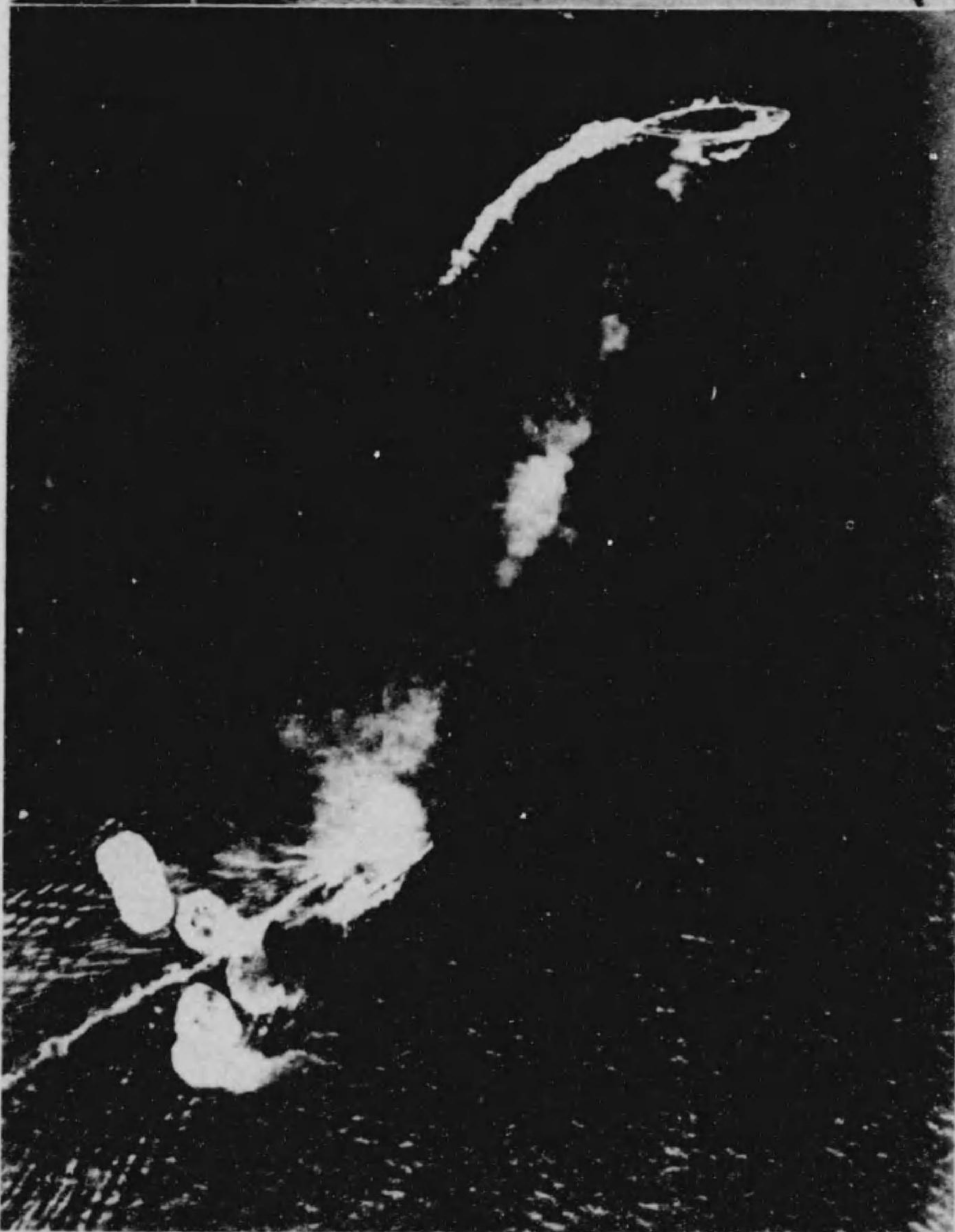


官揮指高最軍陸面方島比前
下閣晴雅 間本 將中軍陸



撃滅

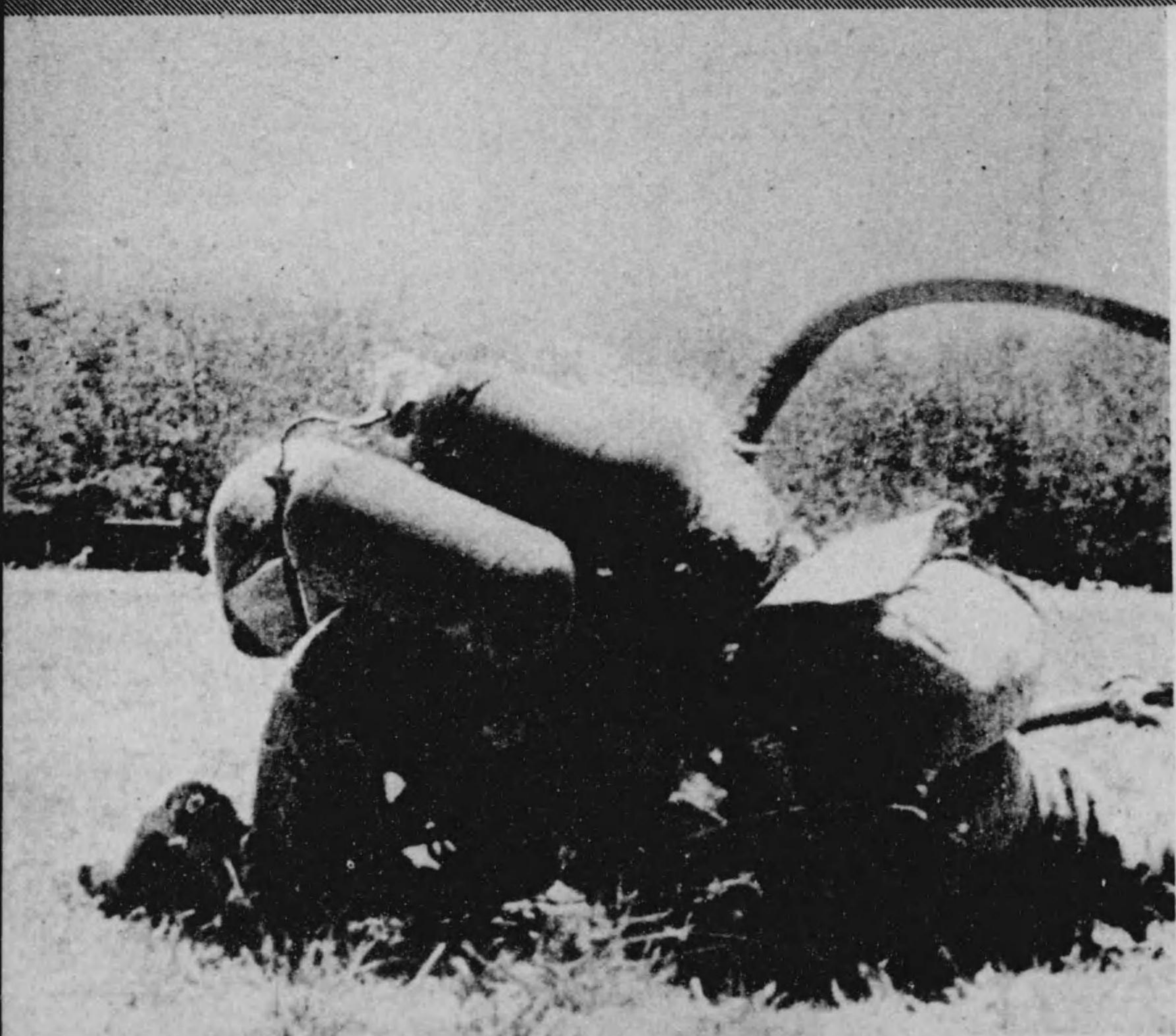
ハワイ真珠灣で次々撃沈破した米戦艦群(上)と
マレー沖海戦IIプリンス・オブ・ウエルズ(右)レパルス(左)の断末魔



空から神兵降り立つ

—陸軍落下傘部隊—

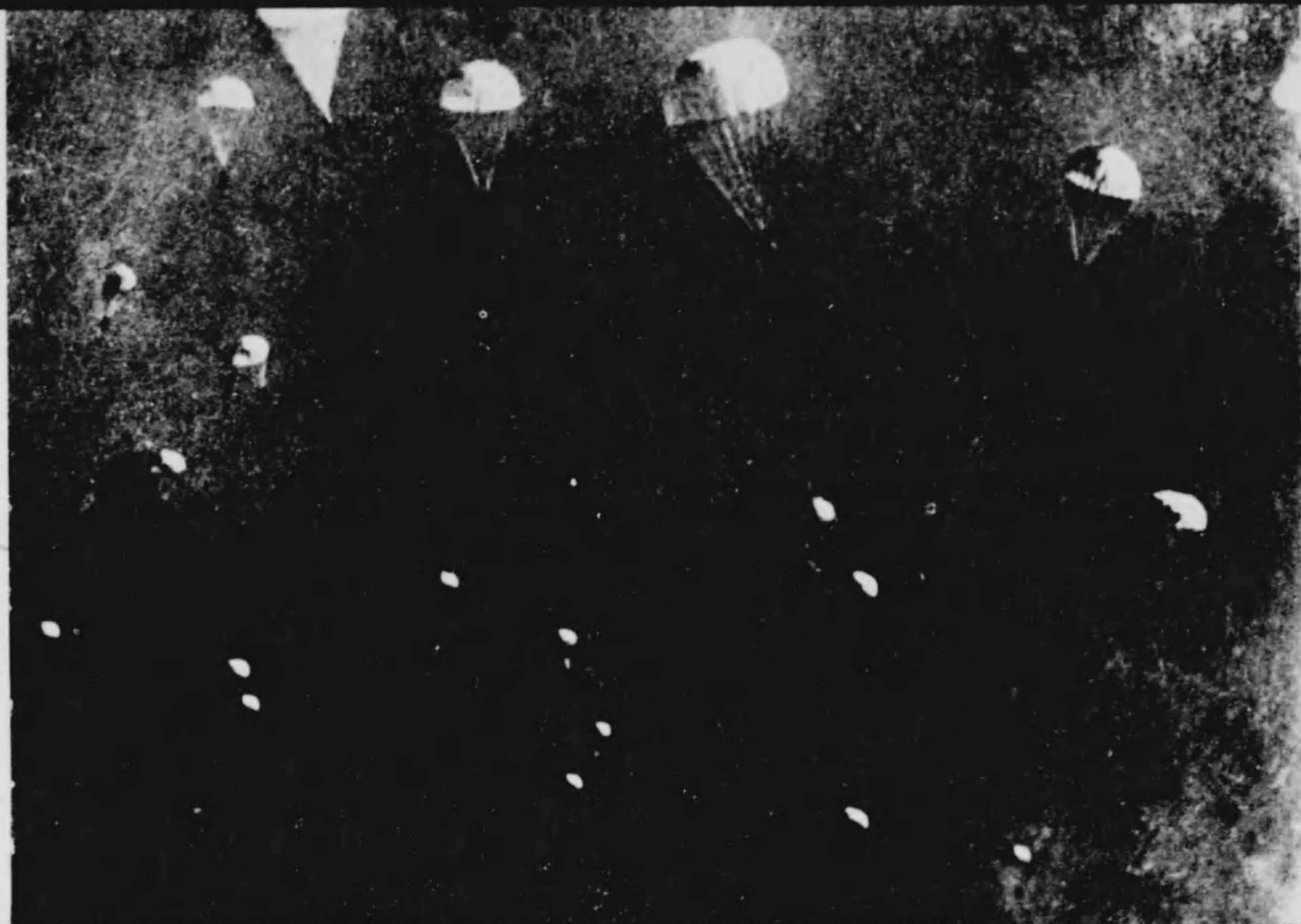
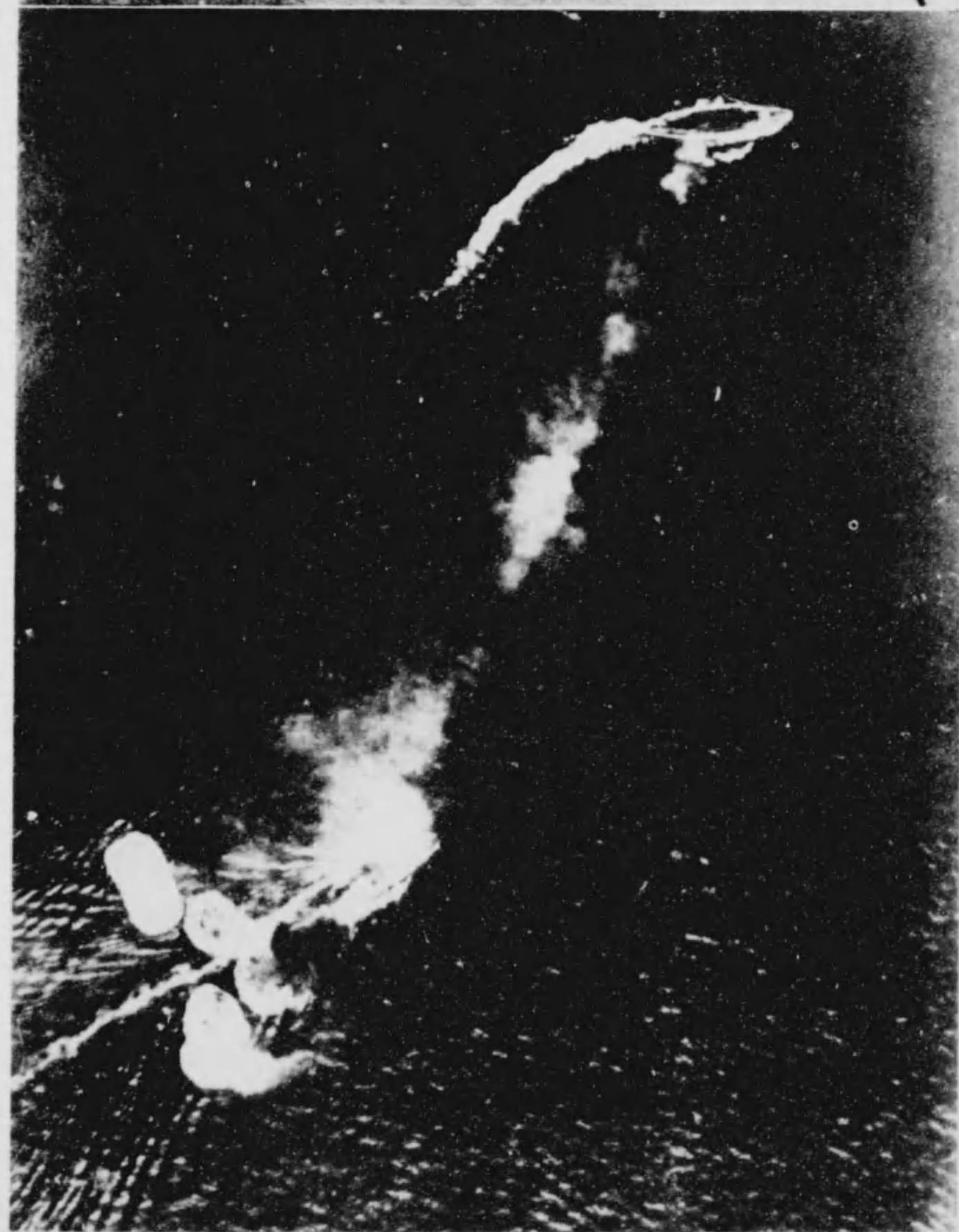
大輪の白花咲かせてパレンバンに奇襲降下
下は、パレンバンに降下、神兵の活躍





撃滅

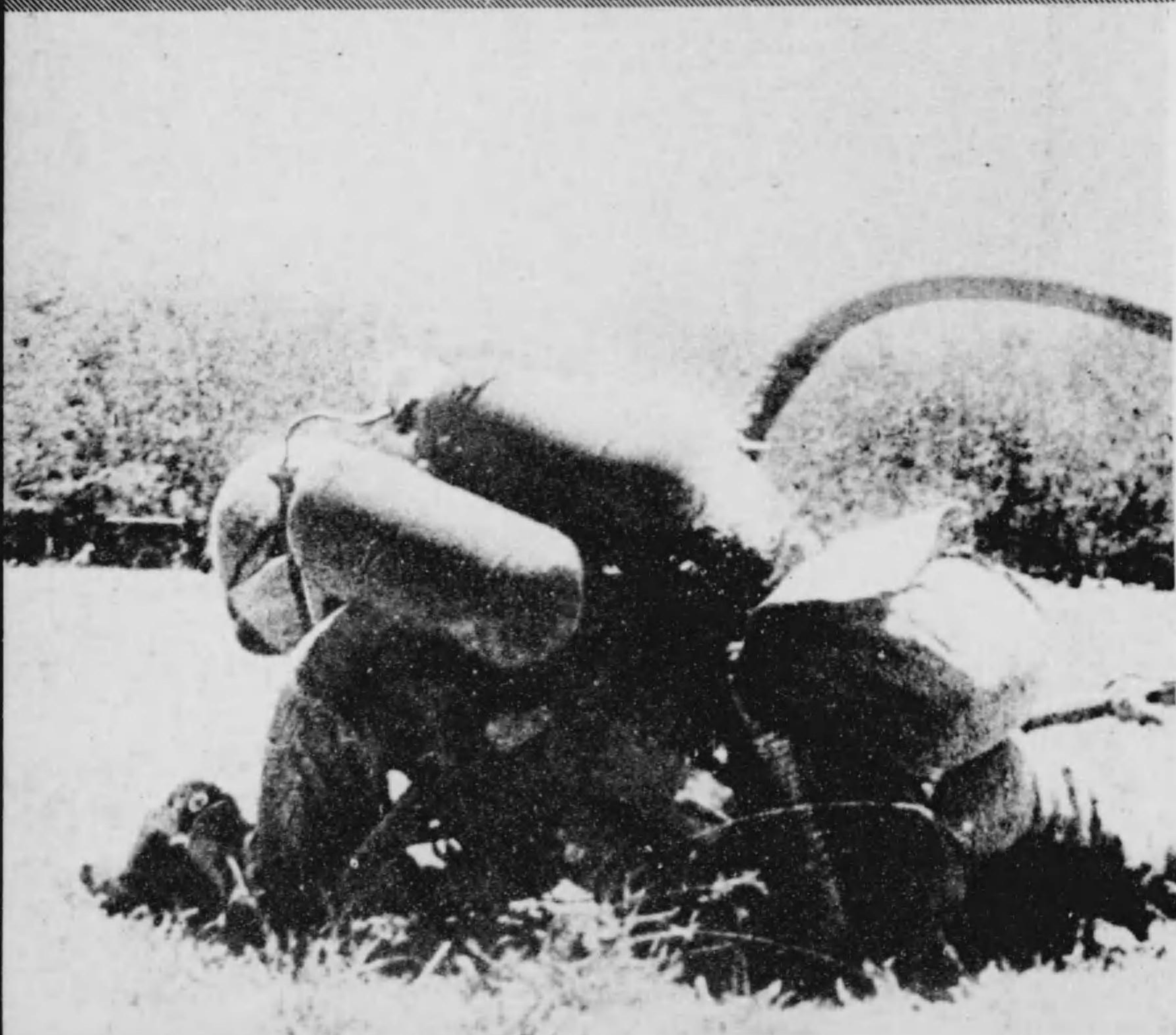
ハワイ軍珠灣で次々撃沈破した米戦艦群(上)と
マレー沖海戦でプリンス・オブ・ウェルズ(右)レパルス(左)の断末魔



空から神兵降り立つ

—陸軍落下傘部隊—

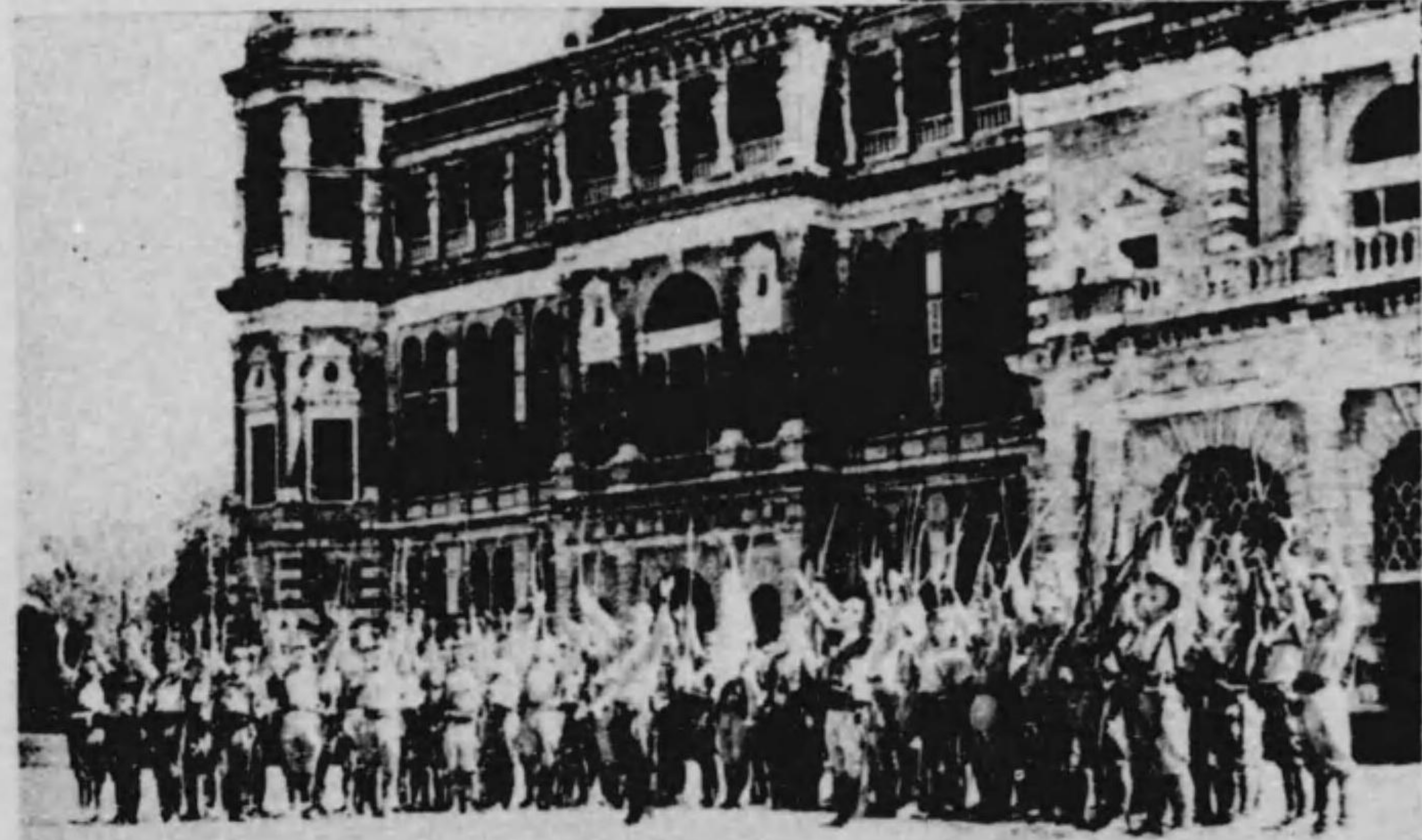
大輪の白花咲かせてパレンバンに奇襲降下
下は、パレンバンに降下、神兵の活躍





定 戡

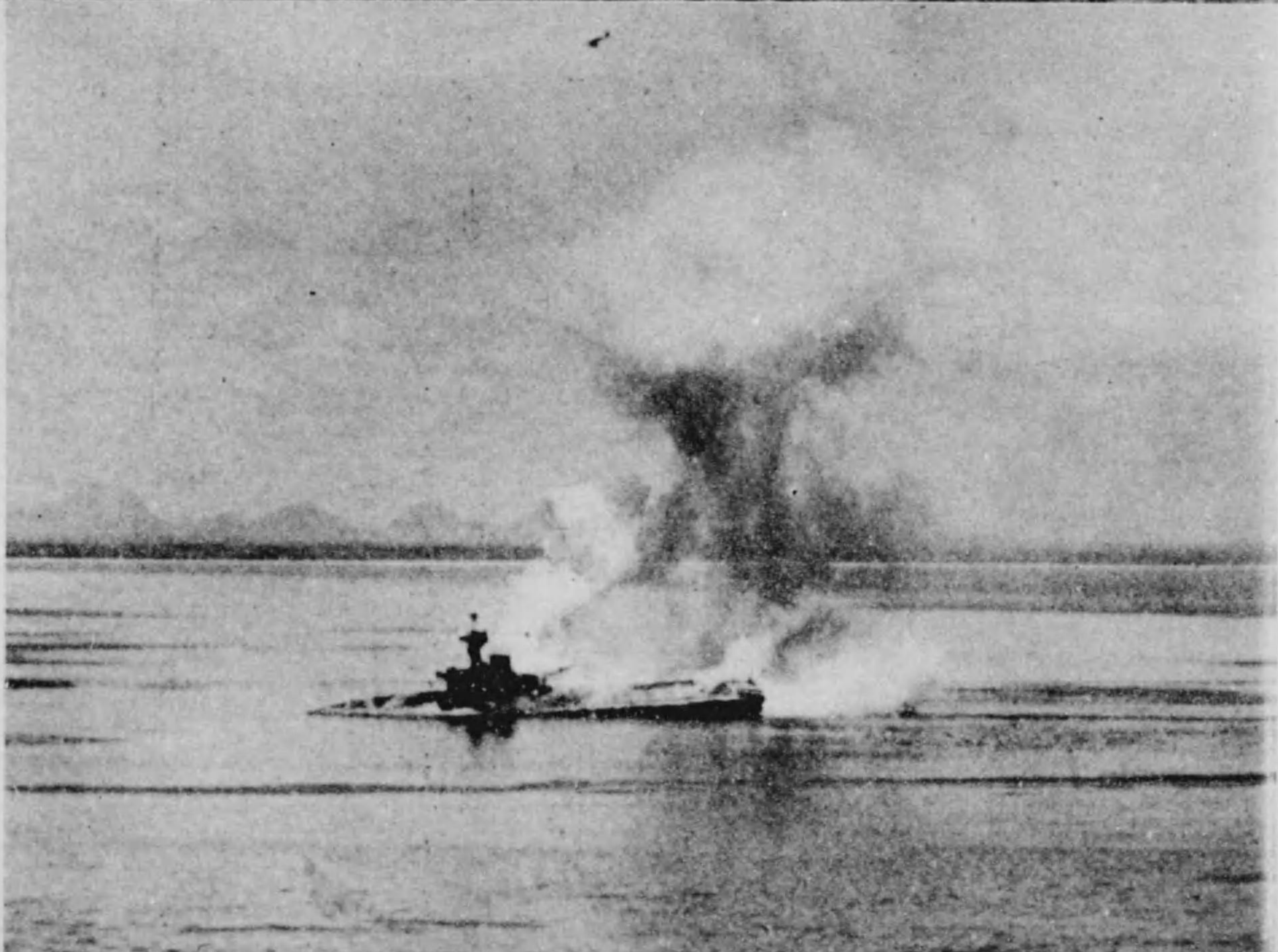
潰え去つた香港島要塞



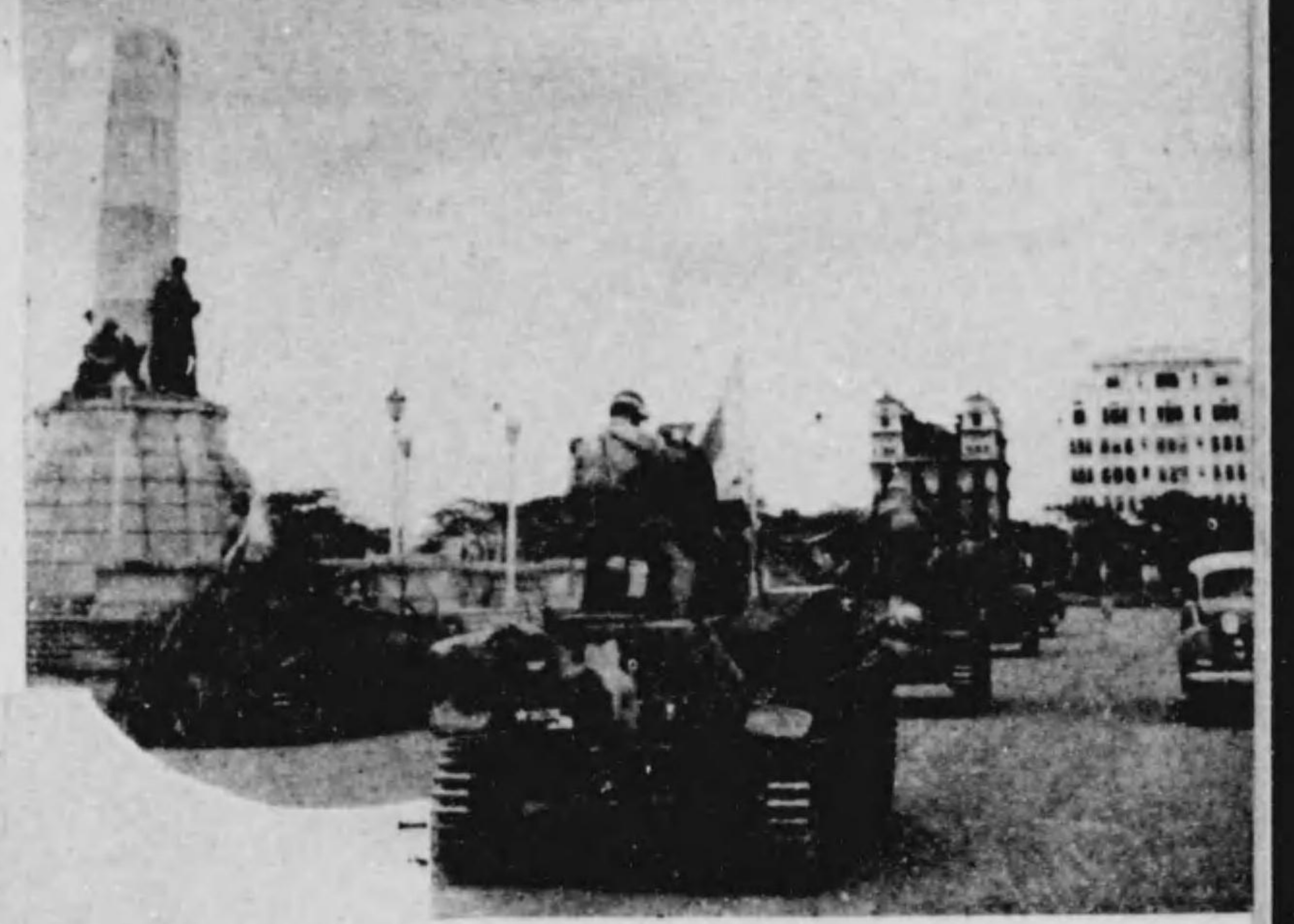
ラングーン入城部隊

敵艦撃沈

(上) 珊瑚海々戦—白煙は敵艦沈没の瞬間
(下) 英空母ハーミス撃沈—印度洋



マニラ市街に突入

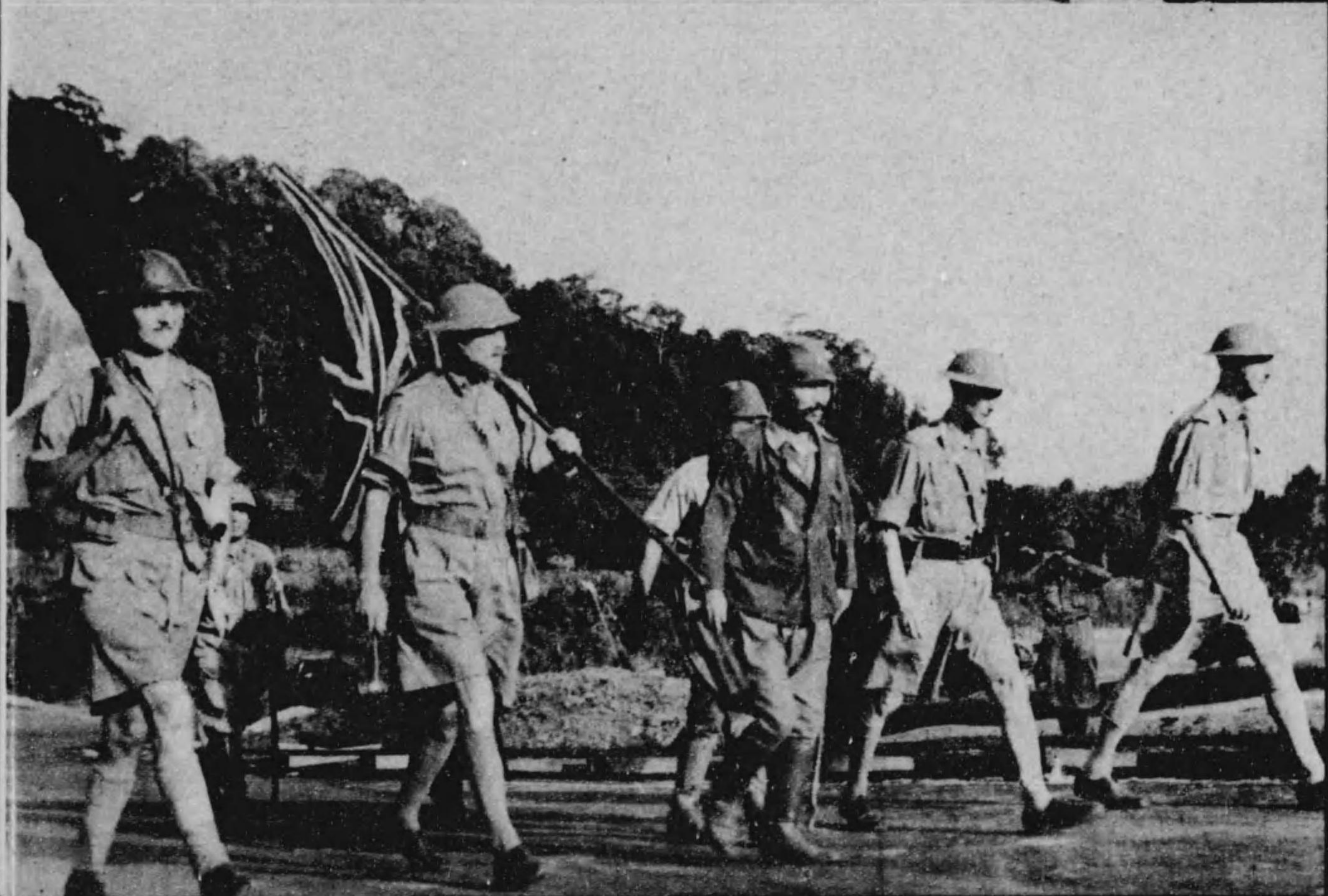


バタビヤ(ジャガタ)の日本色

戰果南に北に

陸軍部隊アシアツツ島進撃 (上)

シボガンの英軍降伏 (下)



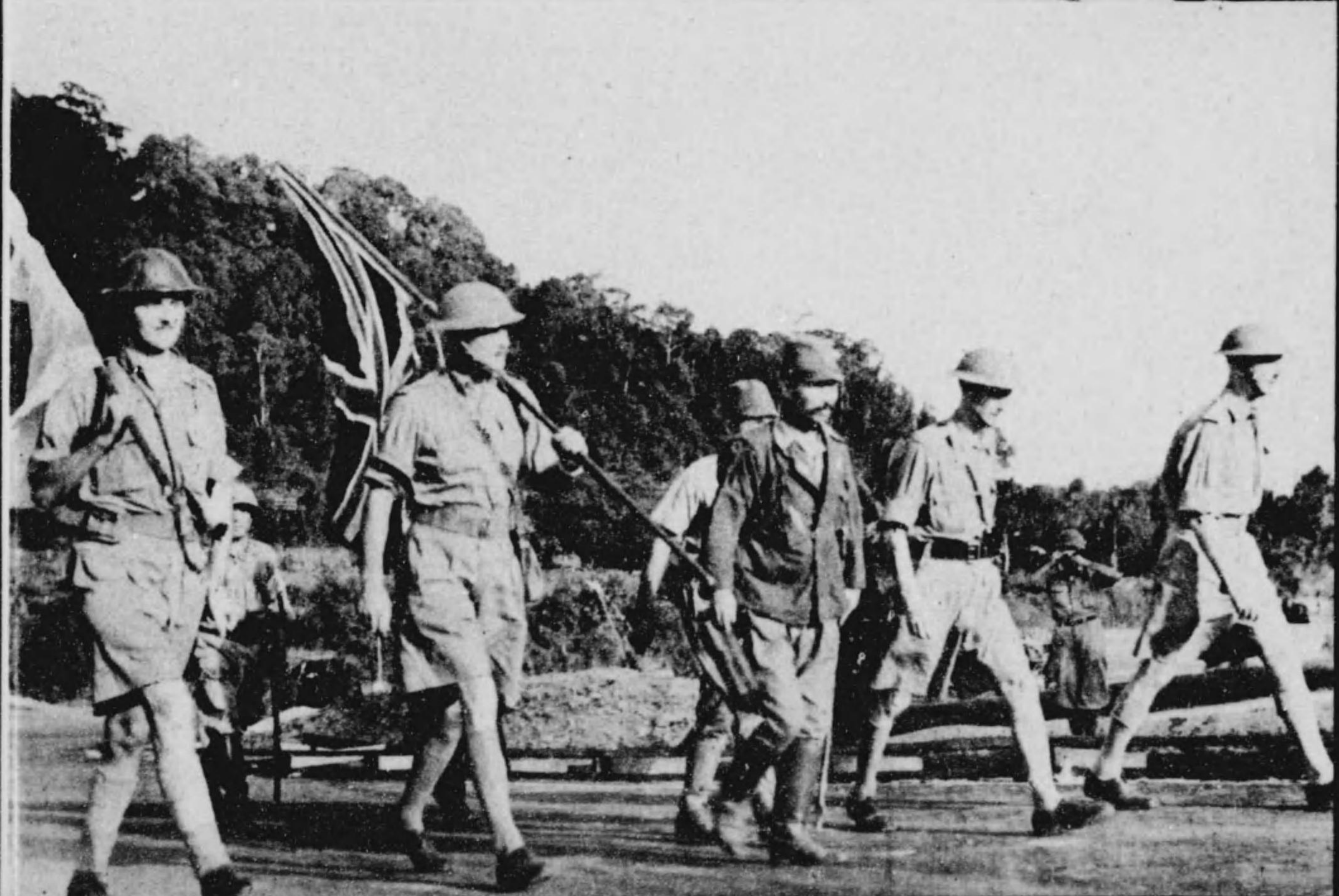
大東亞戰爭地圖

- (1) 大東亞戰爭要圖
- (2) 香港及フィリッピン要圖
- (3) 佛印、泰、ビルマ、マライ
- (4) 印度及マダガスカル島
- (5) 東印度諸島
- (6) 濠洲方面要圖
- (7) 太平洋諸島圖、ハワイ諸島
- (8) アリニューシヤン列島
- (9) 浙贛作戰要圖、温州方面

戦果南に北に

陸軍部隊アヌヤツツ島を進行撃 (上)

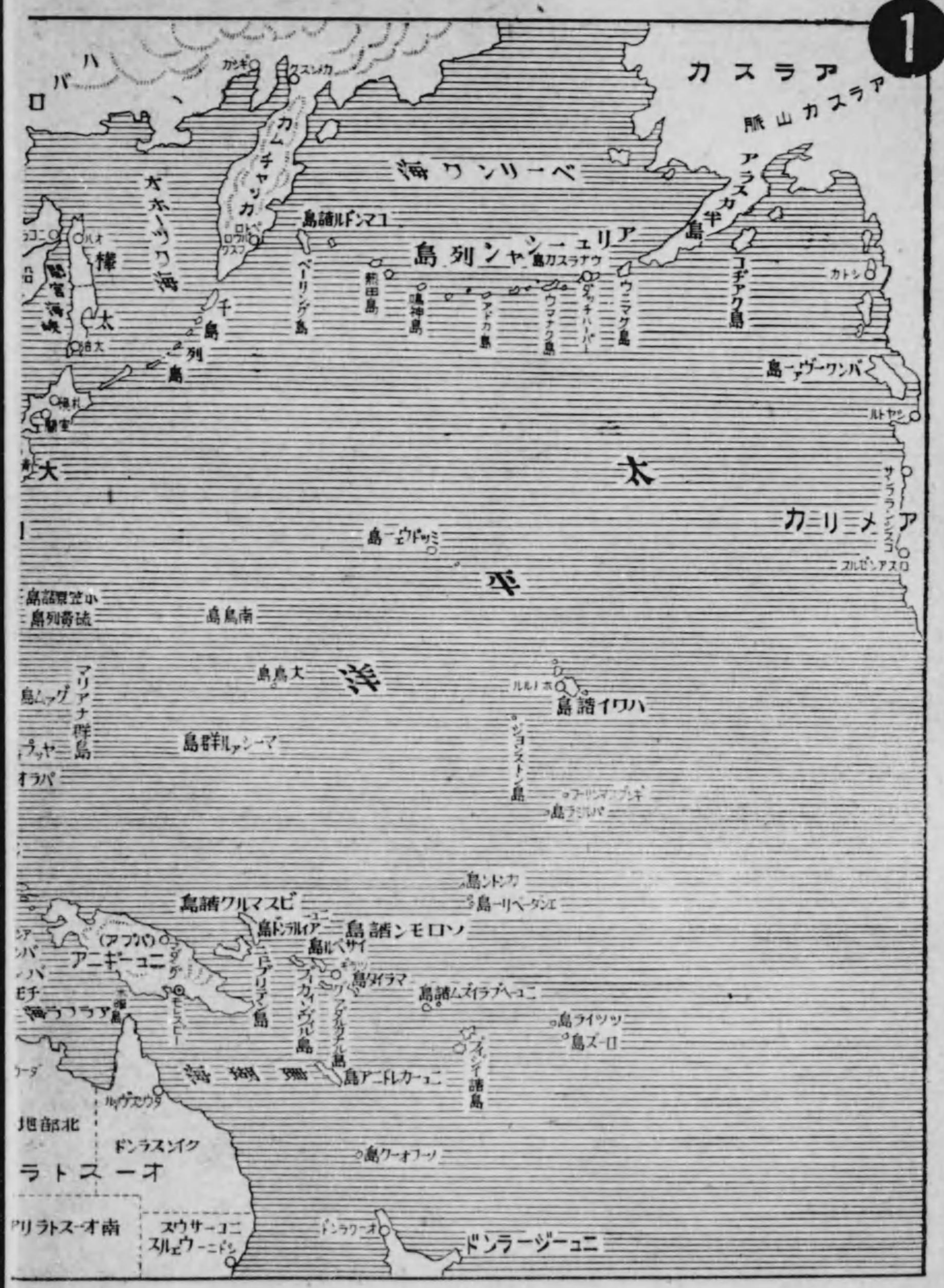
シボゴの英軍降伏 (下)



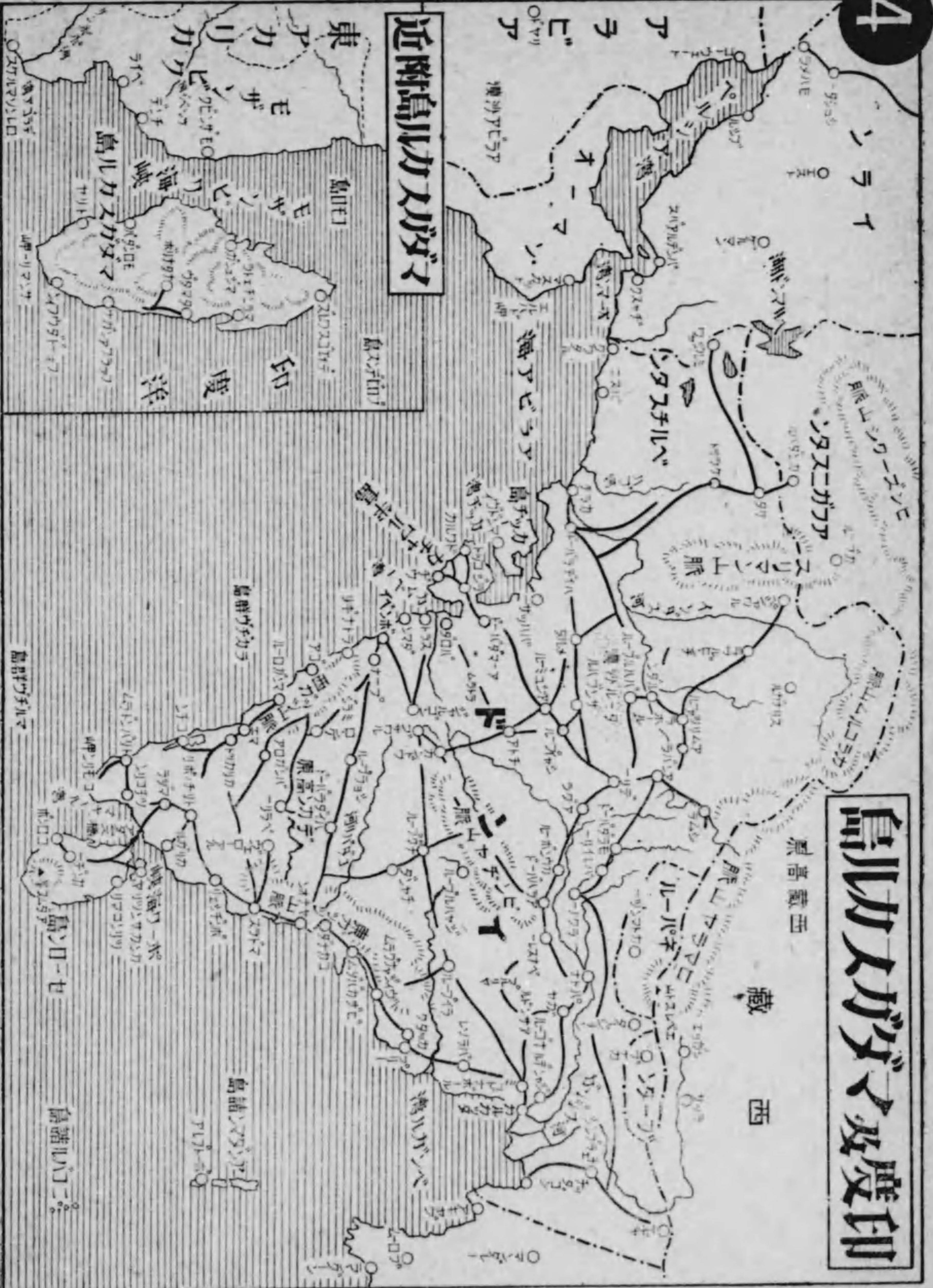
大東亞戦争地圖

- (1) 大東亞戦争要圖
- (2) 香港及フィリッピン要圖
- (3) 佛印、泰、ビルマ、マライ
- (4) 印度及マダガスカル島
- (5) 東印度諸島
- (6) 濠洲方面要圖
- (7) 太平洋諸島圖、ハワイ諸島
- (8) アリユーション列島
- (9) 浙贛作戦要圖、温州方面

大東亞戰爭要圖



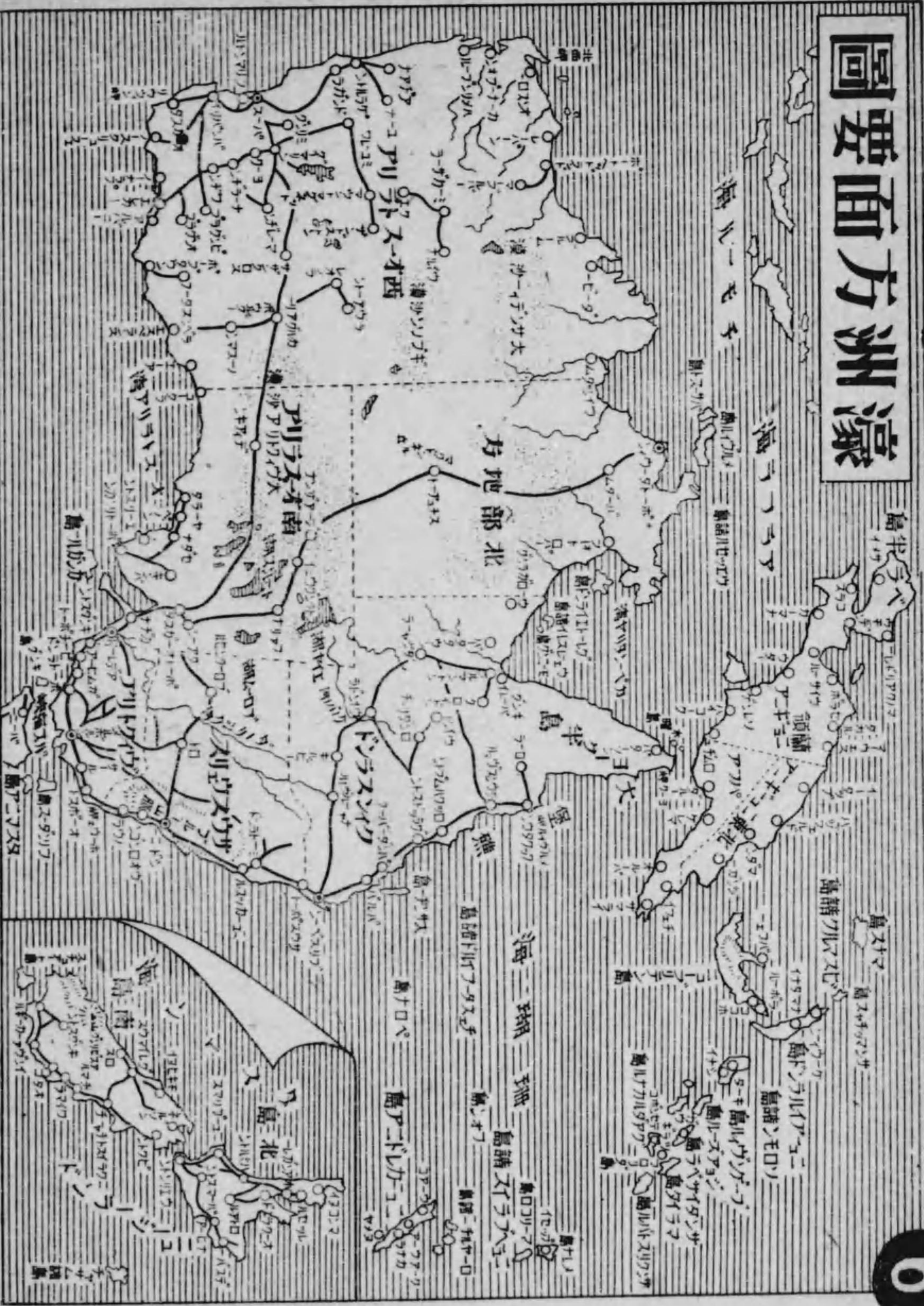




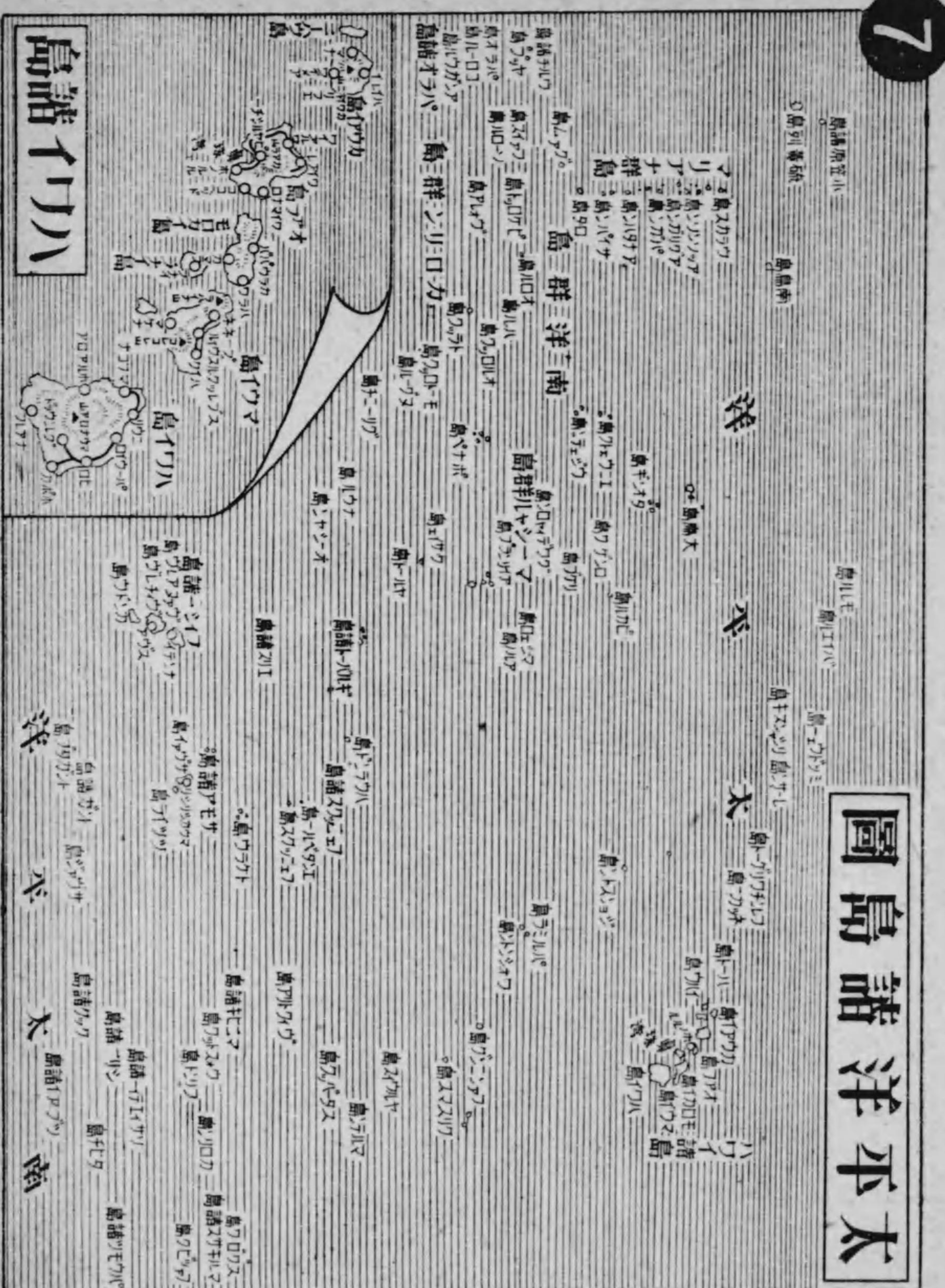
島諸度印東



圖要面方洲濠

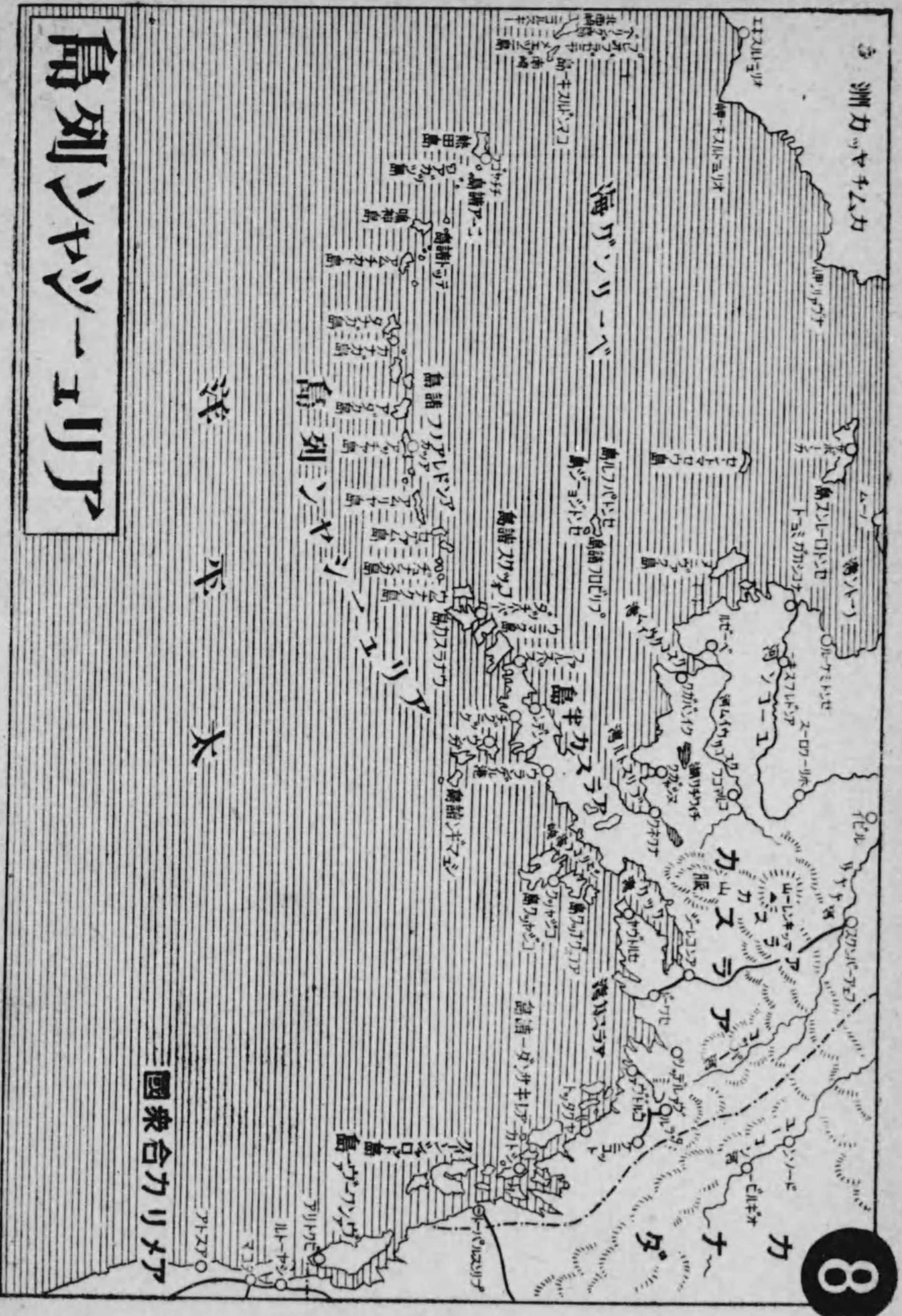


圖島譜洋平太



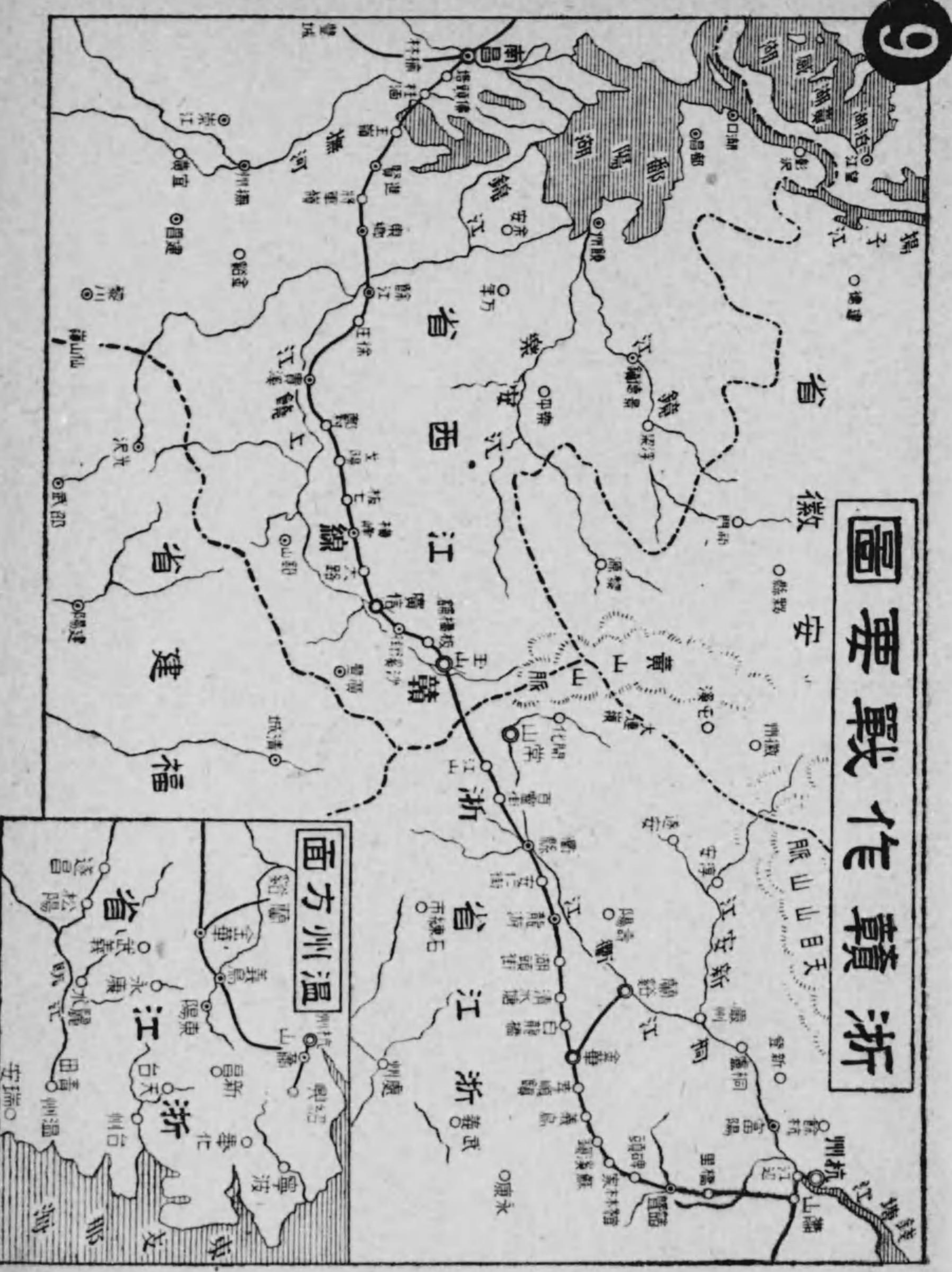
島譜イカハ





島列シヤツエリア

國衆合カリマタ



浙贛作戦要圖

温州方面

大東亞戰爭年史

(第一一年)

自昭和十六年十二月八日
至昭和十七年十二月七日

大詔渙發
宣戰布告

昭和十六年十二月

八日(月) ◇畏くも宣戰の大詔渙發さる◇帝國米英に宣戰を布告、臨時議會召集◇陸海軍部隊は西
南太平洋において米英と戰鬪状態に入る、機を失せず海軍部隊布哇に決死的大空襲を敢行、米の
太平洋艦隊を一撃で潰滅◇我艦艇ミッドウエー島急襲◇陸軍部隊は馬來半島に敵前上陸◇香港島
攻略を開始◇米英租界へ進駐◇陸海の荒鷲東亞の敵基地を一齊に痛撃◇帝國政府聲明を發し米英
兩國に覺書を手交◇防空實施を下令さる。

【大本營陸海軍部發表】八日午前六時】帝國陸海軍は今八日未明西太平洋において米英軍と戰爭状態に入れり

【大本營陸軍部發表】八日午前十時四十分】我軍は本八日未明戰爭状態に入るや機を失せず香港の攻撃を開始せり。

【大本營陸海軍部發表】八日午前十一時五十分】わが軍は陸海緊密なる協力の下に本八日早朝マレー半島方面の奇襲上陸作戦を敢行し着々戰果を擴張中なり。

【陸海軍省發表】八日午後三時】本日陸海軍大臣を召させられ、左の勅語を賜りたり。

マレー半島に上陸

香港攻撃

勅語

曩ニ支那事變ノ發生ヲ見ルヤ朕カ陸海軍ハ勇奮健闘既ニ四年有半ニ彌リ不逞ヲ膺懲シテ戰果日ニ揚ルモ禍亂今ニ至リ尙收マラス朕禍因ノ深ク米英ノ包藏セル非望ニ在ルニ鑑ミ朕カ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ解決セシメムトシタルモ米英ハ平和ヲ顧念スルノ誠意ヲ示ササルノミナラス却テ經濟上軍事上ノ脅威ヲ増強シ以テ帝國ヲ屈服セシメムト圖ルニ至レリ是ニ於テ朕ハ帝國ノ自存自衛ト東亞永遠ノ平和確立トノ爲遂ニ米英兩國ニ對シ戰ヲ宣スルニ決セリ朕ハ汝等軍人ノ忠誠勇武ニ信倚シ克ク出師ノ目的ヲ貫徹シ以テ帝國ノ光榮ヲ全クセムコトヲ期ス

十二月

右勅語を拜受し陸海軍大臣は左の如く奉答せり。

奉答文

臣 英 機
臣 繁 太郎

誠恐誠懼謹テ奏ス帝國未曾有ノ難局ニ方リ優渥ナル勅語ヲ賜フ臣等感激ノ至ニ堪ヘス臣等協力一致死力ヲ盡シ誓テ聖旨ニ應ヘ奉ランコトヲ期ス臣等機臣繁太郎誠恐誠懼陸海軍ヲ代表シ謹テ奉答ス

昭和十六年十二月八日

陸軍大臣 東 條 英 機
海軍大臣 嶋 田 繁 太郎

臨時議會を召集

詔書

朕軍國ノ急務ニ關シ帝國議會ノ協賛ヲ望ムモノアリ茲ニ帝國憲法第七條及第四十三條ニ依リ本年 二月十五日ヲ以テ臨時帝國議會ヲ東京ニ召集シ二日ヲ以テ會期ト爲スヘキコトヲ命ス

御 名 御 璽

昭和十六年十二月八日

各 國 務 大 臣 副 署

ハワイ海軍(十二月十三日)の空襲

シ港初空襲

ハワイ奇襲の意義

【大本營海軍部發表】八日午後一時 一、帝國海軍は本八日未明ハワイ方面の米國艦隊並に航空兵力に對し決死の大空襲を敢行せり。

二、帝國海軍は本八日未明上海に於て英砲艦ベトレルを撃沈せり。米砲艦ウエイキは同時刻我に降伏せり。

三、帝國海軍は本八日未明新嘉坡を爆撃し大なる戦果を收めたり。

四、帝國海軍は本八日早朝ダバオ、ウエイキ、グラムの敵軍施設を爆撃せり。

ハワイ奇襲の意義

帝國海軍が、つひに太平洋の怒濤を蹴つて敵米、英軍と相見えた朝わが海軍艦艇および航空部隊によつて敢行されたハワイ攻撃は、實に帝國海軍の傳統的眞面目を昂揚したばかりではなく、世界海戦史が今まで記録したことのない歴史的奇襲戦略に成功したもので、今後の太平洋に展開する、戦局をわが方に絶對的有利な態勢で進めるための一大布石である。

一、元來、眞珠灣軍港を中心とするハワイは米海軍が、太平洋作戦の一大樞軸點として眞珠灣軍港の築

造に十億弗といふ巨費を投じたばかりでなく、多年にわたつてその築造に懸命となり、地中海のジブラルタルと相並んで、世界の二大軍港として米海軍が列強海軍に誇つてゐた、ハワイを頂點としてアラスカのダッチハーバーとパナマとを結ぶ線を底邊とする三角形こそ米海軍の太平洋三角形防衛線といはれた、他國軍の侵入を許さぬ米國の生命線であつた、この生命線の頂點を戦争劈頭に崩潰されたといふわけである。

二、さらに、ハワイは、日本から去る三千百哩、反對にアメリカ西岸からは僅かに二千哩の洋上であるから有名な海軍評論家バイウオーターも「日本海軍が現在もつてゐる主力艦の隻數ではたうてい、貴重な艦隊を派遣するはずはない」と断じてゐたやうに、ハワイは米海軍の對日渡洋進攻作戦の最重要な足場とこそなれ、日本海軍が、よもや對米決戦の血祭りにこゝを屠るといふ逆手戦法に出でることには、かつて世界の軍事専門家の腦底に存しなかつたのである。

三、米海軍の太平洋艦隊は、特に本年恒例の大演習を中止して眞珠灣に集結し、同灣内外で絶えず猛訓練を行ひ、最近では眞珠灣を中心

にだいたいの戦艦九隻、甲級巡洋艦

五隻、乙級巡洋艦六隻、驅逐艦十五隻、航空母艦二隻、潜水艦十隻位であつたやうである。
 わが海軍が、ことさらに日曜日の未明を狙ひしかも太平洋戦争はまづ通商破壊戦から開始されるだらうといふ通説を一擲して堂々敵の主力部隊の奇襲を敢行したことは全く敵の慮を働いた奇襲戦法であつた。
 四、海軍航空部隊による空襲の戦果を、大本營海軍部発表や外電等の情報を綜合してみると轟沈大破された艦数は別項の如くであるが、

空襲によつて主力艦一隻の轟沈（轟沈といふのは一分間以内で沈没することをいふのである）をはじめかやうな多数を撃破したことは、今次の歐洲大戦などにもみられない驚異的戦果である。
 ことにウエスト・ゲア・ジニアは、本年に入つて就役したばかりのノース・コロライナ號、ワシントン號をのぞけば、米海軍のもつてある主力艦中のもつとも新鋭として、かつて太平洋艦隊の旗艦だつたことがあり本年初頭の編成では戦艦部隊第四戦艦隊の旗艦で

あつた、また、航空母艦エンタープライズ號は、米海軍のもつ航空母艦七隻の中の最新鋭を誇つてゐたものである。
 かやうに、ハワイ攻撃は、帝國海軍が、日露戦争直後、三十餘年間にあつたつて檢討をつゞけてゐた太平洋戦略の根幹であつたものであるが、第一日のわが海軍戦果に對して米海軍が如何なる手を案じて反撃に出づるか？ わが海軍のこれに對する萬全の態勢こそ國民の注視すべきところであらう。

比島空襲

【大本營陸海軍部発表】八日午後一時五十分 本日必要の區域に防空の實施を下令せられたり。
 【大本營陸海軍部発表】八日午後二時現地発表 帝國陸海軍現地部隊は本日早朝支那にある米租界に進駐を開始せり。
 【大本營陸軍部発表】八日午後五時 我が陸軍飛行隊は本日早朝來、比島方面要衝に對し大舉空襲し甚大なる損害を與へたり。
 【大本營陸軍部発表】八日午後五時 南支方面帝國陸軍飛行隊は本日早朝香港北方の敵飛行場を急襲し、同飛行場でありし十四機中十二機に低空銃撃を加へこれを炎上せしめたり、我に損害なし。
 【大本營海軍部発表】八日午後八時四十五分 一、本日早朝帝國海軍航空部隊により決行せられたるハワイ

ハワイ空襲戦果

空襲において現在までに判明せる戦果左の如し 戦艦二隻轟沈、戦艦四隻大破、大型巡洋艦約四隻大破、以上確實、他に敵飛行機多数を撃墜撃破せり、わが飛行機の損害は輕微なり。
 二、わが潜水艦はホノルル沖において航空母艦一隻を撃沈せるもの如きもまだ確實ならず。
 三、本日早朝グアム島空襲において軍艦ベンギンを撃沈せり。
 四、本日敵國商船を捕獲せるもの數隻。
 五、本日全作戦においてわが艦艇損害なし。

泰國進駐

【大本營陸海軍部発表】十二月八日午後九時 帝國陸海軍航空部隊は本日早朝緊密なる協力のもとに比島敵航空兵力ならびに主要飛行場を急襲し、イバにおいて四十機、クラーク・フィールドにおいて五十乃至六十機を撃墜せり、わが方の損害二機。
 【大本營陸海軍部発表】八日午後九時 帝國陸海軍は緊密なる協同のもとに本日午後泰國に友好的に進駐を開始せり。
 【情報局発表】八日午後八時二十分 日本軍の泰國内通過に對する泰國側の便宜供與に關し本日午後零時三十分日泰間の交渉成立せり。

帝國政府聲明

【午後二時二十分發表】 恭しく宣戰の大詔を奉戴し茲に中外に宣明す、抑々東亞の安定を確保し、世界平和に貢獻するは、帝國不動の國是にして、列國との友誼を敦くし此の國是の完遂を圖るは、帝國が以て國交の要義と爲す所なり。

然るに、曩に中華民國は、我眞意を解せず、徒らに外力を恃んで、帝國に挑戦し來り、支那事變の發生を見るに至りたるが御稜威の下、皇軍の向ふ所敵なく、既に支那は、重要地點悉く我手に歸し、同憂具眼の士國民政府を更新して帝國は之と善隣の誼を結び、友好列國の國民政府を承認するもの已に十一箇國の多きに及び、今や重慶政權は、奥地に殘存して無益の抗戰を

續くるに過ぎず、然れども米英兩國は東亞を永久に隸屬的地位に置かんとする頑迷なる態度を改むるを欲せず、百方支那事變の收結を妨碍し、更に蘭印を使喚し佛印を脅威し、帝國と泰國との親交を裂かむがため、策動至らざるなし、仍ち帝國と之等南方諸邦との間に共榮の關係を増進せむとする自然的要求を阻害するに寧日なし、その状態も帝國を敵視し帝國に對する計畫的攻撃を實施しつつあるもの如く、遂に無道にも經濟斷交の舉に出づるに至れり、凡そ交戰關係に在らざる國家間における經濟斷交は武力に依る挑戰に比すべき敵對行為にして、それ自體黙過し得ざる所とす、然も兩國は更に與國を誘引して帝國の四邊に武力を増強し、帝國の存立に重大なる脅威を加ふるに至れり。

帝國政府は、太平洋の平和を維持し、以て全人類に戰禍の波及するを防止せんことを願念し、叙上の如く帝國の存立と東亞の安定とに對する脅威の激甚なるものあるに拘らず、隱忍自重八箇月の久しきに亘り、米國との間に外交交渉を重ね、米國とその背後に在る英國並びに此等兩國に附和する諸邦の反省を求め、帝國の生存と權威との許す限り、互讓の精神を以て事態の平和的解決に努め、盡す可きを盡し、爲す可きを爲したり、然るに米國は、徒らに架空の原則を弄して東亞の明々白白たる現實を認めず、その物的勢力を恃みて帝國の眞の國力を悟らず、與國とともに露はに武力の

脅威を増大し、もつて帝國を屈從し得べしとなす、かくて平和的手段により、米國ならびにその與國に對する關係を調整し、相携へて太平洋の平和を維持せむとする希望と方途とは全く失はれ、東亞の安定と帝國の存立とは方に危殆に瀕せり、事茲に至る、遂に米國及び英國に對し宣戰の大詔は渙發せられたり、聖旨を奉體して洵に恐懼感激に堪へず、我等臣民一億鐵石の團結を以て驅起勇躍し、國家の總力を擧げて征戰の事に従ひ、以て東亞の禍根を永久に芟除し聖旨に應へ奉るべきの秋なり。

推ふに世界萬邦をして各々その處を得しむる大詔は、炳として日星の如し、帝國が日滿華三國の提携に依り、共榮の實を擧げ、進んで東亞興隆の基礎を築かむとするの方針は、固より渝る所なく、又帝國と志向を同する獨伊兩國と盟約して、世界平和の基調を劃し、新秩序の建設に邁進するの決意は、益益牢固たるものあり、而して、今次帝國が南方諸地域に對し、新に行動を起すの已むを得ざるに至る、何等その住民に對し敵意を有するものにあらず、只米英の暴政を排除して東亞を明朗本然の姿に復し、相携へて共榮の樂を頌たんと冀念するに外ならず、帝國は之等住民が、我が眞意を諒解し、帝國と共に、東亞の新天地に新なる發足を期すべきを信じて疑はざるものなり、今や皇國の隆替、東亞の興廢は此の一舉に懸れり、全國民は今

次征戰の淵源と使命とに深く思を致し、苟も驕ることなく、又怠る事なく、克く竭く克く耐へ、以て我等祖先の遺風を顯彰し難關に逢ふや必ず國家興隆の基を啓きし我等祖先の赫赫たる史績を仰ぎ、雄渾深遠なる皇謨の翼賛に萬遺憾なきを誓ひ、進んで征戰の目的を完遂し、以て聖慮を永遠に安んじ奉らむことを期せざるべからず。

覺書

一、帝國政府は「アメリカ」合衆國政府との間に友好的諒解を遂げ兩國共同努力により太平洋地域における平和を確保し、以て世界平和の招來に貢献せんとする眞摯なる希望に促され本年四月以來合衆國政府との間に兩國國交の調整増進ならびに太平洋地域の安定に關し誠意を傾倒して交渉を繼續し來りたる處、過去八月にわたる交渉を通じて合衆國政府の固持せる主張ならびに此間合衆國及英帝國の帝國に對し執れる措置に付、こゝに率直に其の所信を合衆國政府に開陳するの光榮を有す。

二、東亞の安定を確保し世界の平和に寄與し、もつて萬邦をして各々の處を得しめんとするは帝國不動の國是なり、曩に中華民國は帝國の眞意を解せず不幸にして支那事變の發生を見るに至れるも帝國は平和克復の方途を講ずると共に、戰禍の擴大を防止せん

がため終始最善の努力を致し來れり、客年九月帝國が獨伊兩國との間に三國條約を締結したるも亦右目的を達成せんがために外ならず。

然るに合衆國及英帝國は有らゆる手段を竭し、重慶政權を援助して日支全面和平の成立を妨害し、東亞の安定に對する帝國の建設的努力を控制せるのみならず、或は蘭領印度を牽制し或は佛領印度支那を脅威し帝國と此等諸地域とが相携へて共榮の理想を實現せんとする企圖を阻害せり、殊に帝國が佛國との間に締結したる議定書に基き佛領印度支那共同防衛の措置を講ずるや、合衆國政府及英國政府は之を以て自國領域に對する脅威なりと曲解し、和蘭國をも誘ひ資産凍結令を實施して帝國との經濟斷交を敢てし明かに敵對的態度を示すと共に帝國に對する軍備を増強し帝國包圍の態度を整へ以て帝國の存立を危殆ならしむるが如き情勢を誘致するに至れり、右に拘らず帝國總理大臣は本年八月事態の急速收拾のため合衆國大統領と會見し、兩國間に存在する太平洋全般にわたる重要問題を討議検討せんことを提議せり、然るに合衆國政府は右申入に主義上賛同を與へながらこれが實行は兩國間重要問題に關し意見一致を見たる後とすべしと主張して譲らず。

三、よつて帝國政府は九月二十五日從來の合衆國政府の主張をも十分考慮の上、米國案を基礎とし之に帝

國政府の主張を取入れたる一案を提示し論議を重ねたるが、双方の見解は容易に一致せざりしを以て、現内閣に於ては従來交渉の主要難點たりし諸問題に付帝國政府の主張を更に緩和したる修正案を提示し交渉の妥結に努めたるも、合衆國政府は終始當初の原案を主張し、協調的態度に出でず交渉は依然滯留せり。こゝにおいて十一月二十日に至り帝國政府は兩國國交の破綻を回避するため最善の努力を盡す趣旨を以て極重要且緊急の問題に付公正なる妥結を圖るため前記提案を簡單化し

(一) 兩國政府に於て佛印以外の南東亞細亞及南太平洋地域に武力進出を行はざる旨を確約すること
(二) 兩國政府に於て離領印度に於て其の必要とする物資の獲得が保障せらるる様相互に協力すること

(三) 兩國政府は相互に通商關係を資産凍結前の状態に復歸すること、合衆國政府は所用の石油の對日供給を約すること

(四) 合衆國政府は日支兩國の和平に關する努力に支障を與ふるが如き行動に出でざること

(五) 帝國政府は日支間和平成立するか、又は太平洋地域に於ける公正なる和平確立する上は現に佛領印度支那に派遣せられ居る日本軍隊を撤退すべく、また本了解成立せば南部佛領印度支那に駐屯

明せるが、さらに佛領印度支那よりの撤兵についても情勢緩和に資するがため前述のごとく南部佛領印度支那よりの即時撤兵を進んで提議する等極力妥協の精神を發揮せるは合衆國政府のつとに諒解する所なりと信ず。

然るに合衆國政府は常に理論に拘泥し、現實を無視し、その拘懐する非實際的の原則を固執して何等讓歩せず、徒らに交渉を遷延せしめたるは帝國政府の諒解に苦しむ所なるが、特に左記諸點については合衆國政府の注意を喚起せざるを得ず。

(一) 合衆國政府は世界平和のためなりと稱して自己に好都合なる諸原則を主張し、これが採擇を帝國政府に迫れるところ世界の平和は現實に立脚しかつ相手國の立場に理解を持し、相互に受諾し得べき方途を發見することによりてのみ具現し得るものにして現實を無視し一國の獨善的主張を相手國に強要するが如き態度は交渉の成立を促進する所以のものにあらず。

今般合衆國政府が日米協定の基礎として提議せる諸原則については、右の中には帝國政府として趣旨に於て賛同に吝ならざるものもあるも、合衆國政府が直にこれが採擇を要望するは世界の現狀に鑑み架空の理念に驅らるゝものといふの外なし、尙日、米、英、支、蘇、蘭、泰七國間に多邊的不

中の日本軍は、これを北部佛領印度支那に移駐するの用意あること等を内容とする新提案を提示し同時に支那問題については合衆國大統領がさきに言明したる通り日支間和平の紹介者となるに異議なきも、日支直接交渉開始の上は合衆國において日支和平を妨害せざる旨を約せんことを求めたるが、合衆國政府は右新提案を受諾するを得ずとせざるのみならず援將行爲を繼續する意思を表明し次で更に前記の言明に拘らず大統領のいはゆる日支間和平の紹介を行ふの時機なほ熟せずとてこれを撤回し、遂に十一月二十六日に至り偏に合衆國政府が従來固執せる原則を強要するの態度を以て帝國政府の主張を無視せる提案を爲すに至りたるが、右は帝國政府の最も遺憾とする所なり。

四、抑々本件交渉開始以來帝國政府は終始専ら公正かつ謙讓なる態度をもつて銳意妥結に努め、しばしば難きを忍びて能ふ限りの讓歩を敢てしたるが、交渉上重要事項たりし支那問題に關しても協調的態度を示し、合衆國政府の提唱せる國際通商上の無差別待遇原則遵守については、本原則の世界各國に行はれんことを希望し、かつその實現に順應してこれを支那をも含む太平洋地域に適用するやう努力すべき旨を表明し、尙支那における第三國の公正なる經濟活動は何等これを排除するものにあらざることをも關

可侵條約を締結するの案の如きも、徒らに集團的平和機構の舊構想を追ふの結果東亞の實情と遊離せるものといふの外なし。

(二) 合衆國政府今次の提案中に「兩國政府が第三國と締結し居る如何なる協定も本取極の根本目的たる太平洋全域の平和確保に矛盾するが如く解釋せられざること」に付合意す」とあるは、即ち合衆國が歐洲戰爭參入の場合における帝國の三國條約上の義務履行を牽制せんとする意圖を以て提案せるものと認めらるゝを以て、右は帝國政府の受諾し得ざる所なり。

由來合衆國政府はその自己の主張と理念とに眩惑せられ、自ら戰爭擴大を企圖しつつありといはざるを得ず、合衆國政府は一方太平洋地域の安定を策し、自國の背後を安固となしつつ他方英帝國を援け歐洲新秩序建設に邁進する獨伊兩國に對し自衛權の名の下に進んで攻撃を加へんとするものなるが右は太平洋地域に平和的手段に依り安定の基礎を築かんとする幾多の原則的主張と全然矛盾背馳するものなり。

(三) 合衆國政府はその固執する主張において武力による國際關係處理を排撃しつつ一方英帝國等と共に經濟力による壓迫を加へつつある處、かゝる壓迫は場合によりては武力壓迫以上の非人道的行

爲にして國際關係處理の手段として排撃せらるべきものなり。

(四) 合衆國政府の意圖は英帝國その他の諸國を誘引し、支那その他東亞の諸地域に對しその從來保持せる支配的地位を維持強化せんとするものと見るの外なき處、東亞諸國が過去百有餘年に互り米英の帝國主義的搾取政策の下に現状維持を強ひられ兩國繁榮の犠牲たるに甘んぜざるを得ざりし歴史的事實に鑑み右は萬邦をして各其の所を得しめんとする帝國の根本國策と全然背馳するものにして帝國政府の斷じて容認する能はざる所なり。

合衆國政府今次提案中佛領印度支那に關する規定は正に右態度の適例と稱すべく、佛領印度支那に關して佛國を除き日、米、英、蘭、支、泰六國間に同地域の領土主權の尊重並に貿易及び通商の均等待遇を約束せんとするは、同地域を六國政府の共同保障の下に立たしめんとするものにして、佛國の立場を全然無視せる點は暫く措くも、東亞の事態を紛糾に導きたる最大原因の一たる九國條約類似的體制を新に佛領印度支那に擴張せんとするものと觀るべきものにして、帝國政府として容認し得ざる所なり。

(五) 合衆國政府が支那問題に關し帝國に要望せる所は或は全面撤兵の要求と云ひ、或は通商無差別

原則の無條件適用と云ひ、何れも支那の現實を無視し東亞の安定勢力たる帝國の地位を覆滅せんとするものなる處、合衆國政府が今次提案に於て重慶政權を除く如何なる政權をも軍事的政治的且經濟的に支持せざることを要求し、南京政府を否認し去らんとする態度に出でたるは交渉の基礎を根柢より覆するものといふべく、右は前記授將行爲の復歸および東亞平和の回復を阻害するの意思あることを實證するものなり。

五、要之今次合衆國政府の提案中には通商條約締結、資産凍結令の相互解除、圓弗爲替安定等の通商問題乃至支那における治外法權撤廢等本質的に不可ならざる條項なきにあらざるも、他方四年有餘に互る支那事變の犠牲を無視し、帝國の生存を脅威し權威を冒瀆するものあり、従つて全體的に觀て帝國政府としては交渉の基礎として到底これを受諾するを得ざるを遺憾とす。

六、なほ帝國政府は交渉の急速成立を希望する見地より日米交渉妥結の際は英帝國その他の關係國との間にも同時調印方を提議し、合衆國政府も大體これに同意を表示せる次第なる所、合衆國政府は英、露、蘭、重慶等としばしば協議せる結果、特に支那問題に關しては重慶側の意見に迎合し前記諸提案をなせ

るものと認められ右諸國は何れも合衆國と同じく帝國の立場を無視せんとするものと斷ぜざるを得ず。

七、惟ふに合衆國政府の意圖は英帝國その他と苟合策動して東亞における帝國の新秩序建設による平和確立の努力を妨害せんとするのみならず、日支兩國を相闘はしめて英米の利益を擁護せんとするものなることは今次交渉を通じ明瞭となりたる所なり、かく

て日米國交を調整し合衆國政府と相携へて太平洋の平和を維持確立せんとする帝國政府の希望は遂に失はれたり。

よつて帝國政府はこゝに合衆國政府の態度に鑑み今後交渉を繼續するも妥結に達するを得ずと認むるの外なき旨を合衆國政府に通告するを遺憾とするものなり。

九日(火) ◇防衛總司令官に東久邇大將官殿下親補◇馬來方面作戰部隊、北部要衝を占領◇海鷲マレー空軍基地連爆◇海鷲比島空襲、帝國潜水艦マニラ灣急襲

【陸軍省發表】九日 本日左の如く發令せられたり。

防衛總司令官兼軍事參議官 陸軍大將 蔭 王
補防衛總參謀長(十二月一日發令) 陸軍中將 小林 淺 三 郎

右に件ひ防衛總司令官を兼動中なりし教育總監陸軍大將山田乙三はその兼職を免ぜられたり。

【防衛總司令部發表】九日午前十時二十分 本九日朝まで我が國土には敵機の來襲を見ず。

緒戦の大戦果に輝く祝電

軍令部總長、海相より聯合艦隊司令長官、各指揮官宛
は聯合艦隊司令長官、航空部隊指揮官、潜水部隊指揮官に對し左の祝電を發せり。
航空部隊および潜水部隊が周密適切なる計畫の下に、馬關ハワイに決死的大攻撃を敢行し、所在敵艦隊主力および航空兵力に殲滅的打撃を與へ、未曾有の大戦果を收めたる偉功に對し慶祝の意を表す。
二、本日軍令部總長および海軍大臣は聯合艦隊司令長官、マレー方面作戰艦隊司令長官に對し左の祝電

大戦果に輝く祝電

を發せり。

海陸緊密なる協同の下にマレー半島上陸作戦に成功、帝國軍の偉力を南海の一角に顯揚せるを祝すると共に將兵各員の一層の健闘を祈る。

三、本日軍令部總長および海軍大臣はマレー方面陸軍最高指揮官に對し左の祝電を發せり。

海陸緊密なる協同のもとにマレー半島上陸作戦に成功し神速敵據點を確保せられたるを祝するとともに瘴癘の地に勇戦する將兵各位の一層の御自愛を祈る。

軍令部總長、海相より聯合艦隊司令長官及び比島方面

航空部隊指揮官宛

海軍〇〇航空隊が好機を把握し長驅比島における米陸軍航空の本據を衝き新銳を誇れる敵空軍主力を殲滅し以て開戦劈頭我が優越せる航空威力を中外に宣揚せるを慶祝す。

首相、聯合艦隊司令長官に

祝電

【海軍省發表】九日午前十一時三十分、内閣總理大臣より聯合艦隊司令長官宛左の祝電ありたり。

開戦劈頭赫々たる戦果を挙げられたるを慶祝し將兵各位の御武運長久を祈る。

參謀總長より前線陸軍最高指揮官宛

宏大なる御稜威の下、今日この赫赫たる成功の報に接す、誠に慶祝に堪へず、ますく籌畫指導宜しきを制し最終の目的達成に向ひ邁進せられんことを祈る。

參謀總長より聯合艦隊司令長官、支那方面艦隊最高指揮官宛

陸軍大臣より前線陸軍最高指揮官宛

上陸成功の報に接し、衷心欣快に堪

へず、善謀果決陸海軍緊密なる協力のもとに克く緒戦に成果を挙げられたるに對し、茲に滿腔の祝意と敬意とを表示、さらに今後の御健闘を祈る。

陸軍大臣より聯合艦隊司令長官宛

貴艦隊の赫々たる戦勝報に接し欣快に堪へず、こゝに全陸軍を代表し、滿腔の祝意と敬意とを表す。

滿洲國皇帝詔書換發

滿洲國皇帝陛下には盟邦日本帝國の米英兩國にたいする宣戰布告ありたるにつき八日午後十時二十分、時局に關する詔書を換發せられ四千三百萬國民の向ふ處を御明示遊ばされた

【大本營陸軍部發表】九日午前十時三十分】帝國陸軍航空部隊は昨日八日マレー半島敵航空基地に對し數次にわ

たり果敢なる攻撃を實施して英マレー空軍の多數を撃滅しかつ逐次マレー半島に躍進してシンガポール方面を攻撃中なり。

【大本營海軍部發表】九日午前十時四十分】一、昨日帝國海軍〇〇航空部隊の比島敵空軍基地イバ及びクラークフィールド空襲の綜合戦果詳報左の如し、撃墜二十五機（内大型一機）銃、爆撃による地上撃破七十一機（内大型中型三十三機）なほ我方の損害五機。

二、昨日八日未明帝國海軍〇〇航空部隊はシンガポール附近テンガー、セレター兩空軍基地及び空軍司令部その他重要軍事施設に對し夜間爆撃を敢行せり、戦果は大なりと認むるも夜間爆撃のため明確ならず、當時敵の反撃極めて大なりしも我方損害なし。

【大本營海軍部發表】九日午前十時五十分】帝國海軍艦艇は昨日八日午後ミッドウエーを急襲、猛烈なる砲撃を加へ同島の飛行機格納庫、燃料庫などを炎上せしめたり、我方損害なし。

全租界進駐を完了

【大本營陸軍部發表】九日午前十一時】支那派遣の帝國陸軍現地部隊は昨日八日早朝一齊に敵性租界への進駐ならびに敵國權益の處理を開始せり。その状況左の如し

- 一、北支方面 天津租界は八日午前八時二十分平穩裡に進駐を完了し、米國海兵隊は北京、天津、秦皇島とも我が武装解除に應じたるを以て、午後この武装を解除せり、又敵國權益の處理は順調に進捗、民心に動搖なし
- 二、中支方面 上海共同租界は海軍現地部隊と共同し八日正午までに進駐を完了せり、租界は一般に極めて平穩にして敵國權益の處理は順調に進捗しつゝあり。
- 三、南支方面 沙面英國租界は八日午前八時平穩裡に進駐を完了し敵國權益の處理は順調に進捗しつゝあり。

【大本營海軍部發表】九日午後三時】一、開戦第一日拿捕抑留せる敵國船舶左の如し、イ、大型船舶ブレジテン

ト・ハリソン（一萬五千トン）メリー・モラー（五千トン）ほか二十隻、ロ、その他約二百隻、以上合計ト

數約八萬トン。

二、帝國艦船にして拿捕抑留せられたるものなし。

【大本營海軍部發表】九日午後三時十分 一、昨八日午後帝國海軍〇〇航空部隊は香港並に同空軍基地を爆撃し英國驅逐艦一隻に大損害を與へたり。

二、同日帝國海軍〇〇航空部隊はウエーキ島を空襲し、敵飛行機九機を撃破しまた燃料タンクを炎上せしめた。

【大本營陸軍部發表】九日午後十時 馬來方面に作戦中の帝國陸軍部隊は本九日英軍が頑強に死守せんとしたる北部英領馬來戰路上の大要衝〇〇を完全に攻略せり。

大本營海軍報道部長前田少將は「帝國海軍の決意」と題し、同陸軍報道部長大平大佐は「一億一心決戦に邁進せよ」と題し、九日夜ラチオを通じ戦果を報告した。

前田少將講演要旨

今や我國未曾有の大難局はまことに畏多いことであるが、御聖断により豁然として打開せられ、一億一心の奮ふところはまさに天目を仰ぐの感があつて、たゞ大御言のまにまに盡忠報國の誠をいたすのである。恭しく大詔を奉戴し大御心を拜察致しまして、我々は衷心恐懼感激の至りに堪へざるとともに、大詔に御明示になられた皇國不動の大使命と現下時局におけるそれが達成の大方針を拜承致して、今さらながら三千年の尊い歴史に脈々とつながる崇高なる精神にうたれ感奮おく能はざるところである。又我々軍人は特に重ねて僞溼なる勅語を拜しまして實に感極まり言ふところを知らないのである。皇國目存自衛のため決然武力を以て

場を爆撃して最新型機百機以上の敵飛行機を粉碎し、東亞にある米國機大部分を撃破してをる

開戦第一日における斯様な戦果は今まで殆ど例のない素晴らしいことであつて 諸情報および外電によれば米本國は全くなすことを知らず、全世界を驚倒させてゐるのであつて、これは全く天佑によるものと申さざるをえない。帝國海軍が過去幾十年の間専ら精兵主義を以て粉骨碎身練磨を重ね、世論に惑はず、政治に拘らず一途にその本分に精進して参つた忍苦の賜であつて、戦の勝敗は必ずしも數の多寡によらず兵の精神の強弱こそ勝負のわかるる最大の要件であることは今も昔も全く同様である。今回の戦果においてもまた明かに示されてをる、又數千哩の廣大なる地域にわたり到る所同時に奇襲先制の火蓋を切るといふ今回の様な大戦を史上未だ例を見ざる所であつて、最近世人を驚嘆せしめたドイツの電撃戦を多數同時に東にして廣大なる

地域で決行した様なものであつて、しかもそれがいたる所空前の戦果を収めたことについては素より兵の精銳作戦の周到神速に基くことは勿論であるが、又海陸軍の協同が全く理想的に行はれたためである。

今日帝國海軍は數においてこそ英米聯合の海軍力に比しその半ばに達するに過ぎぬが我が聯合艦隊の實力は既に幾多の試煉をへて大敵といへどもこれを恐れざるの域に達してゐるのであつて、この確信は御稜威のもとに光榮ある連戦連勝の歴史より湧く必勝の信念と相まつて如何なる強敵をも斷じて撃滅せざればやまずとする固き決意となつてをる。

しかし今度の戦争は支那相手とは大いに趣を異にするのであつて、後方連絡線を敵の潜水艦に襲はるることもあらうし必需品運搬の船が撃破されることも多々あるであらう、我海軍が決行いたした如く敵の飛行機もまた我國士を空襲し來ることがないとはいへないのであつて、むしろ

必ずこれをうけるものと覺悟し準備し心構へすることが極めて大切と思ふのである、今度の戦争においては敵は『ゲリラ』戦による後方攪亂に力を注ぐこともあらうと想像せられる、また敵を倒すには常に自分が無傷であることを念願致すのは間違ひであつて「皮を切らせて肉を切り肉を切らせて骨を切る」といふ考へは昔から傳はる我國武道の神髓である敵の『ゲリラ』戦による被害や戦争による被害は總て戦争指導上既に計算に入れてあるのであつて、國民諸君としては戦勝の途上に起るこれらの現象を追うてそのたびごとく一喜一憂することは毫もないのである。

また、わが海軍の戦況報道に當つて特に正確を期するため或は作戦上の要求等、ため發表時期が若干おくれることがあると思ふが決して心配することなく安心して正確なわが報道を信頼していただきたいのである。戦ひは既に開かれた、今更あらゆる困苦を克服し最後の勝利を獲得す

るまでは眞に文字通り一億一心となり断じて戦ひ抜かねばならない、古人は「勝而仁義行」といつてをる、我が主張を貫き正義を宇内に布くにはまづ勝たねばならない、今日本は戦ひ抜いて完全に勝つことがまづ第一である。我が海軍の全將兵は今こそ正に「海行かば水漬く屍、大君の邊にこそ死なぬ」と覺悟し堅き必勝の信念を胸に秘めつゝ太平洋上到處に勇戦奮闘敵を撃破しつゝあるのである。

大平大佐講演

大平大佐講演要旨

畏くも宣戦布告の大詔は渙發せられました。暴戻不遜の米英兩國に對する我が膂肉の火蓋は遂に切られた、忠勇無比なる皇軍將兵は電光石火の神速と、決河の如き勢をもつて陸に海に空に、極めて剛體かつ徹底的な撃滅作戰に勇戦奮闘してゐる。あれ狂ふ西太平洋の怒濤を蹴り、あはるひは人跡未踏の密林を突破し、さらにはまた變轉極まりなき魔の空を制

壓しつゝ、無敵の威武を遺憾なく發揮し、多年の宿敵たる米英兩國を一擧に粉碎打倒せんと、今やその全力を傾倒してゐるのである。過去四年にわたるわが聖戰の遂行をことごとに妨害せるのみならず、我が實力をいかに加増しつゝあつた米英兩國に、今こそ我が眞の實力を骨髄に徹するまで思ひ知らすべき秋が到來したのである。

忍び難きを忍び、堪へ難きを堪へ、禮義をつくし、條理をつくした日米交渉におけるわが誠意すら傲慢非禮なる米國によりて蹂躪せられては、もはやわが隱忍の限度は切れざるを得ない、もしこれ以上徒らに腕を拱いて在再時を空しうするならば、わが自存自衛は危殆に陥り、我が悠久二千六百年の光輝ある歴史は汚されるのであつて、ここにやむを得ず皇國は、大詔を仰いで決然立つて對日包圍陣を突破し、米英兩國の粉碎に總進軍を開始するに至つたのである。

である、之まさに古今東西を通じて未だかつてその比を見ない悠大壯絶なる一大進攻作戰であつて、開戦第一日にしてすでに海軍の驚異的ハワイ大空襲と呼應して、わが陸軍もまた南太平洋の波濤を蹴破つて南方の要衝を攻略し、將來作戰の一大據點を手中に収めたのであつて、今後更にこの大戦果は無限に擴大せらるべく、わが陸軍はいよいよ海軍と緊密なる協同の下に米英兩國を徹底的に

比島に上陸
マレー海戦

布哇に戦
御嘉尙

ごとく聖戰に挺身する戰士なのである、皇軍は萬里の波濤の彼方に奮進して米英兩國軍に一大決戦を敢行してゐる、國民諸君も今こそわれらの祖先が、彼の元寇の役に示した勇猛心を心とし、燃えるが如き必勝の信念をもつて銃後鐵石の團結を固め、いつどこから突つかゝつて來ても、寸分の揺ぎもない磐石不動の態勢を整へ、戰場にあるの心境を以て堅忍持久自分の職分を忠實に履行して眞

に義勇奉公の臣道の誠をつくされんことを切に期待してやまない次第である。畏くも渙發あらせられたる大詔を拜するに、朕カ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戦ニ從事シ朕カ百僚有司ハ勵精職務ヲ奉行シ朕カ庶民ハ各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ

と宣はせられ一億國民の奮ふべきところを明にし給ふところがあつたのである。誠に恐懼感激に堪へない次第であります。矢はずでに弦を放れたのである、今や戰の勝負は一にかかつて一億國民の團結總力發揮如何によるのである、一億國民諸君、皇國の興廢を決するこの未曾有の一大決戦に皇國日本臣民の眞面目を受彈して戰勝に向ひ勇躍邁進しようではありませんか。

【大本營海軍部發表】十日午後四時 本十日聯合艦隊司令長官山本五十六に左の勅語を賜はりたり。
十日(水)◇布哇方面の作戰を御嘉尙、山本聯合艦隊司令長官に勅語を賜ふ◇陸海軍部隊比島に敵前上陸◇陸海軍部隊グアム島に上陸敢行◇陸軍馬來上空で敵機八十六機撃墜◇マレー沖海戦にブルンス・オヴ・ウェールズ、レパルス二艦を轟撃沈、英東洋艦隊を撃滅◇海軍比空軍の大半撃破。

勅語

聯合艦隊ハ開戦勇頭善謀勇戰大ニ布哇方面ノ敵艦隊及航空兵力ヲ撃破シ偉功ヲ奏セリ
朕深ク之ヲ嘉尙ス將兵益々奮勵シテ前途ノ大成ヲ期セヨ

【大本營陸海軍部發表】十日午前十時十分 帝國陸海軍は十日未明緊密なる共同のもとに比島に對し上陸作戰を敢行し日下着々戰果擴張中なり。

【大本營海軍部發表】十日午前十時十分 帝國海軍艦艇は八日午前パラオ港外に於て敵潜水艦一隻に對し適確なる爆雷攻撃を加へ之を撃沈せるものゝ如し。

(註) 潜水艦の爆沈明確なりと認むる場合と雖も目撃し得ざる場合多きに付撃沈せるものゝ如しと發表す。

【大本營海軍部發表】十日午前十一時三十分 一、帝國海軍航空部隊は九日午前敵の猛烈なる照射反撃を冒し比島空軍基地ニコルス飛行場に對し夜間爆撃を敢行し飛行機格納庫を爆破し、二箇所到大火災を生ぜしめたり。

二、帝國潜水艦は九日午前マニラ灣において米國軍用船(一五、〇〇〇トン)を撃沈せり。

三、帝國海軍艦艇は八日午前香港南方海面において英國武装商船ベネブ(六、〇〇〇トン、八サンチ砲二門搭載)を拿捕せり。

グアム島に上陸

【大本營陸海軍部發表】十日午後二時二十分 帝國陸海軍は本日未明緊密なる協同のもとに敵の抵抗を排除してグアム島の上陸に成功せり。

プリンス・オブ・ウェールズ、ルズ・バル、ス、艦撃

【大本營海軍部發表】十日午後四時五分 帝國海軍は開戦劈頭より英國東洋艦隊、特にその主力艦二隻の動靜を注視しありたる所、昨九日午後帝國海軍潜水艦は敵主力艦の出動を發見、時後帝國海軍航空部隊と緊密なる協力の下に搜索中、本日午前十一時半マレー半島東岸クワンタン沖において再びわが潜水艦これを確認せるをもつて、帝國海軍航空部隊は機を逸せずこれに對し勇猛果敢なる攻撃を加へ、午後二時二十九分戦艦レバルスは離間にして轟沈し、同時に最新式戦艦プリンス・オブ・ウェールズは忽ち左に大傾斜暫時進走せるもまもなく同二時五十分大爆發を起し遂に沈没せり、こゝに開戦第三日にして早くも英國東洋艦隊主力は全滅するに至れり。

【大本營海軍部發表】十日午後六時五十分 開戦以來現在までのわが方損害は飛行機三十八機にして、艦艇には一隻の喪失もなし。

【大本營海軍部發表】午後七時三十分 本日軍令部總長及海軍大臣は聯合艦隊司令長官竝に馬來方面作戦艦隊司令長官、航空部隊指揮官に對し左の祝電を發せり。

「海軍〇〇航空部隊が英國東洋艦隊主力の戦艦二隻に對し見事なる攻撃を加へ忽ちして之を爆沈し以て帝國海軍航空勢力を中外に宣揚せるを慶祝す」

【大本營陸軍部發表】十日午後七時四十五分 一、八日開戦以來十日に至るわが陸軍部隊の損害は、各方面を合し輸送船の撃沈せられたるもの、損傷をうけたるもの各二隻にして、右はいづれも部隊上陸後の空船なり。二、なほ右の間における陸軍機にしてはまだ歸還せざるもの十三機なり。

十一日(木)◇日泰攻守同盟締結◇獨伊兩國對米宣戰布告、新に三國協定調印◇海軍艦艇、米領ベーカー島を砲撃、重要軍事施設を破壊。

【大本營海軍部發表】十一日午前十一時 一、帝國海軍〇〇航空部隊は九日午後マレー空軍基地クワンタンを攻撃し、同地分散配備中の敵約三十機(内大型機二十機)に對し銃、爆撃を加へ敵六機炎上、四機破壊、格納庫一棟を炎上せしめたり。

二、帝國海軍〇〇航空部隊は九日午前ウェーキ島に對し第二次攻撃を敢行し、敵戦闘機七機と空戦、その五機を撃墜せるほか同島の兵舎倉庫群その他を爆撃、その約半數を炎上せしめたり。

三、帝國海軍〇〇航空部隊は九日午前マレー東方海面において英貨物船(七千トン)を攻撃大破せしめたり。【大本營海軍部發表】十一日午前十一時十五分 帝國海軍〇〇陸戦隊は十一日未明グアム島アラ港四周の要地に進撃しこれを完全に占據せり、本作戦において三千トン級油槽船一隻を拿捕し、米海兵少佐以下三十名を捕虜とせり、我方損害なし。

【大本營海軍部發表】十一日午前十一時二十分 一、昨日マレー沖海戦(プリンス・オブ・ウェールズおよびレバルスを撃沈せる海戦)において我方は飛行機三機を失へり。

二、比島上陸作戦において我方は驅逐艇一隻を失へり。

【大本營陸軍部發表】十一日午後三時 帝國陸軍飛行隊は昨日朝來悪天候を冒して出勤し香港島附近哨戒中の敵砲艦二隻と交戦、これらに直撃弾を浴びせ、ともに航行不能に陥らしめたり、我に損害なし。

【大本營海軍部發表】十一日午後三時四十五分 帝國海軍〇〇航空部隊は昨日マニラ方面を大舉空襲し比島米陸軍航空兵力の大半を撃砕せり、右戦果左の如し

- (一) 空中戦闘により敵機四十五機以上を撃墜せり
- (二) 地上銃爆撃により敵機三十六機を爆破炎上せしむ
- (三) キャビテ海軍工廠留中の敵驅逐艦一隻潜水艦一隻及び特務艦一隻を大破せり(命中弾計六)
- (四) キャビテ海軍工廠一面を炎上せしむ
- (五) ニコルス飛行場の格納庫、應舎を爆破し大火災を生ぜしむ、我が方未だ歸還せざるもの三機、自爆せるもの二機。

【大本營陸軍部發表】十一日午後四時三十分 グラムに上陸せる陸軍部隊の戦果左の如し

- 一、俘虜約三百五十名、鹵獲品多数、俘虜中にはグラム總督兼要港部司令官マクミラン、同副總督ザイルス以下將校多数あり。
- 二、陸軍部隊主力はグラム首都アガニヤを占領し島内を掃蕩中なり。
- 三、われに損害なし、なほ監禁中の邦人二十五名を救出せり。

【大本營陸軍部發表】十一日午後五時二十分 一、帝國陸軍航空部隊は昨日マレー方面上空において激烈なる空中戦を交へ、敵機三十を撃墜破せり、われに損害なし、撃墜せるものブレンハイム(中爆機)六、バッファロー(戦機)五、地上撃破ブレンハイム(中爆機)十九

二、開戦以來マレー方面において帝國陸軍航空部隊が確實に撃墜破せる敵機は八十六機なり。

三、帝國陸軍航空部隊は同方面の地上軍と相呼應し敵地に基地を求めつゝ悪天候を冒して奮闘中なり。

(註) マレー上空においてわが陸軍に撃墜破されたバッファロー機は米國製の新鋭を誇る戦闘機で最高時

速約六百キロ、發動機は空冷式千馬力一基、機關銃は二臺を裝備、ブレンハイム機は英國製の新鋭中型爆撃偵察機で最高時速約五百キロ、發動機は空冷式八百四十馬力二基、機關銃二臺を裝備してゐる、かくて英米の誇る高性能新鋭機もわが空軍の前には全く敵し得ないことが實證された譯である。

【情報局發表】十一日午後一時 本日午前十一時(泰時間)坪上大使、ビブ首相間に日泰攻守同盟締結につき意見の一致をみたりとの報告を受けたり。

【日泰攻守同盟の意義】 開戦直ち ビブ首相との間に日泰攻守同盟締 體化することとなり、陸海軍の赫々たる日泰間に日本軍の泰國內通過に對 結につき十一日午前十一時(日本時)る武勳と共に英米の策動を排して泰する泰國側の便宜供與に關し交渉成 間午後一時)意見の一致を見るに至 國の我が戦線への参加を見ることが立し、日泰間の友好關係が實證され った。日泰友好條約はこれによつて 豫想され、その意義は極めて深いもたが、更に日泰間の友好關係を確固 新事態に即應して強化され日、泰兩 のがある。不動たらしめるため坪上駐泰大使と 國は東亞新秩序の建設に完全に一

【對米英戰共同遂行、單獨不講和及新秩序建設協力に關する日本國、ドイツ國及イタリア國間協定締結に就き情報局發表】十一日午後十一時 獨伊兩國は今般對米參戰に決し本十一日柏林において帝國全權大島大使、獨逸國全權リツベントロツプ外相並に伊國全權アルフイェリ大使の間に對米英戰の共同遂行、單獨不講和及新秩序建設協力を内容とする左の如き日獨伊間協定調印せられたり、アメリカ合衆國及英國に對する共同の戰爭が完遂せらるゝ迄は干戈を收めざるの確乎不動の決意を以て大日本帝國政府、ドイツ國政府及イタリア國政府は左の諸規定を協定せり。

- 第一條 日本國、ドイツ國及イタリア國はアメリカ合衆國及英國に依り強制せられたる戰爭を其の執り得る一切の強力手段を以て勝利に終る迄遂行すべし
- 第二條 日本國、ドイツ國及イタリア國は相互の完全なる了解に依るに非ざればアメリカ合衆國及英國の何れとも休戰又は講和を爲さざるべきことを約す

ルソン島南部に上陸
グアム島完全占領
十六日参照

第三條 日本國、ドイツ國及イタリヤ國は戰爭を勝利をもつて終結したる後に於ても亦千九百四十年九月二十七日其の締結したる三國條約の意義に於ける公正なる新秩序招來のため最も密接に協力すべし
第四條 本協定は署名と同時に實施せらるべく且千九百四十年九月二十七日の三國條約と同一期間有效たるべし締約國は右有効期間の満了前適當なる時期に於て爾後に於ける本協定第三條に規定せられたる協力の態様に付了解を遂ぐべし

十二日(金)◇長くも英東洋艦隊主力殲滅の功を御嘉尚山本聯合艦隊司令長官に勅語を賜ふ◇陸海の新銳ルソン島南部に上陸◇香港攻撃部隊九龍本防禦陣地を突破◇マレー上陸部隊英の機械化一ヶ師を殲滅◇グアム島を完全占領◇對米英戰は支那事變をも含めて大東亞戰と呼稱するに決定。

【大本營海軍部發表】十二日午後七時半 大元帥陛下には、本日海軍幕僚長を召させられ、聯合艦隊司令長官に對し左の勅語を賜はりたり。

勅語

聯合艦隊航空部隊ハ敵英國東洋艦隊主力ヲ南支那海ニ殲滅シ威武ヲ中外ニ宣揚セリ
朕タタ之ヲ嘉ス

【大本營陸海軍部發表】十二日午前六時 帝國陸海軍新銳部隊は本十二日未明緊密なる協同の下にルソン島南部に上陸せり。

これをもつてさきに上陸せる北部進攻部隊と相呼應してフィリッピンの主島たるルソン攻略の挾撃態勢を完成せり。

【大本營海軍部發表】十二日午前十一時三十分 一、比島作戰開始以來現在までに於ける帝國海軍航空部隊の比

日佛印軍本協定

大東亞戰と呼稱

島方面の敵航空兵力に與へたる綜合戰果左の通り

擊墜七十七機(内大型七機) 擊破百二十五機(内大型、中型四十五機) 合計二百二十二機

(一) 比島作戰における作戰開始以來現在までの我方の損害左の通り

(一) 艦艇被害(イ) 輕巡洋艦一隻輕傷す、但任務遂行に差支へなし(ロ) 掃海艇(十一日發表の驅潛艇は本掃海艇につき訂正す) 一隻沈没す、乗員の大部は救助せり(ハ) 掃海艇一隻大破す

(二) 飛行機被害(イ) 自爆せるもの九機(ロ) いまだ歸還せざるもの一機(十一日發表三機中二機は不時着、乗員は無事歸投せり)

(註) 歸投は海軍用語で基地に歸つて來ることをいふ。

【大本營陸軍部發表】十二日午後四時二十五分 帝國陸軍航空部隊は昨十一日マレー半島西岸の要港ベナンを急襲し、港内にありし敵輸送船團に對し果敢なる爆撃を加へ一隻を撃沈、四隻を大破せしめたり、他の一隊は埠頭を襲撃し倉庫および港灣施設を徹底的に爆碎せり。

【大本營陸軍部發表】十二日午後五時五十分 十二月八日午後八時三十分在佛印帝國陸軍最高指揮官と佛印當局との間に本年七月締結せられたる日佛印共同防衛協定に基く日佛印軍事協同に関する軍事協定成立せり。

大東亞戰と呼稱

情報局發表 今次の對米英戰は、支那事變をも含め大東亞戰と呼稱す、大東亞戰と呼稱するは、大東亞新秩序建設を目的とする戰爭なることを意味するものにして、戰爭地域を大東亞のみに限定する意味に非ず。

大東亞十億の民族を壓迫擯取し、その支配を永久化

するため世界史進展の現實を無視した架空的原則論を固執して譲らなかつた米英兩國を打倒し、大東亞の地域に「共存共榮」の理想的新秩序を建設するため、帝國政府は八日堂々米英兩國に對して宣戰を布告した、従つて帝國と米英兩國は國際法上の戰爭状態におかれたわけであるが、對米英戰の呼稱は大東亞新秩序建設に鐵石の決意をもつて邁進する大東亞地域の安定勢力としての帝國の大理想を簡明直截に表現するため「大東亞戰」とすることとなり、十二日の閣議で正式決

定情報局より右のごとく發表された、過去四年有りにわたつて、遂行された支那事變も大東亞新秩序建設のため米英兩國の傀儡化した重慶政權の打倒を目指したものであり、その目的は今回の對米英戦と同一でその本質も異るところなく従つて「大東亞戦争」の下に含められることになつた、「大東亞戦争」の呼稱は今次戦争の目的の上から決定されたもので戦争地域が大東亞にのみ限定されることを毫も意味しない。

戦争の地域は米英兩國が大東亞地域以外にあり、また一日ベルリンで調印された日獨伊三國間新協定の趣旨に鑑みさらにメキシコ、ハイチ、ドミニカ、

十三日(土)◇陸軍ビルマを初空襲、極東英空軍を撃滅、◇比島上陸部隊米軍を撃破しつゝ敵陣深く進入◇布哇海戦の撃滅主力艦三隻と判明。

【大本營陸軍部發表】十三日午前八時三十分 十二月八日以來香港要塞を攻撃中なりし帝國陸軍は近代的裝備をほどこせる半永久築城陣地たるその本防禦線を突破して、昨十二日九龍市街一帯の地區を完全に攻略し引續き香港島に對し攻撃準備中なり。

香港要塞

◇防備施設 香港要塞は九龍半島を縦に走る山系が海に臨んで嶮岨を極める屏風の如き障壁で圍繞され、宛小各種の重砲、その威力は遠近兩戰から東方海岸迄東西二十キロ、縦深六キロの間、大小二百數十のトーチカを築き恰も針鼠の感を呈してゐる、海に面した正面防禦は香港島、ストーンカットアイランドに點在する大中の構造は大部分鐵筋コンクリート、ベトン製の頑強なもので小口径火砲の掩蓋砲座を有し國境附近の各要衝

には監視哨、照空燈の設備がある。計一萬七千の兵力、裝備には特記す

英國はワシントン條約で香港防備

べきものはないが、相當機械化され

那人二百五十名

強化が禁じられたにも拘らずドシ

步兵各中隊には數十臺のトラックと

▽義勇軍 戦時正規軍とし補充要員

ドシ砲臺を築いて固め、九龍正面

五十臺以上の戰車を有し、砲兵は重

約五千、警察隊として相當優良の裝

陣地は昭和七年から同十年までの

砲多く野砲これに次ぐ。

備を有するもの約四千

間に豫算十數億の巨費を投じて金

▽空軍 陸軍機、水上機合計約二十

▽なほ編成裝備は總司令官に總督が

城湯池化したものである。

機

任じ、各部隊の隊長は英人佐官、

◇軍備 正規軍(陸軍兵力) 歩

▽海軍 驅逐艦三隻を主體に砲艦、

印度人出身將校は大尉迄を限度と

兵約七千、砲兵約四大隊野戰重砲、

敷設艦、給油艦、哨戒艇等約五十隻

し、兵隊は印度人を主體として支

野砲、山砲、高射砲合計四千五百位

を有し時速八十キロ以上の快速艇で

那人若干を加へて組成してゐる。

戰車、工兵、通信等の部隊若干で總

灣内(ビクトリア灣)の哨戒警備に

【大本營海軍部發表】十三日午後三時

一、さきに布哇海戦の戦果につき主力艦二隻撃沈せる旨發表せるところその後に至り撃沈せる主力艦は三隻な

ること確實となれり。

二、マレー沖海戦の戦果はさきに發表せる戦艦二隻の外さらに大型驅逐艦一隻を撃沈せること確實なり。

三、帝國海軍〇〇航空部隊は十一日の香港攻撃において左の戦果を収めたり。

魚雷艇一隻撃沈、砲艦一隻、武装商船三隻撃破

四、帝國海軍は十一日艦艇をもつてウエーキ島を砲撃し、残存軍事施設に大なる損害を與へたり、わが方も若

干の被害を蒙りたり。

五、帝國海軍〇〇航空部隊は十二日比島敵航空基地バタンガス、イバ、オロンガボ、クラークフィールドに對

し猛烈なる攻撃を加へたり、戦果左の通り、撃墜八機、地上(水上)銃爆撃破飛行機十一機、陸上機十四機

(註) ハワイ海戦においてさきに發表せし撃沈戦艦はオクラホマ及びウエスト・ヴァージニアの二隻なりし

が、その後に至り撃破の確実となる他の一隻は第一戦艦隊旗艦アリゾナ(三萬二千六百トン)なりと推定せらる、ハワイ海戦において主力艦の撃沈せられしもの三隻なりとは米側において過早く発表せるところなるが、わが海軍においては十分慎重を期し各方面の報告を待つてその實證を確めたる上今回の發表を見るに至りたるものなり。

【大本營陸軍部發表 十三日午後七時】 開戦以來十二月十三日迄の陸軍航空部隊の綜合戦果左のごとし。

- 一、極東英空軍撃破 開戦とともに陸軍航空部隊は英領マレー方面において英空軍に對し果敢なる攻撃を加へその多數を撃滅し開戦三日にして極東英空軍主力を制壓せり。
- 二、地上作戦協力 陸軍航空部隊は南海を壓する大輸送船團の上空を庇掩し英軍偵察機を撃墜してよくその企圖を秘匿すると共に比島およびマレー方面における果敢なる上陸戦團ならびに地上作戦に協力中なり。
- 三、戦果 敵飛行機撃破百二十九機、艦船撃沈輸送船一隻、艦船大破砲艦二隻、輸送船四隻、自動車輸送部隊壊滅約百輛
- 四、我損害は十七機なり。

十四日(日)◇ビルマ進撃部隊、ヴィクトリアポイントおよびヴィクトリア飛行場に突入。

【大本營海軍部發表 十四日午前十一時二十分】

- 一、帝國海軍 航空部隊は十三日比島の敵航空基地ニコラスフィールド、デルカルメン、アバナツアンに對し猛烈なる攻撃を加へたり、戦果左の通り、撃墜一機、地上銃爆撃破四十三機(内大型九機) 本攻撃に於て敵の挑戦し來れるもの僅かに一機のみ尙我方にて未だ歸還せざるもの二機。
- 二、帝國海軍 驅逐艦〇〇は十三日比島〇〇附近に於て敵潜水艦一隻を攻撃撃沈せり。

【大本營陸軍部發表 十四日午後一時】 帝國陸軍航空部隊は昨十三日大舉、馬來及びビルマ方面敵空軍基地を空襲し、敵の熾烈なる防空火力をおかして大爆撃を敢行し、これに多大の損害を與へたり、その状況左の如し

- 一、わが有力なる部隊はそれ〴〵英領馬來西北海岸の要衝ベナン港及びビルマ領ビクトリア飛行場を急襲して敵船團及び敵機に對し猛烈なる攻撃を加へ小型戦闘機四機を炎上し輸送船二隻爆沈同じく一隻を大破せしめたり。
- 二、他の一隊はビルマ領メルギー飛行場を攻撃し、基地附屬設備及び燃料庫を徹底的に爆撃せり、この方面の敵機は皆伏遁走せり。
- 三、また他の一隊は馬來クワンタン飛行場を襲撃して飛行場施設を破砕すると共に大型爆撃機を一機炎上せしめたり。
- 四、この日におけるわが方の損害三機なり

爆撃の概要

ロ、ヌエバ・エシハ州の主都でマニラから發する鐵道の終點、陸軍飛行場同兵舎があり人口四萬七千日本人も十五名位居住してゐた。

クワンタン 英領マレー半島の東岸にある都邑で無電局、燈臺がある、附近は鐵およびマンガンの産地

メルギー ビルマ領メルギーは北緯十二度二十七分の地點にあるビルマ

アバナツアン マニラ北方百二十キ

【大本營陸軍部發表 十四日午後三時四十分】 マレー方面に作戦中の帝國陸軍部隊は、北部英領マレー方面において敵前上陸に引續き、英軍の激烈なる反撃を撃破しつゝ逐次戦果を擴大中にして、すでに堅固なる國境陣地

を突破して深く英領に突入し、一昨十二日〇〇方面において英國軍機械化一個師團を撃滅し、多数の俘虜および多数の兵器を鹵獲せり、その主なるもの左の如し
戦車二十輛、速射砲十六門、自動貨車約六十輛

十五日(月)◇陸海報道部長、本土の海空警戒を要望。

【大本營海軍部發表】十五日午前九時四十五分 開戦劈頭我に降伏せる米軍艦ウエーキは帝國海軍艦籍に編入せられ軍艦多多良と命名せられたり。

大本營海軍報道部長談 開戦劈頭上 國海軍艦籍に編入せられました、艦 結は天佑と相俟つて遂に元軍を殲滅海黄浦江上において我に降伏した米 名多多良は弘安四年夏七月元軍十餘 艦、當時の大國難を見事に克服した軍艦ウエーキは本十二月十五日附 萬の襲來に對し、鎮西の寡兵これを 歴史的戦勝の地名に因むものであり艦名を多多良と命名、砲艦として帝 邀撃御稜威の下、全國民の殉國的團 ます

【大本營陸軍部發表】十五日午後一時五分 帝國陸軍部隊は各方面において頑強なる敵の抵抗を撃碎しつゝ果敢なる進撃を續行しつゝあり、一昨十三日における戦況の概要左の如し

- 一、比島方面 ルソン島に上陸せる各部隊は隨所に米軍を撃破して追撃を續行し戦況順調に進捗しつゝあり、當方面陸軍航空部隊は熾烈なる防空砲火を冒して大學中部ルソン重要飛行場を襲撃し小型戦闘機一機撃墜、大型爆撃機二機炎上、その他爆撃機および戦闘機四十機を爆破するとともに格納庫、貯油庫を反復爆撃し大火災を生ぜしめたり、また他の一隊はバギオ敵軍司令部およびタルラク兵營を急襲しこれを破壊炎上せしめたり、なほアパリに來襲し來れるビー四十型戦闘機一機を撃墜せり、わが方全機無事歸還せり。
- 二、マレー方面 マレー國境陣地を突破し英領マレーに深く突入せるわが軍は、果敢なる進撃をつゞけ、一昨十三日午後三時三十分マレー西岸の要衝〇〇を完全に攻略せり。

【大本營陸海軍報道部長談】十五日午後十時三十分 又た潜水艦に對しては、敵潜水艦日本近海附近到ると十二月八日宣戦布告以來、帝國陸海軍は敵のとるべき ころに伏在し得る特性に鑑み全國民はこれが警戒の要公算大なりと認められる通商破壊戦に對し積極的作戰 あり、今次戦争においては敵航空機潜水艦による長期を敢行するとともに敵航空機並に敵潜水艦に對し警戒 間にわたるゲリラ戦を覺悟せざるべからず、すでに敵を敢にし百方手段を盡しこれが殲滅に全力を傾倒する 潜水艦は日本近海に出没しある形跡を認められるをもと共に、國土防衛の完璧を期しつゝあり、敵航空機に っつて開戦劈頭の戦勝に酔ふことなく堅確なる決意をも對してはその特異性による奇襲に對し警戒の要あり、 っつて聖戰完遂に邁進せんことを特に希望す。

十六日(火)◇天皇陛下帝國議會開院式に行幸、勅語を賜ふ◇陸海の精銳突風を衝いて英領ボルネオに敵前上陸◇海軍艦艇ジョンストン島を砲撃。

勅語

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク
東亞ノ安定ヲ確立シ世界ノ平和ニ寄與セムトスルハ朕ノ軫念極メテ切ナル所ナリ然ルニ米英兩國ハ帝國ノ所信ニ反シ敢ヘテ東亞ノ禍亂ヲ激成シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ執ツテ起ツノ已ムヲ得サルニ至ラシム朕深ク是ヲ懼トス此ノ秋ニ當リ帝國ト意圖ヲ同シクスル友邦トノ締盟愈々緊密ヲ加フルハ朕ノ甚タ憚ル所ナリ今ヤ朕カ陸海軍人ハ力戰健闘隨處正ニ其ノ忠勇ヲ奮ヘリ
朕ハ帝國臣民カ必勝ノ信念ヲ堅持シ學國一體協心戮力速ニ交戦ノ目的ヲ達成シ以テ國威ヲ宇内ニ震耀セムコトヲ望ム

朕ハ國務大臣ニ命シテ特ニ時局ニ關シ緊急ナル豫算案及法律案ヲ帝國議會ニ提出セシム卿等克ク朕カ意體シ和衷兼議以テ協贊ノ任ヲ竭サムコトヲ期セヨ

兩院の皇軍感謝決議

貴族院 帝國が米英兩國と戦端を開くや我が陸海軍は緊密なる連絡を保ち神速果敢敵軍を急襲してその艦隊の精銳と航空兵力の大半とを撃滅し到る處其の要衝を占據す忠勇壯烈善戰善謀洵に景仰に任ふるなし貴族院は茲に帝國陸海軍の偉功を頌し倍々その威力を發揚し以て大東亞戦争の目的達成を速にせむことを望む尙ほ今次作戦における名譽ある戦役將兵諸士に對し深甚なる哀悼の意を表す

衆議院

米英兩國に對する宣戰の大詔一たび下るや忠烈無比の陸海軍將兵諸士は巨艦を蹴り大空を翔け堅轟を襲ひ敵主力艦隊を殲滅し敵空軍を粉碎し或は敵の重鎮要衝を攻略し霆馳電撃未だ一句を出でざるに有

史以來空前の偉勳を奏して赫々たる戦果を收め國威を中外に顯揚す是れ固より御稜威の然らしむる所にして將兵諸士の徇忠報國の武勳によらずんばあらず全國民感謝感激せざるなし
今や皇國の隆替東亞の興廢繫つて此の一戦に在り我が國民たるもの建國二千六百年の光輝ある歴史と祖先の遺蹟とに鑑み敵の富強を怖れず劣弱を慢らず億兆一心鐵丸となり能く長期の艱苦に耐へ東亞永遠の平和を確立し以て大東亞戦争の目的を貫徹せずんば已まず今後皇軍將兵諸士の責務は愈々重く其の勞勩益々多かるべし
衆議院は特に院議を以て陸海軍將兵諸士の偉功を感謝し其の勇健を祈り併せて忠肝義膽鬼神を哭かしむる殉國の英靈に對し深甚なる敬弔の忱を表す右決議す

◇十六日の臨時議會において木村陸軍次官、島田海相は開戦以來の輝く戦況を發表満場を感激せしめた。

木村陸軍次官報告

木村次官
議會報告

去る十二月八日畏くも宣戰の大詔を漢發あらせられて、帝國の橋ふべき所を昭に宣示あそばされ、剩へ我我軍人に對して、重ねて優渥なる勅語を賜りましたことは、洵に恐懼感

激に堪へませぬ。
今次の作戦は廣大なる西太平洋上において行はれるものであるが故に戦勝獲得のためには、開戦劈頭まづ制海權をわが方に掌握致すことが肝要である、幸ひにして帝國海軍の斷乎たる奇襲戰作克く功を奏し、ため

にわが陸海協同の上陸作戦ならびに爾後の作戦行動は著るしく容易となつた、この點海軍に對して深甚なる謝意を表する次第である、爾來陸軍は陸海水も洩らさぬ緊密なる連繫の下に常に敵の機先を制し隨所に奇襲上陸を敢行し着々戦果を擴大しつゝ

あるのであつて、以下その概要を申述べる。

一、馬來半島方面 英國は久しきに亘り政戰兩略を併用して泰國を強壓し、これをして反日戦線に導入すべく、執拗なる策動を續けつゝあつたが、遂に七日の夜間に乘じマレー國境を突破し泰國南部に侵入し來つた、茲において我陸軍は海軍と協同し八日未明マレー半島の要衝に上陸を敢行した。

この時英領マレー東北部に突進せる部隊は、堅固なる海陸の備へを頼る頑強なる敵と激戦を交へしはしば危険に瀕したが勇戦奮闘遂にその上陸に成功し、損害をもつとせせず引續き敵の重要飛行根據地に殺到し、これを占領、以て全般の上陸作戦を容易ならしめ軍旗の下英領マレー一番乗りの偉功を立てた。

爾余の上陸諸部隊も直ちに南進を開始し南洋特有の錯雜せる地形に據つて頑強に抵抗せる敵を撃破前進

しつゝある、十二日にいたりマレー英領に突入せる一部隊は約一個師團の敵機械化部隊と遭遇、激戦の後これをほとんど潰滅し、敵戦車二〇、連射砲一六門、自動貨車約六〇輛を鹵獲するの外、多數の俘虜を獲得した、又陸軍の飛行部隊は地土部隊と相呼應し、捨身の戦法を以て、敵彈下不完全なる飛行場に強行着陸を行ひ、上陸行動の直接掩護、敵航空基地の爆碎等活躍目覺しく、十四日までの間においてすでに一三三の敵機を撃墜、若くは大破せしめ、マレー英空軍の主力を制壓しベナン港等においては敵輸送船三隻を爆沈、砲艦二隻、輸送船五隻を大破し、さらに地上部隊の戦闘に協力して敵自動貨車一〇〇輛を爆破した。

據點として多大の歲月と莫大なる資材等を投じて構築せる所謂難攻不落の近代の築城であるから、これが略取までには尙相當の日時と困難とを伴ふものと豫想する。

二、泰方面 泰との間においては、八日早朝日本軍の泰國通過並に便宜供與に關する交渉成立せるを以てシヤム灣頭に待機せる部隊は、直に歩武堂々上陸を開始し、又西部佛印國境に在りし部隊は長蛇のごときトラツク縱隊をもつて、沿道タイ國民の歡呼に應へつゝ九日には早くもタイ國首府バンコック附近に進駐を了つた、これを契機として日タイ間の關係は急速に緊密化し、十一日にいたり日タイ攻守同盟締結の意見の一致を見るに至り、泰國が米英の策動を退けて我が戦線に参加し、新東亞建設に協力邁進することとなつたことは、さきに締結を見たる日佛印軍事協定と共に我が西太平洋における戰略的地位を著るしく強化するものであり洵に御同慶の至りに存する。

シヤム灣頭は英國東洋制覇の

三、比島・グアム方面　フィリッピン方面では開戦と共に陸海の航空部隊相協力し、専ら敵航空勢力の撃滅に重点を指向し概ねその目的を達するに至り、陸軍部隊は機を失せず海軍と協力して、十日未明ルソン島北部に上陸作戦を敢行した、かねて米國が防備完成を呼號してをり、また我が上陸は開戦第三日にしてすでに敵には豫知せられありしはずなるに拘らず我軍が無血上陸に成功致したことは寧ろ意外とするところである、米國が東亜の據點と恃む比島に日軍旗を誦したる我が軍は、士氣いよ／＼旺盛をもつがせずマニラ方面に向ひ戦果を擴張中である。超へて十二月未明に至りルソン島南部の奇襲上陸に成功北部より南進中の部隊と相呼應しルソン島の完全攻略を目指して隨所に敵の抵抗を打破しつゝ、活潑なる挟撃作戦を展開中である、また比島方面における敵航空勢力は陸海軍航空部隊の頻繁なる猛攻を蒙り、その

主力は殆んど潰滅に瀕し辛うじて餘喘を保ちある状況である。一方グアム占領に赴きたる部隊は海軍の適切な協力により、巧に敵潜水艦および飛行機を回避しつゝグアム島に接近、十日未明激浪を意とせず敵の抵抗を排除してその上陸に成功し、忽ちにして島内の掃蕩に移り、總督以下約三五〇名の俘虜を獲得すると共に多數の鹵獲品を押し收した。

重慶の残存軍に對し、益々武力的壓迫を加へ、機會ある毎に鐵槌的打撃を與へてその蠢動を完全に封殺すると共に、國民政府の清鄉工作を授けて、その治安圏の擴大を圖りつゝある。

しかし國民政府は大東亞戰爭の世界的意義に心から共鳴し軍官民の一切を擧げて米英打倒の共同目的に邁進すべきことを宣言した、洵に欣快とする所である。對米英戦が始まるや抗日の集窟を剔抉して治安攪亂の痛を除く爲、入日朝を期して一齊に敵性租界に對する進駐を斷行し、天津、北京、秦皇島、上海及び沙面、各租界に残存する敵國軍隊の武装を解除し、敵性金融機關および財産等、各種權益の接收を行つたが、各所とも順調に進捗し、民心も至極平靜である。開港炭礦のごときもまた平常のごとく操業を續けつゝある、又敵性國民は帝國の武士道的處遇に對し心から感謝の意を表し

喜んで我が官憲の指導に服従しつゝある。

又香港方面においては八日未明機を失せず、敵の飛行場港灣施設に果敢なる空中攻撃を加ふると共に、地上よりも一齊に攻撃を開始し、十日夜敵主要陣地中もつとも重要な部分を奪取するにおよんで敵は總崩れとなり、十二日未明には早くも九龍半島一帯を略取するに至り、今や米英勢力は支那大陸より完全に驅逐せられたのである、爾後、わが軍は百數十萬の無辜の民を苦しめるに忍びず香港總督に對し開城を勸告したのであるが、これを拒否して參つたのでやむなく香港島に對し空陸一體の猛攻撃を加へつゝある。

五、滿洲方面　滿洲國は帝國の對米英戦開始に伴ひ、愈々日滿共同防衛の本義を顯現し、いかなる事態が惹起致さうとも、北方の守りを安固たらしむるのみならず、その全國力を擧げて帝國の戰爭遂行に貢獻せんとするの確乎不動の態

勢を整へてをり、洵に心強き限りである、又滿ソ國境においては、最近紛爭事故は皆無に近い状態であり、極めて靜謐を保つてをる。

以上をもつて戦況の概要を申述べたが、戦局の發展に伴ひ、今後一層華々しき戦果を得らるゝことと存ずる、國家千年の運命を決する大東亞戰爭の緒戦に當り敢行せる上陸作戦がことごとく成功し赫々たる戦果を收め得たるゆゑのものは、固より御後威の然らしむるところであるが、またもつて陸軍將兵の言語に絶する勇戦敢闘と帝國海軍の献身的協同の賜であると存ずる、しかれども敵は世界に富強を誇る米英兩國であり、作戦は萬里の波瀾を乗り越えて行ふものであり、かつまた戦場は酷熱癘癘の錯雜地であるから、所期の目的を達成するまでは、前途尙幾多の困難と障碍あるを豫測せねばならぬ、我等將兵一同はいよ／＼鐵石の團結を鞏くし、一意米英軍の殲滅に向ひ突進し、決死殉國、最後勝

利を獲得し、もつて光輝ある二千六百年の歴史をして彌が上にも光彩あらしめんことを期する次第である。何卒國民各位におかれては軍に全幅の信頼を寄せられ、いかなる事態に遭ふも屈せず、戦争長期に亘るも撓まざる必勝の信念を堅持し、自己の職分に精勵し億兆一心國家總力の發揚に努め、以て征戰の完遂に向ひ勇躍邁進あらんことを切に期待して已まぬ、終りに臨み開戦以來陸軍に寄せられた慰問激勵ならびに多額の國防献金、恤兵金に對しては洵に感謝のほかなく、この席で銃後國民各位に對し深甚の謝意を表する。

嶋田海相報告

申すまでもなくこのたびの戦争こそは洵に帝國有史以來の重大事であつて、帝國海軍は豫てより今日あるに備へ、ひたすら待むべき實力の充實鍊成に萬全を期して參つた次第であるが、爰に長き御詔勅を拜し、將

兵一同は眞に皇國興廢の重責を感じ全軍、唯、一死國に報ずるの決意をもつて人智人力の限りを盡さんとする熱意に燃えて居るのである。

◇布哇諸島強襲 先づ布哇方面の作戦であるが御承知の如く布哇は完備せる前進根據地として米國太平洋艦隊がこれに據り、もつて攻防至らざるなき備へを有して居つたのである。我艦隊は航空部隊及び潜水艦部隊を中心とする有力なる部隊をもつて開戦翌日即ち十二月八日の日の出後一時半頃より白晝決死の強襲を行つたのである。

幸にして米國太平洋艦隊の主力たる戦艦八隻その他有力なる部隊が眞珠港内に在泊して居つたので、これらに對し連續勇猛果敢なる爆撃及び雷撃を加へウエストゲアジーニア、オクラホマ並びにアリゾナと推定せられるもの合せて三隻の戦艦を撃沈しまた戦艦四隻および巡洋艦四隻を大破せしめたるほか極めて多數の飛行機を撃墜撃破

し、陸上軍事施設に對しても大きな損害を與へたのである、更に同艦隊は、その戦闘力を喪失した次第である。

◇太平洋上の諸島 次に米國の飛行機、潜水艦等の中間基地としてハワイとともに重きをなしてをたみツドウエーに對し同日水上艦艇をもつてする攻撃を加へ、またウエーキおよびグアムに對し航空部隊をもつてする爆撃を加へいづれも陸上諸施設に致命的な大損害を與へるとともにウエーキにおいては飛行機十機を撃破し、またグアムにおいては敵の掃海艇一隻を撃沈してゐる、これらの作戦によりハワイより東亞に至る戦路並に交通上の要地は一舉にしてその機能を破壊せられたがグアム島に對しては十日朝、陸海軍部隊の上陸作戦を實施し、十二日これを占領し、なほ油槽船一隻を捕獲した、ま

たこの間、パナオ附近において爆雷攻撃により敵潜水艦一隻を沈没せしめたこともほゞ確實である。

◇マレー半島上陸 以上の作戦と時を同うして、西南太平洋諸地域に對しても陸海軍の緊密周到なる協同の下に、大規模なる上陸作戦並に航空作戦を實施して何れも大なる成功を収めたのであるが、まづマレー半島方面においては有力なる海軍部隊をもつて陸軍大部隊の輸送船團を護衛し、八日未明遂にマレー半島へ損害なき上陸に成功し、同時に海軍航空部隊は開戦翌日大舉してシンガポール方面の飛行場および軍事施設に對し果敢なる夜間爆撃を加へ、機先を制して敵兵力の本據に甚大な損害を與へるとともに敵を極度の混亂に陥れ、爾後相次ぐ猛爆と併せて目下着々この方面の戦果を擴大しつつある。

◇比島各要地爆撃 比島方面に對しても同じく開戦翌日航空部隊の極めて大規模なる空襲を執行してイバ

およびクラークフィールド等の米國陸軍航空部隊を攻撃し、一舉にして敵機約百機を撃破し、また南方ダバオにおいても軍事施設を爆撃して敵を大混亂に陥れたのである、爾後我軍はマニラおよびカビテ軍港をはじめ各要地に對し爆撃を反覆し、海上兵力また勇敢に活躍して十日早朝にはルソン島北部に、十二日早朝には同じく南部にそれぞれ陸軍部隊の護送揚陸に成功し、目下迅速に戦果を擴張中である。

この間比島方面において海軍の擧げたる戦果中には潜水艦一隻及び大型商船一隻の撃沈、並に中型商船一隻拿捕等のほか飛行機二八八機を撃墜または撃破し、開戦當時比島にあつた敵空軍の大部を既に撃滅したのである。

◇香港上海の戦果 支那大陸方面においては陸海軍協力して八日未明香港作戦を開始し海軍部隊は十日朝香港東口に肉薄して敵哨戒艦一隻を撃沈し、さらに十二日には爆撃によ

つて魚雷艇一隻をも撃沈し、その他砲艦、武装商船等に相當の被害を與へてゐる。

上海方面においては八日未明在泊中の米英砲艦各一隻に對し降伏を迫つたが英國砲艦はこれを拒否したので直に撃沈し、米國砲艦は降伏致したのでこれを捕獲し昨十五日附をもつて多多良と命名、これを帝國軍艦の艦籍に、編入されたのである。

◇英の主力艦撃沈 以上の如く帝國海軍は開戦初頭に大なる戦果を擧げ作戦全局を甚だ有利に導いたのであるが、更に開戦第三日の十二月十日英國東洋艦隊の主力たる海軍少将パルス・オブ・ウエールズ及び戦艦レパルスの二艦を大型驅逐艦一隻とともにマレー東方海面において撃沈し

て戦勢をさらに有利ならしめた、これら戦艦二隻は英國が在東亞兵力強化のため最近特にシンガポール方面に増派したものであつて、英國としては深くその威力に期待するところ

があつたものと思はれる。十二月九日午後哨戒中のわが潜水艦が、これら敵主力の出勤を發見報告したので、同方面作戦中のわが艦隊は決戦を企圖し、急速これに向つたのである、しかし敵が反轉して仕舞つたので、距離の関係上遂にこの艦隊決戦の機會を得られなかつたのであるが、我航空部隊と潜水艦部隊との緊密なる協同搜索の結果翌十日午前再び我潜水艦が敵の行動所在を確認したので航空部隊また機を逸せず直ちにこれに攻撃を加へ、一舉にして撃滅したのである。

◇開戦以來の戦果 以上は今日までの主要なる戦闘の概要であるがその他の方面に對しても、我海軍は極めて廣大なる規模において周到なる作戦を實施してをるのであつて既に公表せられたるものゝほか幾多の精銳部隊が内外各方面、各々その配備において最善を盡してゐることは申すまでもないところである、開戦以

来今日までに判明した戦果を累計すると、米國側に對しては撃沈せるもの戦艦三隻、潜水艦一隻、掃海艇一隻及び大型軍用船一隻であつてこのほかに航空母艦一隻をも撃沈したものの如くである。

大破せしめたものは戦艦四隻、巡洋艦約四隻、驅逐艦、潜水艦および特務艦各一隻となり、ほかに砲艦一隻を捕獲してゐる。飛行機においては比島およびウエーキ方面において撃墜撃破したもの合計二十九機、ハワイ空襲において與へたる損害は少くとも二〇〇機以上におよぶものと推定してゐる。

また英國側に對しては撃沈せるもの戦艦二隻、大型驅逐艦、哨戒艇、砲艦、魚雷艇及び武装商船一隻であつて、飛行機はマレー方面において合計一一機の撃墜撃破を確認したるほかシンガポール飛行場夜間急襲による損害は相當多數に上るものと考えらる。

その他今日までに拿捕したる商船は各國籍を合せて四七隻約一二萬トン、その他の舟艇三八〇隻に達してゐる、これに對して我方の損害は掃海艇一隻沈没、一隻大破、輕巡洋艦一隻に輕微なる被害があつたのみで、飛行機の損失四〇機、いまだ歸還せざるもの三機に過ぎぬ。

◇長期戦の覺悟要望 かくして開戦劈頭短時日の間に米國太平洋艦隊主力の大部ならびに英國東洋艦隊の主力を撃破し、またハワイおよび東洋にある敵航空兵力に大打撃を與へ、かつ兩國の西太平洋における主要地點ならびに軍事上の本據に對する上陸強襲に成功する等、極めて大なる戦果を挙げ、克く帝國の威武を中外に發揚し得たことは偏に御稜威の賜であつて、誠に感激に堪へないところであるとともに、忠勇なる將兵の善謀奮戰眞に異常なるものありしによることは申すまでもないが、同時にまた過去において諸先輩が多

年をわたり粒々辛苦の業績とその遺されたる光輝ある傳統に由来するものと存じ、この點深く感銘致して居るところである。戦局は今後ますます發展し、かつ長期にわたることと思はれる。したがつてその間幾多の困難をみるべし、ことあるべきはもちろんであるが、海軍としては終始必勝の信念をもつて今日の戦果を將來に完らしもつて上、大元帥陛下の大御心に應へ奉り下全國民の信頼に副はんことを固く期して居る次第である、希くば國民諸君におかれても、一億一心、益々長期不拔の構へを固められるとともに、作戰に呼應する國家總力の建設に萬全を盡され、相携へて戰爭目的の達成に遺憾なきを期したいと存するのである、最後に、國民諸君が豫てより、また特に今日の開戦以來海軍全般に對し與へられたる熱誠溢るる御後援に對し私はこゝに海軍全將兵を代表致して衷心より深厚なる感謝の意を表する。

【大本營陸海軍部發表】十六日午前十一時五分）帝國陸海軍はグラム島の掃蕩を完了し十二日完全にこれを占領せり。

(註) グラム島は大規模の防禦施設實施の途中我軍の攻撃を受けたるものなるが右施設は明年二月末頃までに完成を企圖せるものゝ如く完成後はこれが攻略に大なる困難を伴ふものと判断せられありたるものなり。

【大本營陸海軍部發表】十六日午後二時）帝國陸海軍新銳部隊は緊密なる協同のもとに本十六日未明風速二十メートルの烈風を衝いて英領ボルネオの敵前上陸に成功せり。

【大本營海軍部發表】十六日午後三時十五分）一、帝國海軍〇〇航空部隊は昨十五日比島ニコラスフィールドにおいて敵小型機三機を爆撃炎上せしめたり、その他比島敵主要航空基地を攻撃せるも敵影を認めず。

二、帝國海軍潜水艦は〇〇方面において十日及び十四日それ〴〵大型敵國船各一隻を撃沈せり。

【大本營陸軍部發表】十六日午後六時二十分）帝國陸軍航空部隊は昨十五日大舉各方面に出動して大爆撃を敢行し、敵に甚大なる損害を與へたり、その状況左のごとし。
一、比島方面 大編隊をもつてデルカルメンおよびその他の飛行場を急襲し、戦闘機四機炎上、爆撃機二機、戦闘機十四機共に大破せしめたり、また他の一隊はタルラック兵營を爆撃、これを炎上せしめたり、わが方全機無事歸還せり。

二、馬來方面 朝來の悪天候を冒し全力をもつてベナン方面アエルタワル及びイボー飛行場を空襲し挑戦し來れる敵戦闘機ブレンハイム機數機と空中戦を交へ、一機撃墜すると共に地上にありし同型機七機を爆撃せり、同時に燃料庫および附屬設備を爆撃炎上せしむ、わが方一機未だ歸還せず。

十七日(水) ◇香港包圍の海軍部隊砲艦等十一隻を撃沈 ◇陸軍大編隊ベナン港を急襲。

【大本營海軍部發表】十七日午後三時二十分）帝國海軍は帝國陸軍の香港攻撃に緊密に協力しつゝ海空より猛烈

なる攻撃を續行中なり、十七日までを得たる戦果概ね次の如し、砲艦一隻、魚雷艇六隻を撃沈し、驅逐艦一隻、砲艦二隻および敵船一隻大破せしめたる他、艦星嶺砲臺その他敵重要軍事施設に對し大なる損害を與へたり。

【大本營海軍部發表】十七日午後三時三十分 帝國海軍艦隊は十一日米基地ペーカー島、十六日米基地ジョンストン島を攻撃し敵重要軍事施設の大部を破壊せり。

十八日(木)◇布哇海戦の全貌、大戦果及び特別攻撃隊の奇襲發表。

【大本營陸軍部發表】十八日午後三時 帝國陸軍部隊は各分面に兵力を増強し海軍と緊密なる協同を保持し隨所に敵の抵抗を破砕しつゝ進撃を續行し戦況順調に進展しつゝあり、昨十七日までにおける戦況の概要左の如し
一、香港方面 十二日要塞防禦線を攻略せる我が部隊は空陸一體の妙を發揮しつゝ香港島に對し攻撃を續行中なり。

二、比島方面 (一)北部ルソン島に上陸せるわが部隊は十二日アバリ南方の要衝○○飛行場を攻略したる後引續き南方に向ひ戦果を擴大中なり、西岸ガイガン方面の戦況も順調に進捗しつゝあり (二)南部ルソン島に上陸せる我部隊は十三日レガスピ北方一帯の要地を攻略したる後、敵を逐次北方に壓迫しつゝ前進を續行中なり (三)當地方陸軍航空部隊は地上部隊の戰闘に協力するとともに主力を以てマニラ周辺の敵主要飛行場を連續攻撃し偉大なる戦果をあげつゝあり(戦果既報の如し)この方面敵機の主力はすでに潰滅せるもの如くまれに一部残存兵力の蠢動をみるのみ。

三、馬來方面 (一)八日未明泰領馬來海岸に上陸進駐せる部隊は泰國に不法侵入せる英軍を撃退しつゝ進撃を續け、十四日にはその一部はクラ地峡西岸の要衝ビルマ領内グイクトリヤ飛行場を攻略しクラ地峡を完全に制せり (二)シンゴラ、コタバル附近に上陸せる部隊は國境陸地突破後、熱帯特有の瘴癘とジャングル地帯を克服しつゝ隨所に英軍機械化部隊を撃滅して進撃を續け戦況極めて有利に進捗しつゝあり、當地方面陸軍

布哇海戦
戦果發表

航空部隊は悪天候を冒してビルマ、英領馬來各方面の敵空軍基地を急襲して航空撃滅戦を敢行し多大の戦果をあげつゝあり。
四、グアム島攻略 英領ボルネオ上陸、ならびに在支敵性權益處理等に關して既報のごとくすべて豫定のごとく進捗しつゝあり。

【大本營海軍部發表】十八日午後三時 一、布哇海戦の戦果に關しては確報接受の都度發表しありたるところ攻撃實施部隊の目撃並に攻撃後の寫眞偵察等に依り右の通の綜合戦果をあげ米太平洋艦隊並に布哇方面航空兵力を全滅せしめたること判明せり。

- (一)撃沈 戦艦五隻(カリフォルニヤ型一隻、メリーランド型一隻、アリゾナ型一隻、ユタ型一隻、艦型不詳一隻) 甲巡又は乙巡二隻、給油船一隻、
 - (二)大破 (修理不能又は極めて困難なるもの) 戦艦三隻(カリフォルニヤ型一隻、メリーランド型一隻、ネバタ型一隻) 輕巡二隻、驅逐艦二隻
 - (三)中破 (修理可能と認むるもの) 戦艦一隻(ネバタ型) 乙巡四隻
 - (四)敵陸海軍航空兵力に與へた損害 銃爆撃により炎上せしめたるもの約四五〇機、撃墜せるもの一四機、右の他撃破せるもの多数、格納庫十六棟を炎上せしめ二棟を破壊す。
- 二、同海戦に於て特殊潜航艇を以て編成せる我が特別攻撃隊は警戒嚴重を極むる眞珠港内に決死突入をし、味方航空部隊の猛攻と同時に敵主力を弱襲或は單獨夜襲を執行し少くとも前記戦艦アリゾナ型一隻を撃沈したる外大なる戦果を挙げ敵艦隊を震駭せり。

特別攻撃
隊

- 三、我が方の損害 飛行機二十九機、未だ歸還せざる特殊潜航艇五隻
- 四、八日撃沈せるも確實ならずと發表したる敵航空母艦は沈没を免れ○○港内に蟄伏中なること判明せり。

【大本營海軍部發表】十八日午後四時 一、帝國海軍は十六日○○方面に於て、十七日○○方面に於て敵潜水艦

三隻を撃沈せり。

二、帝國海軍は十六日〇〇方面の作戦に於て驅逐艦一隻を失ひたり。

【大本營陸軍部發表表 十八日午後九時】 帝國陸軍航空部隊は昨十七日大編隊をもつてベナン港を急襲し大型輸送船一隻および小型輸送船數隻を撃沈するとともに埠頭および港灣施設を爆砕せり、またわが戦闘機三機は果敢にも敵中深く突進してイツボ飛行場を襲撃し、挑戦し來れるパツファロー戦闘機と激烈なる空中戦を交へ、二機を撃墜、他の四機を逃走せしめるとともに地上に在りしパツファロー七機に銃撃を加へこれを炎上せしめたり。

十九日(金) 陸軍部隊、海軍と協同、香港敵前上陸に成功 〇マレー進撃部隊ベナン島攻略。

香港島へ敵前上陸

【大本營陸軍部發表表 十九日午前六時五十五分】 一、帝國陸軍部隊は海軍部隊の緊密なる協同の下に敵の頑強なる抵抗を粉碎し、昨夜半敵の猛射を冒して香港島要塞の上陸作戦に成功し、目下清々戦果擴張中なり、將兵の志氣極めて旺盛、意氣天を衝く。

二、帝國現地陸海軍最高指揮官は壁國の武士道精神に基き香港總督に對し、曩に二回に及びてその降伏を懇願したるも頑迷之を拒絶したるを以て、已むを得ず斷乎鐵錘的打撃を加ふるに決したるものなり。

【大本營陸軍部發表表 十九日午後九時十五分】 比島方面帝國陸軍航空部隊は昨十八日たゆまざる努力をもつて、マニラ周辺のキャンブ・マーフイ、ニコラスフィールド、サブラン各飛行場を連撃し、大型爆撃機八機を炎上戦闘機六機を撃墜破し敵殘存空軍に對し一大痛撃を與へたり。

サブランはルソン島マウテン州の都 あるいはまたキャンブ・マーフイはマニラ屯地で多數の兵舎がある。市バギオから西方少し離れた小邑で、ラ近郊の小村で米國比島軍部隊の駐

二十日(土) 陸軍部隊、比島ミンダナオ島に上陸、ダバオ市を完全占領。

ダバオ完全占領

【大本營海軍部發表表 二十日午後零時三十分】 一、帝國海軍〇〇航空部隊は比島において十八日敵航空基地イロイロを攻撃し敵大型飛行機二機を地上撃破炎上せしめたる外格納庫、軍用倉庫、油槽等を爆碎炎上せしめ、さらに十九日敵航空基地デルモンデを戦闘機四機をもつて急襲し敵大型飛行機六機を撃墜同五機を地上銃撃炎上せしめたり。

二、帝國海軍〇〇航空部隊は南支那海において十八日遭遇せる敵飛行艇一機を撃墜、敵船一隻を爆撃大破せり。

三、帝國軍艦〇〇搭載水上機は十七日〇〇洋上において敵爆撃機一機および飛行艇一機を撃墜せり。

デルモンデはマニラ北方十キロの地點にある敵空軍基地である。

【大本營陸軍部發表表 二十日午後十一時五十分】 マレー西海岸方面の我軍は昨十九日夕ベナン島を攻略、南方に向ひ引續き進撃中なり。

【大本營陸軍部發表表 午後五時三十分】 帝國陸海軍部隊は陸海軍緊密なる協同の下に二十日未明敵の抵抗を排除し新たにミンダナオ島に上陸し、戦況有利に進展中なり。

二十一日(日) 日泰同盟條約調印、泰國も大東亞戰完遂に協力。

日泰同盟條約調印

【情報局發表表 二十一日午後二時半】 日タイ同盟條約締結に關しては去る十一日、わが坪上大使とビブンタイ國首相との間に原則的意見一致をみたるころ、その後條約案文の作成につき交渉をすゝめ妥結に到達したるをもつて所要の手續を履みたる上本二十一日午前十時(日本時間正午)バンコックにおいて坪上大使とビブン首相兼外相との間に日本國タイ國間同盟條約の署名調印をみたり、右條約の内容次のごとし
大日本帝國政府及「タイ」王國政府は東亞における新秩序の建設が東亞與國の唯一の方途にして且世界平和の回復及増進の絕對要件たることを確信し之が障礙と爲れる一切の禍根を芟除根絶するの確乎不動の決意を以て左の通り協定せり

第一條 日本國及「タイ」國は相互の獨立及主權の尊重の基礎に於て兩國間に同盟を設定す

第二條 日本國又は「タイ」國と一又は二以上の第三國との間に武力紛争發生するときは「タイ」國又は日本國は直に其の同盟國として他方の國に加擔し有らゆる政治的、經濟的及軍事的方法に依り之を支援すべし

第三條 第二條の實施細目は日本國及「タイ」國の權限ある官憲間に協議決定せらるべし

第四條 日本國及「タイ」國は共同して遂行せらるる戰爭の場合に於ては相互の完全なる了解に依るに非ざれば休戰又は講和を爲さざるべきことを約す

第五條 本條約は署名と同時に實施せられるべくかつ十年間有效とす締約國は右期間満了前適當なる時期において本條約の更新に關し協議すべし

【大本營海軍部發表】二十一日午前十一時四十分】帝國海軍部隊は我陸軍部隊と緊密なる聯繫を保ちつゝ、香港島諸砲臺並に同港の敵艦艇を攻撃すると共に、香港島周邊の全海面を制壓中なり

【大本營海軍部發表】二十一日午後四時】帝國海軍は開戦以來本二十一日までに、敵潜水艦九隻を撃沈せり、その他攻撃せるも撃沈せるや否や明確ならざるもの多數あり、尙昨二十日帝國驅逐艦は同艦の撃沈せる敵潜水艦の乗員三十二名（内士官五名）を捕虜とせり。

二十二日（日） ◇陸軍新銳ルソン島新方面に上陸◇海軍陸戰隊ウエーキ島を完全占領。

【大本營陸軍部發表】二十二日午後三時十分】帝國陸軍大部隊は、本二十二日未明以來強力なる我海軍掩護のもとに、さきにルソン島南北に上陸進撃中の部隊に策應し、ルソン島新方面に續々上陸中なり。

二十三日（火） ◇陸軍ラングーンを襲撃敵四十機を撃墜破。

【大本營陸軍部發表】二十三日午後五時五十分】二十日未明ミンダナオ島に上陸せる帝國陸軍部隊はわが海軍

ウエーキ島占領
（一月二十四日參照）

と緊密なる協同のもとに靱強なる敵の抵抗を粉碎し同日午後五時首邑ダバオを完全に占領せり、二十一日までに敵に與へたる損害は、俘虜約六百、遺棄死體約二百なり。

二十四日（木） ◇ルソン島攻略後續部隊東部沿岸にも上陸開始◇ボルネオの英軍を掃蕩。

【大本營陸軍部發表】二十四日午前十一時】一、帝國海軍は激浪烈風を冒して二十二日夜半ウエーキ島を攻撃し、わが陸戰隊は頑強なる抵抗を排除しつゝ敵前上陸を敢行し二十三日午前十時半同島を完全に占領せり。

二、同方面の作戦においてわが方驅逐艦二隻を失へり。

【註】一、米國はウエーキ島防備のため一千五十五萬四千ドルの國防豫算を以て潜水艦基地、小艦艇基地、飛行基地及び陸上飛行場を完備し、これを要塞化し、約三百名の海兵隊これを守備す、高角砲陣地、機銃陣地及び飛行機により極めて頑強に抵抗せり 二、ウエーキ島は洋上の珊瑚礁にして常に激浪と烈風にさらされ特殊の天候、海上の状況など攻撃極めて困難なところなり。三、なほ開戦前は汎米航空輸送會社のハワイ島との中間着陸場として用ひらる。米陸海軍はこれを中繼基地として飛行機その他を東亞方面に増強しつゝありたり。

【大本營海軍部發表】二十四日午後四時】帝國海軍航空部隊は比島敵殘存航空兵力に對し二十日及び二十一日兩日に亘り攻撃を加へ、敵大型三機を撃墜し、敵大型四機、小型十四機を地上撃破せり。

【大本營陸軍部發表】二十四日午後五時十分】帝國陸軍航空部隊は昨二十三日戰爆協同の下にラングーン飛行場を大舉空襲し挑戦し來れるスピットファイヤー（グルスターもありたるものゝ如し）十數機と交戦激烈なる空中戦を交へ、戰闘隊をもつて十機を、爆撃隊をもつてその殘餘（正確なる撃墜數不明）を悉く撃墜し、かつ地上にありし敵爆撃機四機、戰闘機二機を爆破炎上せしめたり、わが方未だ歸還せざるもの四機なり。

【大本營陸軍部發表】二十四日午後八時四十五分】帝國陸軍航空部隊は第一次ラングーン爆撃に引續き、二十三

學校は澤本次官を始め高橋伊望、南、武官、大井、八雲、摩耶各艦長、第一、第二、第三の南部佛印進駐には増派
雲忠一、細萱戊子郎、塚原、四三、二艦隊參謀長、教育局長、兵學校長、部隊護送の作戦を完了して名を擧げ
清水光美各中將らと同期で明治四十を經て、今春四月南支方面海軍最高ををり、度重なる偉勳である。
一年組である、海大卒業後英國駐在、指揮官となり後福州攻略戦に功を樹

二十六日(金)◇ 天皇陛下第七十九議會開院式に行幸、勅語を賜ふ◇香港の英軍武装解除、全島の
占領完了。
天皇陛下 二十六日第七十九議會開院式に行幸優渥なる勅語を賜ふ

勅語

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告グ

朕カ外征ノ師ハ毎戰捷ヲ奏シ大ニ威武ヲ中外ニ宣揚セリ而シテ友邦トフ盟約ハ益々固キヲ加フ朕深ク之
ヲ欣フ

朕ハ舉國臣民ノ忠誠ニ信倚シ速ニ征戰ノ目的ヲ達成セムコトヲ期ス

朕ハ國務大臣ニ命シテ昭和十七年度及臨時軍事費ノ豫算案ヲ各般ノ法律案ト共ニ帝國議會ニ提出セシム
卿等克ク時局ノ重大ニ稽ヘ和衷審議以テ協賛ノ任ヲ竭サムコトヲ期セヨ

【大本營陸軍部發表】二十六日午後一時三十分】帝國陸軍航空部隊は昨二十五日戦闘機および爆撃機よりなる聯
合大編隊をもつて、大舉ラングーンに對する第三次猛襲を敢行し、周章反撃し來れる敵のビルマ方面戦闘機全
力と激烈なる戦闘を交へ、左の如き大戦果を收めこれに覆滅的打撃を與へたり。

一、空中戦闘において敵機四十(うち不確實八)を撃墜し地上にありし敵機八を爆破せり

二、ラングーン飛行場全域を徹底的に猛爆破壊せる外ラングーン發電所を爆破炎上せしめたり、我が方の損害
は九機(うち一機は泰領に不時着)なり。

二十七日(土)◇ 天皇陛下香港攻略を御嘉尙陸海軍に勅語を賜ふ

【大本營陸軍部發表】二十七日午後六時】大元帥陛下には本日陸海軍幕僚長を召させられ、支那派遣軍總司令
官竝に支那方面艦隊司令長官に對し左の勅語を賜りたり。

勅語

支那派遣軍及支那方面艦隊ハ緊密ナル協同ノ下ニ開戦劈頭適切ナル措置ヲ以テ在支敵國權益ヲ處理スル
ト共ニ迅速果敢ニ香港ヲ攻略シ英國ノ重要ナル根據ヲ覆滅シタリ
朕深ク之ヲ嘉尙ス

二十八日(日)◇香港入城式舉行◇マレー西岸進撃部隊、イツボを攻略◇陸艦、マラツカ海峡にて敵
潜水艦一、汽船二を撃沈炎上せしむ。

【大本營陸軍部發表】十八日午後零時三十分】香港攻略に任せし帝國陸海軍部隊は敵の降伏により、その武
裝を解除し二十七日午後六時香港全島の占領を完了せり。

香港入城式 二十八日は朝來空を蔽つてゐた密雲もす 出發した酒井攻城軍最高指揮官は九龍市の大通り界限
つかり晴れ渡り、香港島最高峰にしてもつとも抵抗の 街、爾後路に整列する武勳將兵を閲兵しつゝ、碼頭よ
強かつたグイクトリヤ・ピークの頂上には折柄の微風 り香港島ブレイマー角の第一回敵前上陸地點に感激の
を受けて日旗が高らかに翻つてゐる、まさに好個の 第一歩を印した。ブレイマー角より乗用車に搭乘した
香港入城日である、午後二時九龍側の戦闘司令所を 最高指揮官は掃埠十字路において上陸軍部隊長に迎

へられ、陸軍部隊、海軍部隊、陸海軍樂隊の整列する通りを上陸部隊長、新見香港方面海軍部隊最高指揮官などと轡を並べて馬を進め、東角山西北側海軍工廠東南端を経てグロスター・ホテル東側に抜け中環東端、上環南側電車線路の南側と、順次整列する將兵に温かい稿ひの眼を投げつけ、肅々と行進、午後四時十分入城式を滞りなく完了、一同自動車を連ねて海岸通りを疾驅、山腹總督官邸に至り、香港入城祝賀の盃を高らかに擧げたのである。この日陸海の兩荒鷲は大編隊をもつて空よりこの入城式に参加、祝賀傳單を撒布するとともに高等飛行の妙技をつくし、香港水道に堂々その威容を誇る大小艦艇のただずまひも數かに躍進日本の

二十九日(月)◇海鷲コレヒドール要塞を爆撃。

【大本營海軍部發表】二十九日午後五時三十分、帝國海軍潜水艦は目下米本土沿岸並にハワイ方面に作戦し同方面の敵海上交通に深刻なる打撃を與へつゝあり、十二月二十五日までに判明せる戦果左の通り。

一、擊沈船舶十隻七萬トン 二、大破船舶三隻三萬トン 三、右の外損害を與へたる船舶約五隻約四萬トン

【大本營陸海軍部發表】二十九日午後五時三十五分、帝國陸海軍は二十四日以後英領ボルネオ西南地區方面に作戦中なりしが二十八日までの戦果左の通り。

一、陸海軍新鋭部隊は二十四日拂島同方面に對する上陸に成功し所在の敵を擊碎、二十五日午後四時四十分要衝クチンを完全に占領せり。

二、爾後同方面の敵を掃蕩し敵の主要航空基地を占領せり。

三、同方面の作戦において帝國海軍は敵潜水艦二隻を擊沈、敵大型機十機を擊破せり、尙我方は本作戦において驅逐艦及び掃海艇各一隻を失へり。

【大本營陸軍部發表】二十九日午後五時三十五分、マレー西海岸方面の帝國陸軍部隊は昨二十八日正午頃、ペラ州の要衝イツボを攻略し敗敵を擊滅しつゝ南方に進撃中なり。

【俘虜情報局を新設】皇軍は、開戦二旬にしてすでに香港をはじめマレー方面において多數の俘虜を擧げてゐるので、今回「俘虜情報局」を東京に設置することになり右に關する官制は勅令をもつて二十九日附官報で公布された。

元來俘虜情報局は明治四十五年一月條約第四號をもつて公布せられたること、俘虜に關する一切の問合せに答へる使命を有し、これがため俘虜に關する諸狀況の調査、遺留品、遺言書等の保管、または俘

三十日(火)◇陸海軍の綜合戦果發表さる◇海鷲セラター、カラン飛行場等を襲撃◇陸鷲バタアン半島の要衝マリベレスを爆撃。

【大本營海軍部發表】三十日午後三時卅分、帝國海軍は艦艇並びに飛行機を以て南西太平洋方面の敵潜水艦を掃蕩中なるところ開戦以來廿八日までに敵潜水艦合計十六隻を確實に擊沈せるほか、多數の敵潜水艦に大損害を與へたり、なほ現在までわが方は潜水艦一隻を失へり(註)右潜水艦には特殊潜航艇を含まず。

【大本營海軍部發表】卅日午後三時卅五分、一、帝國海軍航空部隊は連日に亘り比島および英領ボルネオの各航空基地に分散逃避せる殘存敵機を掃蕩すると共に南支那海スルー海セラレス海等の洋上並びに沿岸を索敵攻撃

戰捷譚は奏でられたのである。閱兵を終つた陸海軍指揮官および各部隊長は、四時半總督官邸に至り小憩ののち、官邸前廣場において占領祝賀式を行つた、まづ各部隊長は嚴肅に勅語傳達式を舉行、ついで陸海支那派遣軍司令官の奉答文を朗讀し、酒井陸軍最高指揮官の訓示があつて式を終了、次で記念撮影を行ひ、更に別室において君が代を奉唱、終つて陸海軍指揮官の挨拶があり、天皇陛下萬歳を奉唱し更に各陸海軍指揮官參集の下に、それら大日本陸海軍萬歳を三唱して祝杯をあげ、午後五時半閉式した。

虜に對する寄贈品の取扱等をなすほか、敵國戦死者或は敵國に俘虜となつた者等の狀況調査等も行ふもので今回設置を見た俘虜情報局もまた同じである。

【俘虜情報局官制】今回の俘虜情報局官制は陸軍大臣の管理に屬し、東京に設置され、職員は長官の外、事務官、判任文官若干で長官は陸軍大臣の指揮監督を受けて局務を掌理する、事務官には陸海軍武官と高等文官を當てる。

中にして廿二日以後廿八日までの期間において敵飛行機合計五十六機を撃墜又は撃破せり戦果詳細左の通り。

- (一) 比島方面【空戦撃墜】大型六機 内飛行艇一機 小型三機【地上銃爆撃破】大型六機 (うち飛行艇四機) 小型一機
- (二) 英領ボルネオ方面【空戦撃墜】大型四機 (うち飛行艇一機) 小型七機【地上銃爆撃破】大型一機、小型一機
- (三) 南支那海セレベス海、スルー海方面【空戦撃墜】大型二機 (何れも飛行艇) 【地上銃爆撃破】大型五機 (何れも飛行艇)
- (四) 比島、英領ボルネオ方面に在る多数の敵飛行基地を攻撃し格納庫その他軍事施設多数を爆砕せり、たほ右作戦に於て我が水上機も各所に活躍せり。

二、帝國海軍航空部隊はルソン島に在る敵の海上退路を遮断する目的を以て連日に亘りマニラ灣内の敵艦艇船を攻撃中なりしが廿八日までには収めた。戦果左の通り。

- (一) 廿五、廿六兩日 驅逐艦一隻撃沈、潜水艦一隻撃沈、船六隻大破
- (二) 廿七日 船十四隻大破 (傾斜沈没に瀕せるもの一隻)
- (三) 廿八日 船六隻大破

三、廿二日以後廿八日までの期間におけるわが方飛行機の損害、自爆せるもの一機、未だ歸還せざるもの一機

大本營陸軍報道部長談 米英に對する宣戰の大詔嚴かに漢發せられ、一億歐起總力を擧げて征戰の目的完遂に邁進し、旭旗燦として南溟に輝きわたつた昭和十六年を送るに方つてこゝに蟻聚二萬キロの戦線に、日夜活躍してゐるわが陸軍數百萬將兵の、過去一箇年の奮戦を顧みよう。

支那方面 つとに全支の中樞を制し敵を僻陬に壓し

た支那派遣軍は本年に入るやさらに我が作戦目標を敵中央軍の撃滅に指向し一ヶ月平均二千回以上の大小作戦を敢行した、この默々たる勇戦奮闘こそ實に今次大東亞戦争遂行を磐石の安きに置く確固たる根基となつたといふべきであらう、今その主なるものを擧ぐれば次の通りである。

1 豫南作戦 (中支一月下旬より二月上旬迄交戦兵力

- 十萬) 第五戰區湯恩伯軍に潰滅的打撃を與へた。
- 2 蘇北作戦 (中支二月中旬より三月上旬迄交戦兵力五萬) 國共相刻の修羅場を裁定して國民政府の政治力を滲透せしめた。
- 3 封鎖作戦 (中南支) 二月上旬より四月中旬迄四回に亘り中南支沿岸に上陸しその援將路の據點を粉碎した。
- 4 中原作戦 (北支五月上旬より六月中旬迄交戦兵力二十五萬) 中央正規軍二十萬を撃滅し北支治安の痛を除く。
- 5 東江作戦 (南支五月中旬交戦兵力二萬 (惠州附近に侵入せる正規軍を粉碎した。))
- 6 晋察冀邊區作戦 (北支八月中旬より十月上旬迄交戦兵力七萬) 北支の共産軍に大打撃を與へその根據地を覆滅す。
- 7 清鄉工作 (中支七月より目下尙續行中) 新政府側と緊密なる協力の下に着々成果を擧げてゐる。
- 8 長沙作戦 (中支九月中旬より十月上旬迄交戦兵力三十萬) 第九戰區の中央軍を撃滅しその戦力および抗戰組織に大打撃を與ふ。
- 9 鄭州作戦 (北支十月上旬より十月下旬まで、交戦兵力十二萬) 大黄河を越えて鄭州に進撃し第一戰區の正規軍を撃破した。
- 10 航空部隊の作戦 以上のあらゆる地上作戦に常に

緊密に協力し偵察、指揮連絡、直接戰鬪協力等に在じたほか重慶、蘭州、梁山、昆明、蒙自等の奥地進攻、揚子江上流の敵船舶の攻撃に任じあるひは雲南方面の援將路の爆撃、西南方面に對する重慶軍の策動を制し特に再建途上の敵空軍に徹底的打撃を與へてこれを挫折せしめた。

綜合戰果 (自一月至十月)

敵の遺棄死體 (我が軍の確認せるもののみ) 三十二萬九千九百二十七 捕虜 九萬四千八百二十六 鹵獲品 各種火砲六百三十七、重機關銃三千四百四十一、小銃九萬一千三百八十六、自動貨車十六、列車八十五、船艇百三 (以上鹵獲品は主要なるもののみを計上しこの他多數あり)

敵飛行機撃墜破 十六、我が損害 (戦死) 九千五百二十七。

しかしてこれ等の作戦によつて敵戦力は一段と低下を來し、その防禦力著しく弱化するのみならず、その攻撃力はほとんど消磨し、中支において殊勝にも彼が精魂を傾けて試みた僅二回の自主的反攻すら、極めて消極鈍鈍で反つて我が反撃の好餌となつた、特に沁河作戦のごときは我が損害が三名であつたのに比し、敵は軍司令官以下三千名が捕虜となり、極めて莫大な損害を蒙つたるときはその好適の實證といへよう。

また重慶政權の財政經濟にも甚大の打撃を與へた

ことは、物資特に生活必需品の不足甚しく、物價が事變前の約三十倍に騰貴したこと、法幣の大暴落によつて毎月十億元近くの不換紙幣を出し、辛うじて收支を糊塗しつゝあるのを見ても十分窺はれる、これ我が封鎖強化特に本年春夏の候四回にわたり行はれた上陸封鎖作戦に負ふ所大である。

治安につき一言すれば北支に在つては治安強化運動に、中支に在つては清郷工作にとそれ〴〵新國民政府の諸工作に全面的協力を傾け來つた結果北支の大部分と中支三角地帯とは既に殆ど匪影を没しわが占據地の治安に劃期的向上を來しこれに伴ひ新政府の發展また極めて順調活潑である。

かゝる間に大東亞戦争の勃發となつたのであるが、十二月八日以降在支米英軍ならびに敵性租界權益等の處理を迅速に完了した香港方面は十二日九龍半島の截定に引續き、十八日香港島の上陸に成功し、以來頑強に抵抗する英軍に對し猛攻を加へ、二十五日彼の無條件降伏により我手に歸し、茲に支那大陸より米英の勢力を完全に一掃したのである。

しかして陸海における我緒戦の大捷は重慶政權に異常なる恐怖衝動を與へたが彼はなほ頑迷抗戰を斷念せず全く米英の傀儡となり切つてゐるのである、この秋わが雄渾なる大東亞戦の遂行により、米英を粉砕して、阿片戦争以來の中國の屈辱をも、皇軍の手によつ

て現に拂拭しつゝある事實を、重慶は如何に考へるであらうか。

滿洲方面 在滿皇軍は嚴寒酷暑を克服しつゝ、廣大なる不毛邊陲の地に、夙夜國境の警備に將また治安の維持に黙々任務を完遂し、あまつさへ鍊武に軍日なく、いまや無限の戦力と有事即應の態勢とを完備し、北邊のまもりは正に鐵壁である。

南方方面 わが海軍の緊密なる協力のもとに廣大なる地域に亘る大上陸作戦は悉く成功し、目下着々戦果を擴大中であるが、その状況は次の通りである。

陸海航空部隊の作戦 開戦劈頭まづ比島およびマレー方面において果敢なる航空撃滅戦を敢行し、旬日にしてその大多数を撃碎するとともに、更に各方面に輸送船團の掩護、泊地の掩護、上陸戦團の直接協同等に任じて上陸作戦成功の基礎を築き、引續き以下述ぶる如く地上部隊の作戦に策應し果敢なる戦闘を行つて居るが、既に粉砕した敵の飛行場六二、撃破せる敵機四百餘、其他莫大なる戦果を擧げてゐる。

馬來方面 八日「シンゴラ」「パタニ」「コタバル」に上陸以來泰領に侵入せる英軍を驅逐し、十一日には「ジットラ」で英機械化一師團を撃滅し十四日には「ダクトリヤ・ポイント」を十九日には西岸の要衝「ベナン」港を占領し、以て印度緬甸との連絡を切断し、かつ印度洋に無限の脅威を與へ、更に「イツポ」を奪

取しその第一線は「シンガポール」迄の行程九百餘キロの中既に四百餘キロを突破し、尙息もつかず所在の敵を撃破しつゝ「シンガポール」を目指して猛進撃を續行してゐる。

またわが航空部隊は英空軍に殲滅的打撃を與へて制空權を確保し、地上部隊の偉大なる進撃を可能ならしめてゐるほか、英の航空戦力の中心たるラングーンを連續急襲撃し、もつて援路の遮斷に任じてゐるが、この方面のわが作戦は、香港の陥落とともに英本國に深刻なる敗戦感を與へつゝある。

比島方面 我先遣部隊は十日ルソン島北西岸アバリ、グイガンに、十二日レガスピに上陸して米軍を撃破しまづその航空根據地を獲得し、我が航空部隊と協力して、すでに比島空軍の大部を撃破し、目下地上作戦に緊密なる協力をなしてゐる。

さらに二十二日「西岸リンガエン」灣に、二十四日には東岸「ラモン」灣に對する大部隊の上陸に成功し、米軍が金城蕩池と恃む「マニラ」大要塞に對する大包圍環を壓縮中である。一方「ミンダナオ」

卅一日(水)◇帝國陸軍部隊マレーのクワンタンを占領◇帝國海軍艦艇ハワイ諸島を砲撃◇陸軍部隊英領ボルネオのブルネイを無血占領。

【大本營海軍部發表】三十 日午後四時四十五分 帝國海軍艦艇は十七日以來太平洋上に散在するマウイ、ジョ

ンストン、サンド、バルミラー等の各島嶼に對し攻撃を反復し、飛行機格納庫、無線電信所等重要軍事施設を
破砕せり。

◇マウイ島 北緯廿一度西經百五十二度、ハワイ群島の西南約千四百の猛爆を蒙つた、主産物は燐鐵
六度、ハワイ諸島中の一島嶼でオア 六十キロにある。 ◇サンド島 ミッドウェー島のすぐ
フ島からは東南約百キロに位する。 ◇ジョンストン島 北緯十七度、西 並びにあり太平洋上に多く散在する
面積は約千九百平方キロだから我が 經百七十度丁度マウイ、バルミラー 砂丘性の約一平方マイルの小島であ
香川縣と略々同面積である産物は甘 兩島を結ぶ線を底邊とする三角形の
蔗、パイナップル、コーヒ、麻等 頂點に位してゐる、この島は去る十
◇バルミラー島 北緯六度西經百六 六日ベーカー島とともに逸早く海鷲

【大本營海軍部發表】三十一日午後四時五十分 帝國海軍航空部隊は二十九日夜半より三十日黎明にわたりシン
ガポール周辺の敵軍事施設に對し數次の夜間大爆撃を敢行し軍港施設、駐屯軍總司令部、セレター飛行場、カ
ラン飛行場等を爆砕各所に大火災を生ぜしめたり、當時敵の防禦砲火極めて猛烈なりしもわが方全機無事歸還
せり。

【大本營海軍部發表】三十一日午後四時五十分 帝國海軍航空部隊はわが陸軍の猛進撃に呼應し二十九日大舉
マニラ灣口コレヒドール要塞を爆撃し砲臺、兵舎等數箇所に大火災を生ぜしめたる外マニラ灣在泊の敵驅逐艦
一隻、小型哨戒艇二隻、大型船三隻を爆砕せり、我方全機無事歸還。

昭和十七年 一月

一日(木) ◇陸軍部隊開戦以來の綜合戦果發表◇陸軍マラツカ海峽方面で敵輸送船團襲撃。

【大本營陸軍部發表】一月一日午前零時 帝國陸軍部隊は引續き各方面に兵力を増派し、空陸緊密なる協同の下
に隨所に敵を粉碎進撃中にして、全戦局はさらに一段の進展を見つゝあり、開戦以來十二月二十六日迄の綜合
戦果左のごとし

- 一、鹵獲品 飛行機十六機、各種火炮百六門(香港要塞砲を含まず)機關銃二百二十三挺、銃器四千百九十五挺
銃砲彈七萬九千九百五十五發、戰車(裝甲車輛を含む)七十六輛、自動車一千三百八十九輛、鐵道車輛三百
一輛、各種器材、糧秣など多數、別に莫大なる燃料を鹵獲せり。
- 二、擊墜(破)飛行機 爆撃機百三十五機、戰鬥機四百六機計五百四十一機、
- 三、擊沈(破)艦船 大型三十三隻、小型四隻、計三十七隻
- 四、遺棄死體 約三千、俘虜約九千
- 五、わが軍の損害 戦死七百四十三人、戦傷一千七百九十九人、飛行機四十九機、船舶沈没四隻、損傷十二隻
なほ香港要塞攻略の戦果に關しては二十六日迄に判明せるもののみを挙げたるが、調査完了の上は、要塞砲
俘虜その他鹵獲品さらに増大する見込みなり。

【大本營陸軍部發表】一日午後三時 馬レー東海岸方面を進撃中の帝國陸軍部隊は昨三十一日午前十時二十分東
部マレーの要衝クワンタンを占領せり。

【大本營陸軍部發表】一日午後六時 帝國陸軍航空部隊はマレーおよび比島方面において、數日來極めて果敢な
る進撃を續行しあり、地上部隊の戰鬥に密接に協力しつゝあるのほか左の戦果を収めたり。

マラツカ
海峽爆撃
(一月二
日参照)

マレー方面 (一)十二月廿八日マラッカ海峡の敵艦船を攻撃し、三千トン級汽船二隻を破壊炎上せしむるともにクラン西方約四十キロの海上において敵潜水艦二隻を発見、急降下爆撃によりその一隻を撃沈し、また二十九日クラン西方海上において敵驅逐艦を急襲し、それに必中弾一を浴びせ大なる損害を與へたり (二)十二月二十九日および三十日深夜選抜せる部隊をもつてシンガポールを奇襲し、北部燃料油槽群五箇所を發火炎上せしめ飛行場施設を破壊せり。

比島方面 (一)十二月二十九日正午爆撃機大編隊をもつてコレヒドール島要塞中樞部を猛爆し、これに鐵錘的打撃を與へ、かつ三十日マニラ灣西方バタアン半島の要衝マリベレスを爆撃し、その軍事諸施設を潰滅せり。(二)十二月三十一日バタアン半島方面に潰走中の敵自動車群約百輛を反覆攻撃し、これに多大の損害を與へ、全機無事歸還せり。

◇ハワイ海戦第一報 (先陣編隊長〇〇中佐談)

眞珠灣一番乗りの大編隊群の指揮官〇〇中佐は、愛機に温かい眼差しを注ぎながら、當時の思ひ出を語つたあの古今未曾有全世界を震撼した大戦果をあげながら淡々と語る面ざし、まるで訓練飛行からでも歸つたかのやうだ。

太平洋上繰る乙旗 我々は海上でオアフ島攻撃の命令を受けた、當時艦は一路東へ向つて航行してゐた。待ちに待つた命令がいよいよ来た、その命令をうけて流石に興奮と感激で體が熱くなるのを覺えた。全員は甲板に整列してその攻撃命令を受けたのである。その時艦頭高く上つたのは實に乙旗である。皇國の興廢を

賭けて、三十六年前日本海々上につた乙旗は再び今度は太平洋上に翻つたのである。これを見上げてゐる全員の眼にいつしか涙がにじみ出て来た、それは皇國興廢の歴史的瞬間が再び我々の双肩に回つて来たその感激である。我々の航空部隊指揮官は「各員粉骨碎身誓つてその任務を全うせよ」と親しく訓示された、またとない重大な一戦に参加し得る喜びが、その時強くこみ上げて来た。

當時の天候はやゝ不良化する状態であつたが、昂然たる將兵は天候など問題にしてゐなかつた、整備員も搭乗員と一緒に戦ふんだといつて、我々に白い鉢巻を呉れた、遂に進發命令は下つたその時の指揮官の命令は「奇襲作戦に成功せり、全員突撃せよ」その寸前曉

闇の中に長溝は母艦を左右に動揺させ、海上はいまだ薄暗く、耳許にヒュー／＼と鳴る風が強く、天候は相變らず悪い、それもそのはず、當時北東十七メートルの強風が吹き荒んでゐたのだ、高度千五百メートルから二千メートルにかけては漠々たる密雲が立籠めてゐる。大編隊の飛行機群が母艦を離れてせまい眞珠灣に殺到するには絶好の状態ではなかつた。日頃の演習や訓練なら飛行を見合すところだが、この日この朝を期して多年の訓練は續けられて来たのである。状態、不良などは問題にならない。〇時〇〇分進發、一機また一機、前後左右に動揺する不安定な甲板から飛出してすでに編隊を整へた我々は、一路全速力でハワイ目がけて殺到した。間もなく機上で莊嚴な日の出を迎へた。普通南洋方面の海上では三十マイル、多い時は五十マイルの遠望がきくものだが、今は漠々たる密雲にさへぎられて殆ど見通しがきかない、ハワイは標高千メートルの山を背負つてゐるから、少くとも到着の二十分前から見えるはずである。

見事、主力艦に命中 間もなくオアフ島に到着のはずだと望遠鏡で眼をこらしてゐると突然足許に海岸線がクツキリと現れた、各隊は攻撃姿勢に移つた。眞珠灣は朝霞の中に未だ眠つてゐる、港内には敵の太平洋艦隊の主力艦が二隻づつ組になつて整然と投錨してゐる。早くも雷撃機は亂雲を切つて一直線に突込んで行

く、眞珠灣は淺くてせまいので編隊の雷撃は極めて困難である。そこで雷撃隊は單機になつて、或るものは海面すれ／＼にまで舞降り、或るものは敵艦の胸腹を發射した、忽ち白い二條の雷跡が海面を這つて突進して行く、つい見とれてゐると敵主力艦の艦側から物凄く水柱が上空に向けて飛上つた、見事に主力艦の横腹に命中したのだ。その水柱は上空の雲の峰と高度を競ふかのやうに上つた。あとから／＼と水柱が續いて沸上つてくる時間にすれば僅か三、四分のことである、だが敵の防空防禦砲火は未だ眠つてゐる、戦闘機も未だ挑戦して来ない。奇襲は完全に成功した。奇襲の大戦果は見事撃つたといふべきである「われ奇襲に成功せり」と母艦に向つて第一報を打電した。

續いて急降下爆撃機が眞一文字に飛込んで行く、すると間もなく敵飛行場の格納庫、飛行場に並べられてあつた飛行機から紅黒い焰がメラ／＼と立上つた。この雷撃機と急降下爆撃機が思ふ存分第一撃を加へて機首を立直してゐる頃、漸く敵の高角砲弾が我々の周圍に炸裂し始めた。今度はいよいよ我々の大型爆撃機が下の順番である。私は隊列の最先頭に立つて、眼下の巨艦に照準をつけた氣流は大變悪く、水平爆撃の照準がつかない、一發の無駄な爆弾も出してはならぬと思つてやり直した、高角砲弾の中を一巡りすると、後續部

隊も皆われにならつて、高角砲弾炸裂の弾幕の中を悠悠と巡回してゐる、今度は成功だ、爆弾投下に移らうとする、機體は物凄しいショックを受けた、振返ると背後に爆煙火の柱が五百メートルばかりも高く天に沖してゐる、これは後で判つたことだが、雷撃機隊、急降下爆撃機隊、戦闘機隊とさらに一層困難な水中攻撃を敢行した特殊潜航艇との緊密な協同作戦があつた戦果の一つであつた、これは敵艦の火薬庫が爆発したのだすでに船體の下半分はけし飛んで海面にはおびただしい重油があふれ出てゐる。確かにアリゾナ型だ、敵の高角砲の射撃は漸く猛烈になつて編隊の周囲には石礫でも投げつけるやうに砲弾が炸裂してゐる。間もなく指揮官機の左胴體に大きな穴があいた、ついで五番機にも當つたと見えてガソリンタンクからガソリンが漏洩してゐる。それでもチャンと離れずについて来る。爆撃任務がすむと自爆する決心であるらしい、状況知らせよと信號すると「補助タンクのみ」と平然たる返答が入つて来た。生死を越えた平然たる態度である。

壯烈・雷撃機隊當り 續いて島の中央にある第二の目標ホイラー飛行場に眼を轉じた。こゝには二百機以上の戦闘機と爆撃機が群つてゐたが、すでにわが急降下爆撃隊と戦闘機隊が猛烈果敢な攻撃を加へてゐた。飛行場に引出されてゐた敵機からは、紅い焰が揚り、

格納庫もまた濛々たる黒煙を揚げて、既に潰滅の有様である。恐らくガソリンが炎上してゐるのであらう。黒煙は天を覆はんばかりに擴がつてゐる。敵機が上昇して反撃し得られないのも、この有様だからだ。すでに獲物がこのやうな有様なので再び機首を轉じて敵の主力艦に狙ひをつけた二隻、つづいで並んで投錯してゐる艦はまたとない絶好の目標である。一隊が片方を狙へば他の一隊は別の艦を襲ふ。しかも雷撃機が襲つた後に急降下爆撃機が襲ひ、さらに我々の大型爆撃機が襲ひ、絶間ない攻撃である。一番機が攻撃を加へると百メートル位の水柱が上る、それへ後続機が突込むと被害を受けるので水柱が消えるまで悠々と待つてゐる。だから上空で敵の高角砲にさらされてゐる時間自然に長くなる、しかも大空に悠々と爆撃の順番を待つてゐるのだ。この頃になると雷撃機隊の攻撃は最も凄烈を極めたものとなつた、敵に思ひ切つて接近し、魚雷を落して機首を立直すところを狙撃されて、機體は火炎に包まれてしまふしかも火達磨となつた雷撃機は、なほも精密な魚雷発射を續け最後に敵艦目懸けて眞一文字に突込み、火花を散らして自爆するのを私は確にこの眼で見届けた。

攻撃の目的を果して引揚げようとする、既に朝暁は眞珠灣を明るく照し出してゐた。打ち見れば朝の光の中に轟沈した戦艦一隻は船體が切断されて、海面に

ドス黒い油を残すのみであり、その他にはみにくい赤腹を出して沈没してゐるのが二隻、また四十五度に傾斜して刻々に沈みつゝあるのが一隻、炎々として燃え上つてゐるのが三隻、フォード島海岸の敵艦は悉く傷つてゐる、眞珠灣上空で、我々は燃料の許す限り何回も何回も巡回した我々がこの眼でハッキリと確認

したことであつたが萬一にも傷ついた友機が歸つて来るのではないかといふ淡い希望を持つたからであつた。われ／＼が母艦に無事歸還すると、入れ代つて第二次攻撃隊が出動した、敵太平洋艦隊の残存兵力に止めの刃を刺さんがためである。

二日(金) ◇陸軍部隊比島首都マニラを完全に占領◇陸鷲シンガポールを奇襲◇毎月八日を以つて大詔奉戴日となす旨内閣より告諭を發す。

【大本營陸軍部發表】二日午後五時十五分】マレー方面に活躍中の帝國陸軍航空部隊は一月一日左のごとき戦果を收めたり。

一、マラッカ海峡方面に出動せる爆撃機隊は敵輸送船團を攻撃、二千トン級一隻を炎上、三千トン級一隻を大破せしめ、さらに同海峡を北上中の快速魚雷艇群を發見、果敢な急降下爆撃を加へその一隻を撃沈、三隻を航行不能に陥らしめたり。

二、〇〇方面の上空に飛來せる敵マーチン一三九W型爆撃機を發見直にこれを撃墜せり。
(註) マーチン一三九W型爆撃機は蘭印の飛行機である。

三日(土) ◇軍令部總長及び海軍大臣より比島方面陸海軍最高指揮官あてマニラ攻略の赫々たる功績に對し祝電を發す。

【大本營陸軍部發表】三日午前九時】帝國陸軍部隊は昨日午後以來續々マニラ市内に進入しつゝあり。

【大本營陸軍部發表】三日午後四時四十五分】帝國陸軍比島攻略部隊は二日午後首都マニラを完全に占領し、更にコレヒドール島要塞及バタアン半島の要害に據る敵に對し攻撃を續行中なり。

【大本營陸軍部發表】三日午後七時】本日軍令部總長及海軍大臣は比島方面陸海軍最高指揮官に對し左の祝電を發せり。

陸海軍緊密なる協同の下に季節風期に於ける風濤と頑強なる敵の抵抗とを排除して見事比島上陸作戰を完了迅速敵空軍を殲滅し作戰開始以來一ヶ月に滿たずして早くも茲に馬尼刺攻略に成功せられたるを慶祝し併せて本作戰の爲戰歿せる諸勇士に對し深厚なる敬弔の意を表す。

四日(日) ◇陸鷲ビルマ、ミンガラドン飛行場襲撃敵六機を撃墜。

【大本營海軍部發表】四日午後五時三十分】比島方面における帝國海軍の現在までの綜合戰果は左の通り。

- 一、飛行機撃墜一〇三三(内大型一五、飛行艇四)撃破二五七(内大中型七三、飛行艇二二)總合計三六〇
- 二、艦艇および船舶(イ)撃沈 驅逐艦四、潜水艦七、船舶五(ロ)大破 特務艦一、船舶三〇(ハ)中破 驅逐艦一、小型哨戒艇二、船舶四(ニ)拿捕 船舶一。

五日(月) ◇マレー、比島空襲熾烈

【大本營海軍部發表】五日午後四時五分】帝國海軍航空部隊は、一日夜半および三日黎明大舉シンガポールを空襲し、同軍港テングー飛行場、センバワン飛行場など敵主要軍事施設を爆撃し、四箇所以上に大火災を生ぜしめたり。

【大本營海軍部發表】五日午後四時十分】帝國海軍艦艇は舊臘三十一日ヒロ港(ハワイ島)カフルイ港(マウイ島)及びナウイリウイ港(カウアイ島)を急襲攻撃し、各港主要軍事施設を破壊交上せしめたり、なほ本攻撃

においてヒロ港埠頭に横付中の敵艦艇一隻を撃破せり。

【大本營海軍部發表】五日午後四時十五分】比島方面帝國海軍航空部隊は全力をもつて一日以來連日にわたりコレヒドール要塞、オロンガボ要港およびマロロス航空基地等に對し猛烈なる攻撃を反復し、殘敵の殲滅に努めつゝあり。

【大本營陸軍部發表】五日午後六時十分】英領ボルネオ上陸の帝國陸軍部隊は舊臘三十一日ブルネイを、また一日ブルネイ灣口を扼すラファン島を占領せり。

ブルネイ ブルネイ州の要衝、巡官でこれを補ひ住民と印度兵で編成 ラファン島 水上飛行基地として警隊約三百常駐、これは英國士官してゐる、人口約一萬二千、ブルネ の設備のほか香港、シンガポールにを長として住民および印度人の土 州唯一の近代都市 對する海底電信の連絡所である。

六日(火) ◇陸軍部隊六日までの戰況

【大本營陸軍部發表】六日午後五時】帝國陸軍航空部隊は連日各方面において活躍し、多大の戰果を収めつゝあり、その狀況左のごとし。

マレー方面 (一)選拔せるわが精銳なる爆撃機は、二日夜シンガポールテングー飛行場を奇襲、超低空爆撃を敢行し格納庫を爆碎三箇所より火災を生ぜしめたり (二)二日マラツカ海峡の敵艦船を攻撃せる部隊は、モリブ岬沖において大型貨物船一隻を爆撃、瞬時にこれを撃沈せり、また他の一部はカンバル、デコン間の地區において敗走中の敵自動貨車群を急襲しその多數を爆碎交上せしめたり (三)一昨四日午後敵爆撃機十機クラン飛行場に進出せるを認むるや機を失せずこれを急襲し全機を捕捉撃滅せり、同日夜シンガポールを奇襲せる部隊は、市内軍事施設を爆碎するとともに、攻撃し來れる敵戦闘機と空中戦を交へその一機を確實に撃墜せり、我に損害なし。

比島方面 二日以來バタアン半島方面の追撃戰に協力し、特にリマイ、バランガ、スピック等の要所に購集せ

る敵を連爆するとともに、車輛部隊および船舶を攻撃し、自動貨車百四十六輛破壊、船舶十隻を撃沈せり。

七日(水) ◇伊豆半島沖に敵潜艦現る◇香港島攻略戦果発表

【大本營陸軍部發表】七日午後零時二十五分 帝國陸軍部隊の昨一月六日までにおける各方面の戦況左のごとし

一、マレー方面

(一) 西海岸方面 月廿八日「イッポ」を攻略せる我部隊は引続き追撃を續行し、三十日來セラゴール州の要衝「クワラルムプール」防禦の前線據點として敵が堅固に陣地を設備せる「カンバル」地區に對し攻撃を開始す、軍は一部をもつて北方よりこれを攻撃すると共に有力なる部隊をもつてスンゲイ・キンタ河右岸地區を南下して、「カンバル」西南方地區に進出せしむると共に選拔せる舟艇、機動部隊をもつてベルナム河口に上陸せしめ遠く敵の退路を遮断せしむ、かくて一月二日カンバル方面の敵は我迂迴部隊の成果により遂に退却を開始し、同日夕これを完全に占領せり、爾後部隊は敗敵を急追しつゝ〇〇を経て四日夕〇〇に達し、〇〇方面へ前進中なり。(2) 東海岸方面 三十一日「クワンタン」を占領せる部隊は引続き「クワンタン」西南方地區にある五千餘の敵を攻撃、一月二日同地飛行場を占領引続き戦果を擴張中なり、(3) 陸軍航空部隊は連日地上部隊の戦闘に協力すると共に

あるひは遠く敵殘存空軍の基地を空襲してこれを殲滅し、あるひは「シンガポール」軍港を夜間奇襲して軍事施設を破壊するなど多大の戦果を挙げつゝあり、この方面敵空軍の主力はすでに潰滅し一部殘存兵力のわかに「シンガポール」附近に屏息しあるを認むるに過ぎず

二、比島方面

(一) ルソン島 一月二日「マニラ」を占領せるわが軍は有力なる部隊をもつて「バタアン」半島に遁走せる敗敵を急追し三日午後「バラック」四日「バコロ」に敵陣地を攻略せり、引続き敵を壓迫中なり、敵は開戦以來相つゞ要地の失陥と各方面に對する我が上陸作戦に絶大なる脅威を受け「マニラ」を放棄して、「バタアン」半島および「コレヒドール」要塞に據らんとするが如きも、わが航空部隊の神速なる作戦により徹底的打撃を蒙りつゝあり、敵の殘存空軍もほとんど壊滅せるものゝ如く、戦意の認むべきものなし。(2) ミンダナオ島 ダバオ附近の戡定はすでに完了

し、民心逐次明朗化しつゝあり

三、英領ボルネオ方面

十二月十六日「ミリー」「ルトム」「セリヤ」各地區に對する上陸に成功せる部隊は爾來油田地帯を確保しこれが復舊に努力しつゝあり、西部の要衝「クチン」の上陸作戦に成功せる部隊は堅固なる陣地を構築し戦

【大本營陸軍部發表】七日午後四時 帝國陸軍部隊香港要塞攻略の戦果並に開戦以來一月三日までに判明せる綜合戦果左の如し。

香港要塞攻略の戦果 (一) 鹵獲品 飛行機五機、銃器九百八十八挺、機關銃一千二十挺、火炮百二十二門、内譯各種小口徑火炮五十八門、高射砲十九門、重砲十サンチ榴彈砲八門、同加農砲六門、十二サンチ臼砲三門、十五サンチ榴彈砲八門、十五サンチ加農砲十二門、二十四サンチ加農砲八門、各種砲彈一萬八千三百發戰車(輕裝甲車を含む)十輛、自動車一千四百七十輛、鐵道車輛、三百九輛、魚雷艇二隻、燃料揮發油、潤滑油、石油その他各種油多量、その他糧食建築材料、軍用器材多數

- (二) 擊墜(破) 飛行機 十四機
- (三) 擊沈(破) 艦船 砲艦四隻、船舶十三隻
- (四) 俘虜 一萬一千二百四十一名、遺棄死體 一千五百五十五
- (註) 右戦果は十二月三十一日までに判明せるものにしてその後の調査により相當増加する見込なり。
- (五) 我軍の損害 戦死六百七十五、戦傷一千四百四

一月三日迄に判明せる綜合戦果 (一) 鹵獲品 飛行機十七機、銃器五千八百八十三挺、機關銃一千六百六十五挺、火炮二百六門うち重砲四十五門、重砲彈九萬八千二百五十發、戰車(裝甲車輛を含む)八十一輛、自動車二

千八百卅輛、鐵道車輛三百十六輛、魚雷艇二隻、燃料、揮發油、潤滑油、石油其他各種油多量、其他糧食、建築材料、軍用器材多數。

(二) 擊墜 (破) 飛行機 五百五十九機、内譯 戰鬥機四百十六機、爆撃機百四十三機
(三) 擊沈 (破) 艦船 五十四隻、内譯 軍艦、驅逐艦二隻、潜水艦一隻、砲艦九隻、魚雷艇四隻、輸送船三十八隻。

(四) 俘虜 一萬三千八百六十四、遺棄死體二千五百

(五) 我が軍の損害 戦死七百五十二、戦傷一千八百三十五、飛行機八十一機、船舶沈没五隻、損傷十六隻。

(註) 比島方面の戦果 (航空を除く) は目下調査中にして本表にはほとんど含まれあらず。

【大本營海軍部發表】七日午後六時三十分 (一) 比島方面 帝國海軍航空部隊は一月四日、五日コレヒドール及びマリベレスに對し猛烈なる攻撃を反復し敵軍施設に大損害を與へたるほか、敵水上機母艦らしきもの一隻を大破し、敵飛行機五機を撃破、同一機を撃墜せり、(二) わが巡洋艦〇〇は一月四日ダバオ沖の戦闘において敵飛行機の爆撃により輕微なる損傷を蒙りたるも戦闘航海に支障なし、なほ太平洋某方面において潜水艦一隻を失へり、(註) 戦闘航海とは戦闘に差し支へなき航海の意味なり。

八日(木) ◇陸軍部隊マレーのタンジョン・マリムを占領◇ビルマの皇軍サルウイン河敵前渡河開始。◇帝國潜水艦ジョンストン島西南方洋上で米水上機母艦ラングレー撃沈

タンジョン
マリムを
占領(一)
月九日參
照)

【大本營發表】八日午後四時二十分 帝國陸軍航空部隊は連日マレーおよびビルマ方面において果敢なる攻撃を反復し多大の戦果を收めつゝあり、その状況左のごとし。

一、ビルマ空襲 一月四日午後強力なる我戰鬥隊はビルマ領ミンガラドン飛行場(ラングーン近郊)を襲撃し在空中敵スピットファイヤー六機と激烈なる空中戦を交へて忽ちにしてその全機を撃墜したる後我方無事歸

還せり、一月五日より六日にわたり或は黎明を利用し或は夜暗に乗じて前記飛行場を反復襲撃し飛行場諸施設格納庫および附屬設備等に大火災を生ぜしめたり。

二、シンガポール空襲 十二月二十九日以降連日シンガポールを夜間奇襲し、テンガー、カラン、センバワン等シンガポール近郊の飛行場に反復攻撃を加へ、燃料庫その他飛行場諸施設等を爆撃して敵に多大な損害を與へつゝあり。

九日(金) ◇帝國海軍艦艇航空部隊と協力〇〇方面で敵潜水艦二隻を撃沈

【大本營發表】九日午後四時三十分 一、マレー西海岸方面 帝國陸軍部隊は一昨七日「トロラタ」(クアラ・ルムプール北方九十キロ) 北方地區に堅固に陣地を占領せる有力なる敵機械化部隊を兩翼より包圍攻撃しこれに殲滅的打撃を與へたる後、引き続き南方に向ひ果敢なる追撃を續行中にして、その先鋒は八日夕「タンジョン・マリム」を通過せり、前記「トロラタ」附近における戦果左の如し。

一、兩獲品(重砲(十二榴榴砲)十三門、對戰車砲二十門、迫撃砲十五門、自動砲二十門、輕裝甲車五十輛、自動二輪車卅輛、自動車五百輛、二、俘虜 約二百、遺棄死體約三百。三 我軍の損害 戦死十七名、戦傷六十名
二、ビルマ方面 作戰中の帝國陸軍航空部隊は昨八日午後ビルマ領「モールメン」港を急襲し大型汽船一隻中型汽船四隻に多數の命中弾を與ふると共に停車場および埠頭設備を爆撃せり。
タンジョン・マリム マレー半島 前にはこゝを中心にして約二千のインド みた。

中山嶽と山嶽とに挟まれた陸路地帯 軍が駐屯しマレー聯邦の首都クアラ
にある英軍戰略上の要點であつて戦 爾ムプールの防衛上の前線據點として

【大本營發表】九日午後六時 一、帝國海軍潜水艦は一月八日ジョンストン西南方洋上において米國軍艦ラング
レーを撃沈せり。

二、一月七日早朝伊豆半島沖において第一雲海丸は敵潜水艦の魚雷攻撃を受け船體に損傷を蒙りたるも同船乗

員は全部無事なり。

十日(土) ◇敵潜艦我病院船を撃沈暴虐振りを暴露◇ビルマの皇軍マルタパンを占領。

【大本營發表】十日午後四時 香港方面帝國海軍の一月八日迄の綜合戦果左の通り。

- 一、撃沈艦艇 驅逐艦一、砲艦四、魚雷艇七、給油船一、敷設艦二、哨戒艇八。
- 二、拿捕艦船 大小一〇隻。
- 三、拘束處分機雷 一二八

尙我方は小型運送船(三〇〇噸級)一隻觸雷沈没せり。

十一日(日) ◇マレーの陸軍部隊クアラ・ルムブル占領◇陸海軍部隊ボルネオタラカンに上陸◇陸戦隊セレベス島メナド上陸これと同時に帝國政府聲明を發表。

【大本營發表】十一日午後六時二十分 マレー西海岸方面の帝國陸軍部隊はクアラ・ルムブル附近を混亂状態をもつて退却中なる敵に對し、依然空地相呼應して果敢なる追撃を續行中にして、有力なる先鋒部隊は十日夕にはモリブ、クランおよびラワン附近に進出し、また航空部隊は潰走中の敵集團に殲滅的攻撃を加へつゝありて十日午前クアラ・ルムブル北方において敵の自動貨車二十三、戦車裝甲車七を、カジャン(クアラ・ルムブル東南約十一キロ)附近において敵兵を滿載せる二列車をそれ〴〵粉砕し、かつ連日シンガポールに對する夜間奇襲を敢行し、敵軍事諸施設並びに飛行場を爆砕しつゝあり。

十二日(月) ◇陸軍シンガポールを二回大爆撃敵機十六を撃墜◇我潜艦ハワイ西方洋上で米空母レキシントンに撃沈◇海軍セレベスの水上基地、ニューギニア諸島を爆撃◇ビルマ、タトーンを無血占領。

クアラブル占領(一月一日)
占領(一月一日)
占領(一月一日)
占領(一月一日)
占領(一月一日)
占領(一月一日)
占領(一月一日)
占領(一月一日)
占領(一月一日)
占領(一月一日)

シ(一月十日)
シ(一月十日)
シ(一月十日)
シ(一月十日)
シ(一月十日)
シ(一月十日)
シ(一月十日)
シ(一月十日)
シ(一月十日)
シ(一月十日)

【大本營發表】十二日午後一時十五分 マレー西海岸方面を追撃中の帝國陸軍先鋒部隊は昨十一日午前十一時三十分クアラ・ルムブルに突入せり

クアラ・ルムブル 陸軍各精銳 つつマレー半島中でシンガポールに 人千五百、混血千六百その他四千九部隊の緊密なる協力作戦の下に攻略 次ぐ大都市、敵の一大要衝である、百〴〵錫、米、椰子の實、コーヒ、せられたクアラ・ルムブルはセラ 人口約十一萬三千(マレー人一萬、胡椒等の集散地である。)

【大本營發表】十二日午後五時十五分 マレー方面の帝國陸軍航空部隊は一昨十日午後マラッカ海峡の敵船團を急襲して大型輸送船一隻(三千噸級)を爆撃炎上せしむると共に潜水艦二隻を大破せしめたり、また他の一隊は地上部隊の戦闘に協力して敗退する敵に猛烈なる爆撃を加へ、タムビン附近において退却中の英軍を滿載せる列車を顛覆せしむると共に自動車、裝甲車二十四輛を粉砕せり。

【大本營發表】十二日午後六時 帝國陸海軍部隊は緊密なる協同の下に一月十一日未明蘭領ボルネオ、タラカんに、又帝國海軍特別陸戦隊はセレベス島メナドにそれ〴〵敵前上陸に成功し、十二日タラカンの敵は我に降伏しメナドは我軍に占領せられたり右は我比島方面及び英領ボルネオ方面の鐵定作戦を妨害する敵航空基地並に海軍基地を奪取せんとするものなり。

帝國政府聲明

英兩國に對し戦端を開きたるにより 帝國に於ては無辜の蘭印住民に對さきに帝國は米英兩國に對し開戦 日蘭間に戦争状態存在するに至りた しては何等敵意ある次第に非ざるもするに至りたるも和蘭に對しては能 るものと認むる旨帝國政府に通告越 和蘭の敵對行爲を破砕すると共に帝ふれば戦禍を蘭印住民に及ばざらし したるのみならず爾來現實に和蘭軍 國臣民の生命財産を擁護するため遂めんとするの考慮より敵對的措置を は帝國に對し各種の敵對行爲に出で に帝國陸海軍は一月十一日和蘭軍に差控へたる所、和蘭政府は帝國 更に最近蘭印を米英蘭の對日抗戦の 對し戦闘を開始するに至れるものなが和蘭と緊密不可分の關係にある米 基地と爲すに至れり。

帝國政府聲明

十三日(火) ◇海軍特別陸戦隊セレベス島カカス飛行場占領

【大本營發表】十三日午後零時二十分】 戦爆連合の帝國陸軍航空部隊は昨十二日大編隊をもつて二回にわたり、シンガポール飛行場を攻撃し多大の戦果を収めたり、その状況左の如し。

正午頃攻撃せる部隊はジョホール上空において敵バツファロー戦闘機十五機と遭遇激烈なる戦闘を交へ確實にその十機を撃墜するとともに、引續きテンガー飛行場を襲撃し飛行場諸施設を爆砕し、かつブレンハイム一機を撃墜したるのち我方全機無事歸還せり、さらに同日午後二時攻撃せる有力なる一隊はセレーター上空において退避せんとする敵バツファロー戦闘機十機を發見、直ちにこれに猛烈なる攻撃を加へその五機を確實に撃墜せり。

【大本營發表】十三日午後六時半】 一、タラカン方面帝國海軍艦艇は、十三日タラカンを脱出せんとする和蘭軍艦ブリンスファンオラニエ(一千二百九十一トン)を撃沈せり、なほ同方面帝國海軍航空部隊は十二日蘭印の双發爆撃機一機、B十七爆撃機一機を撃破せり。

二、メナドを占領せる帝國海軍特別陸戦隊は所在の敵を撃破シトンダノに進撃、ケマに上陸せる別働隊のわが特別陸戦隊と合同し、本十三日カカス飛行場を占領せり、右作戦に参加せる帝國海軍航空部隊は同方面において敵ロツクヒード・ハドソン重爆撃機四機ほか敵重爆撃機三機を撃墜せり。

十四日(水) ◇メナドの戦果擴大

【大本營發表】十四日午前十一時三十分】 病院船哈爾賓丸は一月十日朝南支那海において敵潜水艦の攻撃をうけ沈没せり、乗組員および患者の大部は救助せられたるも、六名はなほ行方不明なり、右は明治四十五年一月十二日ヘーグにおいて締結せられたる「ジエネヴァ條約の原則を海戦に應用する條約」に違反せる非人道行爲にして、帝國の最も遺憾とするところなり。

【大本營發表】十四日午後一時】 帝國陸軍航空部隊は、一昨十二日晝間シンガポール周邊の敵飛行基地を二回に

わたり大爆撃を敢行したるところ、同日夕刻さらに有力なる戦爆連合の大部隊をもつて第三次空襲を執行し、シンガポール軍事諸施設を粉砕するとともに、前二回にわたるわが猛攻に士氣沮喪し、急遽退避せんとせるバツファロー戦闘機六機を捕捉しこれに痛烈なる猛攻を加へ、その四機を確實に撃墜せり。

【大本營發表】十四日午後三時】 帝國潜水艦は十二日夕刻ハワイ西方洋上において米國太平洋艦隊所屬航空母艦「レキシントン」型一隻(三萬三千トン)を雷撃、魚雷二本命中を確認したるところ、敵驅逐艦の制壓をうけ潜没せるため該航空母艦の沈没を確認するに至らざりしも、潜没中二回にわたる大爆撃を聽音せるをもつて同艦は沈没せること確實なるものと認む。

【註】 潜没とは潜水艦の必要に應じ急速に潜望鏡もろとも潜航する動作をいふ。

撃沈の意義 無敵の活躍を續けてゐるわが潜水艦は を突破し單獨猛進、わが攻撃に勘づいた敵の猛烈な爆十二日夕刻敵米海軍が世界最大、最強を誇る航空母艦 雷攻撃をもとせず、沈着、敵巨艦を撃沈しつたレキシントン型を一擧海底に屠りさつた。敵艦はわが わが潜水艦の偉功は、敵艦を撃滅せるにもまして大本土空襲の企圖をもつて多数の巡洋艦、驅逐艦に護衛 いに輝かしいものである。されつゝわが國に向つて行動中のもので、この警戒陣

レキシントン型 排水量三萬三千 十二門を有し、速力三三・九節、搭 多敷搭載し、乗員は二千二百二十名トン 満載四萬トン) 全長八百三十 載機数は常用八十一機、最大九十機 である。巡洋艦として計畫された 呎(飛行甲板八百八十呎) 幅員百五 まで、搭載可能で補用機を合すれば ものであるが、華府會議の結果航空 呎、裝備は八吋砲八門、五吋高角砲 百二十機内外となる、特に爆撃機を 母艦に改装一九二七年竣工した。

十五日(木) ◇陸軍シンガポールを大空襲前後二回に敵機卅二機を撃破◇陸軍部隊マレー西岸の要衝マラツカを占領同海峡を完全制壓

【大本營發表】十五日午前十一時四十分】 メナド方面帝國海軍特別陸戦隊は昨十四日までにセレベス島北部ミナ

ハサ州一帯の敵要地を攻略し、敵航空基地を占領せり、同作戦において戦車、野砲、機銃、小銃および爆弾その他軍需品多数を鹵獲せり。

【大本營發表 十五日午後三時】 一、帝國海軍航空部隊は十二日セレベス島中部東岸トモリ灣コロネダレ水上航空基地を攻撃し飛行機格納庫大小九個、兵舎二群その他を爆破炎上せしめ、その一部部隊はジロロ島テルナテを攻撃し、大倉庫二個を爆破五ヶ所に大火災を生ぜしめたり。

二、帝國海軍航空部隊は本十五日までにニューギニアの西部バボ、ソロン、モルツカ諸島のアンボン、ニューブリテン島のラポール等に對し數次の攻撃を敢行し、その重要軍事施設を炎上又は爆破せり。

【大本營發表 十五日午後三時卅分】 一、帝國海軍艦艇は九日我航空部隊と協力し〇〇方面に於て敵潜水艦二隻を撃沈せり。二、蘭印方面行動中の帝國潜水艦は本十五日までに敵船四隻計二萬七千トンを撃沈せり。尙同方面帝國海軍艦艇は商船三隻計四千トンを拿捕せり。

【大本營發表 十五日午後四時】 帝國陸軍部隊の一月七日より昨一月十四日までにおける各方面の戦況左の如し

一、マレー方面

1 西海岸方面 一月二日カンバル附近の陣地を突破せる我部隊は、スンカイ、タンジョン・マリムを経て追撃を續行し七日トロラク、スリム附近に堅固に陣地を構築せる有力なる敵に對し、攻撃を開始す、敵は數線に戦車障物物を設け、近代的築城を施し頑強に抵抗せるも追撃部隊は有力なる航空部隊の支援の下に、強大なる戦車部隊を骨幹とする歩戦砲工統合戦力を巧みに敵陣地の要部に指向して一舉に十五キロにわたる敵主陣地帯の全縦深を急襲突破し、隨所に敗敵を蹂躪し

て、約二個旅團の敵を殲滅し、戦車(輕裝甲車)五十輛、重砲十三門その他各種火砲五十五門、自動車五百餘輛を鹵獲せる外俘虜約二百を得たり、敵の遺棄死體三百を下らず、軍は引續き本道方面および海岸道方面より追撃を續行すると共に、舟艇機動部隊をもつて敵飛行機および潜水艦の追撃を避けつゝひそかに海上を機動してクラン南方モリブに上陸し、要衝クアラ・ルンプールの背後に進出せしむ、かくして卓越せる統帥と空地一體の神速果敢なる追撃とにより敵は士氣錯亂、部隊混亂し遂にクアラ・ルンプールの放棄して退却を開始するに至り、先鋒部隊は十一日完全にこれを占領

し十二日にはカヂヤン、カンボン・デンキルの線を通過しネグリ・センピラン州を経てすでにマラツカ州境を突破し十四日夕にはゲマスに突入、敵を急追中なり。

2 東海岸方面 三日クアンタン西方の飛行場を攻略せる部隊は、西海岸方面の主力部隊に策應し引續き南方に向ひ追撃を續行中にしてその先鋒はすでにベカン附近に達せるものゝ如し

3 陸軍航空部隊 は或は敵の砲兵陣地を爆撃して、戦車隊の進出を容易にし、或は敗走中の敵列車を粉砕してその退路を遮断し或はマラツカ海峡の敵船隻を求めて攻撃して敵の機動を阻止するなどひそかに地上部隊の戦闘に協力して、その追撃を容易ならしめつゝあり、又舊臘來選拔せる精銳機を以て十三回にわたりシンガポールを夜間奇襲して、敵をして應接のいとまなからしむるとともに敵に多大の損害を與へつゝあり、地上部隊のクアンタン、クアラ・ルンブル進出に伴ひ有力なる部隊の推進を完了し、十二日には戦爆連合の大部隊を以て三回にわたり晝間シンガポール周囲の飛行基地に大爆撃を敢行すると共に、敵戦闘機多數と激烈なる空中戦を交へ其の二十機を撃墜せり、當方面敵空軍はすでに士氣沮喪して戦意に乏しく、その大部はジャワ、スマトラ方面に退避せるものゝ如し。

二、ビルマ方面

開戦劈頭タイ、ビルマ國境に近接せる敵飛行場タポイ、メルギ、ビクトリアポイント等を急襲せる陸軍航空部隊は、舊臘二十三日、二十五日の兩日にわたり戦爆連合の大編隊を以て、ラングーンを空襲し敵新鋭戦闘機スピットファイヤー、ホーカー・ハリケーンと交戦、八十一機を撃墜(内十七機不確實)十四機を地上爆破し、敵空軍に殲滅的打撃を與ふるとともに埠頭軍事施設および發電所などを爆破炎上せしめたり爾後七回にわたりラングーン近郊ミンガラドン飛行場を三回にわたりモールメン港を攻撃し残存敵機並に諸軍事施設を潰滅せしめると共に船舶數隻を大破せしめたり。

三、比島方面

マニラ攻略後軍は新鋭部隊をもつて九日夕よりヘルモサ南方の敵を攻撃、これを南方に壓迫して多數の軍需品を鹵獲せり、鹵獲品中に嘯み性瓦斯手榴弾を多數發見、これを押收せり、翌十日以來、主力敗敵を急追しつゝ南進し、マバタン西方の錯雜せる地形を利用し堅固なる陣地を構築せる敵に對し猛攻中にして、その一部は十日スピック灣東岸の要衝オロンガボ、十二日にはグラデ島を攻略し要塞重砲二門を鹵獲せり、マニラ攻略に當り獲たる戦果中一月十二日までに判明せるもの左のごとし、

鹵獲品、火砲四門、機關銃五十挺、銃器一萬三千挺

銃砲彈六十七萬四千九百發、自動車五百輛、鐵道車輛七十六輛、船舶九十一隻、揮發油その他油類多量、糧秣、被服、衛生材料多量。

四、英領ボルネオ方面

英領ボルネオ上陸部隊はその後占領地附近の戡定作戦および敵側の破壊せる油田復舊に努めつゝありしが三日有力なる一部隊をもつてウエストンに奇襲上陸を敢行、ゼツセルトン、ポーフオードにありし約六百の敵を武装解除すると共に監禁中の邦人二百九名を救出せり、また舊臘クチン警備隊はパウ方面を掃蕩し、輕戰車二輛、自動車十五輛、ガソリン多量を鹵獲、俘虜將校二、下士官十四を得たり。

五、蘭領ボルネオ方面

蘭領ボルネオ方面作戦部隊は海軍部隊と協力し十一月午前零時二十分敵機の襲撃を撃退してタラカン島ア

十六日(金) ◇陸鷲、海鷲シンガポール強襲

【大本營發表】十六日午後零時四十五分】戰爆連合の帝國陸軍航空大部隊は昨十五日晝間第四次シンガポール強襲を敢行し左の如き戦果を収めたり。

一、重爆撃隊は午前十一時四十五分シンガポール上空に進入し同市並びにセラター市街の重要軍事施設を反復爆撃しこれに大火災を生ぜしめたり、同行せる我戰團隊は爆撃隊に協同してテナガー飛行場を低空攻撃し陸上にありし爆撃機七機を徹底的に銃撃破せり。

マル海岸に上陸し大密林中を隨所に敵を撃破しつゝタラカン市に向ひ急進、十二日午前同島防衛司令官以下多數の敵を降伏せしめたり。

六、支那方面

支那大陸における作戦は南方作戦に呼應し舊臘來重慶政權が呼號せし總反攻を機先を制してこれを徹底的に破砕し、着々戦果をあげつゝあり、大東亞戰爭開始以後一月十二日までに獲たる戦果左の如し。

遺棄死體一萬四千四百四十九、俘虜千七百八十八、迫撃砲十六門、山砲二門、機關銃八十七挺、小銃四千四百七挺その他軍需品多數にして我方の損害は戦死百八十一、戦傷五百八十なり。

なほ重慶側は最近長沙その他においてわが軍に大なる損害を與へたるごとく虚構宣傳に努めあるも右の戦果に徴するも事實無根なること明らかなり。

二、後續せる他の有力なる戰團隊は四千米の上空においてわが威力に懼伏し遁走せんとする敵バッファロー戰團機十三機を發見、これに猛烈なる攻撃を加へ降時にしてこの七機を撃墜せり、我に損害なし。

【大本營發表】十六日午後四時】一月十日までにおける帝國海軍の撃沈、拿捕せる敵船舶並に帝國船舶の損失累計左の如し。

一、敵船舶撃沈、拿捕累計 (イ)撃沈 潜水艦によるもの二十隻十三萬二千トン、飛行機によるもの十隻五萬七千トン右以外によるもの一隻二千トン (ロ)拿捕 七十八隻十七萬一千トン總合計百九隻三十六萬二千トン
二、帝國船舶損失累計 陸海軍民用合計十一隻四萬六千八百トン、なほ開戦以來帝國船舶にして拿捕せられたるものなし。

【大本營發表】十六日午後四時三十分】マレー方面帝國海軍航空部隊は昨十五日マレー半島一帯の密雲を冒し大編隊を以て第十五次シンガポール長距離偵察並に爆撃を敢行し、シンガポールテナガー飛行場、ジョホールバル北西方スクマイ飛行場及びクルアン飛行場等を強襲し、その重要軍事施設に大損害を與へたり、當時敵の禦防砲火熾烈なりしも我方損害なし。

【大本營發表】十六日午後七時四十分】マレー方面帝國陸軍航空部隊は、昨十五日午後戰爆連合の大編隊をもつて午前に引續き密雲を衝いて再度シンガポール大空襲 第五次を敢行、その上空において遁走せんとする敵戰團機群を捕捉して壯烈なる空中戦を展開し、忽ちバッファロー戰團機八機を撃墜、さらに悠々爆撃を実施しセンバワンおよびテナガー飛行場に猛爆撃を加へて、敵空軍施設を粉砕多大の戦果を収めたり、また他の一隊はマレー東岸の要衝エンダウを急襲し市内の重要軍事施設ならびに港内の船舶を爆撃、大火災を生ぜしめるとともに、同市附近に飛來せる敵偵察機一機を撃墜せり、なほ同日午前、午後の綜合戦果左の如し。
撃墜敵機十六機 地上撃破七機 計二十三機にしてわが軍の損害は友軍戦線内に不時着せるもの二機なり。

十七日(土) ◇陸鷲シンガポールを襲撃敵機十六を撃墜破

【大本營發表表】十七日午前十一時】一、帝國海軍特別陸戰隊は、十二日陸軍部隊と協力し、タラカン飛行場を占領せり。二、我が占領下のタラカン泊地哨戒中の帝國海軍航空部隊は、十三日敵双發爆撃機四機を撃墜せり。

三、タラカン方面作戦において我方掃海艇二隻を失へり。

【大本營發表表】十七日午前十一時三十五分】マレー方面の帝國陸軍部隊は一昨十五日正午頃マレー西岸の要衝マラッカを攻略し引續き敗敵を急追中なり。

十八日(日) ◇日獨伊三國軍事協定調印、獨伊、米に宣戰布告 ◇陸鷲シンガポールを奇襲敵十五機を撃墜 ◇海鷲シンガポールを爆撃軍事施設を破砕。

【大本營發表表】十八日午後三時五十分】戰爆連合の帝國陸軍航空大部隊は昨十七日、前日に引續きシンガポールに大空襲を敢行し、重要軍事施設ならびに市街周囲の飛行基地に對し甚大なる損害を與へたり、その狀況左のごとし。

一、我が有力なる爆撃隊は折からの快晴を利用し午後零時十五分シンガポール上空に進入、英東亞軍司令部その他市街中樞部の重要軍事施設に多量の大形爆弾を投下、これに命中せしめ大火災を生ぜしめると共に、ついでセレター水上飛行基地を強襲し大型(四發)飛行艇(シヨートサンダーランド)四機を炎上、同一機を大破せしめたり。

二、他の有力なる一隊は午前十時二十五分テンガー飛行場を大舉襲撃し、すでに戰意を失ひ地上に屏息しありし大(中)型機十一機を爆撃、これを撃碎せり。

三、我が軍の損害は友軍戰線内に不時着せるもの一機なり。

十九日(月) ◇ピルマの皇軍タヴオイを攻略 ◇香港占領地總督部を設置初代總督に磯谷廉介中將親補さる。

【大本營發表表】十九日午前三時】昨十八日伯林において日獨伊三國間の軍事協定調印せられたり、該協定は主として三國共通の敵に對する三國協同の作戰指導の要綱を決定せるものなり、署名者は日本側參謀總長、軍令部總長各代理、獨側は國防軍總參謀長、伊側は總軍參謀本部代表なり。

【大本營發表表】十九日午後一時】帝國陸軍航空大部隊は昨十八日晝間、前日に引續き戰爆連合して大舉シンガポールを空襲し、これに甚大なる損害を與へるとともに有力なる部隊をもつて地上部隊の果敢なる追撃作戰に協力し多大の戰果を收めたり、その狀況次の如し。

一、多數の戰闘機に護衛せられたる重爆撃隊は、午後一時三十分熾烈なる防空砲火を冒してシンガポール上空に進入し市街中樞部の重要軍事諸機關を猛爆するとともにセンバワン南部地區の油槽群を爆碎し、大火災を生ぜしめたり。

二、同行せるわが有力なる戰闘隊は同市上空において遁走せんとする敵バッファロー戰闘機十數機を猛襲し、忽ちにしてその十機を撃墜せり、また他の一隊は同北方地區において敵バッファロー戰闘機五機と遭遇、その一機を撃墜せり。

三、地上部隊の追撃作戰に協力中なりし有力なる戰闘隊は午前九時五十五分、マラッカ附近においてブレインハイム爆撃機一機を撃墜するとともに午後二時三十分、さらに同地附近に飛來せるバッファロー戰闘機二機、ロックヒード爆撃機二機より成る敵編隊を發見、遁走する該敵を急追して、シンガポール上空にこれを捕捉しその三機(ロックヒード機二、バッファロー機一)を確實に撃墜せり。

【大本營發表表】十九日午後三時三十分】マレー方面帝國海軍航空部隊は十六日、十七日シンガポール十六次、第十七次長距離爆撃を敢行し、テンガー飛行場上空において、バッファロー十機を撃墜地上においてブレイン

香港初代
總督
中將
磯谷

ハイム七機、ロツクヒード一機を銃撃破、他の一部隊はゼンバワン飛行場を急襲し、警戒せる敵大型機群ならびに軍事施設に對し猛烈なる攻撃を加へて敵大型機の數機及び格納庫一棟を炎上又は爆破し敵戦闘機一機を撃墜せり。

【大本營發表】十九日午後五時十五分 今回香港占領地總督部を設置せられ、香港占領地總督には陸軍中將磯谷廉介親補せられたり。

◇右につき十九日內閣辭令として左の通り發令された。

陸軍中將正四位勳一等功二級 磯谷 廉介

補香港占領地總督

【大本營發表】十九日午後五時四十分 一、比島方面帝國海軍航空部隊は十六日ダバオ南方マリタ及びグラン電信所を爆破、十八日セブ島在泊船舶を攻撃、三千トン級一隻、一千トン級二隻、五百トン級一隻に命中彈を與へたる外、十八日までに數次にわたりコレヒドール要塞を攻撃し戦果をあげたり。

二、帝國海軍航空部隊はニューギニアラポール飛行場およびブナカナウ飛行場を攻撃、ブナカナウ飛行場においては滑走路及び施設に全彈命中二箇所に大火災を生ぜしめたり。

三、帝國海軍特別陸戰隊は十六日セレス島最北端リクパンを占領し附近要地の敵を掃蕩せり。

二十日(火) ◇陸軍戰爆連合の大編隊でシンガポールを爆撃敵機七を撃墜 ◇海鷲シ港を襲撃敵四十六機墜特務艦一隻を撃沈

【大本營發表】廿日午後三時三十分 十八日帝國海軍航空部隊第十八次シンガポール爆撃において、わが爆撃隊を援護し歸途につけるわが戦闘機隊九機は、コタチンギ上空において追躡し來れる敵二十數機と斷雲を縋ひつゝ猛烈なる空中戰を交へ敵バツファロー十五機を撃墜せり、我方二機雲下に突入せるまゝ未だ歸還せず、本爆

海鷲戰果
(一月二
十四日參
照)

撃隊攻撃によりシンガポール軍港西部施設ならびに重油槽群爆碎せられ、重油槽炎上中。
コタチンギ コタチンギはシンガ よりメルシンおよびエンダウに通ず 衛の重要據點である。
ポール軍港水域に注ぐジョホール河 最も防備されたコタチンギ街道の上流にありジョホール・バル 中間に位し、ジョホール州東海岸防

二十一日(水) ◇議會再開東條首相大演說堂々大東亞戰爭指導方針を闡明 ◇海鷲第十九次シンガポール大爆撃、中樞部に大火災起し敵十二機を屠る。

東條首相、施政方針演說

東條首相は第七十九議會再開日の二十一日、貴衆兩院本會議場、劃期的な施設方針演說を行ひ議場に空前の感銘を與へた、すなはち東條首相の演說は大東亞戰爭の指導要綱ともいふべき點を大膽率直に表明した。

先般開院式に當つては、特に優渥なる勸語を賜はり洵に恐懼感激に堪へぬ、私は諸君と共に、謹んで聖旨を奉體致し、全力を擧げて職責の遂行に當り、速かに戰爭目的を達成し、もつて聖慮を安んじ奉らんことを期する次第である。

大東亞戰爭開始以來、皇軍の掃ふところ敵なく、いたるところ赫々たる戦捷を收め、短時日にしてすでに大東亞における敵の要衝の大部分を覆滅し、一方重慶政権に對しても、また益々壓迫を強化し、さらに北邊

の護り磐石の安きにあり、よつてもつて帝國の威武を中外に宣揚しつつあることは、誠に御同慶の至りである。これ偏に御稜威の然らしむる所であつて感激に堪へない、しかして廣大なる地域にわたり、寒暑を克服して勇戦力闘、よくこの偉大なる戦果を收めつつある我が忠勇無比なる陸海軍將兵の勞苦と武勳とに對しては、衷心より感謝し且敬意を表する次第である。また護國の英靈に對しては、ここに敬弔の誠を披瀝するとともにその遺族並に傷病將兵に對しては深き同情を表する次第である。

米英屈服迄戦ひ抜く

そも、帝國の現に遂行しつつある大東亞戰爭指導の要諦は、大東亞における戰略據點を確保するとともに、重要資源地域を我が管轄下に收め、もつて我が戦力を擴充しつつ、獨伊兩國と密に協力し、互に呼應し、ますます積極的作戰を展開し、米英兩國を屈服せし

議會再開
海鷲シ港
爆撃(一)
日參照
首相大演
に於て大
東亞戰爭
指導方針
を闡明

むるまで戦ひ抜くことである、しかるに米英兩國は、永年にわたり世界制覇の基礎を固め、世界最大の富強を誇るものである、緒戦の大敗にかゝらず、必ずや執拗にわれに抗し、大勢の挽回を計り来るべきは想像するに難くない、故に今後各種の困難なる事象が発生して参ることも、あるひはまたこの戦争が長期戦となることも、當然覚悟せねばならない、すなはち戦争は正に今後にある、我が征戦の目的を達成せんがためには全國民はいよゝゝ必勝の信念の下如何なる艱難辛苦をも堪へ忍び、もつて國家に報すべきである、しかしこの勤儉尙武献身報國の精神こそは、現下の難關突破のためのみならず帝國將來の發展のためにも絶対缺くべからざる要件なのである。

共榮圈建設の根本方針

帝國は今や國家の總力を擧げて専ら雄大廣汎なる大作戦を遂行しつつ、大東亞共榮圈建設の大事業に邁進してゐる、しかし大東亞共榮圈建設根本方針は、實に帝國の大精神に淵源するもので、大東亞の各國家および各民族をして、各々その所を得しめ、帝國を核心とする道義に基く共存共榮の秩序を確立せんとするにある、しかしその建設は廣大なる地域に亘り、各種の民族と相倚り相携へて行はれるのである、しかも今回新にこの建設に参加せんとする地域たるや、資源

極めて豊富なるにもかゝらず、最近百年の間米英兩國等の極めて苛烈なる搾取を受け、ために文化の發達甚だしく阻害せられたる地域である。

帝國がこの地域を加へて、人類史上に一新紀元を劃すべき新なる構想の下に、大東亞永遠の平和を確立し進んで盟邦とともに世界新秩序の建設をなさんとすることは、正に曠古の大事業である、しかし、この大事業の成功は、またわが武力戦の成功を窮極の勝利に導くための必須の要件なのである。

香港、マレーは確保

この建設に當つては、大東亞防衛のため絶対必要な地域は、帝國自らこれを把握措置し、その他の地域に關しては、各民族の傳統文化等に應じ、戦局の進展に伴ひそれゝ適宜なる處置に出づる考へである。

今や帝國陸海軍はすでに香港を占領し、比島の大部分を確保し、またマレー半島の大半を制壓し、さらに最近に至りては、蘭印の要衝を占據するに至つたのである、これら諸地域の内、香港およびマレー半島は多年英國の領土であり、かつ東亞禍亂の基地たりし事實に鑑みて、帝國は徹底的に禍根を排除するのみならずむしろこれ等をして大東亞防衛の據點たらしめんとするものである。

比島ビルマ獨立許容

比島に關しては、將來同島の民衆にして、帝國の眞意を諒解し大東亞共榮圈建設の一翼として協力し來る場合においては、帝國は欣然として彼等に獨立の榮譽を與へんとするものである、ビルマ等についてもまた帝國の企圖するところは比島と異なるところがないのである、蘭印および濠洲については、これ等が現在のごとく、帝國に對し、抗戦の態度を繼續するにおいては、帝國は容赦なくこれを撃砕せんとするものである、しかしながらその住民が、帝國の眞意を諒解して協力して参つたならばその福祉と發展とのためには帝國は十分の理解を以てこれに力を添ふるに吝でない。

今日尙重慶政權が、無意義の抗戦を繼續しつつあることは洵に遺憾である、帝國はこれを徹底的に破砕せんとするものである、私は今こそ彼等がこの世界情勢の大變換を正視し、驟然米英依存の舊套を一擲して、大東亞共榮圈建設の大事業に馳せ参すべき時期であることを確信するものである。

滿、華、泰の諸國民が帝國と一丸となつて大東亞共榮圈建設のために不斷の努力をなしつつあり、佛印またこれに協力しつつあることは、まことに慶祝の至りである。

一方盟邦とくに獨伊兩國が、帝國とともに世界新秩

序建設のため、着々と戦果を擧げつつあることは洵に同慶に堪へないところである、帝國は是等盟邦との間に軍事、外交、經濟等各般にわたり、今後益々結束を固くし、もつて共同の目的達成に邁進せんとするものである。

軍政下に建設を準備

帝國の企圖する建設は、緒戦當初においてはまづ軍政下において戦争遂行上緊要なるものより着手し、かつ將來の大建設を準備し、防衛及び治安の確立に伴ひ逐次民間參與の範圍を擴張せんとするものである、しかし帝國の企圖しつつある大東亞建設の方策は、國家百年の長計たるに鑑みて、十分の準備を整へて萬全の策を講ずるの要があるのである、政府は廣く官民各方面の智能を動員して、これが協力によつて、その樹立とその遂行とに萬遺憾なきを期せんとする所存である。

戦争遂行に國家總力

以上の情勢に應じ國運進展を期するために、帝國今日の急務は國家の總力を擧げて専ら、武力戦において屈敵の戦果を擴大するとともに、戦争遂行力の強化を促進して、必勝の態勢を確保するにあるのであつて、各般の施策もまたこれに集中すべきことを政府は確信

するものである。是において政府は國政各部門にわたつて、戰爭遂行に必要な方策を確定し、かつ迅速にこれを實行したいと考へて居るのである。すなはち戰時生産力の維持増強を圖るためには、特に緊要なる企業中優秀なるものに對し、重點的に資材、勞力、電力資金等を集中し、もつて既存設備の最高度活用を圖るとともに、重要國防産業の生産擴充に格段の考慮を拂ひ、また國民生活確保のためには、戰時食糧對策の整備に違算なからんことを期してゐるのである。しかし今日におけるもつとも重大なる問題は、資源不足にあらずして、むしろ交通運輸の整備如何に存するに鑑み、船舶の建造には特に力を用ひ、もつて交通運輸の改善強化を圖りたいと存するのである。また國策遂行のためには民間資金の蓄積が絶対に必要である。よつて政府は國民貯蓄の増強のために今後一層努力を致す

所存である。開戦以來わが國民の活動の範圍は著しく擴大せられその責任もいよ／＼重くなつたのであつて、今や國民の素質の向上と人口の増加とは、戰爭遂行のためにも將また建設完成のためにも、絶対に必要となつたのである。これがため教育全般の刷新強化に大に力を致すとともに、國民保健施設および醫療制度の根本的整備を行ひたいと存する次第である。以上申述べたる趣旨に基き、政府は豫算案及び法律案を提出した次第である。何卒速かに協賛を與へられんことを切望する。かほ終りに臨み友邦より帝國に與へられたる厚意に對し深甚なる謝意を表明するとともに、國民各位が相協力して、職域奉公の實を擧げつつある愛國の至情に對して衷心より敬意を表する次第である。

【大本營發表】二十一日午後六時 帝國陸軍部隊は一月十七日「カウメイダン」(タウグオイ東北方二十八キロ)附近に陣地を占領せる約六百の敵を夜襲これを潰滅し、更に同十九日未明タウグオイ附近の敵陣地を攻撃して午後七時三十分「タウグオイ」を完全に占領せり、「タウグオイ」附近攻略の戦果左の如し。
 鹵獲品 山砲二門、機關銃十一挺、銃器三百十八挺、各種銃彈約十萬發、自動車十輛、その他鹵獲品多數、俘虜百五十一、遺棄死體五百七十。
 タウグオイ わが軍によつて占領さ ルフラム鎮、ダングステンなどの産 産せられる。また附近にはゴムの栽培されたタウグオイはテナセリウム州鑛業 地として知られてゐるビルマにおけ 培も行はれチーク材の集散地として地帯の中心地人口およそ三萬ッオ るこれらの鑛物の大部分はこゝから も有名である。

モールメン モールメン河口より 産物の輸出港として知られ、附近は レーとともに戦前ビルマ軍の駐屯地約四キロ上流にある商港で、人口約 ゴムの栽培が盛んで近郊には大型機 であつた。六萬、ビルマ第三の都市である。農 の飛行場がある。ミヤワジ、コーカ

【大本營發表】二十一日午後六時二十分 帝國陸軍航空部隊は昨日二十日戦爆連合の大編隊をもつてシンガポール大空襲を敢行、熾烈なる防禦砲火を冒して偉大なる戦果を収めたり、その状況左の如し、
 一、午前十時四十五分シンガポール上空に進入せる重爆撃隊は市内軍事、政治の中樞部に巨弾を連續投下その全弾を命中せしめ、他の輕爆撃隊は同十時四十九分セラター飛行機組立工場を襲撃七箇所より火災を生ぜしめたり、二、重爆撃隊を援護中の我戦闘機隊は挑戦し來れる敵戦闘機ホーカー・ハリケーン十機と交戦、その七機を撃墜せり、三、我方戦闘機一機はまだ歸還せず。
 (註) ホーカー・ハリケーン機は英の最新鋭の高速單座戦闘機で機關銃十二門、機關砲四門を備へてゐる。特に操縦性と武装において優れてゐる。最大時速五百四十キロ、巡航速度四八〇キロ、上昇限度一一、〇〇〇米

二十二日(木) ◇海鷲スマトラ方面及びシ港を爆撃◇ビルマ進攻部隊シャン山系の突破に成功、先遣部隊カウカレイ平地に進出。

【大本營發表】二十一日午後五時 一、帝國海軍航空部隊は十五日以降連日にわたり蘭印方面一帯に分散せる敵機を索めてバリツクバパン(ボルネオ島)マカツサル、パロポ、コロネダレ、ケンダリー(セレベス島)テルナテ、ラブハ、ハルマヘラ島)アンボン(セラム島)などを攻撃、所在機合計十機(内飛行機六)を撃墜破し各基地施設を爆破せり。二、帝國海軍航空部隊は十九日スマトラ方面に對し索敵攻撃を實施しサバン港およびメダン港の港灣施設ならびにサバン港在泊中の二千トン級敵船一隻を爆破せり。

二十三日(金) ◇東條首相議會に於て大東亜經濟建設の方略を闡明 ◇海軍陸戰隊ビスマルク群島を急襲、ニューブリテン島ラバウル、ニューアイルランド島カビエングに上陸。

首相、大東亜經濟建設方略闡明 大東亜建設の方略に關しては議會再開劈頭に行はれた東條首相の施政演説によつてその指導要綱が中外に闡明されたが、二十三日の衆議院豫算總會においては、さらに右指導要綱實現の具體的方策に論議が集中し、南方經濟建設に關する首相の基本方針は左の通り。

既に施政方針演説において、又本會議の答辯において 體制の基礎を確立するといふことを主眼としてゐる。しかしてこれがため具體的方針としては、第一には資源獲得特に戰爭遂行上緊要なる資源を確保すること、第二には南方資源が敵性國家に向け流出するを阻止すること第三には作戰軍の現地の自活を確保すること、第四には在來の企業我が方に對する協力を誘導すること、以上の四點を主眼としてことを進めてゐる次第である。

【大本營發表表】二十三日午後四時十五分 帝國海軍航空部隊は二十一日第十九次シンガポール大爆撃を敢行せり 戦果左の通り。

- 一、シンガポール軍事、政治中樞部に全弾命中、數箇所到大火災を生ぜしめたり。
- 二、同港在泊中の敵船二隻を爆撃し一隻を爆沈、他の一隻を大破せり。
- 三、テンガー飛行場施設を爆撃し敵大型機十一機を炎上又は爆破せる外、挑戦し來れる敵スピットファイヤー一機を撃墜せり、なほ本攻撃において我が方一機自爆せり。

二十四日(土) ◇陸軍部隊蘭領ボルネオ東岸の要衝バリックパパンに敵前上陸 ◇海軍陸戰隊セレベス島ケンダリーに敵前上陸、ニューアイルランド島カビエングを完全に占領更に戦果を擴大中。

【大本營發表表】二十四日午後四時十五分 一、帝國海軍航空部隊は二十日、廿二日第十九次、第二十二次シンガポール大爆撃を敢行せり戦果左の通り。

- (一) シンガポール飛行場を爆撃し敵機二十八機(内大型四)を地上撃破せり (二) シンガポール上空において猛烈な空戦により敵新鋭十八機を撃墜せり (三) 同港在泊中の特務艦一隻を爆沈せるほか工場地帯、船渠附近施設二箇所ならびに格納庫一棟を炎上せしめたり。

なほ本攻撃において我方一機を失へり(註) 二十三日發表文中二十一日の十九次とあるは二十次の誤りにつき訂正す

二、帝國海軍航空部隊は二十日、二十二日スマトラ島方面を索敵攻撃し、ヤナン島附近において二千トン級敵船一隻を破壊、ラブハンデリー港において四千トン級、六千トン級敵船各一隻を爆沈せる外、同港油槽倉庫を炎上せしめたり。

【大本營發表表】二十四日午後五時十五分 一、帝國陸海軍部隊は緊密なる協同のもとに、一月二十三日未明、敵の抵抗を排除してニューギニア島東方ニューブリテン島ラバウル附近の上陸に成功し、着々戦果擴大中なり

二、帝國海軍特別陸戰隊は同日未明ニューアイルランド島カビエングの敵前上陸に成功せり。

【大本營發表表】二十四日午後九時 帝國陸軍航空部隊は一月二十一日以來マレー、蘭印およびビルマ方面に果敢なる空襲を敢行し、多大の戦果を收めたりその状況次の如し。

- 一、一月二十一日 戦爆連合の大部隊は大塚シンガポールを空襲し市街中樞部テンガー飛行場、セレーター工場地帯を爆撃し、七箇所より火災を生ぜしめるとともに、當時哨戒中なりし敵バツファロー戦闘機十機と交戦その六機を撃墜せり。

二、一月二十三日 一、ビルマ方面陸軍航空部隊はラングーン周辺の飛行場を襲撃しビルマ空軍に對し多大の損害を與へたり、その戦果次の通り。

有力なる戦隊は午前十一時四十五分ラングーン上空において敵戦闘機トマホーク、スピットファイヤーなど十機と交戦その七機を撃墜せり、又戦隊連合の大部隊は午後二時ミンガラドン飛行場を襲撃しその滑走路を爆砕するとともに、戦隊は敵トマホーク十數機と交戦その十二機を撃墜せり、さらに他の有力なる戦隊は挑戦し來たる約三十機の敵戦闘機群と猛烈なる空中戦を展開し、その三機を確實に撃墜せり、我が方自爆一機未だ歸還せざるもの二機。

2、マレー方面陸軍航空部隊は有力なる部隊をもつてバレンバンおよびセレター飛行場を攻撃し次の戦果を収めたり。

バレンバン攻撃部隊は長驅千餘キロを翔破して午後零時九分バレンバン飛行場を襲撃し地上にありしボーイングB一七型一機を炎上せしむるとともに、挑戦し來たるカーチスホークP三六型戦闘機五機を撃墜したるのち全機無事歸還せり、またセレター攻撃部隊は午前十一時十七分セレター組立工場及び滑走路に多數弾を命中せしむるとともに、大型爆撃機二機を炎上、同一機を大破せしめたり、同行中の戦隊はホーカーハリケン及びバツファロー敵戦闘機十二機と交戦、その十一機を撃墜せり、我に損害なし。

3、この日における総合戦果は撃墜敵機三十八機、撃破四機、計四十二機なり。(註)トマホークとは米國製P四十型にして英國に譲渡後改名せるものをいふ。

二十五日(日) ◇陸軍部隊蘭領ボルネオのパリツク・パパンを完全に占領引つゞき残敵を掃蕩◇泰國米英へ宣戦布告直ちにビルマ領進撃を開始。

パリツク
全占領完
一月十八日
参照

【大本營發表表】二十五日午後四時四十分 帝國陸軍部隊の一月十五日より同二十三日までにおける各方面の戦況

次の如し。

一、マレー方面

1 西海岸方面 西海岸方面を進撃するわが部隊は十五日正午要衝マラッカを占領し、引續き追撃を續行、その先鋒部隊は同日夜既にムアール河を渡河し、同河左岸の敵に對し攻撃を開始す。當面の敵はダムビン、マラッカの線において抵抗を企圖せるも、わが果敢なる追撃を拒止し得ず、新たに後方より有力なる兵團を招致しムアール河、ゲマスの線において眞面目なる抵抗を企圖せるもの、如くムアール河左岸一帯には堅固なる陣地を構築し敵の抵抗また頑強を極む、この間、わが有力なる海上部隊は克く執拗なる敵飛行機の攻撃と隨所に出没せる敵潜水艦の脅威とを排撃しつゝ十六日午前十一時頃バト・バハ附近に上陸しムアール河左岸の敵背後を急襲す。主力部隊はこの機を逸せず川幅四五百メートルの大河を強行渡河して攻撃を敢行し遂に二十日バクリおよびパリツク・スロン附近、ムアール河左岸一帯の地區を占領し、更に戦果をジョホール平原南方に擴大中にして、その先鋒は二十二日ヨンベン西南方地區に進出せり、ムアール河畔の戦隊において敵の獨立第四十五旅團を殲滅せしこと確實にして、二十三日までに判明せる戦果左のごとし。

2 中央方面 マレー半島中央方面を進撃するわが部隊は十三日セレンバンを、十四日ダムビンを占領し、十六日以來ゲマス東方地區に陣地を占領せる有力なる敵に對し攻撃を開始す。當面の敵は頑強に抵抗せるもわが強力なる部隊の迂回により十八日拂曉來退却を開始せり、よつて部隊は機を失せず敗敵を急追して十九日夕その先頭はバツ・アナム附近を突破し廿日セガマツトを完全に占領せり、爾後部隊はジャングル地帯を克服しつゝ隨所に敵の抵抗を破砕して二十二日その先鋒部隊はラビス西方地區に進出し引續き南進中なり十三日セレンバンにて押収せる鐵道資材左の如し。

3 東海岸方面 クワントン方面より南下中のわが軍は有力なる部隊をマラン、カラクを経てクアラ・ルンブルに向ひ轉進せしむるとともに爾餘の部隊をもつて十五日午前十時エンダウ北方地區に達し、エンダウ河の敵前渡河を準備す、當面の敵は十七日夜以來退却を開始するに至り部隊は二十日エンダウを占領し引續き敵を追撃して二十二日午前メルシン北方地區に達し爾後同地附近の敵を攻撃中なり。

4 陸軍航空部隊 一月十五日來連日に亘り戦隊連合鹵獲品 十サンチ級火砲八門、戦車(輕裝甲車を含む)約四十輛、自動車數百輛、俘虜少くも七百。

の大編隊をもつてシンガポール大空襲を續行し市街重要軍事施設を徹底的に潰滅せしむるとともに残存敵空軍に致命的打撃を與へつゝあり、開戦以來シンガポールを空襲せること實に二十八回の多きに達す、敵は我軍の連日に亘る猛襲にも拘らず、蘭印及び印度方面より多數の精銳機を増援し抗戦を繼續しつゝあるもの如し、なほわが有力なる部隊は地上部隊の果敢なる追撃作戦に密に協力して着々戦果をあげつゝあり、この間における戦果左の如し。

撃墜五十五機、撃破五十三機、計百八機。

二、ビルマ方面

1 泰緬國境を突破せる我軍は十七日テナセリム河を渡河し同日夜半カウメイダン附近に陣地を占領せる約六百の敵を夜襲これを潰滅するとともに、十九日未明長驅テナセリム地方の要衝ダグオイを衝き午後七時三十分これを完全に占領し爾後の作戦を準備中なり、ダグオイ附近攻略の戦果左の如し。

鹵獲品 山砲二門、機關銃十一挺、銃器三百八挺、各種銃彈約十萬發、自動車十輛、その他鹵獲品多數、俘虜百五十一、遺棄死體五百七十。

2 陸軍航空部隊は泰緬國境山嶽地帯の地上突破作戦に密に協力するとともに大舉ラングーンを空襲し多大の戦果を收めたり、また一月十七日有力なる部隊は蒙

自飛行場に進攻し、西南支那方面重慶空軍の再建を徹底的に破砕せり、この間における戦果左の如し。
撃墜三十七機、撃破十三機、計五十機。

三、比島方面

1 バタアン半島およびコレヒドール島要塞に餘隙を保ちつゝある敵を攻撃中なるわが部隊はナチブ山麓一帯の險難なる地形を克服しつゝ主力は十四日マバタン河の線を越え要衝アブカイを攻略、爾後要點を奪取しつつ敵陣地を蠶食中なり、またオロンガおよびグラソデ島を攻略せる部隊は、さらにモロン地區に躍進し二十一日激戦の後マウバン附近の敵陣地を突破して南進すると共に一部をバガツクに迂回せしめ、半島唯一の東西連絡線を遮断せり、バタアン半島方面の敵兵力はその數三萬五千を超ゆるものごとし、なほオロンガおよびグラソデ島攻略戦の戦果にして十五日以降において判明せるもの左のごとし。

四十センチ加農砲二門、二十五センチ加農砲四門、二十センチ加農砲、十五センチ榴彈砲各一門、十五センチ加農砲三門、高射砲二門、野砲七門、その他彈藥等多數。

2 陸軍航空部隊はバタアン半島に據る敵を攻撃中の地上部隊の戦闘に協力し敵陣地を爆撃すると共に、コレヒドール島要塞附近の艦船を攻撃し、多大の損害を

與へ敵を制壓しつゝあり、その間における戦果左の如し。

撃墜八機。

四、蘭印方面

1 蘭領ボルネオ・タラカン島に上陸せる部隊は未だ降伏せざる殘敵を掃蕩中なりしが、十四日ジウサタ及びゴシチャゴールの油田の接收を以て全島の機定を終り、なほ同島において收めたる戦果左の如し。

俘虜八百七十四、高射機關銃九門、重機關銃六十九挺、小銃五百五十六挺、装甲自動車十五輛、自動車など六十七輛、彈藥その他軍需品多數、タラカン島機定作戦における我軍の損害左のごとし。戦死八、戦傷三十二(軍屬一を含む)。

2 陸軍航空部隊は厦々スマトラ島敵空軍基地を空襲し蘭印空軍に對し多大の損害を與へつゝあり、その状況次の如し。

一月十七日戦爆連合の大部隊は、バカンバル飛行場を襲撃し大(中)型九機を炎上、同五機を爆破せり、一月二十三日有力なる部隊は長驅千餘キロを翔破してパレンバン飛行場を強襲し大型一機炎上、戦闘機五機を撃墜せり。

五、英領ボルネオ方面

クチン攻略部隊は英蘭國境に蠢動する蘭軍を攻撃、これを撃退しつゝ前進し、十六日蘭領ボルネオ西部要衝ピサンを奪取し、引續き進撃中なり。

六、ビスマルク群島方面

一月二十三日未明ニュー・ブリティン島ラバウル附近に上陸せる陸軍部隊は、頑強なる敵の抵抗を排除して、午後一時三十分ウナカナウ飛行場(ラバウル西南方)を完全に占領せり、ウナカナウ占領の戦果左の如し。

鹵獲品 飛行機三機、火砲七門、その他多數。

七、支那方面

各方面にわたり敵を撃滅して重慶軍の蠢動を完全に破砕せり、大東亞戰爭勃發以來一月中旬迄に判明せる戦果次の如し。

鹵獲品 迫撃砲三十門、重機關銃五十五挺、輕機關銃七十七挺、小銃七千二百二十四挺、俘虜三千八百十九、遺棄死體三萬五千九百二十八。

八、占領地の状況

軍は占領地に對し軍政を施行し住民克く皇軍の眞意を諒解し積極的に治安回復に協力しあり、敵は退却に

當り軍事施設のみならず交通、通信、重要産業諸施設にわたり、徹底的にこれを破壊せるをもつてその回復容易ならざるものもあるも、占領地各般の建設は逐次その緒につきつゝあり、但し香港は一月十九日香港占領

ケンダリ
一占領
一月二
十九日
参照

二十六日(月) ◇陸鷲ビルマ第一次航空作戦開始、ラングーンを大舉空襲◇海軍陸戦隊セレベス島ケンダリを完全占領◇海鷲大東亞海一帯を痛爆◇衆院豫算總會臨時軍事費を可決。

【大本營發表】二十六日午前十一時四十五分】帝國陸海軍部隊は緊密なる協同のもとに一月二十四日未明敵の抵抗を排除してボルネオ島バリツクパパンの上陸に成功し戦果擴大中。

バリツクパパンはボルネオ南東の飛行基地が存在し又一般交通上よは郊外の廣大な一地域に居住し市街岸に注ぐサム河口バリツクパパン灣りみてもタラカンよりスラバヤに通に雜居するものはあない。人口約二東側に位し、本港はB・P・M(はずる定期航空機が發着し、タラカン萬九千政廳、税關、港務部はじめ各タフセ石油會社所在地として發展とともにボルネオにおける一大要衝施設がある、當地はいふまでもなくしてきたもので、一般商港としてのをなすものであつて蘭印當局がこの同方面の石油鑛業の中心でB・P・色彩はない、港灣施設としては税關地を重視してゐたことが窺はれる。Mの施設としては精油工場、試験工場、棧橋B・P・M所屬棧橋、倉庫等をバリツクパパン灣の灣内に面する部場、發電所等があるが、バラフィン有してゐる。なほ當地は蘭印陸海軍分は殆どB・P・Mの施設に専有せ工場は世界最大最良の施設を有するの守備嚴重で砲臺などの施設も施され市街はその南東方外海に面すると稱せられる。れ守備隊が駐在し陸上水上の強力な部分に建設されてゐるがオランダ人

【大本營發表】二十六日午後四時】一、帝國海軍特別陸戦隊は一月二十四日未明、セレベス島ケンダリの敵前上陸に成功し、目下所在の敵を掃蕩中なり。
二、二十三日カビエングに上陸せる帝國海軍特別陸戦隊は、二十四日同地を完全に占領せり。

エンダウ
沖海戦
一月二
十九日
参照

二十七日(火) ◇陸軍部隊海上機動により蘭領ボルネオ西岸のバマンカットに上陸、長驅要衝サンパスを占領◇我驅逐艦マレー東岸エンダウ沖合にて英驅逐艦二隻を撃沈◇海鷲昨日に引つゞき大東亞海を制壓兩日の戦果敵機四十五を撃墜又シンガポール、スマトラをも爆撃

【大本營發表】廿七日午前十時】帝國潜水艦はスマトラ、ジャバ方面に活躍し廿二日までに敵船十三隻計八萬八千トンを撃沈せり、撃沈敵船左の通り。

一萬五千トン級一隻(大型武装商船) 八千トン級三隻(油槽船、商船、貨物船各一) 五千トン級二隻(輸送船貨物船各一) 四千トン級二隻(商船、貨物船各一) その他五隻(三萬一千トン)

【大本營發表】二十七日午後四時五十分】帝國陸軍航空部隊は一月二十六日マレー、ビルマ方面において敵機五十機(うち不確實十機)を撃墜し、近時増強を見つゝある敵空軍に對し、鐵槌的打撃を與へたり、その狀況左のごとし。

一、午後四時三十分頃マレー東岸エンダウ附近上空において、わが船團の攻撃を企圖せる戦爆連合の敵大編隊(ロックヒード、ハドソン爆撃機九機、雷撃機十數機、コンソリデーテッド哨戒爆撃機若干、ホーカー・ハリケーン戦闘機若干、バツファロー戦闘機四、五機)を反撃しその雷撃機十二機(うち不確實一)コンソリデーテッド爆撃機一機(不確實)ロックヒード・ハドソン爆撃機三機、うち不確實一)ホーカー・ハリケーン戦闘機三機(うち不確實一)バツファロー戦闘機五機、計二十四機(うち不確實四)を撃墜せり
二、午後七時ごろ、さらにエンダウ附近上空において爆撃機と判断せらるゝもの十五、六機、ホーカー・ハリケーン一機の敵編隊群を急襲してその十五機爆撃機らしきもの十四機、ハリケーン一機を確實に撃墜せり。
三、正午ごろ、第三十三次シンガポール大空襲を敢行し、テンガー飛行場を猛撃、大火災を生せしむると共に哨戒中の敵機二機のうちホーカー・ハリケーン一機撃墜せり。
四、午前十一時四十分ごろ、ラングーン上空において挑戦し來れるスピットファイヤー十二、三機と激烈なる

空中戦を交へ、その十機（不確實六機）を撃墜せり。
五、この日におけるわが軍の損害、歸還せざるもの一機、友軍戦線内に不時着せるもの一機なり。

【大本營發表表】二十七日午後五時三十分】一、帝國海軍航空部隊は一月二十二日以降數次にわたりバリツクババン、サマリンド、パンジェルマシ、アンボン、ナムレア（蘭印方面）ラバウル（ニューギニア方面）などの大爆撃を敢行し敵機四十五機（うち飛行艇二を撃墜破し、各地砲臺、高角砲陣地、兵舎など諸軍事施設に大損害を與へたり、本攻撃において我方二機を失へり。

二、帝國軍艦搭載機（水上偵察機）一機は十七日比島サランガニー上空において敵數機と壯烈なる空中戦を交へ敵双發爆撃機一機を撃墜せり。

三、二十四日バリツクババン攻略において我輸送船團護衛艦艇は敵驅逐艦、潜水艦及び航空兵力と激烈なる交戦の結果敵潜水艦一隻を撃沈せるも我方また輸送船四隻を失へり。

パンジェルマシ、ボルネオ南東 十一年における人口約六萬四千三百 バリツクババン、タラカンに至る蘭部バリト河の支流であるマルタブラ 港灣施設は構橋、倉庫を備へ、また 領印度航空會社經營の定期航空路が河の北岸に位するボルネオ第一の都 航空施設は同地の東方約二十六キロ あり、有線、無線の通信施設が備へ會である背後に廣大な農地帯をひ のウリンに蘭領印度航空會社の飛行 られてゐる。かへゴム、米の集散地であると共に 場あり、完備した鋪裝道路により連 三、サマリンド、ボルネオ東岸の主要十七世紀初頭以來砂金、林産物の輸 絡されてゐる。なほ當地には軍隊が 商業地で、和蘭汽船會社の棧橋倉庫出港として發展して來たもので、現 駐在し市街のほぼ中央に兵營がある および多數の小棧橋が設けられ、市在南東ボルネオ州の首府であり、理 和蘭汽船會社定期船が寄港し、また 街は開港場で副理事官駐在し、蘭印事官が駐在してゐる。附近一帯はゴ 附近の主なる河川は何れも運河によ 政府の管轄諸廳がある。人口約一萬ムノ栽培が盛んで邦人當業者の進出 りバリト河に通じ、和蘭汽船會社は 一千、和蘭汽船會社船が寄港する。顯著である。その輸出額は蘭領東印 當地を起點として河川航路を經營し ナムレア セラム島の西ブル島、度全體の十パーセントをしめ、昭和 てる。なほストラバヤより當地經由 （南北約八十哩、東西約六十哩）の

東海岸カエリ灣の北岸に位する小邑 行場を建設し敵の前進飛行基地の一である。蘭印當局は最近この地に飛 つとなつてゐた。

【大本營發表表】二十七日午後九時】マレー西海岸方面帝國陸軍部隊が一月二十日バクリ及びバリットスロン附近の戦場において收めたる綜合戦果左の如く我と交戦せし敵獨立第四十五旅團の全滅せしこと略々確實なり。

一、交戦せる敵兵力累計八千二百、遺棄死體千八百十、俘虜千百、なほ俘虜の言によれば敵の旅團長は二十日バクリにおいて戦死せり。

二、遺獲品 野砲九、十サンチ加農砲一、迫撃砲二十一、速射砲九 自動砲九、重機關銃四十二、輕機關銃百九、小銃一千三百三十、輕裝甲車二十九、自動貨車四百、乗用車十四、地雷二十四箱、火焰壺百、彈藥その他多數。我が損害は戦死百三十九（將校九）戦傷百六十三（將校十一）なり。

二十八日（水） ◇海鷲昨日に引續きシンガポール、スマトラ等を爆撃敵の輸送船團を撃滅◇ビルマの皇軍モールメン總攻撃を開始。

【大本營發表表】廿八日午前十一時卅分】帝國陸軍部隊は一月廿五日午前一時蘭領ボルネオ島バリツクババンを完全に占領し引續き殘敵を掃蕩中にして、敵は逐次わが軍に投降しつゝあり。

二十九日（木） ◇陸軍部隊蘭領ボルネオのポンチャナツクを占領、こゝにボルネオ全土殆ど制壓 ◇海鷲セレター飛行場を猛爆七箇所を炎上附近施設を潰滅。

【大本營發表表】二十九日午前十一時三十分】二十七日帝國驅逐艦二隻は我輸送船團攻撃を企圖しシンガポールを攻撃せる英驅逐艦サネット及びパンバイヤー二隻をマレー東岸エンダウ沖に發見、直ちに攻撃、こゝに二對二の同等勢力の驅逐艦戦を展開し、敵サネットを撃沈、その乗員若干名を捕虜としパンバイヤーを遁走せしめた

り、我に一弾一片の被害なし。
 サネツト 一九一九年竣工、九 雷發射管四門、乗員九十八名。 千九百トン、四吋砲四門、二十一吋魚
 百五トン、四吋砲四門、二十一吋魚 バンバイヤー 一九一七年竣工 雷發射管六門乗員百三十四名である
 【大本營發表】廿九日午後六時】一、帝國海軍航空部隊は廿六日、廿七日マカツサル海、セラム海、モルツカ海
 フロレス海、バンド海の廣海域を制壓し、ボルネオ島、セレベス島、セラム島、ブル島等の敵重要航空基地に
 對し反覆攻撃を敢行し敵機四十五機を撃墜破（内不確實四）せり、本攻撃に於て我方いまだ遭らざるもの四機
 なり。
 二、ケンダリーに上陸せる帝國海軍特別陸戰隊は附近一帯の敵を掃蕩し廿六日同地を完全に占領せり。

大亞東海わが屬翼下

帝國海軍はその航空部隊に、潜水艦部隊に連日に亘
 つて赫々たる戦果を擧げつゝあり、マレー東岸エンダ
 ウ沖では二對二の同等勢力の驅逐艦戦を展開、世界第
 一を呼稱する英海軍と砲撃戦で堂々の取組みをなし撃
 沈せしめたりして、平素沈黙裡に猛訓練をなした眞價
 を遺憾なく發揮したが、廿六日、廿七日にはまたまた
 精銳なる海軍航空部隊がマカツル海、セラム海、モル
 ツカ海、フロレス海、バンド海、東西三千哩、南北一
 千哩の廣範圍な水域を制壓してその間に點在するボル
 ネオ島、セレベス島、セラム島、ブル島などにある敵
 の重要航空基地を再三再四爆撃して米英兩國が増援し
 つゝある最新鋭の性能を持つ空軍に徹底的な打撃を與
 へたことは、いはゆる亞濠地中海の廣水域に亘りわが
 屬翼下に制壓され、制空權、制海權が完全にわが皇軍
 の掌握することとなるのも遠き將來ではなく、これに
 よつて蘭印、ニューギニア、濠洲の運命も必然的動向
 を辿らざる得なくなるものである。

三十日(金) ◇海鷲アンボン攻略に策應バンド海方面の敵航空基地アンボン、ナンレア、クーバン
 等を爆撃敵七機を撃墜又シンガポールを痛爆す。

三十一日(土) ◇陸軍部隊マレー半島尖端ジョホール・バハルを占領してシンガポールの對岸に
 進出◇ビルマの皇軍モールメンを完全に占領◇陸海軍協同部隊バンド海の要衝アンボンに敵前上
 陸。

ジョホール
 占領(二月一日参照)
 モールメン
 占領(二月一日参照)
 アンボン
 上陸(二月一日参照)

【大本營發表】卅一日午前十一時廿分】一、帝國海軍航空部隊は廿七日熾烈なる地上砲火を冒しシンガポールを
 攻撃し所在敵機五機を地上撃破、機に損傷を與へたるほか飛行場、軍事施設を破壊せり、なほ同港在泊中の
 敵船一隻を撃破せり。二、帝國海軍航空部隊は廿七日、廿八日スマトラ島、パダン港敵輸送船團を爆撃せり戦
 果左の通り。

一萬トン級輸送船一隻直撃弾命中大火災、六千トン級輸送船三隻炎上（内一隻小破）四千トン級輸送船二隻
 爆沈破（爆沈一隻、大破一隻）二千トン級輸送船一隻大破その他小型船四隻爆沈。

パダン パダンはスマトラ西岸理 岸壁、倉庫等の設備あり）をその海 れるコブラ、珈琲、茶、煙草等農産
 事州の都邑にして西海岸における最 港とせる街は近代化せられてをり人 物の集荷地であると同時に蘭印唯一
 も重要な商業中心地である。その 口、商館等多くまた完備せる自動車 のセメント工場を有しセメント、石
 他位開闢にして蘭印における最景勝 道路が四方に通じ交通上西海岸の要 炭等を外港エンマハーフエンを通じ
 地の一と稱せられる。エンマハーフ 衝である。人口五萬餘、邦人も引揚 て輸出する。
 エン（一八八〇年築港に着工せられ げ前約四十人ゐた、同地方で栽培さ

【大本營發表】卅一日正午】一、有力なる帝國陸軍部隊は海上機動により一月廿七日拂曉西部蘭領ボルネオ北端
 パマンカツト付近の上陸に成功したるのち長驅要衝サンパスを衝き同日午後三時完全にこれを占領せり。
 一、英領ボルネオ、クチン方面よりシルアスを経て南下中なりし帝國陸軍部隊は右部隊に策應しサンガウ附近
 の敵を撃破して同日午前十時レド飛行場（サンガウ西南廿二キロ）を占領せり。

パマンカツト 蘭領ボルネオ西部 位を占めてゐる。特に海上五百キロ 上よりする日本軍のシンガポールへ
 要衝で軍事的にも交易的にも重要地 を隔て、シンガポールに對し東方海 の最短據點をなし、シンガポールは

この方面よりも重大なる脅威にさら 萬の外港として同市集散の金 ゴ 占める華僑が殆ど商權を獨占しオラ されることとなりバマンカット及び ム、コブラ、ロタン等を輸出してゐ ンダ人は極く少数でサンパス郊外に サンパスは蘭領ボルネオ西北部の要 場が設けられてゐたが大東亞戰勃發 トともにも西北ボルネオの天然の良 港で人口約三萬、港灣施設は貧弱で 以來バマンカットにも軍事施設が施 港でコブラ、金、ロタンの集散地で どの水深があり、背後にある西ボル されて蘭領ボルネオ西部防衛の一中 ある。人口三萬、西ボルネオ第三の ネオ第二の都市サンパス、(人口四 心地となつてゐた、住民の大部分を 都會である。

【大本營發表】三十一日午後三時四十五分】帝國海軍航空部隊は前日に引續き、二十九日シンガポールを攻撃し セレター飛行場格納庫群並に滑走路に全彈を命中せしめ、七箇所を炎上、附近施設を概ね壊滅せしめたり、な ほわれに挑戦し來れる殘存敵機二機を撃墜せり。

昭和十七年二月

一日(日) ◇陸軍航空部隊ビルマのモールメン飛行場に進駐◇アンボン上陸の海軍陸戰隊更に戰果 擴大。

【大本營發表】一日午後三時三十分】西部蘭領ボルネオ方面に作戦中の帝國陸軍部隊は一月廿九日要衝ボンチャ ナツクを完全に占領せり。(註)ボンチャナツクは西部ボルネオ州の首都で平時は相當數の蘭印軍が駐屯して いる。水上飛行基地あり、サイゴンおよびジャワに對する海底電線基地である。

【大本營發表】一日午後六時】マレー半島を進撃中なる帝國陸軍部隊は一月卅一日夕その先鋒を以てシンガポ ール島對岸に進出せり、上陸以來五十五日、踏破行程約千キロ、舟艇機動約六百五十キロ、橋梁修理約二百 五十、この間主力の交戦實に九十二回に及べり、その戰果の主なるもの左の如し。

鹵獲品 (破壊せるものを含む) 火砲約三百門、機關銃約五百五十挺、戰車(裝甲車を含む)約二百五十輛、自 動車約三千六百輛、糧秣燃料軍自活に十分なる量、俘虜約八千、遺棄死體約五千概ね二ヶ師團の兵力を潰滅せ り。

【大本營發表】一日午後三時卅分】帝國陸軍部隊の一月廿四日より同卅日までに於ける各方面の戰況次の如し。

一、マレー方面 1 西海岸方面—西海岸方面を進 撃するわが部隊は一月廿日ムアル河左岸バクリ、バリ 数キロの縱深地帯に堅固な陣地を構築しその抵抗強 弱を極めたるもわが地上部隊は航空部隊と緊密なる協同 したる戰果を收めたるのち一月廿三日來要衝バトバハ の下に包圍と突破を併用し、一月廿六日バトバハを完 全に占領するとともにその突破部隊は一舉にレンジツ およびセンガラン附近に據る約四千の敵に對し猛烈な

ト附近に進出し約四千の敵に對し潰滅的打撃を與へ、敵戦車卅九輛、中小口径火砲百六十四門、自動車二百四十三輛およびその他多數の兵器資材を鹵獲し多大の戦果を収めたり、爾後敵を急追しつゝ主として海岸道に沿ふ地區を前進し廿九日ボンチャン・ケチル附近における敵の抵抗を撃破して卅日夕ブライ南側の線に達し引續き敵を追撃中なり。

2 中央方面―中央方面を進撃中のわが部隊は一月廿四日午前ヨンベンおよびペロー附近の敵を撃破したるのち強力なる航空部隊支援の下に同日夕アエルヒタムおよびクルアン附近に據る敵に對し攻撃を開始す。敵は頑強に抵抗せるもわが航空部隊の猛襲と皇軍獨特の夜襲とにより遂に退却を開始し、廿五日夜半アエルヒタム、クルアンの線を占領せり、爾後わが軍は有力なる部隊を以てカハンを経てゼマラン方面に轉進せしめて東海岸方面を進撃する部隊に策應せしむるとも主力を以て各所に敵の破壊せる橋梁および道路を修理しつゝ執拗なる敵の抵抗を撃破して追撃を續行し廿六日夕にはシンパンレンガム、レンガムの線を通過し廿八日午後三時にはランランを、卅日にはクライを攻略し引續き南方に向ひ追撃中なり。

3 東海岸方面―東海岸方面を進撃中なるわが部隊は一月廿四日來メルシン西北方地區において渡河を準備したるのち廿六日メルシン河を渡河し同日メルシンを

撃滅戦を續行中なり、この間における戦果左の如し、
撃墜七十機（うち不確實廿四機）撃破八機、計七八機

三、比島方面 1 バタアン半島の敵を攻撃中なるわが部隊は一月廿五日夕主力を以てバランガ付近の數線に設備せられたる堅固なる陣地を奪取したるのち廿八日オリオン南側に進出しサマツト山麓の敵を引續き猛攻中なり、また西海岸方面においてはバガツク以南の峻峻なる地形に據る敵に對し攻撃を續行中なり。

2 陸軍航空部隊は地上部隊の戦闘に直接協力するとともにリマイ飛行場を急襲し巧に隱匿せる敵戦闘機二機を撃破せり。

四、英領ボルネオ方面 英領ボルネオ陸軍作戦部隊は一月廿四日新鋭部隊を以て北方海岸の要衝サンダカンを占領し在留邦人を救出せり、その戦果左の如し、
鹵獲品 重機銃二挺、銃器三百八十九挺。

五 蘭印方面 蘭印ボルネオ方面帝國陸軍部隊は一月廿四日未明陸海緊密なる協同の下に、蘭領ボルネオ東方海岸の要衝バリツクババン附近に上陸し、直ちに飛行場を攻撃してこれを奪取確保すると共に主力はバ

二日(月) ◇ ニュブリテン島ラバウル上陸部隊東海岸の舟艇機動に移る

【大本營發表】二月正午 帝國陸海軍部隊は緊密なる協同の下に一月三十一日未明バング海の要衝アンボン附近

攻略したるのち廿七日正午頃にはメルシン、ゼマラン間の地區に進出し引續き敵を南方に向ひ追撃中なり
4 陸軍航空部隊はその全力をあげて果敢なる地上追撃作戦に協力しその前進を容易ならしめつゝあり、また戦線連合の大部隊を以て屢々シンガポール大空襲を敢行し同市周邊の飛行基地に對し大損害を與ふるともに英マレー空軍に對し致命的打撃を與へその再建企圖を徹底的に撃破せり、また一部兵力を以てエンダウ附近上空においてわが船團の掩護に任じ來襲する敵機の多數を撃墜し赫々たる戦果を獲得せり、この間における戦果左の如し、
撃墜六十四機（うち不確實十一機）撃破十一機、計七十五機。

二、ビルマ方面 1 一月廿二日ミヤワジ附近において泰緬國境の山岳地帯を突破しビルマに進攻せるわが部隊は同日夕バジャワワンおよびシンガニナウン附近の敵陣地を奪取し、カウカレイクに突入廿三日同地を完全に攻略せり、爾後引續き連日悪天候と峻難なる山地とを克服しかつ大規模に破壊せられたる道路を踏破しつゝ隨所に敵を撃破し廿八日その先鋒部隊を以てキヨンドを通過西進せり。

2 陸軍航空部隊は一部を以て地上進撃作戦に協力すると共に主力を以て屢々ラングーン付近の敵航空基地に進攻し執拗なる敵空軍の再建企圖を覆滅すべく航空

リツクババン市に進撃し廿五日完全にこれを占領、引續き殘敵を掃蕩中にして敵は續々われに投降中なり、西部ボルネオ方面においては廿七日午前七時有力なる海上機動部隊を以て西海岸バマンカツト附近に上陸し直ちに一部を以てサンパスを攻略するとともに主力は長驅西部ボルネオ州の首都ボンチャヤツクをつき廿九日完全にこれを占領せり、また英領ボルネオより攻進せる部隊はピサン攻略後引續き急進し一月廿七日シルアスおよびサンガウ附近の敵を撃破し同日午前十時レド飛行場を攻略せり、サンガウ付近において火砲六門その他多數の兵器を鹵獲し俘虜百廿、遺棄屍三百の戦果を得たり。

六、ビスマルク群島方面 一月廿三日ウナカナウ飛行場を占領せるわが部隊は一部の舟艇機動部隊と相呼應し主力を以てアンタリ、クリクン灣東岸道に沿ひ敵を急追中なり、廿九日までに判明せる戦果左の如し
鹵獲品 飛行機四機、火砲十六門（内要塞砲二門）
戦車（輕装甲車を含む）三輛、重機銃五挺、銃器三百十二挺、自動車四十輛その他各種兵器燃料等多數、俘虜約二百。

の敵前上陸に成功し着々戦果擴大中なり。

【大本營發表】二月午後四時十五分】ビルマ方面帝國陸軍部隊は豪雨を冒して敵の抵抗を撃破し、一月三十一日夕モールメンを完全占領せり

【大本營發表】二月午後七時】一、帝國海軍航空部隊はアンボン攻略に策應、三十日大擧バンダ海方面の敵航空基地アンボン、ナンレア、クーバン、コルバノを索敵攻撃し敵機七機を撃墜破すると共にアンボン軍事施設を破壊せり。

二、帝國海軍航空部隊は三十日、シンガポール南方スマトラ島東岸バンカ海峽方面の敵輸送船團に對し攻撃を加へ八千トン級、六千トン級、五千トン級各一隻を大破し、沈没又は航行不能とならしめたり。

クーバン 關領チモールの首府で 方面の風波を避け、同島物資の集散 しめる。チモール島の南西端に位し、濠洲に 地になつてゐる。住民は支那の漢民 コルバノ 關領チモールにあり同近い、サマン島を前方に控へよく各 族が多く、市街は支那街を彷彿たら 島の要衝である。

【大本營發表】二月午後七時半】二月一日未明航空母艦、甲巡、驅逐艦等よりなる敵部隊マージナル群島方面に出現したるも、我は直ちにこれを反撃撃退せり、本戰團において敵甲巡一隻を爆撃大火災を生ぜしめ、敵飛行機十一機を撃墜したる外、他の艦艇に若干の損害を與へたり、我方は小型特設艦船一隻中破したる外、その他の艦船ならびに陸上施設に輕微なる損傷を蒙り、合計二十八名死傷者を生じたり。

【大本營發表】二月午後八時四十分】マレー方面の帝國陸軍航空部隊は、一月三十一日午後大擧シンガポールを攻撃しセレター飛行場、重要諸施設を爆撃するとともに、シンガポール島上空において、ハリケーン十九機およびバッファロー二機と交戦しその十三機（うち不確實三）を撃墜せり、我方自爆せるもの戦闘機一なり。

三日(火) ◇海鷲ジャワ島を初の空襲敵機八十五を撃墜破◇陸鷲シンガポールを痛撃◇ビルマ第二次航空作戦開始◇陸軍々政機關に民間顧問として永田、村田、砂田、徳川の四氏を囑託。

◇東條首相は大東亞共榮圏を建設すべき根本方針を明示したが軍は作戦遂行と共に占領地域には早くも軍政を施行、これが軍政部の要員として政界より前線、拓相永田秀次郎、前農林政務次官砂田重政、の兩氏、財

【陸軍省發表】二月三日】一月三十日左の如く發令せられたり。

- 從三位勳二等 永田 秀次郎
- 從三位 村田 省藏
- 正五位勳三等 砂田 重政
- 從二位勳三等 侯爵 徳川 義親

陸軍省の事務を囑託す。

永田秀次郎氏 「青嵐宗匠」として 鐵相として入閣政治家としての實 績と智慧を買はれたが、この時は阿 部内閣の瓦解とともに僅かに一箇月 足らずその手腕を發揮するに至らず して下野、その後は貴族院議員とし て、また帝國教育會々長、教科書調 査會長として民間で活躍してゐた、 大正五年の寺内内閣で後藤新平内相 水野錬太郎氏の次官の下で警保局長 阿部内閣では内閣改造 をやつた

拓務大臣の経験からだけではないが南方問題その他の植民政策にも見識を持つてゐたから、今回陸軍省囑託として現地に赴くこととなつたのは、一見いかにも突忽たるの感も無いではないが、その經歷、そのもつとも身魂を傾けてゐる海外發展——彼は拓殖大學の學長もやつてゐた——の見識と抱負から推し六十八歳ではあるがなほ青年を凌ぐ元氣をもつて

現地に赴任するのであらうが、思ふに一人の適材を起用したものであらう。兵庫縣淡路島の出身である。

村田省藏氏 村田省藏氏は明治三十三年東京高商卒業後、直に大阪商船に入社、昭和三年副社長となり社長堀啓次郎氏を助けて大阪商船の不況時代を切り抜け、ついで昭和九年社長に就任、大阪商船の大をなした我國海運界の第一人者であつた。

昭和十四年貴族院勅選議員に選ばれついで十五年七月第二次近衛内閣成立に際し遞相兼鐵相として入閣、間もなく専任遞相となり續いて十六年第三次近衛内閣には再び遞相兼鐵相として留任したが同十月東條内閣の成立とともに野に下つてわが海運界の大御所として脱みを利かせてゐた、明治十一年生れの生粋の江戸子である。

砂田重政氏 砂田重政氏の起用もまた相當異色あるとともに、他面また時局の流れがこの人事一つに凝集してゐるといふ印象を受ける。

二年前の中島派と久原派に分れた政友會の内紛直前——これはいふまでもなく政黨解消へ拍車をかけた政黨自體の自壊作用であつたのであるが、その直前、内紛爆發前の政友會幹事長をやつたのが、異色ある政黨政治家として知られた砂田重政氏である。

いはゞ政黨の悲劇時代の第一線にあつたのが彼である、その彼が、陸軍から懇望されて親任官待遇の陸軍囑託として現地にわたるのである、國運の成否をかけた今次の大戦完遂のために國家が一九となつて凝集した民族の氣魄と、國家の總力を傾けてこの大戦に當らんとする現下政治の姿がそこに端的に象徴されるのである。彼の使命も重い。

愛媛縣生れ、中央大學卒、司法官から辯護士になり、代議士當選八回、勲章二十三年、もう二年つとめれば永年勲章の表彰を受けるといふ直前に、自ら議員を辭して現地に赴かんとする彼の心境また壯とすべきものである。

が看取せられる、代議士としては大養翁の國民黨、革新俱樂部時代からその陣營にあつて政友會に轉じ、田中内閣の山本(錦)農相の下で參與官、のち同じ政務次官として、農林行政には相當樞機に參畫した。

議會政治家として單に機敏、滿々たる底力をもつてゐたといふだけでなく、政策樹立の識見もやはり見べきものあり、その手腕、力量はやはり第一人者である、當年五十九歳

徳川義親侯 徳川義親侯は舊尾張藩主である。明治四十四年東大を卒業後、學習院講師、大正十年宮内省狩獵官に任ぜられ、四箇年間在職、のち雙教育振興會の會長、同六年財團法人尾張徳川黎明會を創設して美術館文庫、生物學研究所等を經營し、美術生物學の研究に力をつくした、大正十三年帝室博物館顧問、公立八雲高等國民學校長などをやり、貴族院議員としては若いころ、貴族院の改革意見を發表したこともある。しかし侯の關心は矢張り生物學と

美術とであつて、昭和四年のスマトラ オーストラリアに太平洋學術會議を開催したとき侯も現地に出張した、またマレー半島、海峽植民地にわたりメコン河の上流密林地帯深く

わけ入つて豪快な虎狩りを再びやつたことがあつてマレーその他南方の事情を身を以て體驗しジョホール王から勲章も贈られ知己を持つてゐる、第一人者である支那事變の南京

攻略戦では實弾のなかを第一線に従軍性格的にも第一線にあつて活躍し得るだけの度胸と肚をもつてゐる。本年五十七歳である。

四日(水) ◇海鷲ジャワ沖で米蘭聯合艦隊を襲撃巡洋艦五隻を撃沈破◇ビルマの陸軍部隊バアンを占領

【大本營發表】四日午後零時半 帝國陸軍部隊は一月二十四日北部英領ボルネオの要衝タワオを完全に占領し邦人五百八十七名を救出せり。

タワオ 英領ボルネオは戦前千餘名の邦人が居住し、比島ミンダナオ島のダヴァオと並び稱せられるわが南方進出の二大據點の一つであつた。タワオは氣候良好で英領ボルネオの企業が非常に發達し、ボルネオ島

五日(木) ◇海鷲第二次スラバヤ爆撃敵の二十六機を撃墜破又バリ島のチンバラン飛行場で敵機を撃墜破◇我潜艦ジャワ海方面で敵驅逐艦一隻を撃沈。

【大本營發表】五日午後零時十分 一、マレー方面 帝國陸軍航空部隊は戦爆連合の大部隊をもつて二月三日二回に亘りシンガポール大爆撃を敢行し埠頭諸施設及びキングストック付近を爆砕し、大火災を生ぜしめ且つ砲

泊中の輸送船団を猛襲し大型輸送船一隻を炎上せしめると共に大型一隻、中型三隻その他中(小)型汽船多数に多量に命中弾を與へ全機無事歸還せりこの日戦闘隊は敵機の片影をも認めず悠々制空のち歸還せり。

二、ビルマ方面 帝國陸軍航空部隊は同日二回に亘り戦爆連合の大部隊を以つてビルマ領トングー南飛行場を急襲し大型爆撃機一機戦闘機六機を爆砕せり我に損害なし

三、二月三日有力なる陸軍航空部隊は大編隊をもつて午後一時ラングーン又他の一隊は午後二時廿三分レダ飛行場を急襲し飛行場諸施設に多数の爆弾を投下せり。

【大本營發表表】五日午後三時十五分】マカツサル海、ジャバ海、フロレス海、モルツカ海、バンド海の全海面を制壓中の帝國海軍航空部隊は、二月三日大舉ジャバ島の主要航空基地ストラバヤ、マラン等に對し大空襲を決行敵機八十五機(内不確實六)を撃墜破し、所在敵航空兵力の大半を撃破せり、本攻撃において我方自爆一機、いまだ還らざるもの三機なり、また一方二月一日より三日間に亘りジャバ海西部を索敵攻撃し、敵船六千トン級、三千トン級、二千トン級、各々一隻を撃沈せり。

ストラバヤ ストラバヤはジャバ島で コーヒー、ゴム、皮革、油類、藍、煙 用とあり陸上機用はストラバヤ市街のバタヴィヤに次ぐ商業の中心地であ 草、コブラ、チーク材等主要輸入品 南方ストラバヤ川西岸ダルモに飛行場あり、東部ジャバの首都蘭印第一の商 港は鐵材、鐵器具、石炭、綿布、陶器 があり、格納庫中務所等場内の設備港かつ軍港である。市街はカリマス ガラス、紙類、機械工具、食料品等 が完備してゐる。水上機用は内港南河南岸の平地に建設せられ東西約八 キロ南北約十五キロ比較的整頓して 是約三十五萬、日本人約五百人であ 備の完備せること蘭印第一であつて 是。自動車は島内主要交通機關であ 殊に滑走臺の設備は完備してゐる。漸次臨港地域方面に發展してゐた港 区はストラバヤ海々面の一部であつて 航空路はバタヴィヤからストラバヤに 約九十キロの山間にあり、河畔に沿外港と内港に區別され内港埠頭設備 毎日定期便がある飛行場は市の南方 ふ土地である東部ジャワ防備の中心が完備してゐる。主要輸出品は砂糖 にある航空基地は陸上機用と水上機 用をなし師團司令部の所在地、飛行

場は市街より少しく離れたナンベス なる大規模の飛行場があつてストラバヤ ジャワ防衛の中心地である。にある。最近軍備強化と共に完成せ 飛行場と共にストラバヤの防衛、市部

【大本營發表表】二月五日】北支汾西作戦に参加し偉功を樹てたる左記部隊に對し曩に軍司令官より感狀を授與せられしが今般長くも上聞に達せられたり。

感 狀

- 中島(吉)部 隊
- 同 配 屬 部 隊
- 協力 光岡部 隊

右は昭和十六年十月中旬より同年十一月中旬に亘る汾西作戦の末期に於て、中島部隊長指揮の下に主力を以て萬門口北側斷崖下の大洞窟に據る豫備第一師を殲滅すべき任務を受くるや、地形上および黄河對岸よりの敵火のため早急の攻略至難なる状況に鑑み部隊長の指導に基き要塞轟攻撃の要領に準じ之を攻略するに決し攻撃準備を整ふること數日、この間適切なる飛行隊の協力と相俟ち對岸よりの熾烈なる敵火を冒し洞窟内よりする敵の逆襲を破摧しつゝ突撃路を開拓し死傷續出するも敢て屈せず、十一月九日夜洞窟南角の奪取

に成功し次で機を失せず該地に重火器を推進して洞窟北角の敵の退路を遮斷すると共に歩工兵突撃隊を以て肉薄攻撃を敢行し敵に多大の損害を與へ、十一月十日遂に敵兵一千有餘名を投降するに至らしめ且多數の兵器を鹵獲し茲に洞窟に據れる敵を殲滅しその根拠を覆滅せり、以上は即ち部隊長の戰場指揮特にその攻撃整備宜しきに適ひ、部下將兵また克く一致團結堅忍不撓旺盛なる攻撃精神を發揮して慘烈なる戦況に耐克ち一意任務の遂行に邁進せる結果にして皇軍の精強を遺憾なく發揚せるものと謂ふべくその武功拔群なり仍て茲に感狀を授與す。

昭和十七年一月二十三日

軍 司 令 官

六日(金) ◇陸鷲バンカ島(シ港南東四百キロ)のムントク飛行場を撃碎、又ビルマのミンガラドン飛行場を奇襲敵機十二を撃墜。

【大本營發表表】六日午後四時】帝國海軍航空部隊は前日の蘭印空軍撃滅戦に引續き敵艦隊を索敵中二月四日驅逐

艦隊を伴ふ敵艦隊主力をジャバ海カンゲアン島南方三十哩海上に発見、機を失せずこれに猛攻を加へ、戦闘數刻にして敵艦巡ジャバ型一隻を轟沈、蘭巡デ・ロイテルを大破間もなく沈没、蘭巡ジャバ型一隻、並に米巡マーブルヘッド型一隻を中破し五千トン級敵船一隻を撃沈せり、本海戦により開戦以來西南太平洋に策動しつつありし敵艦隊就中蘭印艦隊主力はこゝに事實上殆んど壊滅するに至れり、本海戦において我方一機を失へり(註)本海戦をジャバ沖海戦と呼稱す。

撃沈破した敵艦の性能

後一九三九年改装され近代裝備が施されてゐる。

ジャバ、スマトラ 蘭印巡洋艦ジヤバ號、およびスマトラ號は共に排水量六、六七〇トン、全長五〇九呎、幅員五二呎、備砲五・九インチ砲十門、四〇ミリ高角砲八門、二斤砲四門、一二・七ミリ高角砲六門、カタバルト一、搭載機二機を有し、速力三ノット乗員五二五名、ジャバ號は一九二二年、スマトラ號は一九二〇年竣工した姉妹艦であるが、その艦であつた。

後一九三九年改装され近代裝備が施されてゐる。

デ・ロイテル 蘭印巡洋艦デ・ロイテル號は、排水量六、四五〇トン、全長五五七呎、幅員五一呎、備砲は五・九インチ砲七門、四〇ミリ高角砲十門、一二・七ミリ高角砲八門を備へ、カタバルト一、搭載機二機を有し、速力三三ノット、乗員四三五名、九二四年竣工し特に航続力が大であり遠洋作戦に秀れた性能を有してゐる。

マーブルヘッド 米國巡洋艦マーブルヘッド號は排水量は七、〇五〇トン、全長五五〇呎、幅員五五呎三分一、備砲は六インチ砲十門、三十一インチ魚雷發射管六門を備へ、カタバルト二、搭載機四機を有す、速力三五ノット、乗員四五八名、九二四年竣工し特に航続力が大であり遠洋作戦に秀れた性能を有してゐる。

七日(土) ◇マレーの陸軍部隊ジョホール水道を渡過シンガポール島に敵前上陸同島要塞に對し攻撃を開始◇陸軍バレンバン飛行場を強襲敵機五〇を屠る。

【大本營發表表】七日午後四時四十五分】帝國陸軍部隊の一月三十一日より二月六日までにおける各方面の戦況次の如し。

一、マレー方面 (一)開戦以來五十五日、海上機動六百五十キロ、陸路千キロを踏破して一月三十一日夕シンガポール島對岸に進出せるわが陸軍部隊は、所在の殘敵を掃蕩しつゝ更に爾後の行動を準備中なり。

(二)陸軍航空部隊はその主力をもつて地上作戦に密に協力するとともに晝夜を分たずシンガポールに進攻して大爆撃を反覆し地上軍諸施設を爆砕するとともに殘存敵機十七機を撃墜破せり、開戦以來シンガポールに進攻する實に六十四回におよべり。

二、ビルマ方面 (一)サルウィン河に沿ひ西進せる我が部隊はモールメン南側高地による敵を撃破し、一月卅一日夕モールメンを完全に占領し、二月二日ダグオイ方面より北上せる部隊を合せ引續き爾後の行動を準備中なり、モールメン攻略の戦果左の如し。

鹵獲品 飛行機一機、戦車(裝甲車を含む)七輛、火砲四門機關銃七挺、自動車二百五十六輛、鐵道車輛二百五輛、航空用燃料多量、俘虜百四十八、遺棄死體二百二十五

またサルウィン河中流の要衝バアン方面に作戦せる部隊は二月四日拂曉バアンを急襲し約五百の敵を一撃に撃破して同市を完全に攻略し引續き戦果を擴張中なり。

(二)陸軍航空部隊は地上作戦に協力してモールメン、マルタバン等要地攻撃を容易ならしむるとともにしばしば戦爆連合の大部隊をもつてラングリン周邊の敵飛行基地を強襲しビルマ英空軍再建企圖を破摧しつゝありこの間における戦果左の如し。

撃墜確實なるもの十七機、撃破三十二機、計四十九機
開戦以來ビルマに進攻すること實に四十五回に及べり。

三、比島方面 (一)バタアン半島西海岸方面のわが部隊は二月一日バガツク東方の敵第一線陣地を突破したるのち引つゞき密林内の縱深陣地に對し戦果を擴張しかつ舟艇機動部隊をもつてカナス岬方面に上陸を敢行して同地附近の敵を攻撃中なり、また東海岸における我が軍は依然當面の敵陣地を猛攻中なり、一月二十一日マ

ウバン（モロン南方八キロ）附近の戦闘において火砲十五門、機關銃十一挺、各種重砲彈十二萬一千五百發を
鹵獲せり。

(二) 陸軍航空部隊は主力をもつて地上作戦に協力するとともに敵の有する唯一の飛行場リマイを爆撃し戦
闘機二機を撃破せり。

四、蘭印方面 蘭領ボルネオ方面に作戦中なる帝國陸軍部隊は一月三十一日夜有力なる部隊を以てボルネオ
島東岸の要衝タナクログトに上陸しこれを占領せり、また遠くバンド方面に作戦せる帝國陸軍部隊は海軍部
隊と協力して一月三十一日未明アンボン島に上陸し所在の敵を掃蕩中なり。

五、ビスマルク群島方面 ラバウル上陸後引き続き島内の戡定作戦を續行中なる我が部隊は二月二日以来舟艇
機動により東海岸ワイド灣北岸一帯の地區を掃蕩せり、その戦果左の如し俘虜四十一、遺棄死體百九十、機
關銃その他兵器資材多量、なほ同島副總督は我に投降せり。

六、英領ボルネオ方面 北部英領ボルネオ方面に作戦中なる我が部隊は一月二十四日要衝タワオを急襲して
これを占領し同地に監禁中の邦人五百八十七名を救出するとともに二月四日その一部を以てラハツドダツ(タ
ワオ北方百キロ)を占領せり、かくて英領ボルネオの戡定作戦は概ね完了せり。

七、占領地の状況 占領地の治安は着々回復せられ建設は漸くその緒につきつゝあり、同地住民は皇軍の眞
價をみとめ治安維持及びその他の復舊工作に従事しつゝあり。また開戦と同時に英軍官憲に強制連行せられ
あるひは自ら山中に逃避しありたるマレー各州「サルタン」及び「ラジャ」は皇軍の眞意を諒解し今や積極
的に歸來して我が軍政統治に協力しつゝあり。

(註) ラジャは回教徒にあらざる小地域の王なり、サルタンは回教徒の王なり、タツハツは回教徒の小地域の
王なり。

【大本營發表】七日午後六時十分】帝國陸軍部隊の開戦以來南方および香港方面における、二月六日までに判明

せる綜合戦果左の如し。

一、鹵獲品 飛行機二十四機、戦車(裝甲車を含む)二百二十四輛、火砲五百八門、機關銃一千四百九十二挺、
銃機一萬九千三百一挺、自動車三千七百五十六輛、鐵道車輛一千三十七輛、船舶三百七隻、その他各種軍用器
材、燃料、糧秣等多數。

二、撃墜破飛行機(撃墜確實なるもの)四百四十四その他不確實なるもの相當數あり、撃破四百七十機、計九
百十四機

三、撃沈破艦船 九十二隻

四、俘虜 二萬二千三百七十一、遺棄死體七千七百

五、わが軍の損害 戦死傷三千八百八十二(マレー方面は調査未了につきこれを除く)飛行機百五十三機、輸
送船沈没十隻、破損十六隻(うち六隻修理完了すでに就航しあり)

【大本營發表】七日午後六時二十分】帝國陸軍航空大部隊は作六日悪天候を衝いてバンカ島(シンガポール東南
方約四百キロ)ムントク飛行場を大舉強襲、敵機二十八機を撃墜破し、マレー方面より敗退せる敵空軍の大半
を撃滅せり、我に損害なし。

ムントク飛行場 六日爆撃したム 幅三十八キロ乃至百五十キロ面積的千 深さ八米におよぶ沃土を有するとこ
ントク飛行場は蘭印バンカ島にあり 平方キロで人口十七萬その中三分の ろもある、産物は最も多いのが錫の
ムントクはバンカ海峡の北門に當り 一は支那人、土地は概ね丘陵地帯で 産出でその他バナナ、麻、睡藥、サ
要塞市である、バンカ島はスマトラ 高いところは約五百米の花崗岩地、ゴ、檳榔子等も多量に産しムントク
島の東部に位し北西より南東に長く 低地は鐵分を含む赤土から成り赤土 はその輸出港である。

【大本營發表】七日午後四時】開戦以來一月三十一日までに帝國海軍の確實に撃沈せる敵潜水艦累計二十九隻、
敵船舶累計五十二隻(三十一萬トン)なり。

【大本營發表】七日午後五時五十分】その後詳報に依ればジャバ沖海戦々果發表中の米巡マールヘッド型一隻

中破は米甲巡一隻大破、蘭巡シヤバ型一隻中破は蘭巡シヤバ型一隻大破なるほか、さらに蘭輕巡トロンブ型一隻を大破せること判明せり。

米の甲級巡洋艦 九千トン、乗員 三ノット、ヒューストン、オウガスト、速力三十三ノット、五・九イ約七百、長さ五百六十九フイート、タはこの級に属する。 シチ砲六門、四十ミリ高角砲八門、

幅六十六フイート、吃水十七フイート 蘭印トロンブ型 トロンブ型三千 十二・七ミリ高角砲四門、二十一イト、備砲八インチ砲九門、五インチ 五百五十トン長さ四百三十三フイート、魚雷發射管二門、搭載機一機、高角砲四門、搭載機四機、速力三十ト、巾四十フイート、吃水十五フイ

【大本營發表 七日午後七時】帝國潜水艦は二月五日シヤバ海方面において敵大型驅逐艦一隻を撃沈せり、

戰闘經過 五日敵大型驅逐艦一隻をシヤバ海上に發見なごちに襲撃してこれを撃沈した。 驅逐艦は備砲、速力その他において潜水艦に勝れてゐること數等、通常潜水艦は驅逐艦を發見した場合は逸早く逃避しその攻撃をうけまいとするのである。 勇敢なるわが潜水艦は逆に襲ひかかり、一撃の下に撃沈したもので、兩者その位置を顛倒してゐる。 正にこれ「索敵擊滅」光輝ある帝國海軍傳統の勝利である。

八日(日) ◇陸軍作日に引續きスマトラ島パレンバンを攻撃敵機十七を撃墜破、前日と合せ六十七機に上る。

【大本營發表 八日午前十一時五十分】ビルマ方面帝國陸軍航空部隊は、二月六日大舉四次にわたりミンガラドン飛行場に反復進攻し、敵機二十二機と交戦その十二機を撃墜しかつ飛行場重要諸施設を炎上破壊せり。

【大本營發表 八日午後五時十五分】帝國海軍航空部隊は二月五日第二次スラバヤ大空襲を敢行し蘭機十五機米機十一機を撃墜破し、またバリ島デンバラン飛行場を攻撃し敵機八機を撃墜破せり。 デンバラン飛行場はスラバヤとともにシンガポール、濠洲の中間に位置する同島隨一の飛行場である、バリ島

はシヤバ島の東に列なり、北はシヤバ、フロレス兩海、南は印度洋に臨む戰略的要點で面積約五千八百平方キロ(四國の三分の一)人口約百十萬、氣候は快適で風光明媚の樂園として知られてゐる。

九日(月) ◇マレー方面陸軍最高指揮官山下奉文中將を發表◇シンガポール島上陸軍一齊に急進テシンガー飛行場を占領◇海軍陸戰隊セレベス島マカツサルを占領、ニューブリテン島ガスマタをも攻略。

【大本營發表 九日午後零時二十分】一、マレー方面帝國陸軍航空部隊は二月七日、八日の兩日にわたりスマトラ島パレンバン飛行場その他を大舉強襲し、敵機六十七機(七日五十機、八日十七機)を撃墜破し、英蘭空軍に殲滅的打撃を與へたり。 二、ビルマ方面帝國陸軍航空部隊は前日にひきつゞき二月七日さらに數次にわたりミンガラドン飛行場に進攻し敵機十一機を撃墜破せり。

【大本營發表 九日午後五時五分】マレー方面帝國陸軍部隊は昨日以來敵の抵抗を排除してシヨホール水道の渡過に成功し、堅固シンガポール島要塞に對し攻撃を開始せり。

歴史的な第一歩 世界の環視をこ 彼岸にのぞみ總攻撃準備に満を持し 總攻撃を開始、八日自然の要害と頼の一點に集めて皇軍シンガポール總 たわが精銳は四日夕刻より對岸に對 びシヨホール水道の敵前渡過に成功 攻撃の火蓋は切られたシヨホール水 し砲門を開き、軍事諸施設を撃碎し 皇軍は堂々シンガポール島に歴史的 道を挟んでシンガポール島を指呼の つゝあつたが、愈々シンガポール島 第一歩を印した。

【大本營發表 九日午後五時五分】マレー方面陸軍最高指揮官は陸軍中將山下奉文なり。

山下奉文中將 切つて放たれたシ 對日包圍陣の尖銳なる戰略三角形の 會戦であり全世界の神經と視聽はこ シンガポール總攻撃の火鋒はまさに大 二頂點が落ち、殘された唯一の孤立 とくこの一戦に集中されてゐる 東亞戦争の大きな歴史的なヤマをな せる要塞シンガポール攻防戦こそは のであるが、これとともにわが攻略 してゐる、香港、マニラと相ついで まさに世界史の分水嶺にも似た一大 軍の最高指揮官山下將軍はまさに屈

馬來方面 陸軍最高 指揮官 山下 奉文中將 占領 馬カツサル 二月十日 照

新嘉坡島 敵前上陸

バンシエ
ルマシン
占領(二
月十二日
参照)

新嘉坡市
内へ突入

指の將軍たるを失はない

十日(火) ◇陸軍部隊ボルネオ南岸の要衝バンヂエルマシンを占領◇ビルマのマクタバンに突入こ
れを占領。

【大本營發表】十日正午】シンガポール島要塞を猛攻中の帝國陸軍部隊は執拗なる敵の抵抗を撃碎して昨九日午
後七時テンガー飛行場を完全に占領せり。

十一日(水) ◇シンガポール猛攻の陸軍部隊敵の主力を撃破ブキテマの要衝を奪取して市内に突入
◇ビルマのラングーン攻撃開始さる。

【大本營發表】十一日午後零時二十分】シンガポール島要塞猛攻中なる帝國陸軍部隊は本十一日紀元の佳節を迎
へ士氣いよ／＼昂揚、激戦のち今朝シンガポール島の最高地點ブキ・テマの要衝を奪取し敗退に混亂せる
シンガポール市街を指呼の間に俯瞰睥睨しつゝ銳意攻撃を續行中なり
(註) ブキ・テマ高地はシンガポール市街西北九キロの地點にあつて標高百七十七米シンガポール島最高の高
地であつて敵の陸正面陣地の核心をなしてゐる。

【大本營發表】十一日午後八時三十分】本十一日早朝來執拗なる敵の抵抗を撃碎しつゝ進撃を續行中なる帝國陸
軍部隊は午前八時シンガポール市街に突入、敗殘英軍を隨所に捕捉蹂躪しつゝあり

十二日(木) ◇シンガポールの殘存敵軍を制壓貯水池周邊に大殲滅戦◇陸軍部隊のシ港猛攻に
呼應同島脱出企圖の敵船團を痛爆大多數を撃沈。

【大本營發表】十二日午後零時二十分】シンガポール島要塞を攻陥中なる帝國陸軍部隊は昨十一日ブキ・テマ方

面より敵陣深くシンガポール市街に楔入して、要塞の死命を制すると共に、更に強力なる部隊を以て北方面
より敵陣地を席卷し、各方面空陸相呼應して本十二日拂曉來、貯水池周邊の敵軍主力に對し大殲滅戦を展開中
なり。

【大本營發表】十二日午後六時】蘭領ボルネオ方面帝國陸軍部隊はタナクログト上陸後陸路四百キロの悪路を踏
破し二月十日正午ボルネオ島南岸の要衝バンシエルマシンを完全に占領せり。

【大本營發表】十二日午後六時十五分】帝國海軍航空部隊は二月九日蘭印の首都バタビヤを大空襲し、テリリタ
ン、カマヨラン、タンジョンプリオク各飛行場を攻撃、敵機二十機を撃墜破し諸軍事施設を爆破せり。

【大本營發表】十二日午後七時四十五分】帝國海軍特別陸戦隊は二月九日セレベス島南端の要衝マカツサルなら
びにニューブリテン島南側の要地ガスマタを完全に占領せり。

十三日(金) ◇陸軍部隊ビルマの首都ラングーンに入城◇陸軍シンガポール港を連續爆撃。

【大本營發表】十三日午後一時】マレー方面帝國陸軍航空部隊は前日に引きつゞき昨十二日その全力を以てシン
ガポール島要塞、貯水池周邊地區の大殲滅戦に協力すると共に大學して退避準備中の敵艦船を襲撃し、一萬
トン級(兵員滿載)一隻撃沈、三千トン級一隻炎上、七千トン級九隻に多數の命中弾を與へたり、我に損害なし

十四日(土) ◇陸軍落下傘部隊スマトラ島の要衝バレンバンに奇襲降下飛行場その他の要地を占領
◇海軍落下傘部隊メナド攻略戦に参加を發表◇海軍部隊セレター軍港を占領。

十五日(日) ◇シンガポールの英軍無條件降伏英が東亞侵略の索源地に日章旗翻る◇南方方面陸軍
最高指揮官寺內壽一大將◇陸軍部隊スマトラ東南のバンカ島要衝ムントクを占領。

ラングー
ン入城

陸軍落下
傘部隊十
五日(二
月)十
五(照
新嘉坡
落軍南
陸軍南
最高指
官寺內
一將壽

海軍落下傘部隊
（一月十日）
（照）
（一）日
（二）日
（三）日
（四）日
（五）日
（六）日
（七）日
（八）日
（九）日
（十）日
（十一）日
（十二）日
（十三）日
（十四）日
（十五）日
（十六）日
（十七）日
（十八）日
（十九）日
（二十）日
（二十一）日
（二十二）日
（二十三）日
（二十四）日
（二十五）日
（二十六）日
（二十七）日
（二十八）日
（二十九）日
（三十）日
（三十一）日
（三十二）日
（三十三）日
（三十四）日
（三十五）日
（三十六）日
（三十七）日
（三十八）日
（三十九）日
（四十）日
（四十一）日
（四十二）日
（四十三）日
（四十四）日
（四十五）日
（四十六）日
（四十七）日
（四十八）日
（四十九）日
（五十）日
（五十一）日
（五十二）日
（五十三）日
（五十四）日
（五十五）日
（五十六）日
（五十七）日
（五十八）日
（五十九）日
（六十）日
（六十一）日
（六十二）日
（六十三）日
（六十四）日
（六十五）日
（六十六）日
（六十七）日
（六十八）日
（六十九）日
（七十）日
（七十一）日
（七十二）日
（七十三）日
（七十四）日
（七十五）日
（七十六）日
（七十七）日
（七十八）日
（七十九）日
（八十）日
（八十一）日
（八十二）日
（八十三）日
（八十四）日
（八十五）日
（八十六）日
（八十七）日
（八十八）日
（八十九）日
（九十）日
（九十一）日
（九十二）日
（九十三）日
（九十四）日
（九十五）日
（九十六）日
（九十七）日
（九十八）日
（九十九）日
（百）日

【大本營發表】十五日午後一時、帝國海軍部隊は十四日未明シンガポール・セレター軍港に進入同日正午これを占領せり。

【大本營發表】十五日午後五時、帝國海軍落下傘部隊は去る一月十一日セレベス島メナド攻略戦に参加し赫々たる戦果を収めたり。

【大本營發表】十五日午後五時十分、強力なる帝國陸軍落下傘部隊は二月十四日午前十一時廿六分蘭印最大の油田地たるスマトラ島バレンバンに對する奇襲降下に成功し、敵を撃破して飛行場、その他の要地を占領確保するとともに更に戦果を擴張中なり、陸軍航空部隊は本作戦に密接に協力するとともに、すでにその一部は本十五日午前同飛行場に躍進せり。

【大本營發表】十五日午後五時十五分、シンガポール方面帝國艦隊はシンガポール脱出を企圖する敵艦艇ならびに輸送船團を同島南方海面および、パンカ海峡附近に捕捉攻撃し、二月十日より十四日までの間に合計三十二隻を撃沈破または擱挫せしめたり、その戦果左の通り。

- (一) 撃沈 アレスーサ型輕巡(又は大破)一、特設巡洋艦一、潜水艦一、砲艦二、敷設艦一、特務艦一、三萬トン級輸送船一、八千トン級輸送船一、五千トン級輸送船四、三千トン級輸送船二。
- (二) 撃破 蘭國巡洋艦一、驅逐艦一、特務艦二、輸送船十、魚雷艇一。
- (三) 擱挫 敷設艦一、輸送船。

【大本營發表】十五日午後十時十分、馬來方面帝國陸軍部隊は本日午後七時五十分シンガポール島要塞の敵軍をして無條件降伏せしめたり。

【大本營發表】十五日午後十時十分、南方々面帝國陸軍最高指揮官は陸軍大將伯爵寺內壽一、同總參謀長は陸軍中將塚田攻なり。

シンガポール攻略
御嘉尙

十六日(月) ◇畏くもシンガポール攻略を御嘉尙、陸海軍最高指揮官に勅語を賜ふ◇東條首相議會に於て雄渾な國策を闡明、印度獨立を援助しインドネシアの希望を尊重する旨約束。

【大本營發表】十六日午前十一時四十分、大元帥陛下には本日陸海軍幕僚長を召させられ南方々面陸軍最高指揮官並に聯合艦隊司令長官に對し左の勅語を賜りたり。

勅語

馬來方面ニ作戰セル陸海軍部隊ハ緊密適切ナル協同ノ下ニ困難ナル海上護衛並輸送ト果敢ナル上陸作戰トヲ斷行シ炎熱ニ耐ヘ瘴癘ヲ冒シ長驅鑿鑿隨所ニ勁敵ヲ破リ神速克ク新嘉坡ヲ攻略シ以テ東亞ニ於ケル英國ノ根據ヲ覆滅セリ
朕深ク之ヲ嘉尙ス

◇十六日帝國議會において陸海兩相は次の如く開戦以來の戦況報告をなし、多大の感銘を與へた。

陸相戦況報告

シンガポール陥落の記念すべき時に方り一月中旬以後の陸軍戦況の概要を報告、先づマレー方面について説明する。

マレー方面作戦中の我が陸軍部隊はその後においても炎熱と、地形上の困難特に大密林地帯とを克服し、あるひは主要道路に沿ふ長陸路作戦を反復して猛進撃を続け、或は海上における放膽なる舟艇機動により敵の退路に迫り、決河の勢をもつて進撃を續けた、北部

マレーの敗敵は敵新鋭部隊の來援と相俟つて、戦鬪の焦點が南するに隨ひ、日と共に靱強なる抵抗を加ふるに至つたのであるが、我が陸軍將兵の意氣は既に敵を呑み、克く平素の訓練と精銳なる兵器の威力とを發揮し北部マレー上陸以來僅かに五十五日にして、略々東京一廣島間の距離に相當する長距離の作戦に成功し遂に一月三十一日「ジョホール」水道北岸の要衝「ジョホール・バル」に突入、その城頭高く日章旗を掲げ、作戦の速度ならびに一舉躍進の距離において、世界地上戦史の新記録を樹立したのである。

この間において、我が陸軍航空部隊は、連日縦横の活躍を續けあるは密に我が地上部隊に策應協同して敵の捕捉撃滅に努め、あるはシンガポール附近の軍事施設を撃碎し、更に長驅「スマトラ」方面の敵航空基地を攻撃する等遺憾なくその眞價を發揮した。地上部隊の南下に伴ひ、我が航空基地は逐次推進せられ之と共に我が航空部隊の活動は、愈々活潑を加へてシンガポールに對する空襲の如きは、晝夜を分たず、猛烈に之を敢行したのである。新嘉坡の總攻撃について説明する前に少しく新嘉坡の防備に就て申上げる。

敵の總襲企圖撃碎 新嘉坡は、英國が東洋侵略の軍事根據地として、四億餘ドルの經費と、龐大なる鐵量と多年の日子とを以て建設したものであつて、その防備の概要は、第一圍の如く、難攻不落を誇つた大要塞である。要塞の備砲について見ても、四十五センチ加農五門、三十七センチ加農二門をはじめ、十五センチ加農以上のみで二十六門を下らず、マレーにおいて敗退し、同要塞に據るに至つた敵の火炮もまた相當の數に達するのである。なほ敵は戰機迫るに隨ひ、無數の臨時築城を施し、遂に「ジョホール・バハル」より新嘉坡に通ずる唯一の通路を爆破して、愈々防備を固めその守備兵力は、我が總攻撃開始當時に於て、正規部隊五乃至六旅團、義勇軍二個旅團を基幹とするものと判斷せられた。次にシンガポール島攻略作戰につ

て、只今までに判明しましたところを申上げる。

一月三十一日「ジョホール・バハル」に突入した我が部隊は、「ジョホール」水道を挟んで交戦しつゝ周到なる攻撃準備を進め、二月七日夜先づ新嘉坡島東北に在る「ウビン」島を占領し、二月八日夜、愈々總攻撃の火蓋を切り九日午前零時四十分新嘉坡島西北地區に於て「ジョホール」水道の敵前渡過に成功した。この方面の部隊は、渡過後相當頑強なる敵の抵抗を受けたものゝやうであるが、緊密なる歩砲共同のもと九日十九時既に「テンガー」飛行場の東側に進出し、十日夕には標高四百三十七高地を奪取し、敵を急追して十一日早朝敵陣地左翼の支據點たる「ブキ・テマ」山附近に進出しシンガポールを指呼の間に俯瞰して敵に降伏を勧告したのである。

他方「ジョホール・バハル」方面にありました我が部隊は、九日夜「ジョホール」水道の敵前渡過を強行し、次いで「マングダイ」山附近の敵陣地を攻撃之を占領した。

我が航空部隊は極めて緊密有效に、地上部隊の攻撃に協力し「ブキ・テマ」山を占領した部隊は敵に息づく暇も與へず、攻撃を續行致し、その快速部隊の一部は遂に、二月十一日八時、シンガポールに突入致したのである。「ブキ・テマ」を奪取せられた敵は我が降伏勧告に應ぜざるのみならず、その東方地區において執

拗なる逆襲を反復し必死の抵抗を企圖した。こゝにおいて我が軍は、斷乎これを撃滅するに決し、我が第一線部隊は航空部隊および砲兵特に重砲兵部隊との密接なる協同の下、五日間にわたり、連日猛攻を加へ、遂に二月十五日十九時五十分に至り、敵をして無條件降伏のやむなきに至らしめた。シンガポールはこゝに完全に我が手に歸した次第である。馬來方面作戰部隊が一月末ごろまでに擧げた綜合戰果については既に先般大本營から發表せられた通りである。その後における戰果、特に總攻撃開始以後敵に與へた損害ならびに鹵獲品は莫大の數に上るものと見られるが何分にも攻略直後のことと未だ公報に接して居ない、近く大本營より發表せられる運びに至るので夫れにより御承知願ひたい。

我れ作戰の自由獲得 以上新嘉坡攻略の概況を説明致しましたが若干新嘉坡攻略の軍事上の意義について申上げる。その一は「我が作戰の自由を獲得し得たこと」である。先にも申した通り新嘉坡は英國の東亞における陸、海、空軍活動の大根據地であつて英軍はこの根據地に據つて西太平洋及び印度洋に暴威を逞しうして居たのである。

今や我軍はこの英軍東亞の大根據地を攻略して作戰の自由を獲得するとともにインド洋に對する制壓の威力をも獲得するに至つたのである。その二は「米英兩

軍の直接聯合作戰企圖を困難ならしめたこと」である。米英はその與國を誘ひ對日包圍陣結成を企圖し太平洋方面諸國軍の直接聯合作戰のため陸、海、空軍最高司令部を設くる等活潑なる動きを見せつゝあつたのであるが、その根據地として最も重要なシンガポールの陥落に依り、米英軍は、今や西太平洋に於ける聯合作戰の鎖鑰を喪失し、此の方面に於ける兩軍の直接共同企圖は極めて困難を加へるに至つた。その三は「重慶軍の米英軍と連衡して行はんとする抗戰企圖を極めて困難ならしめたこと」である。

赤道以南にも大戦果 重慶軍は米英と提携してその頽勢を挽回しわれに對する抗戰を企圖してゐたのであるが、皇軍に對する米英の實力は白日の下に曝されたシンガポール大要塞も遂に陥落した今日においては重慶軍は將に孤立無援に陥りその企圖して米、英軍との連衡抗戰も水泡に歸せんとしつゝあるのである。

別の我が一部隊はこれまた海軍と協同して「セレベス」島東方の「モルツカ」群島方面に作戰し、一月三十一日第三圍の右下に在る「アンボニヤ」島に上陸その要衝「アンボニヤ」を占領したのである。比島方面においては殘敵を逐次「バタアン」半島の一角に壓迫中でありまして「ボルネオ」方面の部隊は相次いで果敢なる機動作戰を實施中である。即ち英領「ボルネオ」東部方面においては海上機動に依り一月二十三日「サ

ンダカン」に、一月二十四日「タワオ」に上陸を敢行完全同地を占領し、「タワオ」においては邦人五百八十七名を救出した、又二月六日「北ボルネオ」北端「ジエツセルトン」東北方約五十キロの「クダット」を占領した。英領「ボルネオ」の西部「クチン」附近に在つた部隊の一部は海上を機動して一月廿七日「パマンカツト」に強行上陸し、ついでその東北方の「サンパス」南方の「シンカワン」「ボンチャナツク」を占領した。蘭領「ボルネオ」東部「タラカン」附近にありました部隊の一部も轉進して一月二十四日「バリックババン」に、同三十一日「タナークロゴド」上陸作戦に成功し又二月十日其の西南方「パンジエルマシ」を占領して同地附近を截定したのである。なほ既に截定致しました地域の重要資源開發復舊に就ては鋭意努力中である。

陸軍の活躍する活潑 轉じてビルマ方面においては泰・ビルマ國境附近に集結した部隊が一月中旬より行動を起しその一部は所在の敵を撃破しつゝ前進し十九日には「タグオイ」を、二十九日には「イエ」を占領、更に北方より行動した部隊は三十一日「モールメン」を完全に占領し、その一部は二月九日「サルウイン」河の敵前渡河に成功し十日その河口西方の「マルタバン」を占領し、續いて進撃中である。この方面における我陸軍航空部隊は連日極めて活潑なる進攻作戦を實施して居る。なほ我が有力なる落下傘部隊は一昨十四日遠

く海を越えて「スマトラ」東南部の要衝「パレンバン」を奇襲攻撃して、飛行場その他の要點を占領確保し、既に我が航空部隊の一部は「パレンバン」飛行場に躍進した。

各方面戦況の概要は以上の通りである。軍事上重大なる意義を有するシンガポールも陥落し、また各方面共我が海軍の適切緊密なる協力を得てその作戦極めて順調に進捗して、到るところ、赫々たる戦果を擧げつゝあることは一に御稜威の下忠勇なる第一線將兵の奮戦敢闘と銃後一億國民の熱烈なる後援の賜と信ずるものであつて茲に謹んで皇運の無窮を壽ぎ奉ると共に幾多貴き護國の英靈に對し衷心より敬仰感謝を捧げ又銃後國民各位の御後援を深謝する次第である。

海相戦況報告

新嘉坡陥落に當り前回説明以後における海軍作戦の状況に就てその概要を説明申上げる、開戦以來我軍各方面の作戦は極めて順調に進展し到る所赫々たる武威を發揚し世界を震駭せしめてゐるがとりわけ馬來方面における作戦は陸海軍部隊の緊密なる協同の下、特に陸軍部隊の神速果敢なる進撃により敵に對し全く對應の餘地を與へず遂に昨十五日シンガポールの陥落を見るに至つたことは洵に御同慶に堪へない所である。今や作戦は西太平洋は申すまでもなく遠く米本土沿

岸に及ぶ太平洋の全域に亘り廣大なる規模の下に行はれ敵の戰略要地並びに主要兵力を逐一占領並に潰滅せしめつゝあるが特に「シンガポール」の陥落は東亞に於る敵の最も恃みとする海空軍根據地を覆滅したものであり、これにより我が制海制空權を印度洋にも擴大するに至り、今後の作戦全局に對し極めて大なる影響を及ぼすものと考へる。以下最近における各方面の戦況に付説明する。

緒戦に制海權把握 先づ馬來方面においては陸軍部隊の果敢なる進撃に呼應して、海軍部隊は終始之と緊密なる協同の下に、有力なる海上部隊及び航空部隊を以て緒戦において早くも敵の海上兵力を潰滅すると共に常に洋上を制壓して、陸軍部隊の輸送護衛、後方補給路の確保、上陸根據地の防衛等の任務に従事して陸軍部隊に後顧の憂ひなからしめ徹底的打撃を加へ以て敵が恃みとする海上の増援軍輸送ならびに後方連絡補給等を遮斷した。

これをシンガポール陥落直前五日間、即ち二月十日より十四日に至る間において「シンガポール」南方より「バンカ」海峽附近に亘る海上にて捕捉攻撃したものとみても撃沈英國「アレスラー」型巡洋艦、特設巡洋艦及び潜水艦各一隻、砲艦二隻、特務艦、敷設艦各一隻の外輸送船八隻約六萬四千人、その他撃破又は擱挫せしめたるもの蘭國巡洋艦を含めて計十七隻以上合計三

十二隻に上る。

一方わが潜水艦部隊はマレー半島附近より遠くインド洋にわたつて活潑に作戦致しまして敵の交通を脅かし後方攪亂ならびに戰意破挫に大なる効果を擧げてゐる。かくて馬來の敵兵力は陸海兩面よりの包圍により全く孤立無援の状態に陥り陸軍部隊の猛攻に抗し得ず開戦二箇月餘にして新嘉坡は完全に我軍の領有に歸したのである。

製油施設の復舊進捗 一方蘭印方面に對する作戦もきはめて順調に進捗し「タラカン」占領後「マカツサル」海峽を制壓して機の熟するを待つてゐたわが陸海軍は一月二十四日「ボルネオ」島「バリックババン」および「セレベス」島南東部の要衝「ケンダリー」の兩地に對し同時に急襲上陸を決行した。「バリックババン」は「ボルネオ」第一の油田地帯の中心地で敵も豫め備へる所があり、相當激戦を見たのであるが我軍の勇戦により間もなく附近一帯の要地を占領し目下油田並に製油施設等を鋭意修復中である。

引續き一月三十一日には「モルツカ」諸島の要衝「アンボン」を強襲攻略して「バンダ」海方面制壓の要點を確保した、更に二月九日海軍陸戦隊は「セレベス」第一の要地「マカツサル」港に上陸を決行し市街及び飛行場を完全に占領確保し茲に「セレベス」島の要點悉く我が手に歸し目下着々戦果擴張中である。

ジャバ島の戦果 次に敵聯合軍が中樞據點と特
む「ジャバ」島方面に對する攻撃は先二月三日有力なる
海軍航空部隊の「ストラバヤ」方面軍事要地に對する急襲
を以て開始せられ、此の一撃に敵飛行機八十五機を撃
墜撃破し更に翌四日米蘭聯合艦隊主力を撃滅してこゝ
に開戦以來踏晦してをつた西南太平洋の殘存敵海上主
力を潰滅したのである、また九日には「バタビヤ」周
邊の飛行場を空襲し敵の二〇機を撃墜撃破し引續き攻
撃を加へつゝある。

斯くて此の方面一體の制海制空權全く我方に歸し敵
は名實共に孤立となり其の混亂と士氣沮喪とは覆ふべ
からざるものとなつたのである。轉じて「ニューブリ
テン」島方面においては一月二十三日陸海軍協力の下
に要衝「ラポール」を急襲してこれを占領し、また同
日海軍特別陸戰隊は「ニューアイルランド」の北部要點
「カビエング」に上陸これを占領して爾後いづれも戰
果擴大中である。

「マーシャル」諸島方面に於ては二月一日早朝巡洋艦
及航空母艦を基幹とする敵艦隊が我基地に接近し爆撃
を加へて來たが勇敢なる我航空部隊の反撃に依り敵大
型巡洋艦一隻に火災を生ぜしめ他の艦艇にも損傷を與
へたる外敵飛行機十一機を撃墜してこれを撃退した。
以上この期間において即ち一月二十一日以後の諸作
戦を通じ海軍の擧げた戦果は右に述べたものゝ外撃沈

驅逐艦二隻、潜水艦十五隻、特務艦商船等合せて三十
四隻、約二十一萬噸で敵潜水艦の撃沈は開戦以來の累
計三十三隻に上る。

航空機においては我方の損害三十六機に對し各地に
おいて撃墜破した敵の各種飛行機合せて二七七機、開
戦以來の累計一、二五四機となる。

戦ひ尙今後にあり 以上は最近における戦況の概要
で各方面の作戦は海、陸、空にわたり引續き極めて有
利に進展し顯著なる戦果を擧げて居ることは偏へに大
御稜威の然らしむるところであつて洵に感激に堪へま
せぬ。今や要衝シンガポールの陥落に依りまして大東
亞建設の態勢は一層堅確なるものとなり海洋作戦の見
地よりして印度洋及び濠洲方面に對しては固より全般
の戰略態勢に重大なる地歩を確保したるものなること
は豪語を事とする敵と雖も否み得ざるところと存する
一方大東亞戦争の規模と今後における我遠大なる作
戦とに鑑みると、シンガポール陥落の重大なる意義
を益々活かすことは一に懸つて、今後の戦争遂行の如
何に存するを痛感するのである。

海軍將兵は常に聖旨を奉戴し、苟も既得の戦捷に安
んずることなく、益々周到萬全の用意と堅忍不拔の信
念とを以て一切の困難を克服し、戦争最終の目的達成
に邁進せんことを固く期して居るのである。
終に臨み君國に殉じましたる忠烈なる將兵に對し衷

心哀悼の誠を捧げ其の遺家族に對し深甚の同情を表す
る次第である。

十七日(火) ◇バレンバン完全占領◇シンガポールを昭南島と輝く日本名に改名、我が艦艦堂々と
同軍港に進駐

【大本營發表表】十七日正午】シンガポール島(港)は爾今昭南島と呼稱することに定められたり。

十八日(水) ◇海鷲スラバヤを大空襲敵驅逐艦五隻に命中弾◇戦捷第一次祝賀日、東條首相陣頭に
聖上の萬歳を奉唱◇參謀次長に田邊盛武中將親補さる◇英租界を國府へ移管。

【陸軍省發表表】十八日】參謀次長陸軍中將塚田攻の南方方面帝國陸軍總參謀長轉出に伴ひ過般左の如く發令せら
れたり。

補參謀次長

陸軍中將 田邊盛武

田邊盛武中將 新參謀次長田邊盛 の幕僚であり、ともに同じ作戦の帷 車學校長に轉じのち大陸の戦野をふ
武中將は世界の軍事專家を驚倒せ 梶の人としてあの大作戦をやつての み、北支山西省の山嶽部隊長として
しめた柳川兵團の杭州灘敵前上陸の けた今この兩將軍がともに中央部と 治安の確立に偉功をたてた後北支軍
時の最高幕僚である。中將は柳川兵 第一戦との最高幕僚として一人は前 に轉じ多田大將の最高幕僚として多
團の幕僚として智囊を傾けたが前任 線の寺内大將を助け、他は中央部の 大の足跡を残し在職一年餘にして歸
の參謀次長で、今は南方方面總參謀 杉山大將を輔佐して大東亞戦争の完 還今回の榮職についた。金澤出身。
長に轉じた塚田中將は當時上海正面 遂を期する布陣となつたものである
から攻略した松井大將麾下の中支軍 田邊將軍は中支から歸還後、千葉戦

バレンバン完全占領(二月廿二日參照) 昭南島と命名

【帝國政府聲明】十八日午後五時情報局發表】天津および廣東の英國租界に對しては大東亞戰爭勃發と共に兵力を進駐し帝國軍において、これが管理に當り來れるところ我が方においては、右租界の行政を國民政府の管理に移すこととなりその旨國民政府に通報せり。

行政移管の意義 大東亞戰爭勃發 次の如き聲明を行つた「今回の天津 義は大なるものがある。他方米英にとともに帝國は天津および廣東の英 廣東英租界行政への移管がかくも急 取組つて迷夢さめざる重慶政權に對國租界に對して兵力を進駐せしめ、 速に斷行されたについては帝國に協 する打撃は甚大であらう。 皇軍においてこれが管理に當つて來 力する國民政府に對しては當然取得 なる打撃は甚大であらう。 なほ今回の措置は同様の意味にお たが今回右租界の行政を國民政府の すべき權益は購置するところなくこ いて大東亞解放の聖戰に燃ゆる帝國 管理に移すことに決定、その旨國民 力を同政府に返還するといふ帝國の の眞意を東亞の諸民族に徹底せしめ 政府に通報した、右に關し帝國政府 崇高なる精神の發露であつて、國民 好個の英斷たるを失はない」 は十八日午後五時情報局發表として 政府の今後の發展強化におよぼす意

十九日(木) ◇海鷲濠洲本土を初爆撃敵基地ボート・ダーウィンの海空兵力を覆滅◇陸海軍部隊バ
リ島に上陸◇陸鷲ジャワ島大空襲米蘭の四十六機を屠る◇陸軍部隊バタン、サンブ兩島(昭南島
南方)を無血占領。

二十日(金) ◇陸海軍部隊、海軍落下傘部隊チモール島及びデリー方面に敵前上陸◇チモール島上
陸に關し帝國政府聲明を發し葡領土保全を保障◇陸鷲ジャワ島カリジャチ飛行場を襲ひ米蘭の廿
七機を撃破◇我水雷戰隊ロンボク水道で敵驅逐艦三隻撃破。

【大本營發表】二十日午前十一時五十分】スマトラ、ジャバ方面を制壓中の帝國陸軍航空部隊は昨十九日西部ジ

濠洲本土初
爆撃(二月
廿三日參
照) 陸(二
月廿三日
參照) 島上
陸(二月
廿三日參
照) 島上
陸(二月
廿三日參
照)

ヤバ、バイテンゾルグ飛行場(バタビヤ南方)を強襲し米蘭敵機二十七機を撃破せり、我に損害なし。
バイテンゾルグ 西曆一七四五年 種試驗場、研究所その他總督官邸が メートル、短邊九百メートルの廣さ
ごろ建設された蘭印産業界の中心地 あり。人口約七萬で海拔二百五十メ を持ち強力なる航空部隊が新設され
で、こゝに蘭印政府經濟部産業關係 ートル、ジャワ島内で氣候は最も良 てゐた。
の各局があり世界一と稱せられる熱 好な所である。同飛行場は昨年六月
帯植物園があつて園内には博物館各 十七日擴張工事完了し、長邊千二百
【大本營發表】二十日午後一時】帝國陸海軍部隊は緊密なる協同のもとに二月二十日未明チモール島クーパーン及
びデリー方面に敵前上陸を敢行せり。

帝國政府聲明

客年十二月十七日英蘭兩國軍は葡領「チモール」總督
の拒否に不拘同領に侵入し、これを占領するの措置に
出でたり、爾來英葡兩國間に撤兵方の交渉開始せられ
葡國政府は事態改善のため努力したる模様なるも事態
は何ら變更を見ずして、今日に至れるところ今般葡領
「チモール」に對する我方作戰の進展に伴ひ自衛上帝
し何ら他意ある次第に非ざることをこゝに闡明す。

チモール 葡領チモールはチモー 僧侶が渡來したのが最初の開拓者で 産業は農業が主でコーヒー、椰子、
ル島を切半した東半部で面積は一萬 そののち引續き宣教師が渡來し傳道 煙草、棉花、砂糖、護謨、槻榔等が
九千平方キロ、わが四國とほぼ同じ と教化に努力したが、土人の叛亂が 輸出され、鑛業は金、石油を産出し
位、人口は約五十萬、そのうち歐洲 續いた、一七四九年ポルトガル軍が 林業、牧畜も盛んである、氣候は海
人二千、支那人二千、アフリカ人三 上陸し、完全占領した、首府デリー 岸は熱帶氣候であるが、奥地はわが
百人、印度人百人で殘部は土着民で は貿易港として知られ、水深深く巨 國の春秋に相當する氣候である。な
ある。十六世紀にポルトガル人の一 船も岸壁に横づけされる良港である ほチモールは昨秋わが國と航空協定

を締結して以来急速に緊密の度を加へて来た。

【大本營發表】二十日午後四時三十分】帝國海軍航空部隊は二月十九日濠洲本土北岸敵最大の海空軍基地ポートダーウインに對し大舉大攻撃を敢行し、所在敵航空兵力ならびに在港敵艦艇船舶を覆滅、更に陸上重要軍事施設の大半を爆破せり、戦果左の通り。

- 一、撃破敵機 所在敵機全部（二十六機）
- 二、撃沈艦艇船舶 六千トン級特設巡洋艦一、驅逐艦二、驅潜艇一、輸送船九、驅逐艦一（大破）
- 三、爆破または炎上せる陸上施設 東西兩飛行場格納庫全部（三棟）兵舎（二棟）海軍司令部、官廳衙、棧橋、本攻撃においてわが方二機を失へり。

（註）同港在泊中の病院船には攻撃を加へず

ポート・ダーウイン は濠洲北部 ート・モレスビーと共にその防備強ルの滑走路を有し、何れも米國重爆直轄州の首府で白人の人口約二千、化に狂奔してゐたものである。軍港 隊比島増強の空輸基地として利用され天然の良灣を利用してシンガポール 施設のほか沿岸防備としては沿岸要 れ海岸近くに油槽十數基の設備がありマニラ・ポート・ダーウインを結ぶ 塞、防空施設にも力を入れ、最近は 里、開戦後同港の防備は非常に強化戦略三角形の一頂點であり北部濠洲 陸軍機械化部隊まで新設駐屯、陸兵 され港口には防潜網が展開されてゐる防衛の最樞要海軍根據地として利用 は約一萬と稱されてゐた、同地の陸 たいはれる。する意圖のもとにニューギニアのポ 上飛行場は二箇所あり、二千メートル

【大本營發表】二十日午後六時】帝國陸軍航空部隊は、昨十九日ジャバ島バイテンゾルグ飛行場の攻撃に引續き、さらに午後五時大舉してバンドン西飛行場を猛襲し米蘭敵機十九機を撃破せり、この日におけるジャバ方面の綜合戦果は撃破敵機四十六機にしてジャバ島米蘭聯合空軍に對し潰滅的打撃を與へたり、わが方未だ二機歸還せず。

二十一日（土） ◇海鷲體當りを以てニューギニア北東洋上で敵空母を撃沈◇陸軍部隊スマトラ東南端タンジュンカランを占領◇シンガポール攻略の陸軍綜合戦果發表俘虜七萬三千、火炮三百門。

【大本營發表】二十一日正午】馬來方面帝國陸軍部隊のシンガポール島攻略戦において收めたる戦果の主なるもの左の如し。

- 一、俘虜 軍司令官以下總數約七萬三千（將官級二十八名）なほ負傷兵約八千は市内主要ホテルに收容治療を加へつゝあり。
- 二、鹵獲品 大威力重砲その他各種火炮約三百門、機關銃二千挺以上、小銃約五萬挺、戦車（裝甲車を含む）約二百輛、各種自動車約一萬臺、自動二輪車約二百臺、彈藥、大威力重砲彈のほか極めて多數、その他軍需資材多數、船舶一萬トン級汽船一隻、五千トン級タンカー三隻、その他大小舟艇多數。
- 三、我軍の損害は目下調査中なるもジョホール水道渡過後の戦死傷者は約三千の見込みあり。

【大本營發表】二十一日午後零時十分】帝國陸軍航空部隊は昨日引續き西部ジャバ、カリジャチ飛行場を大舉攻撃し、米蘭機二十七機を撃破し、かつ飛行場諸施設を爆破炎上せしめたり。

【大本營發表】二十一日午後三時十五分】バリ島方面海陸協同作戰實施中、帝國海軍水雷戰隊所屬〇〇驅逐隊驅逐艦二隻は、二月二十日午前零時同島東方ロンボク水道において、巡洋艦二隻、驅逐艦三隻より成る敵米蘭聯合部隊に遭遇するや直ちに攻勢に轉じ、午前零時四十分砲火を開き、戦闘十分にして敵驅逐艦二隻を撃沈し、他の一隻を大破せしめ、更に逃走を企てたる敵巡洋艦二隻を急追、午前三時十五分にいたり再度これと交戦せり、又分離行動中の同隊驅逐艦二隻も急遽南下し來り、この敵を攻撃せしが、敵は我砲雷撃により損害を受け倉皇として夜陰にまぎれ我視界外に遁走せり、本戦闘において我方驅逐艦一隻損害を受けたるも、戦闘航海に支障なし。

【大本營發表】二十一日午前十一時】一、帝國海軍航空部隊は二月十八日スラバヤ大空襲を敢行し、米新鋭機十三機を撃墜し、更に同港潜伏中の敵驅逐艦五隻に命中弾を浴びせ、大損害を與へたり、本攻撃において我方二機未だ歸還せず。

二、帝國海軍航空部隊は二月十七日チモール島クーバンを空襲し、敵砲臺ならびに兵舎倉庫群二十棟を爆砕し、同方面所在の敵船三十トン級一隻を撃沈せり。

三、帝國海軍艦艇は二月十七日、十八日スマトラ島方面において敵特務艦一隻を撃沈し、英驅潜艇一隻、掃海艇一隻および英驅船各一隻を拿捕せり。

二十二日(日) ◇ビルマのシツタン河東岸の大殲滅戦大詰迫る◇海鷲蘭印各地を大爆撃。

【大本營發表】二十二日午後三時】帝國陸軍部隊はわが海軍部隊と緊密なる協同の下に二月十五日未明、バンカ島ムントク附近の敵前上陸に成功し同日夕、同島東岸の要衝バンカルピナンを占領し更に戦果擴大中なり。

【大本營發表】二十二日午後三時十分】強力なる帝國陸軍新鋭部隊は二月十五日早朝ムシ河を遡江して、さきにバレンバン飛行場を占領せる、陸軍落下傘部隊と協同し、同十七日南部スマトラ島の要衝バレンバンを完全に占領せり。

二 要衝占領の意義

スマトラ島バレンバン、バンカ島バンカルピナンなど今次の要衝占領はわが南方作戦遂行上戦略的ならびに資源的に重大なる意義を持つものである、すなはち一、スマトラ島はさきにわがマレー半島戦線に對し蘭印軍の前進根據地を形成し、しばしば反撃に出てゐる

たがシンガポール要塞失陥とスマトラ島要衝バレンバンを完全占領されたことによつて同島の機能は完全に喪失したこと。
一、さきのボルネオ島要衝占領と相俟つてスマトラ島バンカ島ボルネオの三重要基地がわれによつて完全に連絡され、一本の南方進攻作戦の基線を形成したこと。
一、右の基線によつて敵の南支那海方面出動を遮断し

またスマトラ島とジャバ島との遮断によつて蘭印は事實上手足をもぎとられ、その心臓部に匕首を刺されたものであり、さらにさきのチモール島の皇軍上陸と相まつてジャバ島は戦略上孤立化するに至つた。

錫等、戦争完遂上不可欠の資源に富み、わが優秀な開發技術によつてこの無盡蔵の寶庫が開發されるときは日本が資源的にみて甚だ有利な態勢におかれわが方の資源作戦展開に重要基點を加へたものである。

しかしてスマトラ島およびバンカ島は石油、ゴム、

バンカ島 人口十七萬、錫およびムントク、バンカ島の西端に位し、これを前進飛行場として利用してゐた。ボーキサイトを多量に産し、特に錫、シンガポール、ジャバ間定期航空路、またムントク港はバンカ海峡の北門は蘭印全産額の五十九パーセントを、中間着陸場にして、飛行場は縦千として良港とはいへぬが、島内物資占む、同島の錫埋藏量は約八百五十メートル、幅二百五十メートルの中の唯一の輸出港として重要視せられ萬トンと稱せられる。形飛行場である。蘭印空軍は戦後こゝてゐた。

二十三日(月) ◇陸軍部隊バレンバンよりスマトラ島西岸及び北方に進撃を開始◇海軍部隊スマトラの海軍基地スマンカ灣を完全に掃蕩。

【大本營發表】二十三日正午】スマトラ、ジャバ、ビルマ各方面に航空撃滅戦を續行中なる帝國陸軍航空部隊は

二月二十一日、二十二日の兩日にわたり、ジャバ島バイテンゾルグ、カリジャチ、バンドン、ビルマ領トングウバセイン各飛行場を大撃攻撃し、米英蘭機三十九機を撃墜破せり、我が軍の損害未歸還一機、大破一機なり。

【大本營發表】二十三日午後四時十分】帝國陸海軍部隊は緊密なる協同のもとに、二月十九日バリ島南部の要地デンパサルを完全に占領せり。

バリ島 バリ島はバリ海峡を距て、ダ列島の戦略的要地で島内のシンバ、島の面積約五千八百平方キロ、てジャバ島の東に列なり、小ジャワ、ラン飛行場は敵空軍の有力な基地と、四國の三分の一の大きさで人口約百とも呼ばれる、北はジャワ海、フロ、なつてゐたが、去る五日わが海軍は十萬、南岸の港デンパサルが島内第一レス海、南は印度洋に臨み、小スン、これを猛襲し敵入機を撃墜破してゐる、一の町で人口約一萬七千、首邑はシ

ンガラジャ(人口一萬三千)にあり、とともに旅行者にはあ、ことを知ら、ヨロツバ人多く人口の約七十パー
 バリ島および東隣のロンボック島を、ない觀光地であり「東洋の寶玉」と、セントを占めてゐる。街にはバリ博
 統治する理事官が駐在する。
 島内には鐵道も電車もないが道路、愛稱されるゆゑである。地味豊沃、物館、寺院等があり遊覽者が多い。
 網は頗る整備されてゐる。赤道の南、で米、玉蜀黍、棉花、煙草、椰子、なほベノア(デンパサル東方九キロ)を
 入度餘、氣候は快適、全島風光明媚、珈琲を産し、牧畜も盛んである。をその外港としてベノア港はバリ島
 の樂園で、バリ人は無踊を好み、ソ、リ島の首邑として摩印と濠洲をつな、一の港である。軍事施設はベノアの
 の舞踊は世界的に有名で特殊の風俗、ぐ重要據點である。人口約一萬六千、附近に水上飛行基地がある。

二十四日(火) ◇我潜艦米本土カリフォルニア州を砲撃軍事施設を撃砕◇陸鷲ジャワ島バンドン、
 バイテンゾルグ、チリリタン、バタビヤ等を一齋空襲敵機六十八を撃破◇大島島來襲の米空母、
 巡艦等九隻を撃攘。

【大本營發表表】二十四日午後四時十五分】帝國海軍落下傘部隊は再び二月二十日チモール島クローバン附近に奇襲
 降下し、目下所在の敵を撃破しつゝ進撃中なり。

【大本營發表表】二十四日午後五時四十五分】帝國陸軍部隊は二月二十日朝スマトラ島東南端の要衝タンジュンカ
 ランを占領せり。

二十五日(水) ◇陸鷲ビルマの敵基地マングラレー、ミンガラドンを強襲敵機三十四を撃墜破。

【大本營發表表】二十五日午後一時三十分】帝國潜水艦は昨二十四日夜間米國カリフォルニア州沿岸の軍事施設を
 砲撃し大なる戦果を収めたり。

米沿岸砲撃の意義 開戦以來遠く太平洋を渡つて 現はし、米本土軍事施設に初の砲撃を加へた、この勇
 米沿岸に活躍し、逆封鎖戦に敵の心膽を寒からしめて 敢なる我潜水艦の無敵の活躍振りは眞に米國民はもと
 るた我潜水艦は遂にカリフォルニア州沿岸に悠々姿を より敵側各國民を震撼せしめるものである。

【大本營發表表】二十五日午後四時三十分】二月十九日來西部ジャバ方面に航空撃滅戦を續行中の帝國陸軍航空部
 隊は昨二十四日前日に引續き數次にわたりジャバ島主要航空基地たるバンドン、バイテンゾルグ、チリリタン
 バタビヤ各飛行場を反復強襲し、敵機六十八機を撃墜破し残存米蘭聯合空軍に對し致命的打撃を與へたり、本
 空襲間バタビヤ港を攻撃せる部隊は、敵艦船群に猛襲を加へ輕巡一隻、三千トン級汽船二隻に多數の命中弾を
 與へたり、我軍の損害大破一機なり。

二十六日(木) ◇ビルマの陸軍部隊シツタン河渡過を開始、主力部隊は南轉開始◇海鷲蘭印各地を
 爆撃。

【大本營發表表】二十六日午後四時四十五分】帝國海軍航空部隊は二月二十一日ニューギニア島北東方數百哩の洋
 上に航空母艦を含む有力なる敵部隊を發見、機を逸せず敵上空に殺到、敵戦闘機群と壯烈なる空中戦闘を交へ
 その一部は猛烈機體もるとも體當りを以て敵航空母艦を大破、大火災を生ぜしめ、他の軍艦一隻にも大損害を
 與へ、敵戦闘機十機を撃墜せり、本攻撃に於て我方未だ還らざるもの九機なり。
 (註) 右の航空母艦はその被害情況等より察し撃沈せられたるものと認めらるゝも、その終焉まで見届くるに
 至らざりしを以て沈没確實ならず。

【大本營發表表】二十六日午後五時】西部ジャバ方面に航空撃滅戦を續行中の帝國陸軍航空部隊は昨二十五日さら
 にかリジャチ飛行場を強襲し残存敵機三十七機を撃墜破せり。

二十七日(金) ◇海軍部隊、バリ島附近にて敵特設航空母艦及び艦載機三十機を爆破炎上せしむ。

【大本營發表】二十七日午前十一時五十分(一)その後の詳報に依ればバリ島沖海戦の戦果左の通りなること判明せり、驅逐艦四隻(米二隻、蘭二隻)撃沈、巡洋艦二隻驅逐艦一隻大破(二)帝國海軍航空部隊は二月二十二日チモール島附近において蘭敷設艦ヤンプラアンブラーケル型一隻、三千トン級敵船一隻を爆破炎上せしめ、二萬トン級敵船一隻を爆沈せり。

【大本營發表】二十七日正午【ビルマ方面帝國陸軍航空部隊は一昨二十五日マンダレー及びミンガラドン飛行場を大舉強襲し敵機三十四機を撃墜破せり、我軍の損害未だ歸還せざるもの三機なり。

【大本營發表】二十七日午後三時十五分【轟に米英蘭聯合空軍の大半をスラバヤ方面に撃滅せる帝國海軍航空部隊はさらに十八日以来、二十五日まで蘭印全土ならびに、ニューギニア島に残存する敵機九十九機を撃墜破せり。

二十八日(土) ◇スラバヤ沖海戦において米英蘭聯合艦隊の巡洋艦三、驅逐艦六を撃沈、巡洋艦四を大破◇陸鷲スンダ海峡にて敵艦四隻に直撃弾命中◇海鷲ジャワ南方海上で十三機撃墜。

【大本營發表】二十八日午後零時十分【我蘭印方面所在艦隊主力は二十七日午後六時ジャバ海において敵西南太平洋聯合艦隊主力を捕捉し激戦を展開敵巡洋艦一隻、驅逐艦三隻を撃沈し、目下殘敵追撃中。

【大本營發表】二十八日午後三時四十五分【大島島(舊ウエーキ島)海軍部隊は、二月二十四日未明、敵航空母艦一隻、巡洋艦二隻、驅逐艦六隻を發見、同島陸上砲臺は直ちにこれを砲撃し敵巡洋艦一隻に火災を生ぜしめ驅逐艦一隻の艦尾に命中弾を與へ、また同方面所在海軍航空部隊は、敵大型巡洋艦一隻の後甲板に爆弾を命中せしめたる外、敵機五機を撃墜し、さらに所在航空部隊の總力をもつて、これが撃滅を期し發進せるも、敵は逸

早く遁走し、洋上遠く船晦せり、本戦闘において我方監視艇一隻沈没、陸上施設に輕微なる損害を蒙り、數名の死傷者を生じたり。

【大本營發表】二十八日午後三時【帝國陸軍部隊の二月九日以降同二十五日に至る間における南方各方面の戦況左の如し。

一、馬來方面 マレー方面帝國陸軍部隊は、シンガポール島要塞攻略後昭南市内外の治安の回復に努めると共に、二月十八日有力なる一部を以てブクム島およびサンボ島に、二十日ピンタン島にそれ〴〵機動上陸しこれを占領せり、昭南島における軍主力は爾後の作戦を準備中にして將兵の士氣いよ〴〵旺盛なり、昭南市の接收は極めて順調に進捗し治安もまた迅速に回復しつゝあり、その概要次の如し。

(1) 總督、民政長官をはじめ英人官吏は比較的多く在留しありて我が接收業務を容易ならしめあり (2) 英人非戦闘員一千三百二十名は昭南郊外に收容保護を加へつゝあり (3) 通信諸施設は多少破壊せられたるも機能概ね完全にして着々修理復舊しつゝあり、但し無線局、放送局等は完全に破壊せられあり (4) チャンギ監獄に監禁中の在留邦人二十八名を發見收容せり、なほマレー在留邦人千六百名は、一月七日印度に護送せられたるもの〴〵如し。

二、ビルマ方面 (1) モールメンを占領し、サルウイン河左岸地域に進出せる帝國陸軍部隊は二月十日周到なる準備のもとに數方向より果敢なる敵前渡河を敢行、同日午後一時サルウイン河口の要衝マルタパンを攻略し引續き爾後の作戦を準備中なり、二月八日以降における主なる戦果中判明せるもの左の如し。

遺棄死體三千五百三十七、俘虜二千三百九十八、兩獲品戦車(装甲車を含む)十二輛、火炮八十八門、機關銃百六十一挺、銃器一千三挺、自動車五百七十七輛、銃砲彈約五十萬發、鐵道車輛二十輛その他各種軍需資材多數 (2) 陸軍航空部隊は地上部隊に密に協力して其進攻作戦を容易ならしめると共に屢々ミンガラドン、レグー、トング、マンダレー、バセイン各飛行場を急襲して航空撃滅戦を敢行し、ビルマ英空軍の再建企圖を破砕しつ

つありこの間の戦果、撃墜破敵機六十四機なり。

三、比島方面 バタアン半島及びコレヒドール島に蟄伏しある残敵に對し、陸海より完全に連絡を遮断すると共にこれが掃滅戦を續行中にして戦況豫期の如く進捗しつゝあり。

四、蘭印方面 (一)スマトラ島に作戦せる帝國陸軍部隊は二月十五日一部を以てバンカ島ムントクに上陸し、バンカ海峡を扼したる後、主力を以てムシ河を遡江し、さきに蘭印第一の油田地帯たるパレンバンに奇襲降下せる帝國陸軍落下傘部隊と協力し、同十七日激戦の後同地を完全に占領し、その重要施設を略取すると共に有力なる一部は機を失せず南進して二十日南部の要地タンジュン・カランを、二十二日パレンバン西南方百五十キロのラハトを、二十四日ベンクレンを攻略し、旬日を出でずして南部スマトラ要域大部の戡定を終了せり。パレンバン攻略戦果の主なるもの左の如し。

南獲品戦車十六輛、火炮二十三門、鐵道車輛約五百輛、その他各種資材多數、俘虜約四百
なほムントク上陸部隊は十五日夕その一部を以てバンカルピナンを占領せり。

(2) 蘭領ボルネオ島に作戦中の帝國陸軍部隊は一月三十一日タナーグロゴトに上陸せる部隊を以て陸路四百キロを踏破し、二月十日南東部ボルネオ州の首府バンジエルマシんに突入して、その飛行場および市街を占領確保し引續き周邊の敵を掃蕩中なり、またボンチャナツク一帯を確保し、引續き西部ボルネオ地區に作戦しある部隊は二月十三日來その一部をもつてカプアス河を遡江して、サンゴウ及びシンタン附近に機動し、十六日シンタンを占領せり。

(3) 小スンダ列島方面に作戦せる帝國陸軍部隊は海軍部隊と緊密なる協同のもとに二月十九日バリ島南海岸に上陸し、直ちに要地デンパサルを衝き同地およびその飛行場を占領せり。

(4) 大スンダ列島方面に作戦せる帝國陸軍部隊は海軍部隊と緊密なる協同のもとに二月二十日未明敵の猛火を冒してチモール島デリー附近およびクーパーン附近の上陸に成功し所在の敵を撃破して戦果擴大中なり。

クーパーン附近に於て獲得せる俘虜は、濠洲兵約千五百にして、チモール州副理事官ならびに檢察官も又我に投降せり、又デリーに於て監禁中の邦人三十一名を救出せり。

(5) アンボン島上陸部隊は二月二日アンボン市を占領後引續き全島の戡定作戦を續行中にして二月六日まで俘虜約二千三百を得たり。

(6) ジャバ、スマトラ方面に作戦中の帝國陸軍航空部隊は連日果敢なる航空撃滅戦を敢行しスマトラ、西部ジャバ方面米蘭聯合空軍の大部を殲滅せり、その状況次の如し。

スマトラ方面 二月六日以來五次にわたりパレンバン、パカンバルの各飛行場を長驅強襲し、スマトラ蘭印空軍を壊滅せしめると共に、陸軍落下傘部隊のパレンバン奇襲降下にあたりては大舉出動して、南部スマトラ地區敵残存空軍の蠢動を完全に制壓し、その行動を容易ならしめたり、この間の戦果撃墜破敵機四十四機なり。

西部ジャバ方面 二月十九日來八次にわたりバイテンゾルグ、バンドン、カリジャチ、バタビヤ、チリリタン各飛行場を連日強襲して、ジャバ方面米蘭聯合空軍の大部を殲滅せり、この間の戦果撃墜破敵機二百十八機なり。

五、英領ボルネオ方面 北部英領ボルネオにおいて戡定作戦を續行中の陸軍部隊は、マアルズ灣附近に蠢動する敵を攻撃し二月六日要衝クダットを占領せり。

六、ピスマルク群島方面 英領ニュー・ブリテン島に作戦中の帝國陸軍部隊は引續き残敵を掃蕩中なりしところ二月上旬概ね同島の戡定作戦を終了せり、作戦開始以來同島において得たる俘虜總數は、ラバウル總指揮官スカンロン大佐以下六百九十七なり。

昭和十七年三月

ジャワに
一齊上陸
(三月二
日参照)

バタビヤ
沖海戦

一日(日) ◇陸軍大部隊ジャワ島に一齊上陸◇スラバヤ方面海軍作戦部隊、更に英甲巡一、驅逐艦二を撃沈◇バタビヤ沖海戦において米大巡、濠巡各一を撃沈◇セレベス上陸の海軍陸戦隊、チャンバを占領◇我が潜水艦米本土西岸に活躍。

【大本營發表】一日午後四時】一、ジャバ方面海戦において三月一日早朝までに判明せる戦果左の通り。

(一) スラバヤ方面海軍作戦部隊は二月二十七日薄暮より二十八日未明までに敵米英蘭聯合艦隊に屬する巡洋艦三隻、驅逐艦六隻を撃沈、巡洋艦四隻を大破せり (註) 本海戦をスラバヤ沖海戦と呼稱す (二) バタビヤ方面海軍作戦部隊は三月一日早朝米大巡一隻、濠巡一隻を撃沈せり (註) 本海戦をバタビヤ沖海戦と呼稱す 二、この兩海戦において我蘭印方面所在艦隊は西南太平洋方面敵艦隊主力を概ね殲滅し、なほ殘敵掃蕩中なり 三、わが方の損害は驅逐艦一隻小破せるも戰闘航海に差し支へなし

殲滅まで

(一) 開戦前西南太平洋には米アジア艦隊、英東洋艦隊蘭印艦隊および濠洲艦隊の四艦隊が、それ／＼獨立してゐたがマレー沖海戦で英東洋艦隊の主力であるプリンス・オブ・ウェールズとレパルス兩主力艦が撃沈され一方比島の陥落によつてアジア艦隊はその根據地を失つてしまつた。

(二) そこでスラバヤを中心に米アジア艦隊の甲巡ヒ

ユーストン、乙巡マーブルヘッドをはじめ蘭印の巡洋艦を加へた計七隻の巡洋艦を主力に英東洋艦隊の殘存艦を掃蕩せり、しかしこの西南太平洋艦隊もまづエンダウ沖海戦(一月二十七日)で一撃を加へられ、ついでジャワ沖海戦(二月四日)でその主力は致命的打撃を與へられ、この間ゲリラ戦に狂奔した潜水艦も、すつかり掃蕩されてしまつた。

(三) 戦死したハート提督に代つて蘭印海軍のヘルフ

リツヒ少將司令官となり、以上の殘存勢力に新たに濠洲艦隊と新西蘭艦隊とを加はつて「西南太平洋方面米英濠蘭聯合艦隊」が編成された。これに米英の本國海

軍からの増援部隊が加はつて出撃して來たがこんどのスラバヤ沖、バタビヤ沖の兩海戦で撃滅されたのであ

【大本營發表】一日午後四時五十分】帝國陸軍航空部隊は二月二十七、二十八日の兩日にわたりその主力をもつて西部ジャバ海の敵艦隊を求めて攻撃し、スンダ海峡において、三千トン級軍艦一隻を爆碎炎上せしむるとともに、巡洋艦二隻、驅逐艦一隻に各々確實に直撃弾を命中せしめこれに多大の損害を與へたり。

二日(月) ◇海軍部隊チラチャツプ沖で英驅逐艦撃沈◇海軍部隊比島サンボアンガを占領◇海鷲ジャワ島スンダ列島を襲撃◇海軍部隊濠洲西方にて米巡洋艦撃沈。

【大本營發表】二日午後零時二十分】新銳帝國陸軍大部隊は我海軍部隊護衛の下に昨日未明空陸海よりする敵の猛反撃を冒しつゝジャバ島東部、中部、西部各方面の強行上陸に成功し引續き戦果擴大中なり。本上陸作戦における我船團の損害判明せるもの沈没一隻、擱坐三隻なるも揚陸過半終了せるものにして、これが人員の損害殆ど皆無なり。

【大本營發表】二日午後四時三十分】マレー方面帝國陸軍部隊のマレー上陸以來シンガポール島要塞攻略までに收めたる綜合戦果次のごとし。

- 一、敵に與へたる損害 俘虜九五、〇〇〇、遺棄死體約一五、〇〇〇、撃破飛行機五五機、撃破艦艇および船舶一〇一隻、鹵獲品 飛行機一七機、戰車(裝甲車を含む)四五〇輛、大威力重砲その他各種火砲六三〇門、機關銃二、五五〇挺、自動小銃および小銃五二、〇六二挺、各種自動車一三、八三〇輛、鐵道車輛八三二輛、大小船舶その他兵器、彈藥、資材多數
- 二、我軍の損害 戦死三、二八三名、戦傷六、一〇一名、飛行機自爆八、未歸還二八、不時着その他損傷三六

サンボアンガ占領
(三月五日参照)

【大本營發表】二日午後五時四十分】殘敵掃蕩中のスラバヤ方面海軍作戦部隊は更に三月一日午前十一時クラガ
ン北方海面逃走中の英甲巡一隻並に驅逐艦二隻を撃沈せり。

三日(火) ◇大東亞海兩海戦の綜合戦果發表◇海軍部隊チラチャツプ沖で更に米砲艦撃沈◇海鷲濠
洲西岸ブルーム、ウインダムを急襲◇ビルマ進撃部隊ビルマ鐵道を遮斷。

スラバヤ
バタビヤ
兩海戦
綜合戦果
三月一日
照)

【大本營發表】三日午後五時三十分】蘭印方面所在帝國海軍作戦部隊は二月二十七日より三月一日に至るスラバ
ヤ沖、バタビヤ沖兩海戦において同方面敵艦隊を撃滅せり、その結果左の通り。

一、撃沈せる敵艦隊主力 ヒューストン米甲巡、エクゼター英甲巡、パース濠乙巡、ホバート濠乙巡(轟沈)
デ・ロイテル蘭乙巡、ジャバ蘭乙巡。

二、その他撃沈せるもの 潜水艦七隻、驅逐艦八隻(内二隻大損傷擱坐)砲艦一隻、掃海艇一隻、本海戦におい
てわが方掃海艇一隻沈没、驅逐艦一隻小破せり。

(註) 一、ジャバ沖海戦において撃沈と傳へられた 三、さきにスラバヤ沖海戦において巡洋艦四隻大破と
るヒューストン型一隻はオーガスタ撃沈なりしこと判 發表せしところ内二隻はその後バタビヤ沖海戦におい
て撃沈せられたるもの、他の二隻は夜暗激戦中驅逐艦
二、ジャバ沖海戦において大破間もなく沈没と發表せ 又は砲艦などを巡洋艦と誤認せるものなること判明せ
るデ・ロイテルはトロンブなりしがごとし。

◇米甲巡ヒューストン(九〇五〇噸) 一九三一年五月竣工、速力三二節、シュペー號を爆沈せしめた英艦隊中
一九三〇年六月竣工、速力三二、七 主砲二〇・三擲六門、搭載機二臺、の一隻であつた。

◇主砲二〇・三擲九門、搭載機四臺 なほ同艦は去る十四年冬南米モンテ ◇濠乙巡パース(六九八〇噸) 一九
◇英甲巡エクゼター(八三九〇噸) ビデオ沖で獨ボケット戰艦グラフ。 三六年七月竣工、速力三二、五節、

主砲一五、二擲。 八年五月竣工、速力三三節、主砲一
◇ホバート(パース)と同型で一九 〇同ジャバ(六六七〇噸) 一九三六 五擲六門。
三六年一月竣工。 年五月竣工、速力三二節、主砲二五
◇蘭乙巡デ・ロイテル(六四五〇噸) 擲七門。
一九三六年五月竣工、速力三二節、 〇同トロンブ(三三五〇噸) 一九三

南島島へ
敵機襲來
(三月五
日參照)

バタビヤ
占領(三
月六日參
照)

四日(水) ◇南島島で敵機七機撃墜◇海鷲バンドンを急襲、十八機を撃墜破◇陸軍部隊スマトラの
要衝ジャンビーを占領◇海鷲ハワイ軍港を再襲。

五日(木) ◇ジャワ進撃部隊バタビヤを完全占領◇陸軍部隊南部スマトラ一帯の戡定完了す。

【大本營發表】五日正午】(一)三月四日未明、敵機約三十機南島島上空に出現、われ直ちに反撃を加へ、敵機
七機を撃墜、交戦約一時間にしてこれを撃退せり、本戦闘においてわが方建物一棟炎上、死傷八名を生じたり
(二)三月五日早朝、本州東方洋上に敵味方不明の飛行機發見の報ありたるを以て、空襲警報に依り帝都なら
びに所要地域の警戒を嚴にせるも右は味方機なること確認せられたり。

(註) 敵機は未だ直接わが本土に出現せざるも今後一層警戒を要する状況にあり。

南島島 南島島は本州の東南方約 九年邦人により發見せられ、同三十 五メートル以下の珊瑚島であり、
二千キロ、小笠原島の東方約千キロ 一年本邦領土と公布、小笠原島廳の 現在燐礦の採掘椰子の栽培が營まれ
の洋上にある孤島である、明治二十 所管となつた、周圍約十三キロ、高 てる。

【大本營發表】五日午後四時】ジャバ島南方印度洋に進出中の帝國海軍部隊は、三月二日ジャバ島チラチャツプ
沖において英驅逐艦ストロングホルドを、また翌三日米砲艦アセグイルを捕捉、交戦少時にしてそれ〴〵撃
沈せり、本戦闘において我方損害なし。

【大本營發表】五日午後四時三十五分】比島方面帝國海軍部隊は、三月二日ミンダナオ島西端の要衝サンボアンガ敵前上陸に成功、所在の敵を撃破しこれを完全に占領せり。

六日(金) ◇偉勳輝く布哇眞珠灣強襲の海軍特別攻撃隊九軍神發表さる◇九軍神の偉功上聞に達し二階級特進

【大本營發表】六日午前十時四十分】一、帝國海軍航空部隊は三月三日濠洲本土西岸の要衝ブルームを急襲し發進準備中の敵最新飛行艇群その他を攻撃し、所在機全部二十八機を撃破せり、本攻撃に並行し他の一隊はウィンダムを襲ひ敵輸送機一機および格納庫一棟を銃撃炎上せしめたり。

二、帝國海軍航空部隊三月一日、二日東部ジャバ島及び同島以東スンダ列島各敵航空基地を徹底的に攻撃し、残存機新來機合計二十六機を撃墜破せり。

三、帝國海軍航空部隊は三月四日大舉ジャバ島バンドンを強襲し敵機十八機を撃墜破せり。

【大本營發表】六日午前十一時三十分】ジャバ方面帝國陸軍部隊は隨所に敵の抵抗を撃破しつゝ進撃を續行し昨五日午後九時三十分敵首都パタビヤを完全に攻略せり。

パタビヤ 人口約三十萬、内歐洲 あり一六一九年昔のジャカアツラに 七・八キロ東北にあり珈琲、茶、コ人四萬、邦人は僅か四百人である、オランダ總督ジェー・ビー・クンが プラ、檳榔を輸出、織物、雜貨等をジャワの首都、關領東印度の首都で 創設した都市である、パタビヤ港は 輸入す。

【大本營發表】六日午後三時】特別攻撃隊の壯烈無比なる眞珠灣強襲に關しては既に公表せられたるところこの世界の心膽を寒からしめたる攻撃の企圖は、攻撃を實行せる岩佐大尉以下數名の將校の着想に基くものにして、數箇月前、一旦緩急あらばこれを以つて盡忠報國の本分を盡し度と案を具し秘かに上官を経て聯合艦隊司令長官に出願せるものなり、聯合艦隊司令長官は慎重検討の結果成功の確算あり、收容の方策また講じ得る

岩佐大尉
以下特別
攻撃隊

を認め志願者の熱意を容れることとせり、本壯舉に参加せる下士官また、帝國海軍優秀者中の最優秀なる人物たり、いづれも参加將校の平素より固く信頼せる部下にして、各上官と生死を共にすることを念願しありしをもつて、今回の企圖に際しても特に志願者を募ることなく、淡々たる心境のうちに上官よりそれ〴〵隊員として参加せしめ度旨願出で、聯合艦隊司令長官より希望通り参加を命ぜられしものなり。

特別攻撃隊戰闘經過

爾來部内に對しても嚴に機密を保持しつゝ短時日の内に用兵者、技術者渾然一體となり工員に至るまで不眠不休、晝夜兼行にて製造實驗に、或は準備訓練に心血を注ぎたる結果、今次開戦に先立つ緊急の際に完成を見たるものにして、攻撃に参加せる將士の盡忠無双の精神および技術工作關係者の熱誠とともに帝國海軍の卓越せる技術を廣く世界に誇るに足らん。

而して實行に當りては收容に關し萬全の方策を講ぜられたるは勿論なるも、敵主力を攻撃したる後は警戒一層至嚴を極むべく海底に横はる沈没敵艦の殘骸を縫ひ、狹長なる水道を通過、猛烈なる反撃を脱過歸還することの困難は豫想に難からず萬一に備へ自爆の準備を整へたることは帝國海軍軍人として當然とするところなり。

かくて御稜威の下、天佑神助を確信せる特別攻撃隊は某月某日枚を銜んで壯途につき、眞珠灣目指して突進、沈着機敏なる操縦により嚴重なる敵警戒網ならび

に複雑なる水路を突破、全艇豫定の部署に據り港内に進入、或ひは白晝強襲、或ひは夜襲を決定、史上空前の壯舉を敢行、任務を完遂せるのち艇と運命とともに

沈は遠く港外にありし友軍部隊よりも明瞭に認められ十二月八日午後四時三十一分(布哇時間七日午後九時一分)即ち布哇における月出二分後、眞珠灣内に大爆發起り、火焰天に沖し灼熱せる鐵片は空中高く飛散、須臾にして火焰消滅、これと同時に敵は航空部隊の攻撃と誤認せるものか、熾烈なる對空射撃を開始せるを

確認せり、また同日午後六時十一分(布哇時間午後十時四十一分)特別攻撃隊の一艇より襲撃成功を無線放送、午後七時十四分以後放送途絶、同時刻ごろ自爆もしくは攻撃せられたるものと認めるものもありたり。

晝間強襲に關しては敵艦隊において僅にこれを認めたるものがあるが如きも、殆どその何ものたるかを判別し得ざりしが如く港内混亂の際のため戦果の絶大なりしことは確信しあるも今のところ航空部隊による戦果と判別困難なり。

出役に際しては攻撃終了せば歸還すべき命を受けありしも遂に歸還するもの無かりしは或ひは味方航空部隊の爆弾、魚雷雨下しつゝある敵艦に肉薄（史上類例なき至近距離）強襲し或ひは長時間海中に潜伏、月出を待ちて露頂し晝間攻撃による損傷少き敵主力艦を確に撃撃したるなど全隊員生死を超越して攻撃効果に専ら入し、偉功を奏したる特別攻撃隊に對し聯合艦隊司令長官より左の通り感状を授與せられ、右の旨海軍大臣より奏上せり。

特別攻撃隊へ感状

感状

特別攻撃隊

昭和十六年十二月八日開戦劈頭、挺身米國太平洋艦隊主力を布哇軍港に襲撃し、友軍飛行機隊と呼應して多大の戦果を挙げ、帝國海軍軍人の忠烈を

克く中外に宣揚し、全軍の士氣を顯揚したるは、その武勳拔群なりと認む
 仍て茲に感状を授與す
 昭和十七年二月十一日
 聯合艦隊司令長官 山本五十六

二階級特進の榮

【海軍省發表】昭和十七年三月六日午後三時】特別攻撃隊員中の戦死者に對し、昭和十六年十二月八日附特に左の通り二階級を進級せしめられたり。

- | | | | |
|-------|------|---------|---------|
| 任海軍中佐 | 海軍大尉 | 岩 佐 直 治 | 任海軍大尉 |
| | 海軍中尉 | 横 山 正 治 | 海軍一等兵曹 |
| | 同 | 古 野 繁 實 | 同 |
| 任海軍少佐 | 海軍少尉 | 廣 尾 彰 彰 | 任海軍特務少尉 |
| | | | 海軍二等兵曹 |
| | | | 同 |
| | | | 上 田 義 雄 |
| | | | 片 山 義 雄 |

任海軍兵曹長 同 稻 垣 清

七日（土）◇ニューギニア島東方洋上にて我攻撃をうけたる敵空母の撃沈判明◇ビルマ進撃部隊へグーを占領◇海軍艦艇クリスマス島砲撃◇現地軍東印度占領地域に軍政を布告。

【大本營發表】七日午前十一時四十五分】一、曩にニューギニア島北方洋上において我決死の攻撃を受けたる敵航空母艦は沈没確實ならずと發表せるも、その後寫眞その他當時の情況より察し、沈没確實なること判明せりなほ本航空母艦は中型新式航空母艦なり。

【大本營發表】七日午前十一時四十五分】一、帝國海軍航空部隊は二月二十七日スラバヤ沖海戦に先だちバリ島附近海上において敵特設航空母艦を攻撃し、命中弾六發を以て大火災を起さしめ、同艦艦上待機中の敵三十機および格納庫搭載中の飛行機全部を爆破炎上せしむるとともに、同艦に致命的損害を與へたり、同艦は間もなく左舷に大傾斜し、速力急速に減退せるを視認せられたり、なほ附近に警戒中なりし大型飛行艇二機を撃墜せり。

特設航空母艦 三十ノット以上の 母艦には劣るが搭載能力は中型航空 ものである。高速を持ち、攻防において航空 母艦に匹敵する優秀客船を改造せる

【大本營發表】七日午後三時三十分】開戦以來三月七日迄に判明せる帝國海軍の綜合戦果左の通り。

- | | | | |
|--------|--------------|-------------|-------|
| 一、艦 艦 | 擊 沈 | 大 中 破 | 拿 捕 |
| 航空 母 艦 | 米 英 蘭 米 英 蘭 | 米 英 蘭 米 英 蘭 | 米 英 蘭 |
| 戰 艦 | 五 | 四 | |
| 航空 母 艦 | 三（水上機母艦一を含む） | | |

甲級巡洋艦	四	八	一						
乙級巡洋艦	二	一〇	四	六	五	一			
驅逐艦	八	四	四	一	五				
潛水艦	四	四	一	一	一				
砲艦	七	七	二	六	一				
敷設艦	四	四	一	二	一				
特務艦	二	一	三	二	一				
掃海艇	四	四	一	二	一				
魚雷艇	九	四	三	二	一				
二、船									
船	一〇五隻	九一隻							
三、飛行機	六十萬噸	卅萬二千噸							
飛行機	擊墜四六一	擊破炎上							
	一〇七六	同上合計							
		一五三七							

開戦以來の海の戦果

昨年十二月八日開戦剪頭、ハワイ真珠灣頭に米太平洋艦隊の主力を特別攻撃隊と海鷲相呼應して一撃にこれを撃滅して以来、二月二十七八兩日にわたつてスラバヤ沖海戦、三月一日のバタビヤ沖海戦を含み同七日までに判明した無敵海軍の大東亞戦史を飾る戦果が同日午後三時半大本營から發表された

帝國海軍の撃沈せる敵艦は米英の戦艦七隻、米英蘭の巡洋艦十一隻、同驅逐艦二十二隻、同潜水艦四十四隻、同砲艦七隻、同敷設艦四隻、同特務艦三隻、同掃海艇四隻、魚雷艇九隻に及び、大中破せるものは米戦艦四隻、米英蘭の巡洋艦十隻、米英の驅逐艦十一隻、米蘭特務艦五隻、さらに潜水艦十五隻、砲艦六隻、敷設艦二隻に及び、拿捕せるものは帝國軍艦 多多良一と更生した米砲艦ウエーキ、米特務艦一隻、英掃海艇二隻を數へる。

これに對してわが方の損害は巡洋艦二隻、小破それもある。既に完成してゐる、沈没せるもの驅逐艦四隻、潜水艦四隻、特殊掃海艇五隻、特務艦一隻、掃海艇五隻、驅逐艦の中破一隻、艦艇の大破一隻、一索敵必滅の傳統が大東亞戦に打ちたてた勝利の金字塔である。

また我が海軍の敵船舶を撃沈せるものは百五隻、六十萬噸、大中破せるもの九十一隻、三十萬二千噸、拿捕せるものは目下調査中であるが、これを我が船舶の被害(沈没)二十七隻に思ひ至るとき太平洋の制海權は我に在り、心強い限りである。海鷲の活躍また目覺ましく、撃墜四百六十一機、爆撃銃撃によつて撃破炎上せしもの千七十六機合計千五百三十七機に達するがこの大戦果の蔭には自爆および未歸還の海鷲百廿二機

【大本營發表】七日午後五時三十分】比島方面帝國海軍部隊は二月二十八日より三月一日にわたり比島周邊海面において二千トン級乃至五百トン級敵船八隻、監視艇一隻を撃沈し、二千トン級および八百トン級敵船各一隻を拿捕せり。

八日(日) ◇ビルマ進撃部隊首都ラングーンを完全占領◇陸海軍部隊協力、ニューギニヤ東岸へ上陸。

【大本營發表】八日午後五時十五分】スマトラ方面帝國陸軍部隊はムアラテポ附近に敗敵を捕捉、撃滅して四日午後五時中部スマトラの要衝ジャンピを占領するとともに同地南方一帯の油田地帯を確保し、五日南部スマ

トラ一帯の織定を完了せり。

ジャンビ ジャンビは南方にハリ 兵數個大隊が常駐守備してゐたもの スマトラがオランダに侵略された後 河流域を中心とするジャンビ油田地 でハリ河を過江する 便船の良好な泊 も永くオランダ政廳と抗争したジャ 帯を控へ蘭印において最も價値大な 地であり、南方のペレンバン油田と ンビ王國の首都としても有名である 油田地として重視され戦前より歩 の交通も頻繁であつた、歴史的には

ジャワの敵降伏

九日(月) ◇マレー上陸の佗美部隊、同協力部隊の感狀上聞に達す◇ビルマ方面陸軍最高指揮官は飯田祥二郎中將◇ジャワの蘭印軍、無條件降伏◇蘭印方面陸軍最高指揮官は今村均中將。

【大本營發表】九日午前十一時十五分】ビルマ方面帝國陸軍部隊はベグー及び蘭貢附近に於て敵軍主力を擊滅し七日午後ベグーを、八日午前十時蘭貢を完全に占領せり。

(註) ビルマ方面陸軍部隊は二月十日マルタバンを 占領後、我が企圖を秘匿しつゝ所在の敵を擊碎して果 敢なる進撃を續行し、二月十六日乃至十九日に至る間 前渡河し三月三日夜より蘭貢攻略戰を開始せるものにピリン河畔において執拗なる抵抗を續けし一師團強の 敵を擊破し、更に急追してシツタン河以東の地區にこ

ラングーン 八日皇軍によつて占 領せられたビルマの首都ラングーン はイラワヂ・デルタを縫ふ分流の一 つラングーン河に位し一八五二年イ ギリスが占領する前は一小漁村に ぎなかつたが、數十年の經營によつ びルマ第一の商業都市となりラ

北四十六マイル、下ビルマの豊饒な 市内には金肉燦たる有名なシユエ マゴン・バゴダをはじめ大小數々の 佛塔が築えてゐる。 道は分れてサルウィン河口のモール

【大本營發表】九日午前十一時二十分】ビルマ方面陸軍最高指揮官は陸軍中將飯田祥二郎なり。

飯田中將 は昨年七月、日佛印共 同防衛にもとづき堂々皇軍が南部佛 印へ上陸したときの最高指揮官であ

ハワイ再

【大本營發表】九日午後零時十分】シヤバ島攻略作戰に行動中の帝國海軍部隊は、三月一日より三月八日にわた

蘭印軍無

【大本營發表】九日午後十時二十分】蘭印方面帝國陸軍部隊はシヤバ島の敵軍主力をストラバヤ及びバンドン附近

無條件降伏せしめたり、時に三月九日午後三時なり。

【大本營發表】九日午後十時二十五分 蘭印方面陸軍最高指揮官は陸軍中將今村均なり。

今村中將 今村中將はすでに滿洲 最高指揮官として、そこに打つてつある。英國、印度の駐在武官、陸軍事務當時から今日あるを期待せしめ、省徵募課長、聯隊長、習志野歩兵學作戦を指導展開して行つた幕僚は、の堂々たる経験ずみの將軍であると、校幹事、旅團長、兵務局長と軍人と現朝鮮軍司令官の板垣征四郎大佐で、いふ點である、昭和十四年十一月の、では中樞と第一線の要職とを交互あり、また當時少佐であつた石原莞爾中將である。この現地と呼應した、おける南支北海の上陸作戦で中將は、は山田教育總監の下で本部長として、軍中央部の幕僚は故永田鐵山中將が、感状を授けられたこの作戦の経験は、て約二箇年の在任、軍の錬成に首腦大佐として軍務局軍事課長の地位に、今回のジャバ島上陸に満々たる自信、部としての役割を果してゐた。緻密と交代し、參謀本部課長として中央に、大東亞海を壓しつゝ敵前上陸敢行を、有者である、宮城縣出身の偉材であつたのが今村均大佐である。しなければならぬ、このジャバ作戦る。

【陸軍省發表】九日午後六時三十分 開戦劈頭マレー方面上陸作戦において神速果敢獨力克敵の重要飛行根據地たるコタバル飛行場を占領せる佗美部隊及び、同協力部隊に對し、さきに南方々面陸軍最高指揮官より左の通り感状を授與せられ、右の旨陸軍大臣より奏上せり。

感 状

佗美部隊

同協力部隊

要なる敵の航空根據地を占領し以て馬來方面全般の上陸を容易ならしめたり右武功は拔群なり
仍つて茲に感状を附與し隸下の全軍に布告す

昭和十六年十二月九日

南方々面陸軍最高指揮官伯爵 寺 内 壽一

右は敵の防備最も堅固なる「コタバル」附近に於て主力の救援を意とせず果敢克其の上陸に成功し引續き重

十日（火） ◇ 天皇陛下蘭印作戦を御嘉尚、陸海軍に勅語を賜ふ◇陸軍開戦以來の綜合戦果發表

◇海軍部隊ソロモン諸島に進攻ブカ島を攻略。

【大本營發表】十日正午 一、帝國陸軍は、わが海軍と緊密なる協同のもとに、開戦と同時に南方各方面の敵に對し空陸相呼應して雄渾果敢なる攻勢作戦を開始し、十二月二十五日香港島要塞を、一月二日比島の首都マニラを攻陥し、マレー方面においてはあらゆる困難を克服して長驅神速隨所に頑敵を壓倒撃滅し、二月十五日シソガポール要塞の敵をして無條件降伏せしめ、以て米英の東亞における三大據點を覆滅せり、この間グアム島英領領ボルネオその他の戰略的諸要衝をも相亞いで、攻略して敵側の連絡線を寸斷し、また泰緬國境シャン山系の天險を突破して深くビルマに、更に南方遠く赤道をこえて蘭領東印諸島に作戦行動を開始し、ビルマ方面においては、ベグーおよびラングリン周邊において敵軍主力を撃滅したる後三月八日首都ラングリンを完全に占領し、蘭領東印度方面においては三月五日首都バタビヤを攻略し爾後敵軍主力をバンドン附近およびスラバヤ附近に兩斷包圍して、これに猛攻を加へ、三月九日遂に敵全軍をして全面的無條件降伏せしめ、茲にわが陸軍は開戦以來、三箇月にして西南太平洋における敵聯合軍の主要根據地を覆滅し、皇軍の武威を中外に宣揚せり。

二、わが占領地は適切なる軍政のもと治安着々回復し、かつ住民の眞摯なる協力により復興の氣運熾盛なるものあり。

三、開戦以來各方面とも將兵の士氣極めて旺盛にして、わが軍陣醫學の完璧と相俟つて、瘴癘酷熱の地に行動することすでに九十餘日にわたるも熱性疾患極めて少数にして作戦上に及ぼすこれが影響は殆ど皆無なり。

（註）（某兵站病院一月末日における調査によれば入院患者千二百卅二名中マタリア患者はわづかに九十名なり）

四、開戦以來三月七日までに判明せる帝國陸軍の綜合戦果左のごとし。

種目	飛行機	戰車	火炮	機關銃	銃器	自動車	鐵道車輛	船舶	舟艇	擧げ機	遺棄死體
馬	一七三	〇	四六	二、八三三	二、四四三	一、八九〇	二九五	八	九、八〇〇	八、三〇〇	
比島	四七	一三	一六	七、一五〇	〇	一七	一、〇〇三	一、一七	一、〇〇三	一、一七	
緬甸	一七	〇	一	一、九	一、三三	七	二七	一、七〇	五、〇〇	一、〇〇	
蘭印	一〇	一	一	一、〇	一、〇	一	一	一	一	一	
英領	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
ニユーギニア	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
香港	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
グアム	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
合計	一、一七三	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	

(備考) マレー方面の遺棄死體はジョホールバル突入までのものなり
 (参考) 飛行機撃墜破數中、括弧内の數字は本數字とは別に「不確實」なるものを示す
 【大本營發表】三月十日午後三時五十分 大元帥陛下には本日陸海軍幕僚長を召させられ南方軍總司令官並に聯
 合艦隊司令官に對し左の勅語を賜りたり。

勅語
 東印度諸島方面ニ作戰セル陸海軍部隊ハ緊密適切ナル協同ノ下ニ長途幾多ノ困難ヲ克服シテ勇戰奮闘克ク敵航空兵力及艦隊ヲ撃滅スルト共ニ諸方面ニ至難ナル上陸作戰ヲ斷行シ隨所ニ勁敵ヲ破摧シテ神速果敢悉ク其主要根據地を覆滅シ以テ敵勢力ヲ一掃セリ
 朕深ク之ヲ嘉尙ス

十一日(水) ◇ジャワ島攻略の陸軍綜合戦果發表◇陸軍異動、報道部長更迭後任に谷萩大佐◇チモ
 ルー島撤定ほぼ完了。

【陸軍省發表】十一日午前十時 今般左の如く發令せられたり。

陸軍少將 恒 憲 王 補戰地部隊長	ソグイェット聯邦 在勤帝國大使館附 山岡道武
補陸軍戸山學校長	陸軍大佐 倉本敬次郎 武官陸軍大佐
陸軍大佐 春 仁 王 補陸軍省人事局恩賞課長	補參謀本部附
補千葉陸軍戰車學校附	大本營陸軍 報道部長 陸 大 平 秀 雄
陸軍少佐 李 偶 公	軍大佐
補陸軍大學校研究部々員	補戰地部隊長
陸軍省人事 局長 藤 村 益 藏	陸軍大佐 谷萩那華雄
同恩賞課長	補大本營陸軍報道部長
陸軍大佐	

【大本營發表】十一日午後三時十五分 一、帝國海軍巡洋艦隊は三月二日、濠洲西方印度洋上において、濠洲方面に遁走中の米巡マールヘッドを長驅捕捉し、これを撃沈せり。

二、帝國海軍驅逐艦は、三月九日未明バリ島ロンボク水道附近において、蘭掃海艇ヤン・ファン・アムステルを撃沈せり。

三、帝國海軍艦艇は三月七日早朝、ジャバ島南方クリスマス島を砲撃しその軍事施設に大損害を與へたり。

敗殘艦隊を掃蕩

米アジア艦隊の生き残り乙巡マールヘッド(七〇五〇トン)は、さきのジャバ沖海戦、バリ島沖海戦、ついで二月廿七日から三月一日にわたつて敵新編聯合主力を全滅せしめたストラバヤ沖海戦に参加、損傷を蒙り、ストラバヤ沖から命からくすの體で濠洲方面に逃れんとしたものであつたが、長驅これに追ひせまつたわが海軍の精銳、巡洋艦隊のため一撃のもとに撃沈せられた。

戦闘状況は二日夜半十時二十五分、わが巡洋艦隊は濠洲西方印度洋上に濠洲に向ひつゝある敵艦を發見直ちに砲撃を開始わが集中砲火を浴びたマールヘッドは應戦のいとまもなく僅か七分にして、同三十二分印度洋底深く影を沒した。これによつて戦前ハート大

クリスマス島(英領)スンダ海峡 なり海岸の周圍約三十五マイル、東一、二〇〇(内歐洲人三〇) 燐鐵石の南二百二十哩、南緯十度三十分、岸は懸崖をなし、全島熱帯樹が繁茂 採取場がある。

東經百六度、面積六十平方マイル(昭 示良港に乏しく、北岸のフライング南島の約四分の一) 全島石灰岩より 灰シユニが唯一の港である。人口

將麾下にあつて比島に捕つてみた米アジア艦隊は旗艦甲巡ヒューストン號(九〇五〇トン)が三月一日バタバヤ沖海戦で撃沈、開戦前後本國方面から來援したヒューストンの姉妹艦甲巡オーガスタ號はこれよりさきジャバ沖海戦で沈み、今度のマールヘッドの撃沈によつて艦隊主力を構成してゐた巡洋艦三隻は一隻もあきさず海底の藻屑と化してしまつたわけである。

一方ストラバヤ沖、バタバヤ沖兩海戦に引きつづいて敵聯合艦隊の敗殘艦艇を虱つぶしに殲滅するため哨戒中のわが驅逐艦は九日未明蘭掃海艇に遭遇、直ちに撃沈してしまつた。このことは聯合主力を撃滅せられた敵海軍の敗殘艦艇またごとく海底に消えつゝあり敵海上勢力の掃蕩全く、大東亞海方面に敵蠢動の餘地は根こそぎに失はれたことを物語るものだ。

【大本營發表 十一月午後五時二十分】 蘭印方面帝國陸軍部隊のジャバ攻略作戦において收めたる戦果の主なるもの左のごとし (註) 本數量は敵の無條件降伏に當り提示し來りしものなるを以て實際においては若干の差異あるべし。

- 一、俘虜 九萬三千(内將校約二千) 内譯在ジャバ部隊六萬、在外領部隊一萬八千、義勇軍一萬五千
- 二、山獲品 飛行機百五十二機 内掃撃機二十四機、戦闘機四十五機その他八十三機、戰車(裝甲車を含む)三百六十七輛、火炮七百三十二門、機關銃千五百六十七挺(主として航空機用)銃器九萬七千三百八十四挺、爆彈四千五百個、爆藥十二萬箱、各種砲彈二十三萬發、手榴彈三萬四千發、各種銃彈七千二百三十一萬七千發。

綜合俘虜廿一萬人突破

十一日大本營はジャバ島攻略作戦の綜合戦果を發表し、さすがに戦勝の大段階を劃するにふさはしい驚異的數字をもつて、その完全勝利を記録したが、ジャバ島攻略作戦における俘虜は九萬三千でこれをさきに三月七日までの陸軍綜合戦果として發表された敵俘虜十一萬九千二十八(マレー九萬七千八百、比島千、ビル

マ千七百六、蘭印五千九百四十七、英領ニユーギニヤ五百九十一、香港一萬一千二百四十一、グアム六百四十三)と合すれば二十一萬二千二十八といふ夥しい數に上る、この赫々たる戦果が開戦僅かに三箇月間にもたらされたことは大東亞戦における皇軍の電撃作戦のいかに巧妙を極めたかを立證するとともに精悍無比の我が陸軍の壓倒的戰鬥力を示すものである。

十二日(木) ◇陸軍部隊、北部スマトラの要衝メダンに進駐。

【大本營發表 十一月午後三時十分】 帝國陸海軍部隊は緊密なる協同のもとに、三月八日未明、ニユーギニヤ島東岸の要衝サラモア並にラエの敵前上陸に成功、十日敵約六十機の反撃ありしも、四機を撃墜してこれを撃退、目下戦果を擴大中なり、本戦闘において我方の損害左のごとし。

- 一、沈没擱坐 徵用船二隻、輸送船一隻、二、損傷 巡洋艦一隻(小破)、驅逐艦二隻(中、小破)、徵用船三隻

(小破) (註) 輸送船は上陸完了後にして、戦死一名のほか、人員の損傷なし。

濠の焦躁深刻

ジャバ島の蘭印軍が降伏した後、大東亞海域においてわが軍の占領下に入らざるものとしてニューギニア島が残されてゐたが、陸海軍部隊はジャバ島と前後する八日未明、同島東岸濠洲委任統治領サラモア、ラエの敵前上陸に成功、ニューギニア島に皇軍の第一歩が印された。同島は濠洲と一衣帯水の間であり濠洲はニューギニアを防衛第一線となつたのである、その抵抗ぶりは、多数の敵機が反撃してきたのを見て、も相當頑強なものがあつたものとみられる、同島の敵

最大據點は皇軍が上陸したサラモアから一跳びの距離にあるポート・モレスビーで濠洲はその防衛據點として第一にポート・ダーウィン、第二にモレスビーを頼みとし、軍事施設、殊に航空施設の整備に狂奔してゐたものであるがモレスビーは既に數次にわたるわが航空部隊の爆撃をあびてをり、ニューギニアに残る敵軍の運命は明かであり、全島屈服は多くの時日をまたぬものと思はれる、同島に皇軍が上陸したことはいよいよ濠洲の頭上に火の粉が降りかゝつてきたといふべきものでその焦躁は一段の深刻さを増すであらう。

ニューギニア ニューギニアは濠洲の北に横たはる世界第二の大島、ニューギニア本土は面積七萬平方マイル、原森林に覆はるゝのみで、その他の政治的には東經一四一度の子午線を、人口八十五萬(一九三八年度) 農産牧畜等なほ將來に俟つものが多境として西半はオランダに、東半は 氣象は山地部を除いては高温多雨のい。島民の轉住、酒、阿片、火薬類濠洲委任統治領となつてゐる舊獨逸 一般熱帯氣候である。本地方は天然の輸入は禁止されてをり、奴隸に對領および濠領バプアより成る。今回 資源の豊富さにも拘らず海岸地方は する強制労働の制度が施行されてゐ皇軍の上陸したサラモアおよびラエ ココア、椰子の外金、高輝夜光貝のるのも珍しい。

十三日(金) ◇海鷲、濠洲防衛 地を強襲二十五機を屠る◇ビルマ進撃部隊ラングーン入城。

【大本營發表】十三日午後三時四十五分】一、帝國海軍航空部隊はニューギニア島ポート・モレスビーに對し、三月十日までに數次の大爆撃を敢行、同地潜伏中の敵機十六機を撃破炎上し、その重要軍事施設を爆碎せり。

二、帝國海軍驅逐艦はジャバ海殘敵掃蕩中三月五日英掃海艇一隻を撃沈せり。

ポート・モレスビー は英領ニューギニアに據ることあたはず、三月十日までに大ならしめてゐる。また帝國海軍ギニアの首都で濠洲とニューギニアに海鷲の撃墜せる敵機は十六機に過 驅逐艦がジャバ海にて殘敵掃蕩中、間の唯一の連絡點であり、濠洲にと ぎぬが、これはわが爆撃が如何に熾 三月五日撃沈した英掃海艇はハントつては、防禦最重要地點である。海 烈にして正確だつたかを示すもので 改良型であるが、索敵必滅の無敵海鷲の數次にわたる猛爆は飛行場諸軍 ある。皇軍の上陸によりモレスビー 軍の前には逃れ得る殘敵ありとは思事施設を殆ど使用に堪へぬ程度に破 の運命も、もはや且夕に迫つた今日 へない。

十四日(土) ◇張滿洲國謝恩大使來朝◇ニューヨークに空襲騒ぎ◇海鷲濠洲北端ホーン島初空襲

十五日(日) ◇張特使入京◇我がビルマ増援部隊ラングーン地區に集結完了

十六日(月) ◇我が潜水艦印度およびビルマ沿岸に活躍。

【大本營發表】十六日午後三時二十分】米本土西岸方面に作戦中の帝國潜水艦は三月一日サンフランシスコ沖合において一萬トン級油槽船一隻、同二日メンドシノ近海において七千トン級貨物船一隻を撃沈せり。

脅ゆる米西岸

開戦以來米本土沿岸に活躍中の帝國海軍潜水艦は去 沈した、これで米本土沿岸で我が潜水艦が今日までに

あげた戦果は船隻二十隻十六萬トンに達した米國が太平洋岸に就航せしめてゐる船隻が極めて少数な事實に鑑みて、この戦果が米國の上下に與へる影響は極めて大いといはねばならぬ。

加ふるにサンフランシスコは米國が西南太平洋方面への海上交通路の起點であつて、常にこの交通路を我

十七日(火) ◇陸軍軍政陣容を完備、三顧問、五司政長官を追加◇陸軍部隊スマトラ西海岸の要衝バダハ占領◇ビルマ進撃中央部隊チアウタカ占領。

【大本營發表】十七日午後三時十五分 帝國海軍潜水艦は目下印度およびビルマ沿岸方面に作戦し、敵海上交通に甚大なる打撃を與へつゝあり、三月十六日までに撃沈せる敵船左の如し。

一、コロンボ方面 武装商船二隻六千五百トン、油槽船二隻二萬トン 二、マドラス方面 武装商船三隻二萬四千トン、油槽船一隻七千トン 三、ラングーン方面 武装商船二隻一萬九千トン、貨物船一隻五千トン

全印度へ深刻な影響

帝國海軍潜水艦部隊の印度洋作戦は日を逐うて活潑となり、その戦果は豫想以上に大きい、いまや印度の動向は極めて微妙で世界から大きな關心を拂はれ、ことに英政府は何とかして印度を抱き込まうと最後の切札であるクリップス國聖尙書を印度に急派したのであるが、このとき印度洋で我が潜水艦が縦横無盡の作戦を展開し大きな打撃を與へつゝあることは印度の民心

に與へる影響は實に深刻なものがあらう。大東亞地域を我が制壓下に委ねざるを得なくなつた英國にとつて印度は次の唯一最大の反撃據點であり、開戦以來本國より印度に輸送した兵員、物資等の軍事勢力は相當大きな數字であり別項の十七日大本營發表による我が戦果はその一端を物語つてゐるわけであることに次第に西へ、西へとそのルート轉移せざるを得ない授將路は昨多來印度のカルカッタをその入口として奥地に通じてゐる新しいルートによらんとして

あるのであるが我が潜水艦の印度洋作戦はこの新授將路を無力化することになるのである。

かくて獨伊の地中海および大西洋兩方面の作戦がその戦果を次第に擧げ、これと相呼應して我が海軍が印

【陸軍省發表】三月十七日午後四時 今般左の如く發令せられたり

- | | | | | | |
|-----------|--------|------|-------|-------------|--------|
| 兒玉秀雄 | 敍同 | 陸軍中將 | 片山省太郎 | 敍同 | 八田三郎 |
| 櫻井兵郎 | 敍高等官二等 | | 菊地慎三 | 敍同 | 久保田峻 |
| 北島謙次郎 | 敍同 | 陸軍少將 | 伊丹政吉 | 敍同 | 久慈學 |
| | 敍同 | | 郡司喜一 | 敍同 | 千田牟基太郎 |
| 陸軍の事務を囑託す | | | 杉田芳郎 | 任陸軍司政長官(各通) | |
| 敍高等官一等 | 林久治郎 | 敍同 | 砂川泰 | | |
| 敍同 | 大塚惟精 | 敍同 | 陸軍少將 | | |
| 敍同 | 大達茂雄 | 敍同 | 陸軍少將 | 助川靜二 | |

十八日(水) ◇ビルマ進撃左翼部隊レバダハに進出。

【大本營發表】十八日午前十一時 一、帝國海軍航空部隊は三月十三日ニューギニア島ポート・モレスビーを襲し、敵増援機十一機を撃破、更にソロモン諸島フロリダ島およびワナワナ島附近の敵要地を爆撃せり。

二、帝國海軍航空部隊は三月十四日濠洲本土北端ホーン島敵航空基地を急襲し、敵機十四機を撃墜破せり。ホーン島 トレス海峡諸島の中の設があつたが、最近設備を擴張し、この他に航空基地はない。

小島で有名な木曜島の東南に一哩のソロモン島 南太平洋の空も狭し海峡を距て、隣接してゐる、島の大邊の重要基地となつてゐた。附近と縦横無人の威を振ふわが海軍は十きさは東西五哩、南北三哩、以前は帯は眞珠貝の採取地として、かつて三日遂にニューギニアを越えて遙か陸上機の不時着場程度の飛行基地施は邦人活躍の地であり、附近島嶼に 彼方のソロモン諸島を猛襲大なる戦

果を収めたがそのソロモン諸島とは首都ツラギがあり知事が駐在してゐる。前知事はアツセレーといふ男たつたか今は誰かよくわからない軍備。産物は材木と貝類程度で何一つ

「ソロモン諸島は二つに分れ、南部は英國の直轄植民地北部は濠洲の委任統治になつてゐる。海鷲が爆撃したたのは南部の英領地でそのうちフロリダ島はマライタ島とガダルカナル島とに挟まれた小さな島だがこゝに

伯へ嚴重抗議

十九日(木) 帝政府ブラジル政府へ嚴重抗議

【外務當局談】十九日午後五時】ブラジル政府は最近大西洋上における同國商船撃沈を理由として在伯留軸國人の財産の一部を沒收するの大統領令を發布した、よつて帝政府は右につき、十三日ブラジル政府に對し嚴重抗議を發し、成行を嚴重監視中であるが十九日午後五時左の外務當局談を發表した。

ブラジル政府は最近北米航路に従事してゐる同國商船若干隻が大西洋において撃沈せられたることを理由とし、同國政府および同國人の被れる損害賠償に當るためと稱して同國在留の留軸國人の財産を、その額に應じ一定の割合を以て沒收することゝなれる趣なるが、かかる暴舉に刺戟せられ同國各地において群衆の反響軸暴動起れりとの報道あり、今日までのところ日本人の被れる損害は不明なるも、帝政府はブラジル政

三大將に功一級

三月

國船の沈没せるに對し賠償に當つるため、ブラジル在留留軸國人の財産の一部を沒收する旨の大統領令を發し即日施行するに至れるは不當極まれりといふべく右は帝政府の絕對に容認し得ざるところであり、またブラジル政府の右不當措置に刺戟せられ同國在留の留軸國人に對する伯國群衆の暴動發生を見たるは帝國および帝國の支配下にある地域にあるブラジル人に對する我が方 寛大なる處置にも照し憤懣にたへざるとこ

ろなり。二、帝政府はブラジル在留邦人が同國の法律を遵奉して平和的に働き、同國の産業開發に多大の貢獻をなしたることを眞に遺憾とするものにして本件大統領令および暴動の結果、如何なる事態を生ずるとも、その責任は一切ブラジル政府の負ふべきものなることをここに警告するものなり。

二十日(金) 帝國海軍對敵處置を諸外國へ通報

◇海鷲ボート・ダーウインを爆撃。

二十一日(土) 軍司令官に初の論功行賞、畑、寺内、岡村三大將に功一級を賜る。チリ船の安全保障日獨伊三國より回答。陸鷲マグウエの航空撃滅戰開始敵機十八を撃破。

【陸軍省發表】支那事變生存者論功行賞第卅二回發表支那事變に於ける軍司令官の一部及其他の將官に對し今回左の如く行賞仰出さる。

- | | | | |
|-------|--------------|------------------|--------------|
| 特旨 功一 | 大將 畑 俊 六 | 殊勳甲功二 | 中將 安 藤 利 吉 |
| 特旨 功一 | 大將 寺 内 壽 一 | 殊勳甲功二 | 中將 板 垣 征 四 郎 |
| 特旨 功一 | 中將 岡 村 寧 次 | 殊勳甲功二大綬 | 中將 後 宮 淳 |
| 殊勳甲功二 | 中將 梅 津 美 治 郎 | | |
| 功三旭一 | 中將 澤 田 茂 旭 一 | 中將 喜 多 誠 一 瑞 一 | 中將 瀨 口 季 一 郎 |
| 功三旭一 | 中將 酒 井 隆 瑞 一 | 主計中將 古 野 好 武 瑞 一 | |

二十三日(月) ◇シヤワ軍政部取締方針を布告◇陸海軍部隊南アンダマン島に上陸同島英軍無條件降伏。

二十四日(火) ◇海鷲ボート・モレスビーを急襲、海鷲コレヒドールに對し大爆撃敢行◇陸鷲ビルマのアキヤブ飛行場第二次攻撃。

【大本營發表】二十四日午後三時二十分】帝國海軍航空部隊は三月十七日以来連日濠洲本土北部、ニューギニア島、ソロモン諸島並にベンガル灣ア、ダマン諸島一帯を制壓 敵要地を爆撃し、その軍事施設を破壊せり、主なる爆撃箇所次の如し、ポー・ダーウイン、ダービー、ブルーム、ウインダム、ホーン島(濠洲)ボート・モレスビー(ニューギニア島)ツラギ(ソロモン諸島)ボート・ブレア(アンダマン諸島)

ツラギ港 ソロモン諸島の一つで ボート・ブレア 南アンダマン島 目的で當港に寄港することは禁止さあるツラギ島にあり、波靜かにして の東岸にあり本列島中最大且つ最重 れてゐる。軍事施設としては陸上飛水深く自然の良港である、この地方 要なる港都で、列島の住民(一九四 行場が建設中であつた。

は雨量多く、従つてこの町の水量は ○年調査によれば約二萬一千人)の ダービー 濠洲西キンバレー地區潤澤であるがマラリヤ赤痢等の風土 大部分は同地の周邊に集まつてゐる の首邑、政廳駐在官が駐在し港は羊病が多い、歐人は約二十名、原住民 主要貿易またこゝにおいて行はれ諸 毛、家畜、礦産物の積出港で人口は全島に約十萬を算へるが市内には 船の大半は當港に出入するしかし 約二千人である。 歐人の使用人のみである。 印度政府の許可がなければ商業上の

二十五日(水) ◇帝國海軍部隊ラングーン内港に堂々進駐◇ビルマ進撃部隊トーングー總攻撃開始。

二十六日(木) ◇英國機チモール島附近で我が病院船朝日丸を爆撃。

【大本營發表】二十六日午前十一時】帝國陸海軍部隊は、三月二十三日未明、南アンダマン島ボート・ブレアに奇襲上陸を敢行し、同島英軍をして無條件降伏せしめたり。

印度東部に重襲

帝國海軍潜水艦の奇襲作戦並びに去る十七日以来の我が海鷲のアンダマン島に對する連爆により英生命線印度洋は重大なる脅威に直面しつゝあつたが、いままた帝國海軍の精銳は世界に冠絶する、水も漏らさぬ陸海協同作戦の神髓を發揮しつゝ二十三日未明南アンダマン島ボート・ブレアに奇襲上陸を敢行、天然の珊瑚礁を利し防衛を強化して頑強に抵抗せる英印兵を猛攻我精銳の前に戦意を喪失せる敵は遂に白旗を掲げて我軍門に降るにいたつた。

東亞進攻路の中繼地點として防備強化に狂奔してゐたもので、同地を皇軍に制壓された敵は印度防衛の外廓を制御され、印度は恰も前線をとられたに等しい窮境に陥つた、アンダマン島は印度の要地たるボンベイ、マドラス、カルカッタ、コロンボへの等距離をなす扇の要ともいふべき中心點であり、今回の陸海軍の戦果によりベンガル灣は正に死命を制せられたるに等しい シンガポール陥落以來一路後退を續けた英東亞侵略ルートは、またもや後退を餘儀なくされたわけで、印度東部に對する重襲は更に著るしく加はり印度防衛に躍起となつてゐる英本國の狼狽はますます甚大なるものがあらう。

アンダマン列島 アンダマン列島 南北二二九マイル大小兩アンダマン 大アンダマン列島の最南端の島で海は印度洋ベンガル灣の南東部に位 ン列島より成る。南アンダマン島に 底山脈上に噴出した火山帯を成し、